病院年報

令和 3 年度

日本赤十字社

福井赤十字病院

Japanese Red Cross Fukui Hospital

福井赤十字病院理念

『人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。』

基 本 方 針

1　患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。

2　安全と質を向上させ、優しい医療を行います。

3　人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。

4　急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。

5　保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

令和３年度 年報巻頭言

福井赤十字病院
院長　髙木　治樹

今回、当院の年報は第３２巻を刊行することができた。このような業績の蓄積は大変重要で、将来に繋がる当院の大きな財産である。

平成３１年に発生し、現在も世界を席巻している新型コロナウイルス感染症は、変異を繰り返し、流行の波は令和４年７月現在も続いている。現在感染の主流となっているオミクロン株は、感染力が強く感染拡大のスピードが極めて早い。また、ワクチン接種による発症予防効果が低かったのか、家庭内感染がまん延し､院内で徹底した感染対策を施しても､職員や患者さんへの感染を防ぎきれなかった。そのため、一部の診療制限や病棟閉鎖を余儀なくされ、地域の皆さんや他医療機関に多大なご心配とご迷惑をおかけした。

今後も当院は新興感染症への対策を含めた危機管理体制を強化するのは勿論であるが、地域医療支援病院として、一般診療･救急医療を維持する必要があり、より強固な診療体制を構築する決意である。その一環として、昨年は５月にCTの１台を造影剤使用量の低減が可能で、より安全で高性能な新機種に更新した。さらに、１０月には自動脳血流解析ソフト（RAPID）を導入した。RAPIDの導入により、脳梗塞における血栓回収療法の適応が拡大され、治療可能な対象が拡がった。がん領域では、ダヴィンチXiによる肝胆膵外科手術を含めた低侵襲外科治療を、積極的に推進している。更に、遺伝性がんへの取り組みも始めており、予防的手術の選択も可能となった。

さて、昨年度に続き職員が楽しみにしている院友会活動はほぼ休止となり、スポーツイベントも残念ながら全て中止された。一方、学会はハイブリッド開催という新しい形が主流となり、Web参加ができてそれなりに便利になった。そのなかでフォーラム「医療の改善活動」全国大会において、当院の事務チームの演題が優秀演題に選ばれるという嬉しいニュースもあった。今後も制限された状況が続くと思うが、全職員の士気を高めて病院力を上げるため、各分野において皆さんの活躍を期待している。

今年の課題だが、ひとつは中期ビジョンの目標達成である。令和４年度からは新たな中期ビジョン「地域社会に貢献し、県民から選ばれる病院になる」を掲げる。病院の理念である「県民が求める優れた医療の提供」のため、診療体制の強化に尽力してきたところではあるが、今年も全職員が一丸となって、地域から選ばれる病院を目指していきたい。もう一つは、病院機能評価の受審である。当院の今回の受審は５回目で、様々な角度から医療の質の外部評価を受ける。既に昨年１０月から準備が始まっているが、各部署で問題点や課題を今一度洗い出して改善を行い、ハイレベルな審査評価を目指したい。

コロナ禍を経験した医療界は確実に新しい時代を迎えている。今後は時代のニーズに即応することが不可欠である。令和３年の勤務スローガンには「病院力の向上」を掲げ、職員一人ひとりが出来ることを自らが考え、実行することで病院全体の総合力向上に繋がった。令和４年の勤務スローガンは、基本に立ち返り「安全・安心な医療」とした。平時・有事に関わらず、引き続き質の高い安全な医療を堅持し続け、地域医療の進歩発展に貢献できることを願っている。

令和３年度勤務スローガン「病院力の向上」　　（令和４年７月記）

目　　次

１．沿　革 …… 1

２．病院の概要
１．病院の現況 …… 5
２．施設の概要 …… 8
３．委員会 …… 10
４．臨床研修実施状況 …… 11
５．学会の指定状況 …… 12
６．職員院外役職調 …… 14
７．年間行事 …… 23

３．患者数・経営状況 …… 25

４．委員会活動 …… 33

５．トピックス …… 35

６．診療業務
１．内科・血液内科 …… 41
２．精神科（ストレス心療科） …… 48
３．神経内科 …… 50
４．呼吸器内科 …… 51
５．消化器内科 …… 54
６．循環器内科 …… 57
７．小児科 …… 59
８．外科 …… 62
９．整形外科 …… 65
10．形成外科 …… 68
11．脳神経外科 …… 69
12．呼吸器外科 …… 71
13．皮膚科 …… 73
14．腎センター（腎臓・泌尿器科） …… 74
15．産婦人科 …… 82
16．眼科 …… 85
17．耳鼻咽喉科 …… 88
18．放射線部 …… 91
19．麻酔科 …… 96
20．リハビリテーション科 …… 98
21．歯科・歯科口腔外科 …… 101
22．総合診療科 …… 103
23．救急部 …… 105

24. 健診部 …… 110
25. 病理診断科 …… 114
26. 脳神経センター …… 115
27. がん診療センター …… 116
28. 腎センター（透析センター） …… 119
29. 呼吸器センター …… 125
30. 消化器センター …… 126
31. 地域周産期母子医療センター …… 127
32. 集中治療室 …… 129
33. 中央手術室 …… 132
34. 中央滅菌室 …… 135
35. 薬剤部 …… 136
36. 栄養課 …… 138
37. 臨床工学技術課 …… 140
38. 検査部 …… 143
39. 放射線部 …… 145
40. 医療安全推進室 …… 149
41. 教育研修推進室 …… 153
42. 感染管理室 …… 155
43. 災害救護支援室 …… 159
44. 危機管理センター …… 164

７．医療社会事業部

１．医療社会事業課 …… 167
２．居宅介護支援事業所 …… 168
３．訪問看護ステーション …… 170
４．地域医療連携課 …… 172
４-(1)．地域医療連携課：入院前支援係・退院調整係 …… 176
４-(2)．地域医療連携課：医療福祉相談（医療ソーシャルワーカー） …… 177

８．看護部 …… 179

９．事務部

１．総務課 …… 199
２．人事課 …… 201
３．病院経営課 …… 203
４．管財課 …… 205
５．医事サービス課 …… 207
６．医療情報課 …… 208
７．医療支援課 …… 213
８．医療安全推進課 …… 215

10. 業績 …… 217

沿　　革

福井赤十字病院　沿革

明治初頭、福井市には藩政時代より引き継がれた福井医学校があり、これの附属病院が一般診療を行っていたが、明治１９年の医学校廃止後、県立福井病院として県の管理下に置かれていた同病院を、戦時傷病兵や貧困患者の救護、救護員養成等日赤としての事業を推進するため、県内各界からの要望に後押しされる形で日本赤十字社に移管することが大正７年に決定されました。日赤本社及び福井県の補助並びに県民有志の寄付をもって現在地に土地を取得し大正１２年１２月に着工、同１４年３月に完成し、４月１日に日本赤十字社福井支部病院として開院、以降地域の基幹病院として医療、福祉、保健、看護師の養成等の担ってきた流れを継承し現在に至っています。

大正１４年	４月	日本赤十字社福井支部病院として診療開始。内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、１３８床、薬剤科、事務科、救護員養成部、職員数６９人、併せて救護看護婦養成開始
大正１５年	８月	小児科設置
昭和　４年	４月	１５９床
	９月	日本赤十字社福井支部病院救護員養成部を指定
昭和　６年	４月	伝染病棟竣工
昭和　７年	４月	１６９床
昭和　９年	６月	北陸初のサナトリウム棟竣工　１８８床
昭和１０年	４月	１９２床
昭和１３年	６月	放射線科設置
昭和１６年	４月	１９４床
昭和１８年	６月	福井赤十字病院と改称
昭和２０年	７月	戦災により病棟の一部を焼失
昭和２３年	６月	福井大震災により全建物倒壊
昭和２４年	４月	福井赤十字看護学院設置（翌年１２月福井赤十字高等看護学院に改称）
昭和２５年	３月	建物復旧　２２１床
昭和２７年	８月	産婦人科、外科診療棟、本館復旧工事完了
	１１月	整形外科設置
昭和２８年	９月	結核病棟竣工　３００床（一般２００床、結核７６床、伝染２４床）
昭和３２年	９月	歯科設置、総合病院として承認
	１０月	福井県赤十字大会来賓　秩父宮勢津子妃殿下ご来院
昭和３３年	１２月	３４３床
昭和３４年	６月	３５０床
昭和３５年	５月	皮膚科、泌尿器科設置、未熟児センター開設　４００床
昭和３６年	５月	麻酔科設置
昭和３７年	８月	敷地内の県立産院を合併、福井赤十字病院産婦人科となる
	９月	４２０床
昭和３８年	４月	人間ドック実施病院に指定
	７月	５１０床（一般４１０床、結核７６床、伝染２４床）

昭和３９年　６月　救急告示病院に認定
　　８月　呼吸器科設置
昭和４１年　７月　看護婦寄宿舎竣工
昭和４２年　４月　小中学校特殊学級開設
昭和４４年　６月　本館改築工事竣工
昭和４５年１２月　市伝染病棟（２０床）改築工事竣工（一般 410 床、結核 80 床、伝染 20 床）
昭和４８年　４月　臨床研修指定病院に指定
　　７月　看護専門学校棟改築工事竣工
昭和５０年　４月　脳神経外科設置
昭和５１年　４月　福井赤十字高等看護学院を福井赤十字看護専門学校に改称
昭和５２年　７月　日本赤十字社創立 100 周年記念福井県大会　三笠宮百合子妃殿下ご来院
昭和５３年　４月　第二次救急医療待機病院に指定
昭和５４年　４月　県立福井東養護学校月見分校開校
昭和５５年１０月　結核病棟竣工
　　１２月　診療棟竣工
昭和５６年１１月　集中治療室（ＩＣＵ）６床開設　５１６床
　　１２月　５病棟竣工　５７６床（一般５１６床、結核４０床、伝染２０床）
昭和５９年　９月　６０６床　（一般５４６床、結核４０床、伝染２０床）
昭和６３年　３月　３病棟、放射線棟竣工
　　７月　消化器科設置
平成　２年　８月　福井県赤十字大会来賓　三笠宮信子妃殿下ご来院
　　１０月　第２６回日本赤十字社医学会総会開催
　　１２月　本館改修工事竣工
平成　４年　８月　呼吸器外科設置
平成　５年　７月　６１６床　（一般５５６床、結核４０床、伝染２０床）
平成　６年　７月　病理部設置
　　１１月　病院駐車場整備工事竣工
平成　７年　３月　救急部設置
平成　８月１２月　リハビリテーション科部設置
平成　９年　３月　栄養管理棟竣工
　　５月　神経内科部設置
平成１０年　１月　災害拠点病院（地域災害医療センター）に指定
　　１０月　６４６床
平成１１年　４月　６３４床（一般５８６床、感染症８床、結核４０床）
　　心臓血管外科設置
　　訪問看護ステーション、在宅介護支援センター開設
　　第二種感染症指定医療機関に指定
　　６月　開放型病床設置（２０床）
　　８月　歯科口腔外科設置
平成１３年　４月　エネルギー棟竣工
　　６３０床（一般５８６床、感染症４床、結核４０床）

		循環器科部設置、地域医療連携室設置
平成１４年	８月	輸血センター設置
	１０月	精神科設置
平成１５年	４月	６２０床（一般５７６床、感染４床、結核４０床）
	４月	医療安全管理室設置
	５月	６２１床（一般５７７床、感染４床、結核４０床）
		（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（一般病院種別 B）
	６月	回復期リハビリテーション病棟開設
	８月	地域がん診療拠点病院に指定
平成１６年	３月	形成外科部設置、新本館竣工
		６３０床（一般５８６床、感染４床、結核４０床）
	４月	精神科部設置
	５月	地域周産期母子医療センターに指定
	９月	３病棟改修工事竣工
平成１７年	２月	管理棟、研修棟改修工事竣工
		６２０床（一般５８６床、感染症４床、結核３０床）
	６月	健康・医療情報室スマイル設置
平成１８年	６月	脳卒中センター設置
	８月	６１６床（一般５８６床、感染症４床、結核２６床）
平成１９年	１月	地域がん診療連携拠点病院に指定
	６月	地域医療支援病院に認定
平成１９年	９月	４５床休床
平成２０年	１月	（社）日本病院会・日本人間ドック学会　人間ドック健診施設機能評価認定
	５月	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定更新（Ver.5.0）
平成２１年	４月	腎臓・泌尿器科部設置、泌尿器科部廃止、がん診療センター設置
		診断群分類包括評価（DPC）導入
	１１月	回復期リハビリテーション病棟廃止　在宅復帰支援病棟さいき設置
平成２３年	４月	６００床（一般５８６床、感染症４床、結核１０床）
		呼吸器センター、消化器センター設置
平成２４年	２月	（社）日本病院会・日本人間ドック学会　人間ドック健診施設機能評価認定更新（Ver2.0）
平成２５年	６月	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定更新（Ver.6.0）
平成２６年	８月	病理診断科標榜（病理部を病理診断科部と改正）
平成２７年	２月	先進中央棟竣工
	３月	先進中央棟稼働（3 月 30 日）
	４月	緩和ケア病棟開設
		脳卒中センターを脳神経センター、腎臓・泌尿器透析センターを腎センターに改称
		休床を２１床追加　休床合計６６床（許可病床数変更なし）
		休床に伴い在宅復帰支援病棟さいき廃止
		輸血センターを検査部に統合（輸血課）

	６月	創立９０周年記念・先進中央棟落成記念式典開催
		３病棟２階健診センター改修工事竣工
	１１月	創立９０周年記念特別シンポジウム、結ぶきずな健康ラリー開催
		本館１・２階改修工事竣工
平成２８年	３月	原子力災害拠点病院に指定
平成２９年	３月	（社）日本病院会・日本人間ドック学会　人間ドック健診施設機能評価認定更新（Ver3.0）
平成２９年	５月	総合診療科設置
平成３０年	５月	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定更新（3rdG:Ver.1.1）
平成３０年	７月	日本赤十字社福井県支部創立１３０周年記念大会　高円宮久子妃殿下ご来院
令和　元年	９月	（社）日本脳卒中学会一次脳卒中センター（PSC）として認定
令和　元年	１１月	小児がん連携病院に指定
令和　２年	１１月	地域においてコアとなるPSC施設（PSCコア施設）としての活動を受嘱
令和　２年	１２月	脳卒中ケアユニット（SCU）を９床から１２床に増床
令和　３年	１月	５３４床（一般５２０床、感染４床、結核１０床）
令和　３年	４月	がんゲノム医療連携病院に指定
令和　３年	７月	血液内科部設置

病 院 の 概 要

1．病 院 の 現 況

1　幹部職員（令和 4 年 3 月 31 日現在）

院　長	髙木　治樹
副院長	小松　和人
副院長	今村　信
副院長	髙野　誠一郎
副院長兼看護部長	内田　智美
事務部長	木村　正二

2　診療科等

内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科（令和 3 年 7 月～）、
小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、
腎臓・泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、麻酔科、
リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科
〔計 25 科〕

3　許可病床数（令和 4 年 3 月 31 日現在）

一般病床	520 床
感染症病床	4 床
結核病床	10 床
計	534 床

4　組織図（別記参照）

5　職員数（令和 4 年 3 月 31 日現在）

				職種別	人数（人）
医師	149	言語聴覚士	5	電気工事士	1
歯科医師	4	歯科衛生士	4	電話交換手	2
薬剤師	32	歯科技工士	1	調理師	16
臨床検査技師	36	管理栄養士	11	看護助手	26
臨床工学技士	12	看護師	566	警備員	3
診療放射線技師	32	事務職員	116	業務員	3
公認心理士	1	社会福祉士	11	合計	1,077
視能訓練士	8	介護支援専門員	2		
理学療法士	19	保育士	1		
作業療法士	12	ボイラー技師	4		

6　外来及び入院患者数（人）

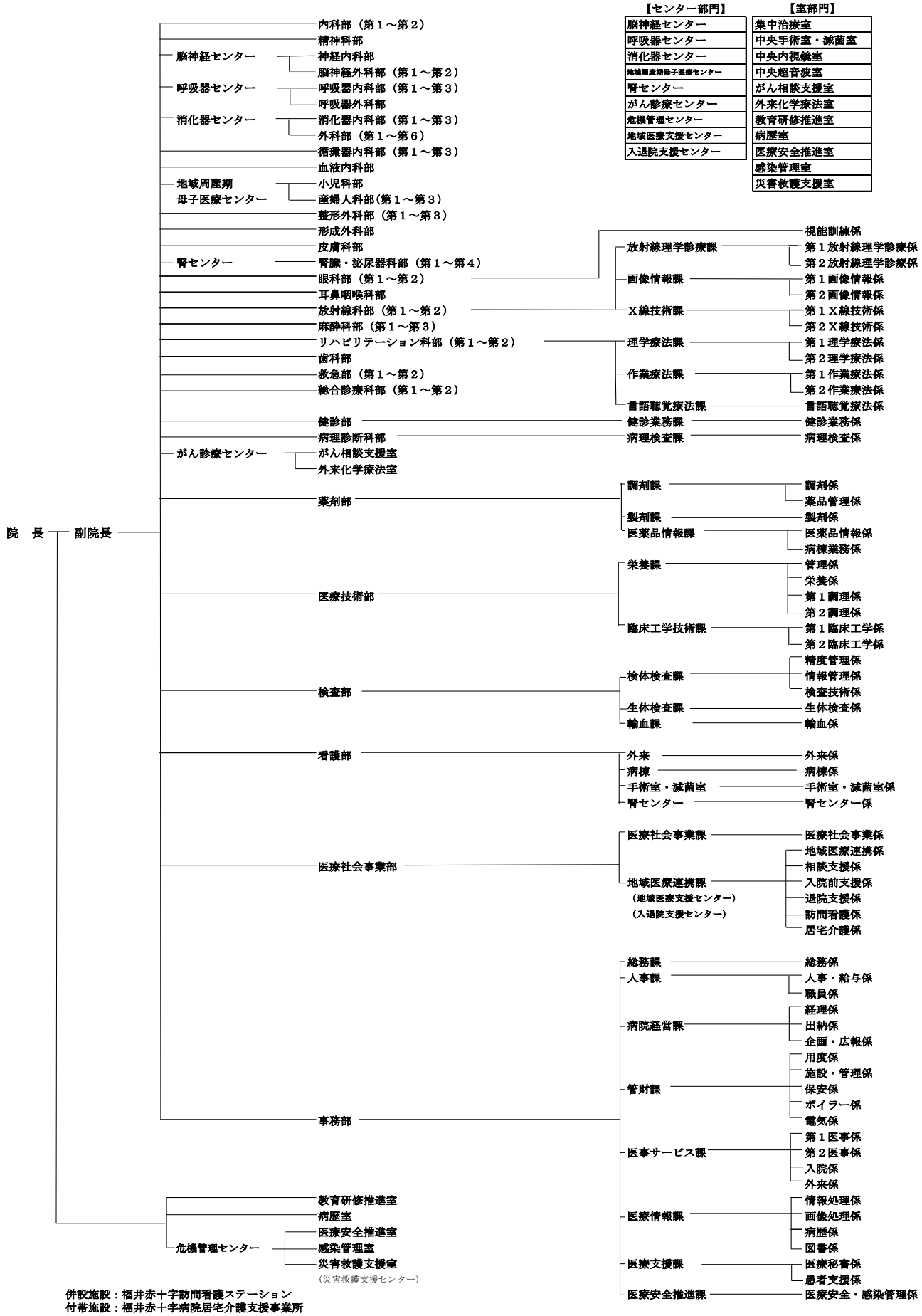
	外来患者数		入院患者数	
	延　　数	1日当り	延　　数	1日当り
令和3年度	297,110	1,223	155,195	426

（令和4年3月31 日現在）

福井赤十字病院組織図
【令和3年7月1日現在】

【センター部門】
脳神経センター
呼吸器センター
消化器センター
地域周産期母子医療センター
腎センター
がん診療センター
危機管理センター
地域医療支援センター
入退院支援センター

【室部門】
集中治療室
中央手術室・滅菌室
中央内視鏡室
中央超音波室
がん相談支援室
外来化学療法室
教育研修推進室
病歴室
医療安全推進室
感染管理室
災害救護支援室



併設施設：福井赤十字訪問看護ステーション
付帯施設：福井赤十字病院居宅介護支援事業所

2．施設の概要

敷地及び建物

１．所在地　　福井市月見２丁目４番１号
２．敷　　地　　50,194.99㎡
３．建　　物　　57,028.78㎡

（内　訳）	本　館	ＳＲＣ造８階建	29,527.23㎡
	３病棟	ＲＣ造５階建	6,066.15㎡
	管理棟	ＲＣ造５階建	5,269.85㎡
	先進中央棟	Ｓ造４階建	5,252.27㎡
	研修棟	ＲＣ造２階建	543.40㎡
	栄養管理棟	〃　３階建	3,591.54㎡
	エネルギー棟	〃　３階建	1,562.43㎡
	職員棟	〃　３階建	1,579.10㎡
	ＭＲＩ室（１）	〃　平屋建	105.81㎡
	ＭＲＩ室（２）	〃　平屋建	123.13㎡
	その他	ＲＣ造４階建他	3,407.87㎡
	合　計		57,028.78㎡

※ＳＲＣ造（鉄骨鉄筋コンクリート造）
ＲＣ造（鉄筋コンクリート造）
Ｓ造（鉄骨造）

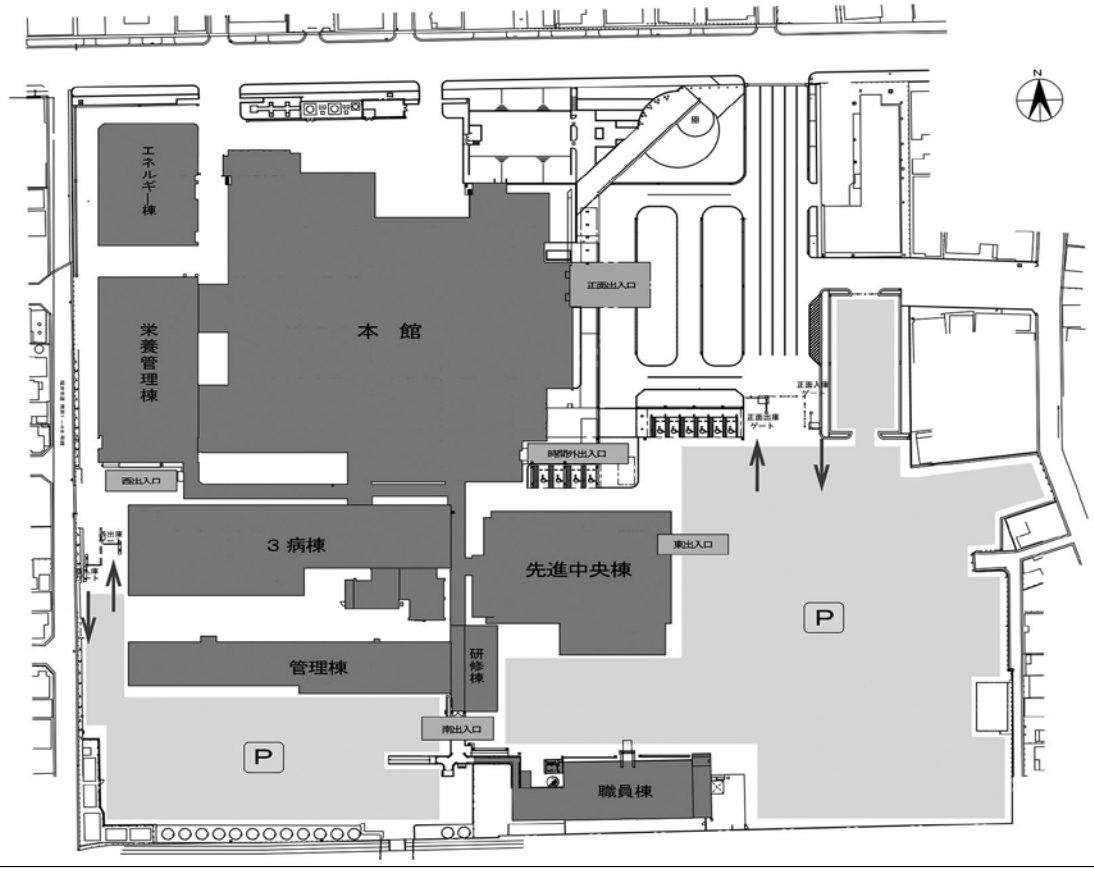
（令和３年３月31日現在）

付　近　見　取　図

交通案内

- JR 福井駅前より京福バス・福井鉄道バス
  赤十字病院バス停下車
- JR 福井駅前より福武線
  赤十字前駅下車　徒歩 5 分
- JR 福井駅からタクシー 10 分
- JR 越前花堂駅から徒歩 20 分
- 北陸自動車道福井 IC から 15 分

構　内　平　面　図



3．委　員　会

災害対策・防火・防災委員会
衛生委員会
情報システム管理委員会
倫理委員会
治験審査委員会
臨床試験審査委員会
臓器移植委員会
医療安全管理委員会
　（1．医療安全推進室部会）
事故調査委員会
院内感染防止対策委員会
医療廃棄物処理対策委員会
医療ガス安全管理委員会
放射線安全委員会
ＴＱＭ推進委員会
　（1．クリニカルパス推進部会
　2．ＱＣ活動推進部会
　3．患者満足度向上部会
　4．職員満足度向上部会
　5．ＮＳＴ部会
　6．ＲＳＴ部会
　7．糖尿病サポート部会
　8．認知症ケアチーム部会
　9．ＣＳＴ部会）
栄養委員会
診療録管理委員会
　（1．病歴業務検討会）
インフォームドコンセント推進委員会
診療情報提供委員会
保険診療検討委員会
　（1．DPC/PDPS傷病コーディング部会）
救急医療検討委員会
　（1．救急作業部会
　2．虐待防止対策部会）
褥瘡対策検討委員会
病床運営委員会
脳卒中センター運営委員会
がん診療センター運営委員会
　（1．がん化学療法部会
　2．緩和医療検討部会
　3．遺伝診療検討部会）
血液浄化療法委員会
（1．透析センター（透析機器安全管理）運営委員会）
輸血療法委員会
地域医療推進委員会
地域医療支援センター運営委員会
ボランティア委員会
薬事委員会
医療機械器具購入委員会
　（1．医療機械器具購入小委員会）
診療材料購入審査委員会
図書委員会
病院施設利用検討委員会
中央放射線部運営委員会
リハビリテーション科部運営委員会
健診センター運営委員会
集中治療室運営委員会
中央手術室・滅菌室運営委員会
検査部運営委員会
　（1．検査機器・試薬管理部会）
病理診断科部業務運営委員会
臨床工学技術運営委員会
健康・医療情報室運営委員会
院内保育施設運営委員会
福井赤十字病院群研修管理委員会
　（1．福井赤十字病院臨床研修推進部会）
歯科臨床研修管理委員会
教育・研修推進委員会
提案・顕彰審査委員会
広報委員会
就業管理委員会
　（1．特定行為業務管理部会）
（令和 4 年 3 月 31 日現在）

４．臨床研修の実施状況

1　研修医数（過去５ 年間）

平成 29 年度	13 名
平成 30 年度	19 名
令和元年度	21 名
令和２年度	22 名
令和３年度	17 名

2　福井赤十字病院群研修管理委員会（令和３年度）

委　員　長	髙木　治樹	院長（整形外科部）
委　　員	髙野　誠一郎	副院長（神経内科部長）
（プログラム責任者）		
委　　員	小松　和人	副院長（腎臓・泌尿器科部長）
〃	今村　信	副院長（血液内科部長）
〃	内田　智美	副院長（看護部長）
〃	道上　学	総合診療科部長
〃	吉田　博之	循環器科内科部長
〃	福岡　直	麻酔科部長
〃	嶋田　喜充	救急部長
〃	渡邉　康宏	小児科部長
〃	青竹　利治	外科部長
〃	田嶋　公久	産婦人科部長
〃	小西　靖彦	京都大学医学部附属病院教授
〃	吉田　幸彦	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院副院長
〃	竹上　徹郎	京都第一赤十字病院第一救急科部長
〃	山森　正二	松原病院長
〃	堤　　泰史	福井循環器病院名誉院長兼医療総合マネージャー
〃	根本　朋幸	越前町国民健康保険織田病院長
〃	秋野　裕信	若狭高浜病院長
〃	中川　博幾	福仁会病院理事長兼院長
〃	杉坂　夏子	福井厚生病院ストレスケアセンター長
〃	萩野　正樹	今庄診療所所長
〃	森　　満穂	池田町診療所所長
〃	大西　良之	丹南健康福祉センター所長
〃	武藤　眞	福井県赤十字血液センター所長
〃	伊部　晃裕	福井県医師会理事
〃	木村　正二	事務部長
〃	小川　純也	薬剤部長
〃	川島　勇一	人事課長

（令和４年３ 月 31 日現在）

5．学会の指定状況

日本内科学会認定医制度教育病院
日本血液学会血液研修施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本神経学会専門医制度教育施設
日本認知症学会専門医制度教育施設
臨床神経生理学会認定教育施設
日本呼吸器学会認定施設
呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門研修連携施設
日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
関連四学会構成浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設Ｂ
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設（画像認定施設）
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会エキスパンダー実施施設・インプラント実施施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本リウマチ学会教育施設
日本形成外科学会認定施設
日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所
日本脳卒中学会認定研修教育施設
日本脳卒中学会一次脳卒中センター認定施設
日本脳神経血管内治療学会研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本周産期・新生児医学会（母体・胎児）指定認定施設
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関
日本放射線腫瘍学会 JASTRO 認定施設

日本核医学会専門医教育病院
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本病理学会研修登録施設
日本臨床細胞学会教育研修施設
日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設
認定輸血検査技師協議会認定輸血検査技師制度指定施設
日本人間ドック学会人間ドック健診専門医制度研修施設
日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設
日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム稼働施設
日本口腔外科学会専門医制度准研修施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム認定
日本作業療法士協会臨床実習指導施設
日本女性医学学会認定研修施設
日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療体制機構総合診療協力施設
日本臨床衛生検査技師会精度保証施設
日本頭痛協会認定施設
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設（連携施設）

（令和 4 年 3 月 31 日現在）

6．職員の院外役職調

地方自治体・大学法人・公的機関・各種団体

団体名	役職名		本院の役職名もしくは職名	氏名
朝日大学	非常勤講師		歯科部長	山田　和人
			歯科医師	松永　良健
金沢大学関連病院長会	理事		院長	髙木　治樹
京都大学	臨床教授		院長	髙木　治樹
			副院長	髙野誠一郎
			脳神経外科部長	西村　真樹
	非常勤講師		内科部長	夏井　耕之
			脳神経外科部長	西村　真樹
	芝蘭会理事		名誉院長	野口　正人
	京大関係病院長協議会評議員		院長	髙木　治樹
	京整会（京都大学整形外科教室同門会）幹事		整形外科部長	高塚　和孝
順天堂大学	非常勤助教		外科医師	平崎　憲範
全国健康保険協会福井支部	柔道整復師施術療養費審査委員会委員		整形外科部長	高塚　和孝
日本医療機能評価機構	産科医療補償制度診断協力医		小児科部長	渡邉　康宏
日本作業療法士協会	生涯教育部養成教育委員会臨床実習審査会		作業療法課長	仲辻　良二
	生涯教育部生涯教育制度推進担当		第１作業療法係長	山田　英二
日本赤十字社	災害医療コーディネーター		麻酔科部長	白塚　秀之
	原子力災害医療アドバイザー		救急部長	嶋田　喜充
	原子力災害医療アドバイザー		Ｘ線技術課長	西郡　克寛
福井県	医療審議会	委員	院長	髙木　治樹
		委員	麻酔科部長	白塚　秀之
	医療審議会専門部会	福井県周産期医療協議会委員	産婦人科部長	田嶋　公久
		小児医療体制検討部会委員	小児科部長	渡邉　康宏
		心筋梗塞等の心疾患　医療体制検討部会委員	循環器内科部長	吉田　博之
		脳卒中医療体制検討部会委員	脳神経外科部長	西村　真樹
		糖尿病医療体制検討部会委員	内科部長	夏井　耕之
	医療審議会在宅医療体制検討部会委員		看護師長	西向　秀代
	地域医療推進会議委員		院長	髙木　治樹
	地域医療構想調整会議委員		看護師長	山﨑　雪代
	難病対策協議会	委員	院長	髙木　治樹
		指定難病等認定審査部会委員	副院長	髙野誠一郎
	がん委員会	委員	消化器内科部長	山崎　幸直
		検診部会部会長	消化器内科部長	山崎　幸直
		検診部会委員	呼吸器内科部長	赤井　雅也
		検診部会委員	外科部長	田中　文恵
		がん予防部会委員	消化器内科部長	山崎　幸直
		がん登録部会委員	呼吸器内科部長	赤井　雅也
		がん登録部会委員	外科部長	田中　文恵
	感染症診査協議会（結核部会）委員長		呼吸器内科部長	赤井　雅也
	感染症予防対策委員会委員		呼吸器内科部長	赤井　雅也
	エイズ予防対策委員会委員		副院長	今村　信
	福井・坂井地区メディカルコントロール協議会委員		救急部長	嶋田　喜充
	非常勤職員公務災害補償等診査委員会委員		外科部長	田中　文恵
	社会福祉審議会委員		耳鼻咽喉科部長	大澤　陽子

団体名	役職名		本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県	臓器移植コーディネーター		看護師長	高島　恵
			看護係長	妹尾真理子
			看護係長	福田　清子
			看護係長	米村　里美
			看護係長	板岡　利恵
			看護係長	中山　幸代
福井県アイバンク	理事		眼科部長	小堀　朗
福井県医師会	理事		副院長	髙野誠一郎
	ふくい医療情報連携システム運営協議会委員		院長	髙木　治樹
	システム適正ならびに利用促進検討部会委員		副院長	今村　信
			看護師長	山崎　雪代
	医療システム委員会委員		副院長	小松　和人
	女性医師支援委員会委員		副院長	小松　和人
	医療事故調査支援委員会委員		医療安全管理者	相模　朋恵
福井県医療ソーシャルワーカー協会	理事		社会福祉士	大越　二葉
福井県看護協会	理事		副院長兼看護部長	内田　智美
	認定看護管理者教育運営委員会委員		副院長兼看護部長	内田　智美
	看護職員研修推進協議会委員		副院長兼看護部長	内田　智美
			看護師長	山﨑　雪代
	認定看護管理者教育課程	セカンドレベル非常勤講師	副院長兼看護部長	内田　智美
		ファーストレベル非常勤講師	看護副部長	西川　順子
				真鍋　照美
	災害看護委員会委員		看護係長	朝田　和枝
	教育委員会委員		看護師長	西郡　知代
	救急看護委員		看護師	小川　佳代
	広報委員会委員		看護係長	徳橋　珠美
	学会委員会委員		看護係長	土橋　芳美
	助産師職能委員会委員		看護師（助産師）	井上めぐみ
	看護師職能委員		看護師長	松田ゆう子
	福井県母子保健相談担当者		看護師（助産師）	大久保　瞳
	第一地区委員		看護師長	福田　清美
福井県がん検診精度管理委員会	委員		消化器内科部長	山崎　幸直
	委員		呼吸器内科部長	赤井　雅也
	胃がん専門部会	部会長	消化器内科部長	山崎　幸直
	肺がん専門部会	部会長	呼吸器内科部長	赤井　雅也
	乳がん専門部会	委員	外科部長	田中　文恵
	大腸がん専門部会	委員	消化器内科部長	道上　学
	子宮頸がん専門部会	委員	産婦人科部長	田嶋　公久
福井県外科医会	副会長		外科部長	田中　文恵
福井県健康管理協会	理事		院長	髙木　治樹
福井県作業療法士会	教育部	理事	第１作業療法係長	山田　英二
		部長	作業療法士	樋田　貴紀
		会計	作業療法士	山本　和雅
		部員		齋門　聡子
	災害対策委員		作業療法士	山本　和雅
	生活行為向上マネジメント委員		作業療法士	黒田　圭太
福井県歯科医師会	福井県在宅口腔ケア応援センター運営委員		看護師長	山崎　雪代
	福井歯科専門学校	歯科衛生士科非常勤講師	歯科・口腔外科部長	山田　和人
	福井歯科専門学校	歯科衛生士科非常勤講師	歯科衛生士	高崎　裕美

団体名	役職名		本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県市町村交通災害共済組合	審査委員		院長	髙木　治樹
	委員		整形外科部長	高塚　和孝
福井県消防学校	講師		麻酔科部長	白塚　秀之
			麻酔科医監	田邉　毅
福井県腎臓バンク	理事		院長	髙木　治樹
福井県診療放射線技師会	理事		画像情報課長	上坂　大輔
	放射線管理委員		診療放射線技師	柑本　明美
	情報ネットワーク委員会委員		診療放射線技師	二口　亮
	学術研修委員		診療放射線技師	村中　舞
	福利厚生委員		診療放射線技師	野﨑　貫太
	人材育成委員		診療放射線技師	岩崎　凪彩
	地域医療対策委員		診療放射線技師	河邉　大知
福井県病院薬剤師会	副会長		薬剤部長	小川　純也
	理事		医薬品情報課長	青柳　哲治
	業務委員会委員		薬剤師	細谷　拓史
	学術委員会委員		薬剤師	草富　翔太
	広報委員会委員		薬剤師	前田　太
福井県訪問看護ステーション連絡講義会	会長		看護師長	山崎　雪代
福井県理学療法士会	理事		第１理学療法係長	山岸　耕二
	理事		理学療法課長	豊田　泰美
	職能局ワークライフバランス部	副部長	第２理学療法係長	梅田　美和
		委員	理学療法士	北村愛沙美
				山本　有里
	社会局広報部	委員	理学療法士	中山　泰博
				戸田　友行
	選挙管理委員会	委員長	理学療法士	岡崎　雅樹
	ブロック事業局福井西ブロック	施設代表	理学療法士	筧　和真
	PT の未来を考える委員会	委員長	第１理学療法係長	山岸　耕二
	倫理委員会	委員	理学療法課長	豊田　泰美
福井県立福井東養護学校月見分校	学校医		小児科部長	渡邉　康宏
福井県立福井南養護学校	学校医		内科部長	神谷　健一
	学校医		小児科部長	渡邉　康宏
福井県臨床検査技師会	代表理事		技師長	加藤　幸久
	理事		輸血・検体課長	杉本　正雄
	常務理事		生体検査課長	猿木　邦之
	臨床検査総合部門長		臨床検査技師	見谷　敦司
	臨床生理部門長		生体検査係長	守部　司
	微生物検査委員		臨床検査技師	平井　英誉
	血液検査委員		臨床検査技師	松宮　翔太
	輸血細胞治療部門長		輸血検査係長	渡辺　純也
	病理細胞委員		臨床検査技師	藤田　幸宏
福井県臨床工学技士会	理事		臨床工学技術課長	重矢　直彦
	理事		第１臨床工学係長	山中　雅弘

団体名	役職名		本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県臨床工学技士会	教育部	血液浄化委員	臨床工学技士	金田　博史
		呼吸器委員	臨床工学技士	平嶋　克次
		機器管理委員	臨床工学技士	北島　真樹
	人材活性化委員会福井県Ｙボード担当		臨床工学技士	松村　研斗
	選挙管理委員		第２臨床工学係長	谷口　貴洋
福井県栄養士会	理事		栄養課長	大久保祐子
福井県介護支援専門員協会	理事		居宅介護係長	山崎　奈満
福井在宅医療と介護の推進会議	委員		居宅介護係長	山崎　奈満
福井工業大学附属福井高等学校	講師		麻酔科部長	福岡　直
	非常勤講師		麻酔科部長	福岡　直
福井市	介護認定審査会委員		副院長	髙野誠一郎
			脳神経外科部長	西村　真樹
			整形外科部長	高塚　和孝
			ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科部長	髙嶋　理
			理学療法課長	豊田　泰美
			第２作業療法係長	浜田　友紀
	感染症診査協議会委員長		呼吸器内科部長	赤井　雅也
	社会福祉協議会	障害者福祉専門分科学審査部会委員	耳鼻咽喉科部長	大澤　陽子
	障害者自立支援審査会審査員		第１作業療法係長	山田　英二
	障害者地域自立支援協議会	居宅生活対策部会委員	社会福祉士	横山　友美
	在宅医療・介護検討協議会	委員	看護師長	山崎　雪代
	医療的ケア児支援推進協議会	委員	看護師長	山崎　雪代
	高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会委員		居宅介護係長	山崎　奈満
福井市医師会	理事		副院長	小松　和人
	看護専門学校	非常勤講師	看護師長	勝木美奈子
			看護係長	朝田　和枝
福井大学	福井大学医学部・関連病院長会議	理事	院長	髙木　治樹
		副会長	副院長	小松　和人
			内科部長	神谷　健一
			産婦人科部長	田嶋　公久
			放射線科部長	左合　直
	臨床教授		副院長	髙野誠一郎
			呼吸器内科部長	赤井　雅也
			産婦人科部長	田嶋　公久
			小児科部長	渡邉　康宏
			消化器内科部長	山崎　幸直
			整形外科部長	高塚　和孝
			眼科部長	小堀　朗
			耳鼻咽喉科部長	大澤　陽子
			循環器内科部長	吉田　博之
			脳神経外科部長	西村　真樹
			麻酔科医監	田邉　毅
			麻酔科部長	白塚　秀之
			内科部長	夏井　耕之
			眼科部長	小堀　朗

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
福井大学	臨床教授	外科部長	青竹　利治
		副院長兼看護部長	内田　智美
	臨床講師	腎臓・泌尿器科副部長	髙田　昌幸
		看護師長	松田ゆう子
		看護師長	布谷喜代美
		看護師長（助産師）	内田　一美
		看護師長（助産師）	深尾　郁子
		看護係長（助産師）	皿澤　和美
		看護係長	板岡　利恵
	非常勤講師	呼吸器内科部長	赤井　雅也
		眼科部長	小堀　朗
		産婦人科部長	田嶋　公久
		心理判定員	寺井　堅祐
		看護師長	山﨑　雪代
福井労働基準局	地方労災医員	副院長	髙野誠一郎
	地方じん肺診査医	呼吸器内科部長	赤井　雅也
	健康管理医	内科副部長	中野　雅子
	労災診療費審査委員	外科部長	青竹　利治
放送大学	非常勤講師	公認心理師	寺井　堅祐

保険関連

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県国民健康保険診療報酬審査委員会	委員	医監	廣瀬　由紀
		整形外科部長	高塚　和孝
		腎臓・泌尿器科副部長	髙田　昌幸
福井県社会保険診療報酬請求書審査委員会	審査委員	外科部長	青竹　利治
		脳神経外科部長	西村　真樹
		副院長	今村　信

学会・研究会（全国）

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
JOSKAS	評議員	リハビリテーション科部長	淺野　太洋
PEG 在宅医療学会	学術評議員	健診部長	西川　邦寿
胃外科･術後障害研究会	幹事	外科部長	川上　義行
活動分析研究会	福井県代表	第１作業療法係長	山田　英二
消化器健康医療研究機構	上部消化管疾患研究会評価委員	消化器内科部長	山崎　幸直
単孔式内視鏡手術研究会	世話人	外科部長	川上　義行
日赤薬剤師会	薬剤部門委員会委員	薬剤部長	小川　純也
日本眼科手術学会	理事	眼科部長	小堀　朗
日本肝胆膵外科学会	評議員	外科部長	土居　幸司
日本血液学会	評議員	内科部長	神谷　健一
日本結核・非結核性抗酸菌症学会	代議員	呼吸器内科部長	赤井　雅也
	予防委員会委員	呼吸器内科部長	赤井　雅也
日本呼吸器学会	代議員	呼吸器内科部長	赤井　雅也
日本呼吸器内視鏡学会	評議員	呼吸器内科部長	出村　芳樹
日本呼吸器外科学会	評議員	呼吸器外科部長	松倉　規
日本耳鼻咽喉科学会	代議員	耳鼻咽喉科部長	大澤　陽子
日本耳鼻咽喉科　免疫アレルギー感染症学会	評議員	耳鼻咽喉科部長	大澤　陽子

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
日本手術看護学会	理事	看護師長	川端　和代
日本消化器内視鏡学会	評議員	健診部長	西川　邦寿
日本消化器病学会	評議員	消化器内科部長	山崎　幸直
日本女性骨盤底医学会	世話人	副院長	小松　和人
日本神経学会	代議員	副院長	髙野誠一郎
日本整形外科勤務医会	幹事	院長	髙木　治樹
日本赤十字社臨床検査技師会	常務理事	検査部課長	杉本　正雄
日本赤十字社診療放射線技師会	医療情報分科会世話人	放射線科技師長	西村　英明
日本乳房オンコプラステックサージャリー学会	評議員	外科部長	田中　文恵
日本内科学会	評議員	内科部長	神谷　健一
日本内視鏡外科学会	評議員	外科部長	青竹　利治
		外科部長	川上　義行
日本乳癌検診学会	評議員	外科部長	田中　文恵
日本脳神経外科学会	評議員	脳神経外科部長	西村　真樹
		脳神経外科部長	早瀬　睦
日本脳卒中学会	評議員	脳神経外科部長	西村　真樹
日本泌尿器内視鏡学	評議員	副院長	小松　和人
日本病院会	福井県支部長	名誉院長	野口　正人
日本ボツリヌス治療学会	代議員	副院長	髙野誠一郎
日本臨床外科学会	評議員	医監	廣瀬　由紀
		外科部長	土居　幸司
日本臨床薬理学会	評議員	内科部長	神谷　健一
腹腔鏡内視鏡合同手術研究会	世話人	外科部長	吉羽　秀麿
		消化器内科部長	山崎　幸直
日本小児腎臓病学会	代議員	小児科副部長	玉村　宗一

学会・研究会（地方会）

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
Treatment& Discussion の会	世話人	眼科部長	小堀　朗
加越硝子体手術の会	世話人	眼科部長	小堀　朗
活動分析研修会	福井県代表	第１作業療法係長	山田　英二
京整会ＲＡ懇話会	世話人	院長	髙木　治樹
		整形外科医師	森瀬　博子
京都胸部腫瘍研究会	世話人	呼吸器内科部長	赤井　雅也
		呼吸器内科部長	出村　芳樹
中部労災年金支援センター	健康管理指導医	整形外科部長	高塚　和孝
日本医学放射線学会中部地方会	世話人	放射線科部長	左合　直
日本呼吸器学会・呼吸器内視鏡学会・結核病学会、サルコイドーシス学会合同北陸地方会	評議員，運営協議会委員	呼吸器内科部長	赤井　雅也
	評議員	呼吸器内科部長	出村　芳樹
日本消化器内視鏡学会北陸支部	評議員	消化器内科部長	山崎　幸直
		健診部長	西川　邦寿
日本消化器病学会北陸地方会	評議員	健診部長	西川　邦寿
		消化器内科部長	山崎　幸直

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
日本小児科学会北陸地方会	暫定学術委員会委員	小児科部長	渡邉　康宏
日本耳鼻咽喉科学会中部地方部会連合会	運営委員	耳鼻咽喉科部長	大澤　陽子
日本循環器学会北陸地方会	評議員	循環器内科部長	吉田　博之
		循環器内科部長	坪川　明義
日本神経学会東海北陸地方会	世話人	副院長	髙野誠一郎
日本てんかん学会東海北陸地方会	運営委員	副院長	髙野誠一郎
日本肺癌学会 北陸支部会	評議員	呼吸器内科部長	赤井　雅也
		呼吸器内科部長	出村　芳樹
		呼吸器外科部長	松倉　規
日本泌尿器学会北陸地方会	評議員	副院長	小松　和人
日本輸血・細胞治療学会北陸支部	評議員	内科部長	今村　信
北陸HIV 臨床談話会	世話人	内科部長	今村　信
北陸 IVR 研究会	世話人	脳神経外科部長	早瀬　睦
北陸PEG在宅栄養研究会	世話人	健診部長	西川　邦寿
北陸胃癌談話会	幹事	消化器内科部長	山崎　幸直
		健診部長	西川　邦寿
北陸画像診断勉強会	幹事	放射線科部長	左合　直
北陸緩和医療研究会	世話人	外科部長	吉羽　秀麿
北陸クリスタルクラブ	世話人	眼科部長	小堀　朗
北陸骨折研究会	世話人	リハビリテーション科部長	淺野　太洋
北陸サイトカイン研究会	世話人	内科部長	神谷　健一
北陸周産期・新生児研究会	幹事	小児科副部長	玉村　宗一
北陸循環器負荷研究会	幹事	循環器内科部長	吉田　博之
北陸小腸内視鏡研究会	世話人	健診部長	西川　邦寿
北陸心不全研究会	幹事	循環器内科部長	吉田　博之
北陸診療情報管理研究会	理事	副院長	今村　信
		医療情報課長	櫻井　慎二
北陸大腸癌研究会	幹事	外科部長	青竹　利治
北陸地区脳神経リハビリテーション看護研究会	世話人	看護師長	井口　秀人
北陸糖尿病研究会	世話人	内科副部長	中野　雅子
北陸内視鏡外科研究会	幹事	外科部長	青竹　利治
北陸乳癌懇話会	幹事	外科部長	田中　文恵
北陸乳房画像研究会	世話人	診療放射線技師	吉岡　千絵
北陸脳腫瘍研究会	世話人	脳神経外科部長	西村　真樹
北陸脳腫瘍懇話会	世話人	脳神経外科部長	西村　真樹
北陸リウマチ関節研究会	世話人	整形外科部長	淺野　太洋
北陸臨床免疫症例検討／ 研究会	幹事	内科部長	神谷　健一
北陸ヘルニア研究会	幹事	外科部長	川上　義行

学会・研究会（福井県）

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
ＦＡＲＭ研究会	世話人	産婦人科部長	田嶋　公久
Fukui ACT Core Member Meeting	世話人	循環器内科部長	吉田　博之

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
Fukui Circulation Forum	世話人	循環器内科部長	吉田　博之
Pitfall の会	代表世話人	眼科部長	小堀　朗
日本小児科学会福井地方会	委員	小児科部長	渡邉　康宏
福井 IVNR 研究会	世話人	脳神経外科部長	早瀬　睦
福井 PBSCT 研究会	世話人	内科部長	神谷　健一
福井肝癌研究会	幹事	消化器内科部長	道上　学
		放射線科部長	左合　直
福井冠疾患治療を考える会	世話人	循環器内科部長	吉田　博之
			坪川　明義
福井関節外科懇話会	代表世話人	院長	髙木　治樹
	世話人	リハビリテーション科部長	淺野　太洋
福井感染制御ネットワーク	世話人	呼吸器内科部長	赤井　雅也
福井がんとチーム医療研究会	世話人	外科部長	青竹　利治
	世話人	栄養課長	大久保祐子
福井救急集中治療医学研究会	幹事	麻酔科部長	白塚　秀之
福井血液腫瘍 Roundtable Conference	世話人	副院長	今村　信
福井県 CT.MR 研究会	世話人	画像情報課長	上坂　大輔
		診療放射線技師	勝木　宏輝
福井県 MRI 研究会	幹事	放射線科部長	左合　直
福井県 NST 研究会	幹事	外科部長	川上　義行
福井県胃腸疾患懇話会	幹事	消化器内科部長	道上　学
		消化器内科部長	山崎　幸直
福井県核医学研究会	幹事	循環器内科部長	吉田　博之
福井県肝胆膵勉強会	幹事	放射線科部長	左合　直
		外科部長	土居　幸司
福井県緩和医療研究会	幹事	外科部長	吉羽　秀麿
福井県外科医会	消化器部門幹事	外科部長	青竹　利治
	乳がん部門幹事	外科部長	田中　文恵
福井県産婦人科医師連合	理事	産婦人科部長	田嶋　公久
福井県消化管撮影研究会	世話人	診療放射線技師	柑本　明美
福井県小児科医会	理事	小児科部長	渡邉　康宏
	広報委員会委員	小児科部長	渡邉　康宏
福井県診療情報管理懇話会	幹事	副院長	今村　信
		医療情報課長	櫻井　慎二
福井県末消血幹細胞移植研究会	世話人	内科部長	神谷　健一
福井県整形外科医会	理事	整形外科部長	高塚　和孝
福井県乳房画像研究会	世話人	診療放射線技師	田賀　陽子
		診療放射線技師	吉岡　千絵
		診療放射線技師	村中　舞
福井県糖尿病協会	理事	内科副部長	中野　雅子
		看護師	清水　雅代
福井県糖尿病懇話会	世話人	内科副部長	中野　雅子
		看護師	清水　雅代
福井県糖尿病療養指導研究会	理事	内科部長	夏井　耕之
		看護師	清水　雅代
		栄養課長	大久保祐子

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県内科医会	幹事	副院長	髙野誠一郎
福井県脳・神経談話会	幹事	副院長	髙野誠一郎
	世話人	脳神経外科部長	西村　真樹
福井県脳機能画像カンファレンス	世話人	脳神経外科部長	西村　真樹
福井県脳梗塞セミナー	世話人	脳神経外科部長	西村　真樹
		神経内科副部長	今村　久司
福井県母性衛生学会	理事	産婦人科部長	田嶋　公久
福井県予防接種研究会	世話人	呼吸器内科部長	赤井　雅也
		小児科部長	渡邉　康宏
福井県リウマチケア研究会	顧問	院長	髙木　治樹
	実行委員	看護師長	石田　克子
		理学療法課長	豊田　泰美
		作業療法士	山本　和雅
福井県臨床細胞学会	幹事	産婦人科部長	田嶋　公久
		病理診断科部長	大越　忠和
		臨床検査技師	藤田　幸宏
福井膠原病研究会	世話人	院長	髙木　治樹
福井骨粗鬆症フォーラム	代表世話人	院長	髙木　治樹
	世話人	整形外科部長	高塚　和孝
	世話人	産婦人科部長	田嶋　公久
福井周産期症例検討会	世話人	小児科部長	渡邉　康宏
福井循環器カンファレンス	世話人	循環器内科部長	吉田　博之
福井神経疾患研究会	世話人	副院長	髙野誠一郎
福井大腸癌研究会	幹事	外科部長	青竹　利治
		消化器内科部長	道上　学
福井地区緊急被ばくネットワーク研究会	委員	内科部長	神谷　健一
福井地区緊急被ばくネットワーク検討会	委員	内科部長	神谷　健一
		放射線科技師長	西村　英明
福井認知症を考える会	世話人	副院長	髙野誠一郎
ふくいの在宅医療を支える会	世話人	看護師長	山﨑　雪代
		社会福祉士	奈須田　瞳
福井日和見感染症研究会	世話人	内科部長	神谷　健一
福井婦人科腫瘍研究会	世話人	産婦人科部長	田嶋　公久
福井リウマチ研究会	顧問	院長	髙木　治樹
	世話人	整形外科医師	森瀬　博子
福井臨床薬理を考える会	委員	内科部長	神谷　健一

7．年　間　行　事

日	時	内　　容	場　　所
4月 1日	8:10	辞令交付（昇任・医師新規採用者）	院長室
	9:00	辞令交付（新規採用者）	栄養管理棟３階講堂
		新規採用職員一般研修　～５日（月）	栄養管理棟３階講堂
		新規採用研修医オリエンテーション　～８日（木）	大会議室 他
4月23日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
4月30日	17:00	定例医局会	栄養管理棟３階講堂
5月14日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
5月28日	17:00	定例医局会	栄養管理棟３階講堂
6月 2日	9:00	令和３年度上期評議員会の開催にかかる本監査	大会議室
6月18日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
6月21日	13:30	日本赤十字社福井県支部令和３年度上期評議員会	アオッサ８階県民ホール
6月23日	15:00	キャリアラダー認定証授与式(看護職･事務職･リハビリ職)	院長室等
	17:00	定例医局会	栄養管理棟３階講堂
7月16日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
7月30日	17:00	定例医局会	栄養管理棟３階講堂
8月 5日	15:00	被剖検者追悼式	栄養管理棟３階講堂
8月20日	14:30	管理会議	応接室
9月 9日	15:00	管理会議	応接室
9月17日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
	17:00	医局会	栄養管理棟３階講堂
10月 4日	15:00	管理会議	応接室
10月 7日	14:00	福井県防災ヘリコプター離着陸訓練	救急用ヘリポート
10月15日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
10月17日	13:00	令和３年度日本赤十字社第３ブロック支部合同災害救護訓練	福井県支部(オンライン開催)
	17:00	定例医局会	栄養管理棟３階講堂
11月 1日	15:30	管理会議	応接室
11月 4日	15:00	キャリアラダー認定証授与式（看護部）	院長室
	オンライン	福井赤十字病院　オンライン市民公開講座「がんと遺伝　～赤十字が取り組むニューノーマル～」	
11月 6日	8:15	令和３年度福井赤十字病院災害対応訓練	本館１階エントランスホール他
11月13日	8:00	福井県総合防災訓練	鯖江市日野川河川敷
11月19日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室

日	時	内　　容	場　　所
11月26日	17:00	定例医局会	栄養管理棟３階講堂
12月 6日	15:30	管理会議	応接室
12月17日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
12月24日	17:00	第６６回クリスマスキャンドルサービス	全病棟
12月28日	17:00	定例医局会	栄養管理棟３階講堂
		仕事納め	
1月 4日	8:15	令和４年仕事始め式（各部署代表者）	栄養管理棟３階講堂
1月14日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
1月28日	17:00	定例医局会	栄養管理棟３階講堂
1月31日	15:30	管理会議	応接室
1月18日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
2月25日	17:00	定例医局会	栄養管理棟３階講堂
2月28日	15:30	管理会議	応接室
3月11日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
3月18日	17:00	定例医局会	栄養管理棟３階講堂
3月19日	9:00	令和３年度原子力災害時における被ばく傷病者受入訓練	栄養管理棟３階講堂

患者数・経営状況

１．患者数統計

地区別入院患者数比較　（年 度 別 比 較）

入　院

	平成29年	対前年度増減	%	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和２年	対前年度増減	%	令和３年	対前年度増減	%
福　井　市	103,596	-643	99%	99,360	-4236	96%	94,772	-4,588	95%	85,437	-9,335	90%	93,385	7,948	109%
敦　賀　市	1,215	-106	92%	1,983	768	163%	1,741	-242	88%	1,535	-206	88%	1,912	377	125%
越　前　市	18,073	-1,401	93%	17,515	-558	97%	18,183	668	104%	14,154	-4,029	78%	14,682	528	104%
小　浜　市	105	-280	27%	157	52	150%	248	91	158%	74	-174	30%	150	76	203%
大　野　市	1,622	-549	75%	1,784	162	110%	1,873	89	105%	1,314	-559	70%	1,419	105	108%
勝　山　市	614	-375	62%	730	116	119%	1,256	526	172%	430	-826	34%	408	-22	95%
鯖　江　市	26,002	2,967	113%	24,309	-1693	93%	23,706	-603	98%	20,908	-2,798	88%	22,284	1,376	107%
あわら市	1,583	95	106%	1,825	242	115%	1,376	-449	75%	1,217	-159	88%	1,829	612	150%
永平寺町	650	140	127%	426	-224	66%	806	380	189%	694	-112	86%	803	109	116%
坂　井　市	3,622	-503	88%	3,772	150	104%	3,567	-205	95%	3,409	-158	96%	4,089	680	120%
池　田　町	541	6	101%	540	-1	100%	354	-186	66%	356	2	101%	338	-18	95%
美　浜　町	54	-183	23%	449	395	831%	365	-84	81%	55	-310	15%	350	295	636%
おおい町	226	215	2055%	46	-180	20%	7	-39	15%	7	0	100%	2	-5	29%
高　浜　町	43	-66	0%	231	188	100%	121	-110	100%	0	-121	100%	48	48	100%
南越前町	2,520	-539	82%	2,520	0	100%	2,907	387	115%	1,921	-986	66%	1,801	-120	94%
越　前　町	12,860	294	102%	12,129	-731	94%	12,264	135	101%	8,663	-3,601	71%	10,047	1,384	116%
若　狭　町	36	-22	62%	239	203	664%	315	76	132%	391	76	124%	193	-198	49%
県外その他	1,887	256	116%	1,492	-395	79%	1,529	37	102%	1,412	-117	92%	1,455	43	103%
合　計	175,249	-694	100%	169,507	-5742	97%	165,390	-4,117	98%	141,977	-23,413	86%	155,195	13,218	109%

地区別外来患者数比較　（年 度 別 比 較）

外　来

	平成29年	対前年度増減	%	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和２年	対前年度増減	%	令和３年	対前年度増減	%
福　井　市	185,881	-4,515	98%	189,599	3,718	102%	186,584	-3,015	98%	169,326	-17,258	91%	187,506	18,180	111%
敦　賀　市	2,121	138	107%	2,218	97	105%	2,229	11	100%	1,934	-295	87%	1,982	48	102%
越　前　市	30,636	-696	98%	31,061	425	101%	30,243	-818	97%	27,531	-2,712	91%	29,553	2,022	107%
小　浜　市	203	-137	60%	236	33	116%	270	34	114%	164	-106	61%	187	23	114%
大　野　市	3,776	-319	92%	3,664	-112	97%	3,697	33	101%	3,178	-519	86%	3,274	96	103%
勝　山　市	1,105	-372	75%	1,045	-60	95%	1,277	232	122%	914	-363	72%	1,000	86	109%
鯖　江　市	38,858	1,276	103%	38,443	-415	99%	37,929	-514	99%	34,112	-3,817	90%	36,929	2,817	108%
あわら市	3,125	147	105%	3,344	219	107%	3,368	24	101%	2,906	-462	86%	3,106	200	107%
永平寺町	1,548	5	100%	1,364	-184	88%	1,403	39	103%	1,239	-164	88%	1,381	142	111%
坂　井　市	8,203	-390	95%	8,333	130	102%	8,189	-144	98%	7,549	-640	92%	8,299	750	110%
池　田　町	976	-47	95%	792	-184	81%	794	2	100%	711	-83	90%	760	49	107%
美　浜　町	304	-22	93%	352	48	116%	352	0	100%	219	-133	62%	289	70	132%
おおい町	100	80	500%	83	-17	83%	23	-60	28%	25	2	109%	22	-3	88%
高　浜　町	45	-4	92%	74	29	164%	63	-11	85%	12	-51	19%	34	22	283%
南越前町	3,989	-217	95%	3,844	-145	96%	4,327	483	113%	3,627	-700	84%	3,764	137	104%
越　前　町	17,539	-504	97%	17,096	-443	97%	17,585	489	103%	15,253	-2,332	87%	16,806	1,553	110%
若　狭　町	200	-88	69%	269	69	135%	322	53	120%	282	-40	88%	262	-20	93%
県外その他	2,350	8	100%	2,196	-154	93%	2,469	273	112%	1,832	-637	74%	1,956	124	107%
合　計	300,959	-5,657	98%	304,013	3,054	101%	301,124	-2,889	99%	270,814	-30,310	90%	297,110	26,296	110%

年齢別入外別　患者延べ数　（年度別比較）

入　院

	平成29年	対前年度増減	%	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和２年	対前年度増減	%	令和３年	対前年度増減	%
0 － 5 才	3,590	-333	92%	4,112	522	115%	4,038	-74	98%	2,840	-1,198	70%	4,618	1,778	163%
6 － 14 才	1,566	178	113%	1,653	87	106%	1,980	327	120%	1,628	-352	82%	2,139	511	131%
15 － 19 才	1,049	-190	85%	919	-130	88%	1,227	308	134%	640	-587	52%	1,193	553	186%
20 － 24 才	1,503	161	112%	1,267	-236	84%	1,176	-91	93%	1,215	39	103%	1,013	-202	83%
25 － 29 才	2,489	-140	95%	2,310	-179	93%	2,558	248	111%	1,674	-884	65%	2,281	607	136%
30 － 34 才	3,035	-401	88%	2,824	-211	93%	2,337	-487	83%	2,348	11	100%	2,368	20	101%
35 － 39 才	3,671	50	101%	2,833	-838	77%	2,831	-2	100%	2,044	-787	72%	2,906	862	142%
40 － 44 才	4,052	362	110%	3,985	-67	98%	3,184	-801	80%	2,848	-336	89%	2,862	14	100%
45 － 49 才	5,058	630	114%	4,469	-589	88%	4,078	-391	91%	3,784	-294	93%	3,362	-422	89%
50 － 54 才	5,843	905	118%	5,119	-724	88%	5,962	843	116%	5,121	-841	86%	5,663	542	111%
55 － 59 才	8,695	-246	97%	7,162	-1,533	82%	7,367	205	103%	6,551	-816	89%	6,438	-113	98%
60 － 64 才	10,197	-2,194	82%	10,259	62	101%	9,747	-512	95%	8,343	-1,404	86%	9,926	1,583	119%
65 － 69 才	22,266	-1,674	93%	20,078	-2,188	90%	18,631	-1,447	93%	13,998	-4,633	75%	14,407	409	103%
70 － 74 才	21,638	-766	97%	22,955	1,317	106%	24,053	1,098	105%	21,596	-2,457	90%	23,558	1,962	109%
75 － 79 才	26,301	1,137	105%	26,292	-9	100%	27,974	1,682	106%	23,115	-4,859	83%	21,281	-1,834	92%
80 才 以 上	54,296	1,827	103%	53,270	-1,026	98%	48,247	-5,023	91%	44,232	-4,015	92%	51,180	6,948	116%
合　　計	175,249	-694	100%	169,507	-5,742	97%	165,390	-4,117	98%	141,977	-23,413	86%	155,195	13,218	109%

年齢別入外別　患者延べ数　（年度別比較）

外　来

	平成29年	対前年度増減	%	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和２年	対前年度増減	%	令和３年	対前年度増減	%
0 － 5 才	8,099	-532	94%	8,364	265	103%	8,705	341	104%	5,674	-3,031	65%	7,061	1,387	124%
6 － 14 才	5,902	-779	88%	6,326	424	107%	6,189	-137	98%	4,901	-1,288	79%	5,167	266	105%
15 － 19 才	3,150	-423	88%	3,440	290	109%	3,521	81	102%	2,724	-797	77%	3,068	344	113%
20 － 24 才	4,106	185	105%	3,828	-278	93%	3,560	-268	93%	3,068	-492	86%	3,370	302	110%
25 － 29 才	6,328	193	103%	6,273	-55	99%	6,298	25	100%	5,377	-921	85%	5,718	341	106%
30 － 34 才	8,007	-256	97%	7,637	-370	95%	7,104	-533	93%	6,893	-211	97%	6,839	-54	99%
35 － 39 才	9,045	392	105%	8,818	-227	97%	8,605	-213	98%	7,213	-1,392	84%	8,348	1,135	116%
40 － 44 才	11,298	-159	99%	11,228	-70	99%	10,809	-419	96%	9,220	-1,589	85%	9,448	228	102%
45 － 49 才	13,249	-128	99%	12,994	-255	98%	13,240	246	102%	12,890	-350	97%	12,993	103	101%
50 － 54 才	14,580	563	104%	14,430	-150	99%	15,045	615	104%	13,574	-1,471	90%	15,647	2,073	115%
55 － 59 才	17,875	-603	97%	17,341	-534	97%	16,731	-610	96%	16,378	-353	98%	16,956	578	104%
60 － 64 才	24,425	-2,218	92%	22,657	-1,768	93%	22,401	-256	99%	19,874	-2,527	89%	22,177	2,303	112%
65 － 69 才	41,635	-2,444	94%	39,274	-2,361	94%	34,619	-4,655	88%	29,123	-5,496	84%	30,318	1,195	104%
70 － 74 才	38,462	570	102%	41,467	3,005	108%	45,132	3,665	109%	42,722	-2,410	95%	50,727	8,005	119%
75 － 79 才	38,327	-547	99%	41,523	3,196	108%	43,323	1,800	104%	39,432	-3,891	91%	40,068	636	102%
80 才 以 上	56,471	529	101%	58,413	1,942	103%	55,842	-2,571	96%	51,751	-4,091	93%	59,205	7,454	114%
合　　計	300,959	-5,657	98%	304,013	3,054	101%	301,124	-2,889	99%	270,814	-30,310	90%	297,110	26,296	110%

月別入外別患者延数　（年度別比較）

入院患者数（年度別比較）

年／月	平成29年	対前年度増減	%	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和２年	対前年度増減	%	令和３年	対前年度増減	%
４月	14,201	-1,210	92.1%	14,038	-163	98.9%	14,785	747	105.3%	10,263	-4,522	69.4%	12,976	2,713	126.4%
５月	14,510	-76	99.5%	14,155	-355	97.6%	14,581	426	103.0%	9,917	-4,664	68.0%	12,707	2,790	128.1%
６月	14,359	-82	99.4%	14,107	-252	98.2%	14,007	-100	99.3%	11,397	-2,610	81.4%	12,736	1,339	111.7%
７月	14,605	188	101.3%	14,158	-447	96.9%	14,173	15	100.1%	12,470	-1,703	88.0%	12,569	99	100.8%
８月	14,463	313	102.2%	14,375	-88	99.4%	13,695	-680	95.3%	12,261	-1,434	89.5%	13,021	760	106.2%
９月	14,161	-112	99.2%	13,642	-519	96.3%	12,741	-901	93.4%	11,897	-844	93.4%	13,259	1,362	111.4%
10月	14,565	-304	98.0%	13,930	-635	95.6%	13,378	-552	96.0%	12,108	-1,270	90.5%	12,635	527	104.4%
11月	15,071	13	100.1%	13,713	-1,358	91.0%	13,277	-436	96.8%	12,293	-984	92.6%	13,164	871	107.1%
12月	14,839	111	100.8%	14,619	-220	98.5%	14,276	-343	97.7%	12,166	-2,110	85.2%	12,747	581	104.8%
１月	14,919	549	103.8%	14,295	-624	95.8%	13,848	-447	96.9%	12,421	-1,427	89.7%	13,172	751	106.0%
２月	14,441	242	101.7%	13,748	-693	95.2%	13,206	-542	96.1%	11,896	-1,310	90.1%	12,592	696	105.9%
３月	15,115	-326	97.9%	14,727	-388	97.4%	13,423	-1,304	91.1%	12,888	-535	96.0%	13,617	729	105.7%
計	175,249	-694	99.6%	169,507	-5,742	96.7%	165,390	-4,117	97.6%	141,977	-23,413	85.8%	155,195	13,218	109.3%
１日平均	480	-	-	464	-	-	452	-	-	389	-	-	425	-	-

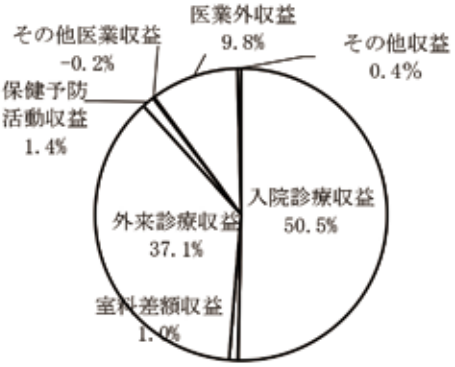
月別入外別患者延数　（年度別比較）

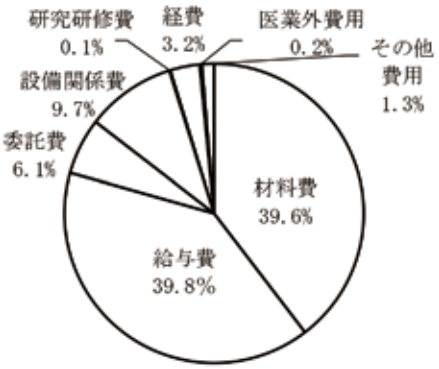
外来患者数（年度別比較）

年／月	平成29年	対前年度増減	%	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和２年	対前年度増減	%	令和３年	対前年度増減	%
４月	24,490	-930	96.3%	24,387	-103	99.6%	25,575	1,188	104.9%	18,368	-7,207	71.8%	24,060	5,692	131.0%
５月	25,225	-140	99.4%	25,207	-18	99.9%	25,709	502	102.0%	17,455	-8,254	67.9%	22,275	4,820	127.6%
６月	26,376	-254	99.0%	25,741	-635	97.6%	25,048	-693	97.3%	23,313	-1,735	93.1%	25,677	2,364	110.1%
７月	25,550	-218	99.2%	26,099	549	102.1%	27,279	1,180	104.5%	24,165	-3,114	88.6%	24,917	752	103.1%
８月	26,200	-836	96.9%	27,008	808	103.1%	25,707	-1,301	95.2%	22,630	-3,077	88.0%	24,752	2,122	109.4%
９月	25,448	-136	99.5%	23,302	-2,146	91.6%	24,142	840	103.6%	23,463	-679	97.2%	25,420	1,957	108.3%
10月	25,904	101	100.4%	27,025	1,121	104.3%	26,346	-679	97.5%	25,017	-1,329	95.0%	25,713	696	102.8%
11月	25,332	-292	98.9%	25,790	458	101.8%	24,720	-1,070	95.9%	22,987	-1,733	93.0%	25,458	2,471	110.7%
12月	25,440	22	100.1%	25,536	96	100.4%	25,582	46	100.2%	24,252	-1,330	94.8%	26,092	1,840	107.6%
１月	23,228	-490	97.9%	24,747	1,519	106.5%	24,401	-346	98.6%	20,870	-3,531	85.5%	23,005	2,135	110.2%
２月	21,113	-2,089	91.0%	22,921	1,808	108.6%	22,205	-716	96.9%	20,762	-1,443	93.5%	21,780	1,018	104.9%
３月	26,653	-395	98.5%	26,250	-403	98.5%	24,410	-1,840	93.0%	27,532	3,122	112.8%	27,961	429	101.6%
計	300,959	-5,657	98.2%	304,013	3,054	101.0%	301,124	-2,889	99.0%	270,814	-30,310	89.9%	297,110	26,296	109.7%
１日平均	1,228	-	-	1,246	-	-	1,234	-	-	1,114	-	-	1,223	-	-

２．収支決算状況

収支割合





収　入

	令和２年度		令和３年度		決算額対前年度比較	
	金　額 千円	対医業収益比 %	金　額 千円	対医業収益比 %	金　額 千円	増減率 %
入院診療収益	9,960,591	55.7	11,204,350	56.2	1,243,759	12.5
室料差額収益	213,932	1.2	216,411	1.1	2,479	1.2
外来診療収益	7,428,624	41.5	8,238,941	41.4	810,317	10.9
保健予防活動収益	280,470	1.6	300,431	1.5	19,961	7.1
受託検査･施設利用収益	59	0.0	41	0.0	△ 18	△ 30.5
その他の医業収益	74,484	0.4	70,156	0.4	△ 4,328	△ 5.8
保険等査定減	△ 60,609	△ 0.3	△ 106,923	△ 0.5	△ 46,314	76.4
医業収益合計	17,897,551	100.0	19,923,407	100.0	2,025,856	11.3
医業外収益	2,614,688	14.6	2,171,831	10.9	△ 442,857	△ 16.9
医療社会事業収益	8,205	0.0	12,961	0.1	4,756	58.0
付帯事業収益	81,646	0.5	78,061	0.4	△ 3,585	△ 4.4
特別利益	10,180	0.1	2,583	0.0	△ 7,597	△ 74.6
収益的収入合計	20,612,270	115.2	22,188,843	111.4	1,576,573	7.6

支　出

	令和２年度		令和３年度		決算額対前年度比較	
	金　額 千円	対医業収益比 %	金　額 千円	対医業収益比 %	金　額 千円	増減率 %
材料費	6,971,178	39.0	7,748,110	38.9	776,932	11.1
給与費	8,210,090	45.9	7,777,461	39.0	△ 432,629	△ 5.3
委託費	1,037,267	5.8	1,189,755	6.0	152,488	14.7
設備関係費	1,838,152	10.3	1,897,225	9.5	59,073	3.2
研究研修費	20,834	0.1	22,659	0.1	1,825	8.8
経費	552,196	3.1	622,651	3.1	70,455	12.8
医業費用合計	18,629,717	104.1	19,257,861	96.7	628,144	3.4
医業外費用	38,601	0.2	48,208	0.2	9,607	24.9
医療奉仕費用	180,959	1.0	178,054	0.9	△ 2,905	△ 1.6
付帯事業費用	78,206	0.4	65,570	0.3	△ 12,636	△ 16.2
特別損失	9,864	0.1	8,743	0.0	△ 1,121	△ 11.4
法人税等	3,029	0.0	1,705	0.0	△ 1,324	△ 43.7
収益的支出合計	18,940,376	105.8	19,560,141	98.2	619,765	3.3
医業収支	△ 732,166		665,546		1,397,712	
収益的収支	1,671,894		2,628,702		956,808	

収支決算状況

（収入）

入院診療収益については、新型コロナウイルス感染症対応の院内受入れ体制、通常診療体制も整い、入院延べ患者数が 13,218 人増加（前年比 +9.3%）したこと、また夜間急性期看護補助体制加算等の新規加算取得により診療単価が増加したことで、前年比 1,243,759 千円の増収（+12.5%）となった。

外来診療収益についても、入院診療収益同様の理由から外来延べ患者数が 26,296 人増加（前年比 +9.7%）したことにより、前年比 810,317 千円の増収（+10.9%）となった。

以上により、医業収益全体では対前年比 +11.3%（+2,025,856 千円）の 19,923,407 千円となった。

医業外収益では、新型コロナウイルス感染症対策事業補助金（病床確保料）など新型コロナウイルス感染症関連の補助金が減少したことにより、前年比 442,857 千円の減収（△ 16.9%）となった。

居宅介護支援事業所においては、介護支援専門員を増員したことにより、医療社会事業収益が前年比 4,756 千円の増収（+58.0%）となった。

収益的収入全体としては、前年比 1,576,573 千円の増収（+7.6%）の 22,188,843 千円となった。

（支出）

入院延べ患者数、外来延べ患者数が増加したことにより、投薬料収入、注射料収入が増加、また手術件数が増加したことにより、それぞれ医薬品費、診療材料費が増加し、材料費全体では前年比 776,932 千円の増加（+11.1%）となった。

給与費については、退職給付引当金の期末確定額との差額償却により退職給付引当金繰入額が大幅に減少したことで、全体としては前年比 432,629 千円の減少（△ 5.3%）となった。

委託費については、患者数増等による検査委託費の増、夜間急性期看護補助体制加算取得のための看護助手委託費の増、医師事務作業補助者等人材派遣業務委託費の増により、全体としては前年比 152,488 千円の増加（+14.7%）となった。

設備関係費については、令和 2 年度に整備した医療機器の減価償却費の増により、前年比 59,073 千円の増加（+3.2%）となった。

経費については、重油単価の上昇による水道光熱費の増、全社統合システム導入によるパソコン整備等により、前年比 70,455 千円の増加（+12.8%）となった。

以上により、医業費用全体では前年比 +3.4%（+628,144 千円）の 19,257,861 千円となった。

収益的支出全体では、前年比 +3.3%（+619,765 千円）の 19,560,141 千円となった。

（収支）

以上のことから医業収支で、665,546 千円の黒字、収益的収支で 2,628,702 千円の黒字となった。

委 員 会 活 動

委　員　会

区分	委員会(部会)の名称	委員長名 (院内役職)	委員数	事務局	年間 開催回数
法的に設置する委員会	災害対策･防火･防災委員会	白塚秀之（麻酔科部長）	15	災害救護支援室 管財課	2
	衛生委員会	木村正二（事務部長）	15	人事課	12
	情報システム管理委員会	今村信（副院長）	19	医療情報課	8
	倫理委員会	高野誠一郎（副院長）	9	総務課	1
	治験審査委員会	高野誠一郎（副院長）	12	薬剤部	1
	臨床試験審査委員会	高野誠一郎（副院長）	12	薬剤部	2
	臓器移植委員会	高野誠一郎（副院長）	13	総務課	1
安全管理に関する委員会	医療安全管理委員会	山崎幸直（消化器内科部長）	35	医療安全推進課	12
	医療安全推進室部会	山崎幸直（消化器内科部長）	11	医療安全推進課	40
	事故調査委員会	山崎幸直（消化器内科部長）	6	医療安全推進課	3
	院内感染防止対策委員会	小松和人（副院長）	9	医療安全推進課 感染管理室	12
	医療廃棄物処理対策委員会	今村信（副院長）	9	管財課	2
	医療ガス安全管理委員会	今村信（副院長）	11	管財課	1
	放射線安全委員会	左合直（放射線科部長）	19	放射線科部	1
医療の質に関する委員会	ＴＱＭ推進委員会	木村正二（事務部長）	17	病院経営課	3
	クリニカルパス推進部会	吉田博之（循環器内科部長）	22	医事サービス課 医療情報課	6
	ＱＣ活動推進部会	神谷健一(内科部長)～令和3年9月 小松和人(副院長)令和3年10月～	17	病院経営課	3
	患者満足度向上部会	田嶋公久（産婦人科部長）	16	病院経営課	4
	職員満足度向上部会	田嶋公久（産婦人科部長）	13	人事課	2
	ＮＳＴ部会	川上義行（外科部長）	15	病院経営課	1
	ＲＳＴ部会	多田利彦（呼吸器内科副部長）	14	病院経営課	1
	糖尿病サポート部会	夏井耕之（内科部長）	16	医事サービス課	1
	認知症ケアチーム部会	髙野誠一郎（副院長）	11	地域医療連携課	1
	ＣＳＴ部会	河野眞範（腎臓・泌尿器科部長）	14	医事サービス課	1
診療に関する委員会	栄養委員会	吉田博之（循環器内科部長）	8	栄養課	2
	診療録管理委員会	今村信（副院長）	29	医療情報課	0
	病歴業務検討会	吉田博之（循環器内科部長）	13	医療情報課	1
	インフォームドコンセント推進委員会	左合直（放射線科部長）	9	医療情報課	6(持ち回り)
	診療情報提供委員会	今村信（副院長）	9	医療情報課	24(持ち回り)
	保険診療検討委員会	今村信（副院長）	19	医事サービス課	6
	DPC/PDPS 傷病コーディング部会	今村信（副院長）	22	医事サービス課	5
	救急医療検討委員会	嶋田喜充（救急部長）	31	救急部総務課	1
	救急作業部会	嶋田喜充（救急部長）	11	救急部総務課	11
	虐待防止対策部会	嶋田喜充（救急部長）	13	救急部総務課	0
	褥瘡対策検討委員会	加畑雄大（皮膚科副部長）	14	看護部	12
	病床運営委員会	内田智美（副院長）	9	看護部	1
	がん診療センター運営委員会	今村信（副院長）	15	地域医療連携課	2

区分	委員会(部会)の名称	委員長名 (院内役職)	委員数	事務局	年間 開催回数
診療に関する委員会	がん化学療法部会	青竹利治（外科部長）	22	地域医療連携課	11
	緩和医療検討部会	吉羽秀麿（外科部長）	17	地域医療連携課	2
	遺伝診療検討部会	今村信（副院長）	13	地域医療連携課	4
	血液浄化療法委員会	小松和人（副院長）	12	医事サービス課	1
	透析センター（透析機器安全管理）運営委員会	小松和人（副院長）	6	医事サービス課	1
	脳卒中センター運営委員会	西村真樹（脳神経外科部長）	14	総務課	0
	輸血療法委員会	今村信（副院長）	15	輸血課	6
地域医療支援関連	地域医療推進委員会	髙木治樹（院長）	18	地域医療連携課	4(うち3回書面審査)
	地域医療支援センター運営委員会	髙野誠一郎（副院長）	13	地域医療連携課	1
	ボランティア委員会	髙野誠一郎（副院長）	9	医療社会事業課	0
経営・運営に関する委員会	薬事委員会	髙野誠一郎（副院長）	22	薬剤部	3
	医療機械器具購入委員会	今村信（副院長）	27	管財課	2
	医療機械器具購入小委員会	今村信（副院長）	5	管財課	開催なし
	診療材料購入審査委員会	今村信（副院長）	11	管財課	2
	図書委員会	田中文恵（外科部長）	8	医療情報課	1
	病院施設利用検討委員会	今村信（副院長）	9	管財課	開催なし
	中央放射線部運営委員会	左合直（放射線科部長）	19	放射線科部	1
	リハビリテーション科部運営委員会	淺野太洋（リハビリテーション科部長）	19	リハビリテーション科部	1
	健診センター運営委員会	西川邦寿（健診部長）	19	健診業務課	1
	集中治療室運営委員会	白塚秀之（麻酔科部長）	23	総務課	1
	中央手術室・滅菌室運営委員会	小松和人（副院長）	23	総務課	2
	検査部運営委員会	今村信（副院長）	20	検査部	1
	検査機器・試薬管理部会	今村信（副院長）	12	検査部	3
	病理診断科部業務運営委員会	大越忠和（病理診断科部長）	11	病理診断科部	1
	臨床工学技術運営委員会	吉田博之（循環器内科部長）	5	臨床工学技術課	1
	健康・医療情報室運営委員会	道上学（総合診療科部長）	6	医療情報課	1
	院内保育施設運営委員会	川島勇一（人事課長）	12	人事課	1
教育・研修関連	福井赤十字病院群研修管理委員会	髙木治樹（院長）	29	人事課	1
	福井赤十字病院臨床研修推進部会	高野誠一郎（副院長）	16	人事課	3
	歯科臨床研修管理委員会	髙木治樹（院長）	9	人事課	0
	教育・研修推進委員会	高野誠一郎（副院長）	13	人事課	2
	提案・顕彰審査委員会	高野誠一郎（副院長）	8	病院経営課	3
	広報委員会	坪川明義（循環器内科部長）	18	病院経営課	12
その他	就業管理委員会	高野誠一郎（副院長）	16	人事課	2
	特定行為業務管理部会	高野誠一郎（副院長）	9	看護部・人事課	3

トピックス

新型コロナ感染対策を踏まえた、令和３年度災害対応訓練

災害救護支援室　白塚　秀之

２０２０年（令和２年）１月、日本国内第１例目の新型コロナウイルス感染症（以下コロナ感染症）が報告されて以来、この文章を作成している２０２２年（令和４年）７月現在も終息の見通しは全く立っていない状況が続いている。一方で、自然災害に目を向けると、多数の死者が出るような大地震は起こっていないものの、各地で震度５以上の地震が頻発し、人的物的被害が発生している。また、風雨災害に目を向ければ、毎年全国各地でゲリラ豪雨や台風による甚大な被害が起きているのが現状である。

このような現状を踏まえれば、我々の住む福井でいつ大規模災害が起きて不思議ではない。災害拠点病院である当院は、常に災害対応を念頭に置いた診療体制を構築しておく必要があることは言うまでもないが、さらにコロナ感染症の終息が見通せない現在においては、これまで行ってきた災害対応訓練に感染対策を加味した訓練を重ねていく必要がある。

２０２１年（令和３年度）の災害対応訓練は、前年度に引き続き福井県のコロナ感染症最高レベルのフェーズ５（病床逼迫）との想定で行われた。

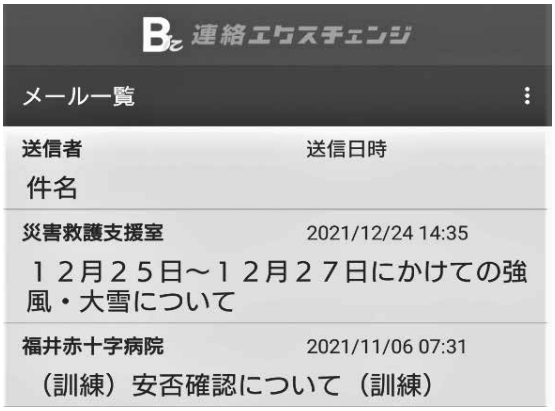
本訓練の主な検証項目としては

1. コロナ感染防止対策を講じた上での多数傷病者受け入れ
2. コロナ感染蔓延に伴う病床不足時の多数傷病者受け入れ
3. 一斉通報システムを利用した職員の安否確認・登院可能状況の把握
4. 災害対策本部と診療エリアとの連携

などが挙げられる。

前年度すでにコロナ感染症対策を踏まえた大規模訓練を一度実施していたこともあり、発熱スクリーニングからトリアージ、診療エリアへの患者搬送の流れはスムーズにできていたように思う。

また、災害時には指揮命令系の確立が非常に重要で、これが確立されていないと情報が錯綜し、病院全体が間違った災害対応を行ってしまうことに繋がりかねないが、毎年病院幹部職員も真剣に訓練に参加しており、いい意味で実災害が起こった場合の問題点や課題が見つけることができていると実感している。



今後の課題、改善点としては

1．コロナ感染疑いの傷病者は屋外のテントなどで受け入れることを想定していたが、真冬の寒さの中、屋外で長時間診療を行なったり、診察待ちをしていただくことは現実的ではなく、今年度以降、屋内での受け入れを想定した訓練を行っていく予定である。

2．当院は災害拠点病院であるだけではなく、原子力災害時の傷病者を受け入れる責務も担う。原子力災害単独での受け入れ訓練は何回か行っているが、大規模災害に原子力災害が加わったいわゆる「複合災害」への備えも必要であり、今後このような複合災害に対する訓練も行っていく予定である。

福井県ドクターヘリ受け入れについて

救急部　嶋田　喜充

１．はじめに

当院はヘリポートを有しており、以前より防災ヘリを受け入れていたが、令和３年５月２４日より福井県ドクターヘリの運航が開始したため、当院もドクターヘリの受け入れ体制を整えて１年が経過した。現在の当院の受け入れ状況を報告する。

２．ドクターヘリ

消防機関により、１１９番通報覚知時または救急現場到着時に、出動要請基準（キーワード方式）に基づき早期治療が必要と判断した場合、ドクターヘリの出動要請がなされる。

福井県立病院（基地病院）に待機しているドクターヘリで医師、看護師が現場まで赴き、診療活動を行い、医療機関にドクターヘリで搬送する。状況によっては救急車で搬送することもある（陸送）。

３．当院のドクターヘリ受け入れ体制

平日は救急医がドクターヘリ専用ＰＨＳを持ち、午前８時３０分から日没約３０分前まで待機している。土日祝は、ＳＣＵ担当医師がドクターヘリ専用ＰＨＳを持ち、脳卒中のみ受け入れている。

ドクターヘリより受け入れ要請があり、当院への搬送が決まれば、院内放送を行い関係各署に周知する。

救急医１名とドクターヘリ担当看護師１名、防災センター職員がＲ階まで上がり、受け入れの準備をする。救急医がドクターヘリ対応をしている間､医師不在にならないように､院内放送でバックアップ医師が救急外来に駆けつけることになっており、病院全体で対応している。

ヘリポートにドクターヘリが到着し、ドクターヘリ整備士の許可がおりた後、救急医と看護師が防災センター職員の指示によりエレベーターでヘリポートに上がり、患者とフライトスタッフとともに、Ｒ階まで降りて引き継ぎをして救急外来まで搬送する。

４．令和３年度の当院受け入れ（表１）

令和３年度は２９件受け入れている。

受け入れ傷病の内訳でも脳血管障害が最も多い。当院は脳血管障害患者を積極的に受け入れているためと思われる。重症熱傷は福井県立病院が受け入れることになっているが、対応困難な場合は当院が受け入れることもある。

表１．　令和3年度受け入れ件数

傷病の内訳	件数
脳卒中	20
てんかん	1
低血糖	3
広範熱傷	1
COPD増悪	1
失神	1
心不全	1
心肺停止（陸送*）	1
合計	29

（福井赤十字病院ヘリポートに着陸したドクターヘリ）

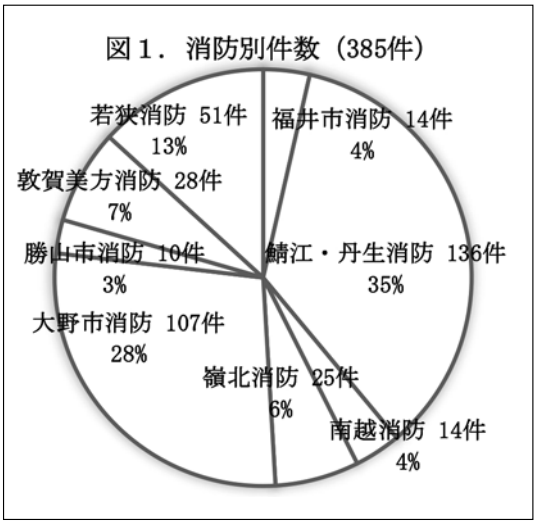
5．福井県ドクターヘリ運航実績

以下は、令和３年度ドクターヘリ運航調整委員会（令和４年２月９日開催）の実績報告資料（令和３年５月２４日～令和４年１月３１日）を引用、改変した。

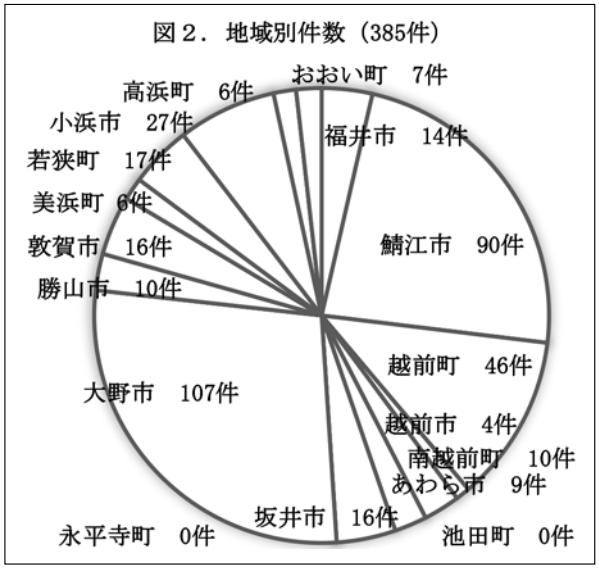
1）要請件数 385 件
・出動件数：256 件（66.5%）、未出動件数：129 件（33.5%）
・1 日あたりの出動件数：約 1.0 件（ 出動件数 256 件 / 運航日数 253 日 ）

2）出動 256 件
・現場出動 192 件（75.0%）、転院搬送 13 件（5.1%）、離陸後キャンセル 51 件（19.9%）
・未出動 129 件：天候不良 65 件（50.4%）、時間外 9 件（7.0%）、重複 18 件（14.0%）、離陸前キャンセル 32 件（24.8%）、その他 5 件（3.9%）
・キャンセル率：21.6%（（ 離陸後キャンセル 51 件 + 離陸前キャンセル 32 件)/ 要請件数 385 件 ）

3）消防本部別要請状況（図１）
最多：鯖江・丹生消防 136 件



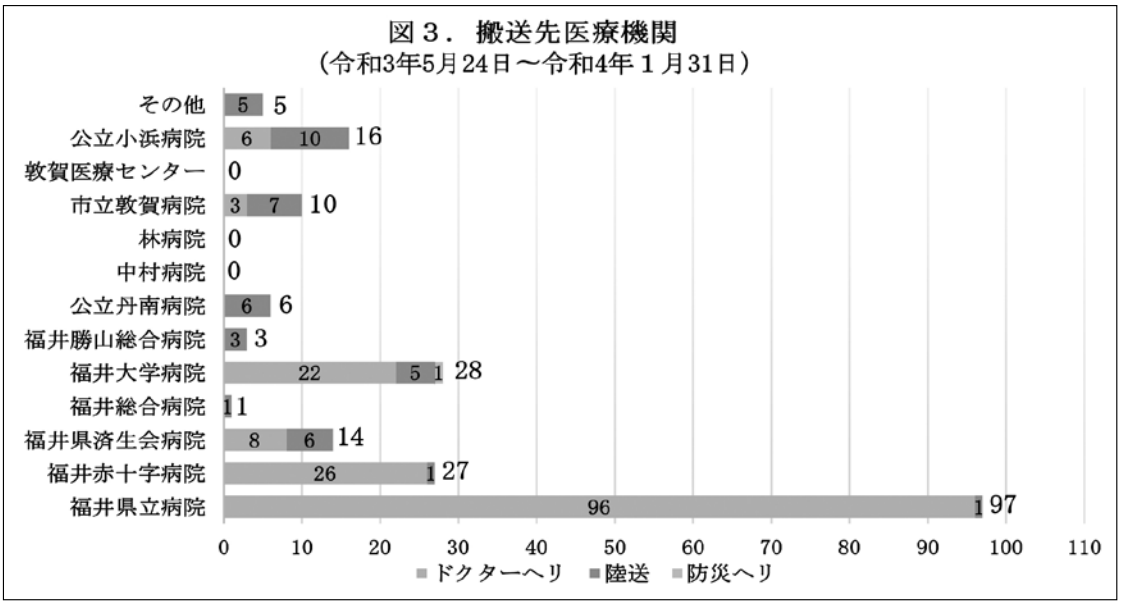
4）傷病者発生地域内訳（図２）



5）搬送先医療機関（図３）

・福井県立病院 97 人（46.9%）で最多

・福井大学病院 28 人（13.5%）、福井赤十字病院 27 人（13.0%）

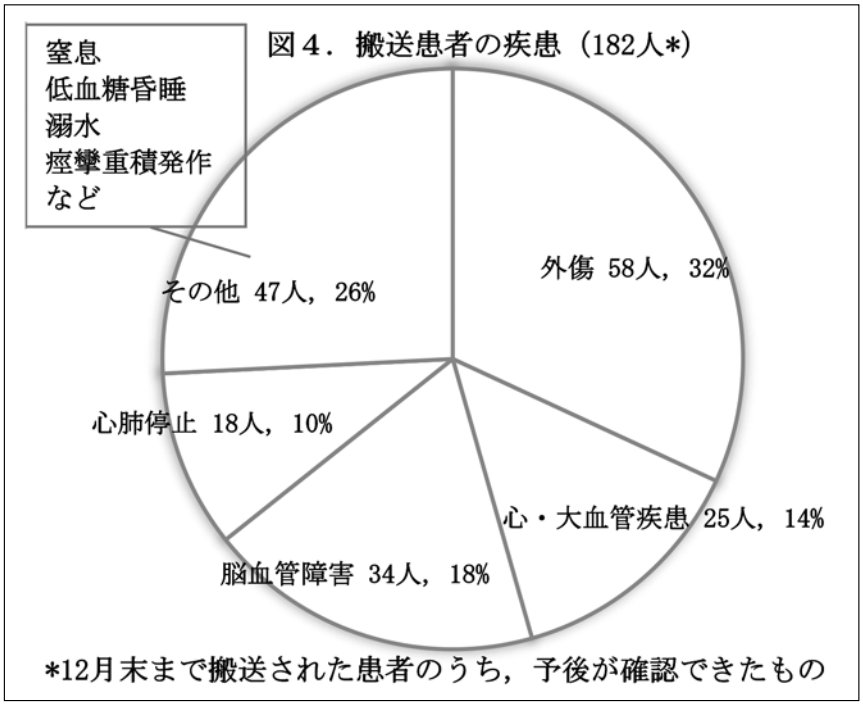


6）ドクターヘリによる時間短縮効果

・覚知から医師接触までの時間：平均 17 分短縮

・病院までの搬送時間　　：平均 25 分短縮

7）搬送患者の疾患（図４）



8）ドクターヘリによる効果

有効性ありと判断：150 人（82.4%）/ 搬送患者 182 人

理由：

・医師の早期医療介入：87 人（58.0%）

・搬送時間短縮　　：9 人（6.0%）

・両方　　：54 人（36.0%）

9）ドクターヘリによる医療的効果

ドクターヘリを使用しなかった場合と転帰を比較

・死亡　　：17% 減

・重症（後遺症あり）：36% 減

6．防災ヘリ

福井県防災航空隊が防災ヘリにより救急活動、救助活動、災害活動等を行う。

１１９番通報後、消防本部から福井空港にある防災航空事務所に緊急出動要請があり、防災ヘリで現場に出動し活動を行い、患者をヘリで搬送あるいは救急隊に引き継ぐ。

当院は毎年防災ヘリの受け入れ訓練を行なってきたが、受け入れ件数は２～３年に１件程度で、平成 29 年１件、平成 30 年から令和２年までは０件、多くは福井県立病院と福井大学病院に搬送されていた。令和３年５月にドクターヘリ運航が開始になってからは、令和３年度は３件（いずれも外傷）受け入れている。これはドクターヘリが福井県立病院に常時待機しており、防災ヘリを受け入れるときはドクターヘリを移動させなければならないため、当院の防災ヘリの受け入れが増えているものと思われる。

7．おわりに

ドクターヘリ導入により早期の医療介入ができ、その結果、良好な転帰をもたらすことがわかった。今後もドクターヘリと防災ヘリの受け入れが増えてくると思われる。

当院は第２次救急指定病院、災害拠点病院、原子力災害拠点病院であり、ヘリポートを有する病院の責務として福井県の救急医療に貢献し、病院全体で救急車とともにドクターヘリ、防災ヘリの受け入れ体制をさらに整備し、積極的に受け入れていく必要がある。

診　療　業　務

1. 内科・血液内科

1．スタッフ

〈内科スタッフ〉

副院長　兼 第１内科部長　兼 血液内科部長　兼 がん診療センター長　兼 検査・病理部長　兼 輸血責任医師	今村　信	日本内科学会指導医・同認定医 日本血液学会専門医 日本輸血学会認定医
第２部長	夏井　耕之	日本内科学会指導医・同専門医 日本糖尿病協会指導医
第３部長	神谷　健一	日本内科学会指導医・同認定医 日本血液学会指導医・同専門医
第４部長　兼 感染対策室副室長	木下　　圭一	日本内科学会専門医 日本血液学会専門医 日本感染症学会 Infection Control Doctor （令和３年６月 30 日退職）
副部長	中野　雅子	日本内科学会専門医 日本糖尿病学会専門医
副部長　兼 総合診療科副部長	安富　久記	日本内科学会専門医 総合診療専門医 （令和３年７月 31 日退職）
医師	古谷　真知	（令和４年３月 31 日退職）
非常勤医師	杉山　光寿	日本内科学会認定医
非常勤後期研修医	笠原　美沙子	

〈血液内科スタッフ〉

（令和３年７月１日、組織変更により内科から配置換え）

副院長　兼 血液内科部長　兼 第１内科部長　兼	今村　信	日本内科学会指導医・同認定医 日本血液学会専門医 日本輸血学会認定医

がん診療センター長　兼
検査・病理部長　兼
輸血責任医師

医師	塚崎　光	日本内科学会認定医 日本血液学会専門医
医師	位田　奈緒子	
後期研修医	篠田　隆司	
非常勤医師	木下　　圭一	日本内科学会専門医 日本血液学会専門医 日本感染症学会 Infection Control Doctor

２．診　療

【内　　科】

主に内分泌代謝疾患として、糖尿病全般、甲状腺・副腎・下垂体などを中心とする内分泌疾患、脂質異常症、肥満症、あるいは内分泌代謝疾患に起因する電解質異常、などの専門的診療にあたっている。これに付随・合併する各種疾患、および他科 / 他疾患に上記が合併している場合、あるいは他疾患治療に起因する高血糖ほか二次性糖尿病、そのほかの二次性内分泌疾患などについて、併診加療することで、病院全体の診療体制に深くかかわっている。各科患者の血糖・脂質・電解質コントロールという形での協力のほか、

1) 甲状腺疾患・副甲状腺疾患、ステロイドを使用する耳鼻科疾患について耳鼻科と
2) 糖尿病腎症関連・電解質異常・糸球体腎炎ステロイド治療・副腎腫瘍性疾患において腎泌尿器科と
3) 肝疾患関連代謝疾患、消化器がん化学療法ステロイド治療において消化器内科・外科と
4) 糖尿病網膜症を始めとする糖尿病関連眼疾患、糖尿病をもつ眼科患者手術、甲状腺眼症ほかにおいては眼科と
5) ごく少数ではあるが小児糖尿病患者の成長に伴う患者受け渡しや各種検査に関連して小児科と
6) 悪性疾患化学療法関連で、上記のほか血液内科・呼吸器科・呼吸器外科・産婦人科、腎泌尿器科と
7) リウマチ疾患、関節疾患のステロイド治療ほかと関連して整形外科と
8) 皮膚疾患のステロイド治療、糖尿病起因の皮膚疾患・感染ほかについて皮膚科・形成外科と
9) 下垂体腫瘍性疾患の診断治療に関連して脳外科と
10) 糖尿病に合併する脳血管障害、自己免疫性中枢疾患におけるステロイド使用に関する血糖管理などにおいて神経内科と
11) 糖尿病に合併する勘血管疾患・サルコイドーシスほか免疫系心疾患におけるステロイド使用に関する血糖管理において循環器科と等々、院内のほぼすべての診療科と連携を構築している。さらには、
12) SARS-Cov2 入院、中等症以上でデキサメサゾンを使用するときを中心とし、特に糖尿病合併症例について総合診療科との連携も増加している。

【血液内科】

令和３年７月１日から新設され、外来および入院診療にあたっている。診療は血液疾患（血液悪性腫瘍および非腫瘍性血液疾患）を主とし、血液疾患以外には感染症（HIV 感染症を含む）さらに地域医療に貢献するとの立場から広く疾患を受け入れて診療を行っている。外来は月曜日から金曜日まで毎日再来ならびに紹介患者や院内他科からの紹介を含めた新患に対応している。

血液疾患の治療領域では特に造血器悪性腫瘍の治療において分子標的療法や新規抗腫瘍剤、サイトカイン製剤の発展により治療法の改善や変化が見られ外来治療患者数は増加傾向にある。特に多発性骨髄腫の領域ではここ数年で新薬の開発・臨床応用が相次ぎ、各患者さんの年齢や全身状態にあった治療の選択肢が広がってきている。また非腫瘍性疾患の領域においても特発性血小板減少性紫斑病ではリツキシマブが新たに適応追加となり、再生不良性貧血では特発性血小板減少性紫斑病で適応のあるエルトロンボパグおよびロミプロスチムも再生不良性貧血にも適応拡大となり各疾患で治療の選択肢は増えてきている。

入院治療は疾患の特殊性から専ら 1-7 病棟に集中させている。同病棟には造血幹細胞移植を行う高度無菌室２室と個室無菌室８室の計 10 室に加え、多床型無菌室２室８床の合計 18 床を配置し高度の感染症対策を施した環境で治療を行っている。個室無菌室のうち１室は陰圧室への変更が可能であり、隔離が必要な感染症治療の際に利用している。近年の化学療法を受ける患者数の増加により無菌室は常時フル回転で稼働している状況である。

治療内容に関しては､「造血器腫瘍診療ガイドライン 2018 年版」や「NCCN ガイドライン､造血器腫瘍」などを参考に各疾患の標準的治療を行うことを第一としていることに加え、個別化をはかり各人に最適の治療となるよう心がけている。この分野の疾患は難治性疾患が多く院内他部門特に放射線部と協力し集学的治療を推し進めている。

入院患者は疾患別には血液悪性腫瘍が大部分を占め、急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群の化学療法を積極的に行っている。悪性リンパ腫の化学療法症例数は例年と変わらず多くかつ高齢者が多い状況は変わっていない。比較的若年で通院が可能な方には外来化学療法も積極的に推進している。

また、細胞治療も積極的に進めており輸血課と共同し造血幹細胞移植（自家末梢血幹細胞移植、同種骨髄移植など）を行っている。特に自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法は標準的治療となってきており、適応のある患者さんには説明を十分行い積極的に取り入れている。なお、金曜日には医師による血液カンファレンスを行い、また月に１回、病棟スタッフ・リハビリ部門・栄養課と合同での血液カンファレンスも行いスタッフは患者ごとに疾患の状況などを共有できるよう指向している。さらに、月に１回、病理・血液カンファレンスを開催し症例検討を行っている

3．実　績

【内　　科】

（平成 27 年度～令和 3 年度実績推移）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
A 総患者数	17, 224	17, 715	17, 402	17, 328	16, 675	15, 309	16, 642
B 他院からの紹介総数	229	285	238	289	282	258	180
C 他科併診例を含む他院への逆紹介数（情報提供書数）	444	487	383	346	723	533	553
D 外来新患総数	1, 625	1, 770	1, 601	1, 559	1, 438	1, 074	1, 071
E 入院患者総数	272	267	226	251	306	276	188
F 他科よりの院内対診数	1, 127	1, 258	1, 249	1, 239	1, 443	1, 340	1, 567

・令和元年よりは、福井大学第三内科のご好意により、常勤医一名、はじめ非常勤医 2 名の赴任を得て、スタッフ常勤 3 名体制を維持し、週一回ずつの外来を非常勤医 2 名に受け持っていただいている。しかしながら、他院からの紹介・自科入院患者はかなり減少した。その主因はなによりもやはりコロナ禍である。病院勤務の過多、受診受け入れ制限、時期によっては救急患者制限のほか、コロナ患者が集まる当院への来院自体を、特に慢性疾患の一般患者が避ける傾向もあると思われる。一方、他科よりの紹介患者数は増加し、その結果総患者数は昨年よりは増加に転じた。病院全体の患者血糖コーディネイトという面が強調されてきている。また、さらなる社会の高齢化により、生活習慣病患者は増加するであろうが、逆に総人口が減少していく今後については先読み困難である。

【血液内科】

(1) 患者数

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
総患者数	12, 000	10, 489	11, 640
他院からの紹介総数	240	239	212
他科併診例を含む他院への逆紹介数（情報提供書数）	396	357	378
外来新患総数	1, 041	499	1, 251
入院患者総数	611	530	596
在宅患者総数　のべ数	13, 978	11, 673	12, 371
他科よりの院内対診数	452	485	565

(2) 病名別入院患者数

病　　名	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
ホジキンリンパ腫	17	5	7
非ホジキンリンパ腫	243	200	165
原発性マクログロブリン血症	11	7	7

多発性骨髄腫	52	54	103
形質細胞白血病	0	6	3
形質細胞腫	0	4	0
急性リンパ性白血病	4	7	8
慢性リンパ性白血病	1	0	0
成人Ｔ細胞性リンパ腫	0	17	14
芽球性形質細胞様樹状細胞腫	1	0	0
急性骨髄性白血病	22	23	57
慢性骨髄性白血病	4	14	6
急性前骨髄球性白血病	2	0	0
慢性骨髄単球性白血病	4	0	1
急性白血病	0	0	1
骨髄異形成症候群	61	54	40
骨髄線維症	1	1	0
本態性血小板血症	2	0	1
移植後リンパ増殖性疾患	0	0	4
特発性多中心性キャッスルマン病	0	0	2
鉄欠乏性貧血	1	1	2
ビタミン B12 欠乏性貧血（PA）	2	0	1
大球性貧血	0	1	0
巨赤芽球性貧血	1	2	0
自己免疫性溶血性貧血	1	2	0
発作性夜間ヘモグロビン尿症	4	2	2
後天性赤芽球ろう	0	2	0
赤芽球ろう	1	3	2
再生不良性貧血	7	5	10
汎血球減少症	6	3	1
重症貧血	2	6	6
後天性血友病	1	0	0
後天性血友病Ａ	0	2	3
ループスアンチコアグラント	0	0	3
特発性血小板減少性紫斑病	18	11	19
血小板減少症	3	3	2
好中球減少症	0	1	1
白血球減少症	0	2	1
顆粒球減少症	1	0	0
発熱性好中球減少症	1	1	5

サルコイドーシス	0	0	1
ＴＡＦＲＯ症候群	1	0	0
ヘモクロマトーシス	0	1	0
アミロイドーシス	0	0	4
成人スチル病	1	0	0
好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0	0	1
混合性結合組織病	0	1	0
ベーチェット病	0	1	1
リウマチ性多発筋痛症	0	1	1

(3) 造血幹細胞移植

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
末梢血幹細胞移植	6	7	3
骨髄移植	0	0	0
合　計	6	7	3

４．目　標

【内　　科】

(1) 患者数 / スタッフ体制について

・先記載のごとく、さらに福井大学医学部との連携を深め、当院で初期研修→大学ほかの施設でさらなる研修→当科での専門後期研修、という道筋を確かなものとしたい。次年度として 2022 年にも、2021 年度に来ていただいた 3 名のスタッフを、常勤／非常勤で入れ替わりはあれども継続診療いただいている。将来的にもこの状況を維持していていきたい。ひるがえって他大学の協力、医師派遣は徐々に望み難くなっており、将来にわたっての人手不足問題、スタッフ若返り問題についてなお解決の目処が立たない。

・分子標的薬による抗がん治療において、1 型糖尿病の発症が話題になっているほか、実際例として、免疫性のものと考えられる、下垂体－副腎機能低下症、ならびに甲状腺機能低下症の症例がより一層増加しており、対診を受けての甲状腺・副腎ホルモン補充療法が著効し、ひいては原疾患治療の継続・発展に寄与してきている。

一方、通常の抗癌療法もひきつづき人数が増加しており、ステロイド糖尿病への協力・支援数も増加している。特に外来化学療法時の臨時インスリン療法おいて、内科医師・看護スタッフほかの負担・手間が大きくなり、アクシデント／インシデントを起こさぬよう、2021 年からさらなる体制強化に努めつつある。

一方、コロナ禍のため、待機検査入院を自己抑制している部分もあって、内分泌検査入院の数は伸びていない。これは今のところ解決法は見いだせない。

(2) 新規設備・特殊検査などについて

一昨年度に導入した CGMS 機器（リブレプロ）は、さらに継続して症例数をさらに拡大中である。同時に家庭用・患者用の連続グルコースモニタ技術であるリブレプロも徐々に使用者が増えてきている。当科における医療技術向上のみならず、患者の高低血糖危険を避けてその QOL を向上させる

とともに、病院収入にも貢献していると考える。さらに非侵襲的な血糖モニタはこのさき、光センサーほか、採血をともなわず、汚染危険の少ない方法が実用化されつつあり、ニュースではスマートウォッチ連動が近い将来使用可能となるといわれる。

(3) 治療法について

経口糖尿病薬では、DPP4 阻害薬はなお我が国では治療の主軸と考えられるが、SGLT2 阻害薬の多岐にわたる使用がさらに著増している。心保護・腎保護作用が大規模スタディで明らかになり、SGLT2 阻害薬については糖尿病以外で心不全への適応が 2 剤について認められた。さらに拡大されると思われる。

経口 GLP-1 製剤の使用・長期投与が可能となり、当院でも採用されて使用開始している。食欲抑制作用と嘔気・腹部膨満などの副作用は表と裏の関係であるが、使用可能で使用に適した患者についての血糖効果・体重抑制作用は非常に優れている。さらに、新規薬剤も複数準備段階にある。

一方で DPP 阻害薬関連の副作用（類天疱瘡ほか）、SGLT2 阻害楽関連の副作用（尿路感染・皮膚障害など）も、薬剤の使用例が増加するのと並行して見られるようになり、一層の注意を要する。

インスリン製剤も、特に現在の超速効型よりももっと速く効果を表す超々速効型とされるインスリンが薬価収載され、さらなる血糖変動への適合、コントロールを改善しつつ低血糖を低減することが期待される。院外から院内採用へと勧めていく。

持続皮下注インスリンポンプの使用件数も増加しているが、特に SAP 方式の、CGM と組み合わせたポンプにおいては、さらにインスリン注入制御アルゴリズムの進歩があり、新規形式の機器が採用となって、AI によるオートマチックなインスリン注入制御が導入されてきた。

患者医者関係においては「Patient-Oriented」「Patient-Centered」という概念で、患者との治療同盟、患者自己決断の支援と尊重、より患者の状態に寄り添ったサポートという点は例年強調するところである。それは当科の性格上、ほかにまして重要度が高まっている。

高齢者医療については、血糖を下げることのみを価値とするのでなく、全人的医療として、その個人の状況にあった治療目標の設定が望まれる。高齢化の波は否応なく医療現場において深刻化し、認知症患者・担癌患者・独居高齢者・老老介護家庭、などにおいていかに血糖を管理しつつ患者 QOL を促進するのか、単に医療の問題ではなく、大きな社会問題となっている。なお暗中模索で、解決困難なところである。介護医療、デイサービス、老人介護施設、そのための経済的裏付けなど社会資源の充実と介護者負担の軽減は、介護者自身が高齢化を迎えて生活習慣病に罹患するという事態がまれでなくなっており、一大社会問題となっている。これは一診療科・一病院のよく解決できるところではない。

【血液内科】

①地域医療の一翼を担うべく広く血液疾患および関連疾患を受け入れ、地域完結型医療を目指す。
②細胞治療の一層の充実を図るため特に造血幹細胞移植を輸血課の協力のもと推し進める。
③患者の高齢化に伴い新規分子標的薬や支持療法などを積極的に用いることにより治療強度を極端に落とすことなく ADL が保持され副作用の少ない治療選択を行う。

2．精神科（ストレス心療科）

1．スタッフ

部長（兼） （本：神経内科部長）	髙野　誠一郎	
非常勤医師	渡邉　央	医学博士（名古屋大学） 精神保健指定医（厚生労働省）
	松原　六郎	（公益財団法人松原病院　代表理事）
	高橋　哲也	（医療法人社団信和会　魚津神経サナトリウム副院長）
	武藤　悠平	（福井大学医学部附属病院神経科精神科　助教）
	佐藤　友香	
	堀内　真希	（公益財団法人松原病院）
	幅田　加以瑛	（福井大学医学部附属病院神経科精神科　助教）
心理判定員 （常　勤）	寺井　堅祐	臨床心理士

2．診　療

当科の渡邉医師は、緩和ケア専従となり、緩和ケア病棟の患者さんの心の問題への取り組みを続けております。

当院のストレス診療科は、旧来の表現を借りて言うならば、いわゆる「総合病院における精神科」として、身体他科に入院中の患者をめぐってのリエゾン精神医療が中心です。有態に言えば、病棟において治療管理上困難を極めている患者についての加療、コンサルテーションが主で、その需要に答えるべく対応してきました。しかし、現時点で次のような問題があります。以下の２点です。

1)「医師力」が満たされておらず、「診て欲しいその時に、うまく医師がいてくれない」状態のままであること。

身体他科に比べて問診に頼る部分が圧倒的に大きく、患者一人当たりに多大な時間を要すことは今さら言うまでもないことですが、問題は、それを満たすだけの「医師力」（中心となるのは医師稼動数）が充足されていないことです。つまり、常勤医師がおらず、非常勤医師の配置も、需要に応ずるに足る診療日の設定がなされていないこと。言い換えるなら、「診て欲しいその時に、うまく医師がいてくれない」ということです。このような状態の解消がまず求められます。

2) 精神科診療に対する理解と協力の関係が看護者との間で十分に形成されていないこと。

精神科診療では、「患者を分かろう」とする場合には、すなわち、単なる「レッテル張り的な診断」ではなく、「『対応指針』を導き出すという意味での診断」を行おうとする場合には、病棟での、患者のさまざまな様子の記載が、その大きな手がかりを与えてくれます。ところが、病棟から精神科へ対診依頼が出されているにもかかわらず、診断上有力な材料となるはずの病棟看護記録上に所見の記載がないことが多く、あるいは様子を尋ねても十分把握されていないとか、答えられないとかということが多く見受けられ、診療がスムーズに行かないことが多々あります。これは、

看護者は精神科診療に寄与しなければならないのに、していない、という趣旨からの指摘ではありません。むしろ、看護活動にとっても精神科診療にとっても共通して求められる「『患者を分かろう』とする姿勢」の「欠如」を物語るものとして問題視される必要があり、そして、精神科診療にとっても、看護者にとっても、両者の関係が、お互いの仕事が活かされあうような関係として成り立っていない、ということを意味するものであり、さらに別の角度から言うと、看護者の「看護的観察力・把握力」の「欠如」という事態であります。いずれにせよ、これらの問題の鍵は、看護者と精神科診療との間の相互の協力関係の中にあることは間違いありません。それ故、当院の看護力と精神科診療力とのそれぞれの向上のために、今後、相互の協力関係を足掛りにした解決に向けての取り組みが求められます。

３．実　績

（令和３年度　対診依頼　　実績）

総対診数	**４６４件**

令和３年度の救急患者の入院３日以内における入院精神療法

４．目　標

＜令和３年度　精神科４大重点目標＞

1) 精神科医師空白曜日をできるだけ少なくして、可能な限り、「診て欲しい時に、いつも精神科医師がいてくれる」状態に近付けるよう努力します。
2) 「『患者を分かろうとする』という姿勢」を自分達のものにするという観点から、看護者と精神科診療とにおける理解が、お互いに活用され合えるようにするために、場合によっては、看護者（看護部）との勉強会を設けて、看護者との意思疎通の機会を作り出し、相互の協力関係を築き上げていきます。
3) リエゾン精神医学の一歩踏み込んだ形として、精神腫瘍学的アプローチに、今まで以上に積極的に取り組んでいきます。
4) 入院患者で精神疾患を併存しておられる方も多くおられます。救急入院された患者さんに対して、３日以内に入院精神療法を開始できるように体制を整えます。

3．神　経　内　科

1．スタッフ

副院長兼部長	髙野　誠一郎	日本内科学会認定内科医、総合内科専門医 日本神経学会認定神経内科専門医、指導医 日本脳卒中学会専門医 日本臨床神経生理学会認定医（脳波）（筋電図・神経伝導） 日本認知症学会認定専門医、指導医、 日本プライマリ・ケア連合学会認定医
副部長	今村　久司	日本内科学会認定内科医、総合内科専門医 日本神経学会認定神経内科専門医、指導医 日本てんかん学会専門医、日本臨床神経生理学会認定医（脳波）
副部長	早瀬　史子	日本内科学会認定内科医、総合内科専門医 日本神経学会認定神経内科専門医、日本認知症学会認定専門医 認知症予防学会専門医
後期研修医	吉沖　舞衣	令和４年３月31日退職
後期研修医	田中　大暉	

2．診　療

令和３年度、当院神経内科診療体制は、高野副院長、今村副部長、早瀬副部長、吉沖医師、田中医師の５人で神経内科の診療を行いました。

3．実　績

入院数323（341）人、脳卒中166（165）人、DPCI+II 48.6（58.8）%, 紹介患者数572（581）人、逆紹介患者数938（903）人、脳卒中入院は神経内科＋脳外科では444（448）人、() 内は令和２年度。COVID19の影響を受け数は減少していますが、逆紹介患者数を上げることができました。

4．目　標

平成18年６月に脳神経外科と共同で創設した、脳卒中センター（ Stroke Care Unit）を継続し、適切な脳卒中治療を行うことを第一の目標としました。当院の場合、神経内科と脳神経外科の医師で、24時間診療体制を継続しています。医師、看護師、リハビリ（理学療法士、作業療法士、言語療法士)、ソーシャルワーカーが共同して、治療に当たっています。また、認知症、パーキンソン病、頭痛、てんかん、多発性硬化症、神経筋疾患など、神経内科領域で頻度の高い疾患について、適切な治療を全ての医師がおこなえるよう、研鑽を行っています。

4．呼 吸 器 内 科

1．スタッフ

令和 4 年 3 月 31 日現在

第 1 部長 兼	赤井雅也	日本呼吸器学会認定呼吸器専門医、指導医
呼吸器ｾﾝﾀｰ長 兼		日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、指導医
感染管理室長		日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症認定医、指導医
		ICD 制度協議会認定ｲﾝﾌｪｸｼｮﾝｺﾝﾄﾛｰﾙﾄﾞｸﾀｰ
		日本医師会認定産業医
		医学博士（福井医科大学）
第 2 部長	出村芳樹	日本呼吸器学会認定呼吸器専門医、指導医
		日本内科学会認定内科医、総合内科専門医
		日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医、指導医
		日本アレルギー学会認定アレルギー専門医、指導医
		日本臨床腫瘍学会暫定指導医
		日本ﾌﾟﾗｲﾏﾘｹｱ連合学会ﾌﾟﾗｲﾏﾘｹｱ認定医、指導医
		医学博士（福井医科大学）
副部長	多田利彦	日本内科学会認定内科医
		日本呼吸器学会認定呼吸器専門医
		日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医
医師	大井昌寛	日本内科学会認定内科医
医師	軸屋紀宏	
（後期研修医）		
医師	武田俊宏	
（後期研修医）		
医師	黒川浩輔	
（後期研修医）		

退職

第 3 部長　　塩崎晃平：令和 3 年 3 月 31 日付

医師　　田畑未央：令和 3 年 6 月 30 日付

（人事）

令和 3 年度は 4 月 1 日付で多田医師が副部長へ昇格、異動としては武田医師と黒川医師が福井大学病院から着任し、塩崎部長がやわたメディカルセンター、田畑医師がオレンジホームケアクリニックへ

転出し、呼吸器内科としては7人体制維持となっています。

2．診　療

令和4年3月31日現在、当科は2-6病棟、3-3病棟（休床中）、5病棟、PCUに定床を持ち、名目上計63床（結核10床を含む）です。診療内容としては、超音波気管支鏡、特殊光気管支鏡、仮想気管支鏡システムなどの最新の呼吸器内視鏡が運用開始となって10年目に入り、肺癌をはじめとする各種疾患の低侵襲での早期診断や診断率向上に寄与、定着しています。

肺感染症は、各種疾患の最終的・末期的な病態として現れることが多く、従って致死的・難治性で難渋させられる症例が増えてきています。なかでも抗癌剤やステロイド剤・免疫抑制剤使用患者の日和見感染や、MRSAなどの多剤耐性菌対策が重要です。当科でも他科やICT、ASTと連携し、また各種ガイドラインに則って治療を行っています。

慢性感染症としての結核は、他施設の結核病棟が廃止・縮小される中、県内での当科の重要性が増してきています。病棟は結核の感染様式を考慮して陰圧個室の多い病棟です。初回の開放性結核はもちろんの事ですが、多剤耐性、老人、重症初感染例に加えて外国人の結核も多く見られるようになりました。集団発生例・若年発症例など貴重な症例も多く、治療に難渋する事もしばしばです。令和2年2月からCOVID-19入院対応に5病棟が転用されたため、以降当院の結核入院治療はできなくなっています。肺非結核性抗酸菌症は近年罹患率が上昇しており、中でも9割弱を占めるMAC症は中年の女性に多く、当科でも難治例が年々増加してきています。

COPD（慢性閉塞性肺疾患）は今後しばらく患者数が右肩上がりに増加すると見られています。当科ではCOPDに対して、包括的呼吸リハビリテーションや在宅酸素療法、在宅NPPV療法なども含めて積極的に取り組んでおります。特に前者はリハビリ科や栄養課にも御理解頂き、対象患者を増やしているところです。在宅酸素療法、在宅NPPV療法では60人を超える患者さんが治療を行っています。

気管支喘息治療も進歩しており、吸入ステロイド薬・長時間作用型β2刺激薬、長時間作用型抗コリン薬、IgEやIL-5等に対する抗体薬により喘息コントロール状態は飛躍的に改善しました。そのため救急入院の頻度は減りましたが、外来通院患者数は北陸でもトップクラスです。また、ここ10年以上、喘息死は当院では0です。平成28年度から立ち上げたBronchial Thermoplasty（気管支温熱療法）も順調に症例数が伸びています。気管支鏡で施行しますが、北陸ではまだ5施設のみでしか行っておらず、しかも局麻下で行っているのは当院のみです。喘息の病状の安定や薬の減量が長期に渡って期待できます。

肺癌はいまや当科入院患者の7割を占めるに至っています。気管支鏡検査数も平成24年年以降は200-300件前後で推移し増加傾向でしたが、ここ2年はCOVID-19の影響で件数は減っています。当科では肺癌に対して積極的に取り組み、呼吸器外科・放射線科と連携して手術・化学療法・放射線療法を組み合わせた集学的な治療を展開しています。また、近年個別化治療も進歩し、当科でも積極的にEGFR遺伝子変異やEML4-ALK融合遺伝子異常などのdriver mutationやPD-L1発現を検査し、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の適応を考慮しています。ステント挿入など内視鏡的インターベンションも、出村部長を中心に積極的に行っています。滲出性胸水症例に行う局麻下胸腔鏡検査も平成16年に導入以降、400例を越えて胸水の原因診断率が飛躍的にあがりました。胸腔鏡も含めて、冒頭に述べたように最新の呼吸器内視鏡も導入され、最近は「咳ゼロ気管支鏡」をモットーにして、患者に苦痛を与えない気管支鏡を目指しています。今後も県内では当科が先頭に立って肺癌治療に取り組みたいと考えています。

びまん性肺疾患では、特発性間質性肺炎や、好酸球性肺炎、過敏性肺臓炎などアレルギーの関与し

た病態に対して今関心が集まっていますが、まだまだ新しい知見の多い部門で、これから診断・治療に大きな発展が期待されます。睡眠時無呼吸症候群は、専門外来を設け積極的に取り組んでいます。その結果､閉塞型に対する夜間の鼻マスク式陽圧呼吸（nasal CPAP）療法導入の患者が増加しています。

令和２年年１月からパンデミックを起こしたCOVID-19ですが、３月下旬に当院１例目を受け入れて以降、重症例も含めて断続的に入院治療を行っています。赤井は感染管理室長として入院診療の統括を行っており、呼吸器内科は全員が軽中等症～重症に至るまでの症例を主治医として他科より多く関わっています。

３．実　績

気管支鏡検査施行件数（病棟での処置内視鏡数は除く。TSは内数で局麻下胸腔鏡検査）

	令和元年 207件（TS 23件）	令和２年 161件（TS ７件）	令和３年 126件（TS ７件）
EBUS-GS	99	61	52
EBUS-TBNA	60	64	43
末梢 TBNA	7	3	3
BAL	7	6	6
Hot biopsy	3	6	5
異物除去	1	－	－
ｽﾃﾝﾄ留置	1	1	－
EWS	1	－	2
ｲﾝｼﾞｺﾞ噴霧	1	1	－
Thermoplasty	4	1	5
EUS	－	5	14
気管支拡張術	－	1	－
塞栓術	－	1	－
金ﾏｰｶｰ留置	－	1	－
ポリペク	－	－	1

5．消 化 器 内 科

1．スタッフ

代表部長	山崎　幸直	日本消化器内視鏡学会専門医、指導医 日本消化器病学会専門医、指導医 日本内科学会認定医、指導医 日本カプセル内視鏡学会指導医 福井大学臨床教授 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
第 2 部長	道上　　学	日本消化器内視鏡学会専門医、指導医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 日本内科学会認定医、総合内科専門医 日本プライマリ、ケア連合学会認定プライマリ・ケア指導医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
第 3 部長	松永　心祐	日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本内科学会認定医、総合内科専門医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
副部長	里見　聡子	日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 日本内科学会認定医、総合内科専門医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
副部長	三原　美香	日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本内科学会認定医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了 原子力災害対策基礎研修会終了
副部長	西山　　悟	日本消化器内視鏡学会専門医

日本消化器病学会専門医王
日本内科学会認定医、総合内科専門医
TNT 講習受講
緩和ケア研修会終了
ICLS インストラクター

医　師　　鳥居　志充　　日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器病学会専門医
日本内科学会認定医
TNT 講習受講
緩和ケア研修会終了

医師　　保坂　亮介　　日本内科学会認定医
緩和ケア研修会終了

医師　　山崎　剛明　　緩和ケア研修会終了

専攻医　　永井　将也　　緩和ケア研修会終了

非常勤医師　河合　信佳　　緩和ケア研修会終了

非常勤講師　久津見　弘（滋賀医科大学臨床研究開発センター教授）

非常勤医師　畑　　正典（畑内科院長）

２．診　療

令和３年度は福井赤十字病院初期研修医であった永井将也医師が新たに専攻医として当科に加わってくれたが、河合信佳専攻医の内科専攻医カリキュラムに伴う一時退職（上半期　福井大学救急部、下半期　福井厚生病院内科勤務）のため、スタッフは増減なしの 10 名で診療を行った。また、山崎剛明専攻医が消化器内科医師として採用された。尚、新型コロナ感染症アウトブレイクのため、中断していた北海道置戸赤十字病院への医師派遣（１ヶ月）を２年ぶりに担当し、日赤グループ医師不足施設への医師派遣協力を行なった。

令和３年度は外来初診患者の待ち時間削減を図るべく、初めての試みとして週３回限定ではあるものの、初診担当医を２名に増員して診療を行った。補助的役割を担う初診②担当医は 10 時までの時間限定でドック２次検診症例を優先として初診患者を診療し、初診①担当医のサポート的診療を行った。

毎月第１金曜日に開催している多職種参加（消化器内科医師、内視鏡室看護師、内視鏡検査技師、内視鏡洗浄員、外来看護師、外来事務補佐員）の内視鏡室カンファレンスでは検査待ち時間削減、時間内検査終了、高水準かつ安全安楽な検査施行、外来業務とのスムーズな連携に必要な事項について継続的に話し合った。

また、コロナ陽性患者に対する内視鏡検査シミュレーションを消化器病棟看護師と合同で行い、緊

急検査に備えたが、幸いにも内視鏡室、透視検査室ともに対象検査はなかった。

新型コロナ感染症により減少した内視鏡検査件数は令和3年度には上部消化管内視鏡検査・下部消化管内視鏡検査・ERCPともに再び増加に転じ、消化器特殊内視鏡手技においては、前年度比較で特にERCP関連手技である胆道ステント留置術の増加が著しく、内視鏡的胃粘膜下層切開剥離術、大腸ポリペクトミーなども増加した。

学術面では山崎幸直医師の「福井県における全県下統一した対策型胃内視鏡検診システム」の原著論文が日本消化器がん検診学会雑誌に掲載された。新型コロナ感染症の遷延によりWebあるいはハイブリッドによる新しい学会開催形態が定着する中、日本消化器内視鏡病学会総会にはパネルディスカッション　1題、ワークショップ　1題を含む計5題、日本消化器病学会総会に2題、日本消化器内視鏡学会および日本消化器病学会北陸支部例会には内視鏡学会シンポジウム　1題を含む計6題の演題を発表した。

3．実　績

平成30年から令和3年度までの検査件数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
上部消化管内視鏡検査	11089回	10713回	8853回	9627回
上部超音波内視鏡検査	87回	64回	54回	52回
EUS-FNA	41回	35回	26回	27回
内視鏡的消化管止血術	116回	108回	100回	113回
内視鏡的粘膜剥離術（胃ESD）	108回	87回	79回	100回
内視鏡的粘膜剥離術（食道ESD）	12回	16回	7回	10回
内視鏡的食道硬化療法	40回	14回	21回	24回
経皮内視鏡的胃瘻造設術	35回	36回	29回	39回
食道ステント留置	11回	1回	3回	7回
胃十二指腸ステント留置	12回	4回	9回	10回
カプセル内視鏡	26回	19回	17回	32回
下部消化管内視鏡検査	2484回	2427回	2358回	2490回
内視鏡的ポリペクトミー	480回	433回	451回	551回
内視鏡的粘膜剥離術（大腸ESD）	29回	16回	23回	28回
内視鏡的粘膜切徐術	305回	326回	358回	362回
下部消化管ステント留置術	20回	15回	22回	21回
胆膵内視鏡検査（検査数重複あり）				
ERCP	388回	309回	344回	403回
胆道ステント留置	180回	143回	152回	194回
内視鏡的乳頭切開術	159回	120回	140回	158回
胆道結石除去術	112回	90回	101回	121回
小腸内視鏡	28回	18回	11回	5回

6．循 環 器 内 科

1．スタッフ

（令和３年４月１日現在）

循環器内科部長　兼　医療技術部長		
	吉田　博之	日本内科学会　総合内科専門医、指導医 日本循環器学会　専門医
循環器内科部長　兼　救急部長		
	坪川　明義	日本内科学会　総合内科専門医 日本循環器学会　専門医 日本心血管インターベンション学会指導医
循環器内科部長	皿澤　克彦	日本内科学会　総合内科専門医 日本循環器学会　専門医
循環器内科副部長	榊原　圭一	日本内科学会　総合内科専門医 日本循環器学会　専門医 日本心臓リハビリテーション学会指導士
循環器内科医師	清水　智弘	日本内科学会　認定内科医 日本心血管インターベンション学会認定医
循環器内科医師	大嶋　美華	

2．診　療

虚血性心疾患（狭心症・急性心筋梗塞）と心不全（高血圧症・心筋症・弁膜症・不整脈・心筋梗塞）の診断と治療を中心に、循環器救急や連携医療機関からの入院依頼に 24 時間体制で対応しています。慢性心不全患者には心臓リハビリテーション指導士を中心に多職種カンファレンスを行いクリニカルパスで安全と質の向上に努めています。冠動脈治療は橈骨動脈や遠位橈骨動脈穿刺による低侵襲を心掛け、下肢や腎臓のカテーテル治療にも対応しています。深部静脈血栓症や慢性動脈閉塞症の診断を血管エコーで積極的に行っています。CT・シンチ・MRI・PET で心臓の形態的、機能的診断を行い、虚血性心疾患や心筋症に対応しています。ペースメーカー術後患者には遠隔モニタリングを導入し心房細動の早期発見に努めています。

３．実　績

	令和３年
ホルター	465
UCG	3,966
心筋シンチ	218
冠動脈 CT	299
心臓 MRI	48
PCI	190
緊急 PCI	62
待機 PCI	128
EVT	46
心不全患者	152
心不全入院中死亡	18
入院患者	648
平均在院日数	13.3

令和３年　急性冠症候群 PCI 患者数

AMI　45 件（救急車搬送　28 件）ST 上昇型 36 件　　非 ST 上昇型 9 件

RMI　13 件（救急車搬送　6 件）　ST 上昇型　5 件

UAP　15 件（救急車搬送　4 件）

院内死亡率　1.6%（3 件）

ST 上昇患者の救急車到着から再潅流までの平均所要時間　83.7 分

４．目　標

循環器救急患者に 24 時間対応します。

高度医療機器を用いた診断と治療を提供します。

高齢化で増加する慢性心不全患者に、教育と治療を提供します。

7．小　　児　　科

1．スタッフ

部長	渡邉　康宏	日本小児科学会専門医、指導医、臨床研修指導医
副部長	平野　聡子	日本小児科学会専門医
		臨床遺伝専門医
副部長	玉村　宗一	日本小児科学会専門医、指導医、臨床研修指導医
		日本腎臓病学会腎臓専門医
		ICD 制度協議会認定ｲﾝﾌｪｸｼｮﾝｺﾝﾄﾛｰﾙﾄﾞｸﾀｰ
		日本周産期新生児医学会新生児蘇生法「専門」ｺｰｽ（A ｺｰｽ）
		インストラクター
		日本旅行医学会認定医
医師		野村　詠史
医師（後期臨床研修医）		田中　佳代
非常勤医師		中田　庸平
非常勤医師		安冨　素子
非常勤医師		森　夕紀子
非常勤医師		杉原　啓一

2．診　療

人事面では臨床後期研修医を１名引き受け、外来医療も行える若手小児科医を養成するための、県内で数少ない研修病院の役割を担っている。

診療面では、小児腎臓に関しては、玉村医師が森医師や腎臓泌尿器科医師の協力を得つつ診療に当たり、高い専門性を発揮している。月１回、福井大学病院小児科の腎臓外来も行っており、また大学の後進の指導・育成や他院医師からの相談対応なども行っており、県内の中心的な役割を担っている。腎生検数は年 10-15 件で推移しており、一定数を保っている。渡邉は神経・発達を中心に診療し、難治性てんかんなどを含め広い分野の症例を担当している。近年多い慢性頭痛・腹痛、不登校など心身症への対応も、臨床心理士と連携をとり行っている。平野医師は幅広く一般小児科診療を行いつつ、専門の内分泌・代謝疾患患児を担当し、また遺伝性疾患のカウンセリングにも力を入れている。野村医師は一般小児科臨床の経験をつみながら、アレルギーをサブスペシャリティーとすべく専門分野の診療も行い、特に食物アレルギー児の食物負荷試験を積極的に行い診断・閾値判定に努めている。田中医師は入院症例の主治医を主に担当しながら、一般外来、予防接種、乳児健診などプライマリーケアができるように研鑽を積んだ。

良性疾患を中心とした血液・腫瘍性疾患は必要に応じ、大学等とも連携しながら診療に当たっている。予防接種も、アレルギーや基礎疾患のある児への接種や、渡航ワクチンなど積極的に専門外来で実施している。併存疾患を同時に治療するなど、患者中心の医療が行えることも当科の特色と言える。

新生児関連では、当院は引き続き地域周産期母子医療センターとして、人工呼吸管理が必要な児も含め対応している。新生児搬送や総合周産期母子医療センターからのバックトランスファーも積極的に受け入れ、福井県の周産期医療が円滑に進むべく努力している。産科とも定期的にカンファレンスを行い、合併症妊娠例への対応も行っている。

他、院内活動として、当院スタッフ向けの病児保育の運営に参加しており、よりよい職場環境がつくれることに役立っている。またスタッフが早く始業できるように、8時15分から病児保育を希望する児の診察ができる体制を整えているが、今年度はコロナの流行もあり病児保育の運用は難しい状況であった。

他に外科系他科の小児が入院した際、必要に応じ全身管理目的で小児科医も担当となり、異常時の早期発見に努めている。

患者動向は予防接種を含めた予防医学の進歩や、医療内容の進歩による慢性疾患の外来管理の改善により、診療の外来シフトは小児科で着実に進行している。今年度は未曾有のRSウイルス感染症の流行を認め、一時的に小児病床が逼迫した。コロナ感染症はオミクロン株が流行するようになると、小児の患者数が増え当科の入院数も増えた。

病院小児科外来は今後、医学の進歩から予防・感染管理・慢性疾患管理が重要になると考えられるが、新規感染症の流行に対応できる体制づくりが望まれる。

小児救急体制に関しては、引き続き月・木曜日の週2日間、嶺北小児救急輪番病院を担当し、また紹介は365日受け入れるなど、地域医療に貢献できるように努力している。

1次救急を担う福井県こども急患センターへの出務も行っている。

3．実　績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
小児科入院患者総数	802	458	727
1. 一般病棟・ICU入院患者数	700	354	587
呼吸器疾患			
気管支炎・細気管支炎・肺炎	173	29	176
上気道炎･扁桃炎･中耳炎･ｸﾙｰﾌﾟ症候群(Flu含む)	73	20	23
その他（間質性肺炎など）	3	2	2
消化器疾患			
急性胃腸炎・脱水症	73	27	32
腸重積	2	1	1
その他（NASH、虫垂炎、GERDなど）	9	8	16
神経筋疾患			
熱性痙攣	60	16	39
てんかん・無熱性痙攣	34	21	18
片頭痛・周期性嘔吐症	6	5	3
睡眠時無呼吸検査（PSG）	8	1	2
その他（痙攣重積、脱髄性疾患など）	5	12	15
腎疾患			
ネフローゼ症候群	13	11	12
慢性腎炎	4	1	0
腎生検	6	6	5
尿路感染症	9	21	16

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
免疫・アレルギー疾患			
気管支喘息	19	10	26
食物アレルギー（食物負荷試験）	52	56	55
アナフィラキシー	9	4	9
川崎病	16	6	17
IgA 血管炎	4	4	3
多形紅斑	4	4	1
その他（菊池病など）	6	4	4
血液・腫瘍疾患			
免疫性血小板減少性紫斑病	5	5	1
乳児血管腫（ヘマンジオル導入）	6	1	0
その他	2	2	0
内分泌・代謝			
下垂体ホルモン分泌負荷試験	8	9	7
その他（糖尿病、ケトン性低血糖など）	10	5	10
その他の感染症（蜂窩織炎、手足口病など）	25	18	8
Covid-19			37
心身症・精神疾患	7	7	12
MRI、シンチなど鎮静下の検査目的	20	21	16
その他（不明熱、薬物中毒など）	29	17	22
2. ベビーセンター入院患者数	102	104	140
早産児	21	28	17
低出生体重児（早産児を除く）	11	8	18
新生児呼吸障害（TTN、MAS など）	18	22	39
新生児黄疸	26	21	37
新生児低血糖（高インスリン血症を含む）	3	2	2
新生児感染症（疑いも含む）	4	1	3
哺乳不良・体重増加不良	5	11	11
先天性心疾患・不整脈	3	3	2
その他の先天奇形（口蓋裂など）	5	3	2
その他	6	7	9

8．外　　科

1．スタッフ

令和３年 ３月３１日をもって藤本大裕医師、上田容子医師が退職した。

第１部長	青竹　利治	日本外科学会専門医、指導医 日本内視鏡外科学会技術認定医	日本消化器外科学会専門医、指導医
第３部長	田中　文恵	日本外科学会専門医	日本乳癌学会専門医
第４部長	川上　義行	日本外科学会専門医、指導医 日本消化器病学会専門医	日本消化器外科学会専門医
第５部長	土居　幸司	日本外科学会専門医、指導医 日本消化器病学会専門医、指導医 日本乳癌学会認定医	日本消化器外科学会専門医、指導医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本肝胆膵外科学会高度技能指導医
第６部長	吉羽　秀麿	日本外科学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医、指導医 日本内視鏡外科学会技術認定医	日本消化器外科学会専門医、指導医
第１副部長	小畑　真介	日本外科学会専門医 日本消化器病学会専門医、指導医	日本消化器外科学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医
医師	加藤　成	日本外科学会専門医	日本消化器外科学会専門医
医師	平崎　憲範	日本外科学会専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医	日本消化器外科学会専門医
医師	前川　展廣	日本外科学会専門医	日本 DMAT 隊員
医師	伊藤　聖顕		
医師（専攻医）	樋上　明音		
＊医監	廣瀬　由紀	日本外科学会専門医、指導医 日本消化器病学会専門医、指導医 日本肝胆膵外科学会高度技能指導医	日本消化器外科学会　専門医、指導医 日本乳癌学会専門医

２．診　療

令和３年度の手術件数は合計で 873 件であった。新型コロナウイルス感染拡大の影響は残っているが、症例数は前年度（844 件）より増加した。

手術の内訳では全国的な傾向と同様であり、悪性疾患においては大腸癌が最も多く、次に乳癌、そして胃癌の手術であった。令和２年度との比較では、特に乳癌手術が 23.7% 増、直腸癌手術が 90% 増（ロボット支援腹腔鏡下直腸手術 100% 増）であった。麻酔別の手術件数では全身麻酔が 753 件で増加し、腰椎麻酔は、局所麻酔は前年と比較して著変はなかった。緊急手術は昨年は 180 例であり全体の手術の約 20.6%であった。

外科の診療以外ではチーム医療としての活動として、栄養管理 NST(Nutritional support team)として広瀬医師、川上医師が、また感染管理では ICT(Infection control team) に土居医師が活動している。

緩和医療では吉羽医師が、DMAT は平崎医師が活動を継続した。

３．実　績

外科手術実績

手術別手術症例数	令和３年
食道切除術	2
乳房切除術	76
乳房温存術	40
胃全摘術	7
噴門側胃切除術	0
幽門側胃切除術	9
腹腔鏡下胃切除術	4
腹腔鏡下幽門側胃切除術	12
腹腔鏡下幽門側胃切除術＜ﾛﾎﾞｯﾄ支援＞	10
腹腔鏡下噴門側胃切除術	1
腹腔鏡下噴門側胃切除術＜ﾛﾎﾞｯﾄ支援＞	2
腹腔鏡下胃全摘術	0
腹腔鏡下胃全摘術＜ﾛﾎﾞｯﾄ支援＞	0
結腸切除術	17
前方切除術	1
直腸切除術	1
腹腔鏡下結腸切除術	94
腹腔鏡下直腸切除術	18
腹腔鏡下直腸切除術＜ﾛﾎﾞｯﾄ支援＞	28

手術別手術症例数	令和３年
腹腔鏡下大腸切除術	0
虫垂切除術	1
腹腔鏡下虫垂切除術	71
痔手術	16
肝部分切除術	2
肝亜区域切除術	3
肝区域切除術	0
肝葉切除術	1
胆嚢摘除術（開腹）	7
腹腔鏡下肝切除術	15
腹腔鏡下胆のう切除術	95
膵頭（十二指腸）切除術	16
膵尾側切除術	4
鼠径大腿ヘルニア術	34
腹腔鏡下鼠径大腿ヘルニア手術	97
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	3
胆管悪性腫瘍手術	0
その他	0
合　　計	688

疾患別手術症例数	令和３年
食道癌	2
乳癌	115
胃癌	42
結腸癌	85
直腸癌	40
虫垂炎	73
原発性肝癌	8
転移性肝癌	11
胆石胆嚢炎胆嚢ポリープ	91
胆嚢癌	7
胆管癌	0
膵癌	13
膵腫瘍	0
鼠径大腿ヘルニア	132
胃 GIST	4
小腸 GIST	0
十二指腸乳頭癌	7
直腸 GIST	0
肛門管癌	2
合　　計	632

麻酔別手術症例数	令和３年
全身麻酔	752
腰椎麻酔（含む、硬麻）	43
局所麻酔	78
合　　計	873

緊急度別手術症例数	令和３年
緊急手術	180
待期手術	693
合　　計	873

４．目　標

最新治療を取り入れながらも、患者さんに寄り添った根治性と QOL を両立した過不足のない外科治療を引き続き追求していきたい。

ロボット支援手術は、胃癌と直腸癌においては今年度も引き続き継続し発展させていきたい。また新たに膵尾部切除に対しても、施行を目指している。

9．整　形　外　科

1．スタッフ

常勤医師 10 名（リハビリテーション医師を含む)、うち専門医９名

院長・整形外科部長　　髙木　治樹
京都大学医学博士
京都大学医学部　臨床教授
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定スポーツ認定医
日本整形外科学会認定リウマチ認定医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病認定医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本医師会認定産業医
日本医師会認定健康スポーツ医
日本リウマチ学会専門医
日本リウマチ財団登録医
日本リハビリテーション学会認定臨床医
日本骨粗鬆症学会認定医

整形外科科代表部長　　高塚　和孝
京都大学医学博士
福井大学医学部　臨床教授
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定リウマチ認定医
日本整形外科学会認定スポーツ認定医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病認定医
日本リウマチ学会専門医

リハビリテーション科代表部長、整形外科部長
淺野　太洋
京都大学医学博士
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病認定医
日本整形外科学会認定リウマチ認定医

リハビリテーション科部長
高嶋　理
日本整形外科学会専門医

整形外科副部長　　小田　竜治
日本整形外科学会専門医

日本整形外科学会認定リウマチ認定医
日本リハビリテーション学会認定臨床医

整形外科副部長　相模　昭嘉
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定リウマチ認定医

整形外科副部長　薗　隆
京都大学医学博士
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定リウマチ認定医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病認定医
日本整形外科学会認定スポーツ認定医

医師　森瀬　博子
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定リウマチ認定医
日本リウマチ学会専門医
日本リウマチ学会登録ソノグラファー

医師　仲谷　健次

医師　嶋　皓一朗（令和　3年3月31日退職）

2．診　療

・関節手術：膝関節は症例により骨切り術、人工膝全置換術、単顆置換術を使い分け良好な成績を得ている。
・脊椎手術：腰椎前方固定術、内視鏡手術、経皮的ｽｸﾘｭｰ固定術の導入により低侵襲な手術を目指している。
・関節鏡手術：膝関節では半月板手術、靭帯再建術を行いQOL向上、スポーツ復帰に貢献している。
・関節リウマチ：他科と連携しながら生物学的製剤を含めた集学的治療を積極的に行っている。
・骨粗鬆症：新規治療薬、骨折リエゾンリハビリを導入し骨折予防を目指した治療に取り組んでいる。

3．実　績

末尾の手術統計表のとおり

4．目　標

他科との連携を図り、関節リウマチをはじめとする整形外科疾患の集学的治療をさらに推進する。
地域連携医との連携を密にし、地域基幹病院としての役割を果たす。
整形外科後期研修医、整形外科専門医の育成、研鑽に努める。

＜手術統計＞

			令和３年度
脊椎外科		頚椎	30
		胸椎、腰椎	119
		脊髄腫瘍	0
関節外科	股関節	人工関節	53
		人工関節再置換	2
		人工骨頭	53
		その他	5
	膝関節	人工関節	32
		人工関節再置換	3
		単顆置換	12
		腱、靭帯再建	3
		半月板手術	21
		その他	15
	肩関節	人工骨頭、関節	1
		腱板修復	7
		その他	6
	肘関節	人工関節	1
		その他	3
	足関節、足部関節	人工関節	0
		関節固定術	0
		関節形成術	0
		その他	7
外傷外科	骨接合術	上肢	106
		下肢	150
	再接着術		1
	その他の外傷		1
手外科	関節手術		3
	腱・靭帯手術		48
	その他		2
末梢神経手術			15
骨軟部腫瘍			12
その他			93
Microsrugery			
手術総数			804

10. 形 成 外 科

1．スタッフ

副部長　寺村　あずみ　　日本形成外科学会専門医
日本形成外科学会小児形成外科分野指導医
日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医

医師　　藤土　光

2．診　療

現在、月・水・金曜日の午前中と木曜日の午後に外来診療を行っています。手術に関しては火・水・木曜日に主に全麻下手術を、月・水・金の午後に小手術、レーザー治療などを行っています。

3．実　績

	令和３年度
外傷	110
先天異常	39
腫瘍	360
瘢痕・ケロイド	38
難治性潰瘍	46
眼瞼下垂	18
レーザー治療	64
炎症・変性疾患	18
その他	92

4．目　標

令和４年度は４月１日から３人体制となる。

地域の先生方と連携を取りながら、幅広い症例に対応し、学術面での活動も継続していく予定である。

11. 脳 神 経 外 科

1．スタッフ

脳神経センター長　脳神経外科代表部長

西村　真樹　　日本脳神経外科学会専門医、指導医
日本脳卒中学会専門医
日本脳卒中の外科学会技術指導医
京都大学臨床教授、福井大学臨床教授
日本脳卒中学会評議員

第２脳神経外科部長

早瀬　睦　　日本脳神経外科学会専門医、指導医
日本脳卒中学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医、指導医
日本神経内視鏡学会技術認定医
日本頭痛学会頭痛専門医

副部長

取越　貞治　　日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医
日本脳血管内治療学会専門医

医師

北原　孝宏　　日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医

中島　悠介　　日本脳神経外科学会専門医

山下　智之

笠島　一洋　　（令和３年 10 月１日着任）

佐野　徳隆　　（令和３年９月 31 日異動）

2．診　療

脳腫瘍　脳血管障害　脊椎・脊髄疾患　機能外科疾患の外科的治療

３．実　績

	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年
総手術件数	301	310	250	203	213
脳腫瘍手術	24	26	24	21	12
脳卒中開頭手術	45	47	22	31	18
血行再建術	16	16	18	8	5
脊椎脊髄手術	20	18	8	4	2
定位・機能外科手術	8	9	9	4	1
血管内治療手術	97	93	69	50	70

４．目　標

当院は一次脳卒中センターのコア施設として超急性期脳梗塞の血栓溶解・血栓回収術を 24 時間行うことが求められており、今後も体制の維持を継続する。同時にクモ膜下出血や脳出血や動静脈奇形に対して血管内治療、外科的治療をいずれも高いレベルで行う脳血管障害における県内の中心的センターとしての役割を担っていく。また未破裂脳動脈瘤や頚動脈狭窄 / 閉塞・もやもや病など慢性期の脳卒中の予防的治療においても厳格な適応のもとに適切な治療を地域に提供していく。

脳腫瘍については最新の知見をもとに外科的治療、放射線治療、薬物治療、内視鏡などを組み合わせた総合的な治療を展開していく。以上の臨床活動の中で学会報告や論文発表を通じて学術活動を活発に行い京都大学脳神経外科の研修病院として若手医師の教育に積極的に取り組み、また地域中核研修病院として医学生や初期研修医の参加を積極的に受け入れる。

12. 呼 吸 器 外 科

１．スタッッフ

部長　松倉　規

呼吸器外科専門医
外科専門医
日本呼吸器外科学会　評議員
日本胸部外科学会　指導医、認定医
日本外科学会　指導医、認定医

医師　山岸　弘哉

呼吸器外科専門医
外科専門医

医師　南　紀久子

医師　森谷　哲士　（令和３年４月１日着任）

２．診　療

自分の身内にも行いたい医療を心がけています。

科内でのカンファレンスや呼吸器内科、放射線科、病理部とのキャンサーボードを行いチームとして統一性のとれた診療を行っています。また看護部は当然のこと、薬剤部やリハビリ科など院内他科、地域医療連携課の社会福祉士、入退院支援センターなど多職種・多部門とのカンファレンスも行い情報伝達を密にしています。

治療方針は各種ガイドラインを参考にグローバルスタンダードであるよう努めています。

日本赤十字社の使命の一つである災害時医療にも参加します。

紹介患者さんは可能な限り受け入れ、病診連携を進めます。

周術期の呼吸リハビリテーションも当科の特徴の一つです。「術後経過良好」を目指し、術前からの呼吸リハビリで手術を無事に乗り越え、一日も早く日常生活を取り戻し、社会復帰を果たしていただくよう努めています。

3．実　績

手術統計表をご参照ください。

呼吸器外科手術統計			
手術実績	令和元年度	令和２年度	令和３年度
肺癌	90	54	63
転移性肺腫瘍	14	7	8
縦隔腫瘍	8	7	5
気胸	39	17	32
膿胸	10	15	7
外傷	4	0	1
手掌多汗症	8	9	2
その他	48	22	21
胸腔鏡手術	178	113	117
合計	221	131	139

4．目　標

我々呼吸器外科の目標は、呼吸器外科手術を通して地域の皆様の医療に貢献することです。

13. 皮　膚　科

1．スタッフ

副部長　　加畑　雄大　　（令和　3年3月22日付けで着任）
医師　　辻　慶明　　（令和　3年4月1日付けで着任）
医師　　吉田　康幸

2．診　療

外来は午前診療が中心で3診体制です。月曜日、火曜日、金曜日の午前中の紹介患者は、副部長が診察をしています。午後は完全予約制で、火曜日に小手術やレーザー治療などを、木曜日は脱毛症外来を行っています。火曜日はデイサージェリー室で外来手術、金曜日は中央手術室で比較的大きな外来手術や入院手術を行っています。

＜特　徴＞

1）外来：皮膚悪性および良性腫瘍、円形脱毛症、アトピー性皮膚炎など湿疹群、乾癬、膠原病、水疱症、白癬症、陥入爪や疣贅などです。ほか、特殊な外来としては円形脱毛症の治療のために脱毛症専門外来を毎週木曜日午後に行っています。メイクアップケア外来も行っています（月1回）。男性型脱毛症に対しては自費にてプロペシア内服を行っています。また、生物学的製剤も積極的に導入しており、乾癬、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎の方に対して希望があれば導入も行っています。皮膚･皮下腫瘍に対してはデイサージェリー室で日帰り手術､中央手術室で入院手術を行っています。

2）入院：皮膚悪性腫瘍、水疱症や膿疱症、帯状疱疹、蜂窩織炎・丹毒、重症薬疹などを中心にみています。皮膚悪性腫瘍は、手術、化学療法、放射線治療を組み合わせた集学的治療を行っています。

入院症例	令和元年度	令和2年度	令和3年度	計
帯状疱疹	78	74	58	210
皮膚感染症	63	70	56	189
良性腫瘍	38	17	5	60
悪性腫瘍	49	39	9	97
その他入院	141	134	93	341
計	369	334	221	924

3．実　績

手術症例（入院・デイ）	令和元年度	令和2年度	令和3年度	計
良性腫瘍	176	170	48	394
悪性腫瘍	48	39	15	102
計	224	209	63	496

4．目　標

これまで通り地域に貢献し、地域・院内における福井赤十字病院皮膚科の役割を、しっかりと果たしていく。

14. 腎センター（腎臓・泌尿器科）

1．スタッフ

医監　塚原健治　　日本泌尿器科学会指導医、専門医

副院長、腎センター長　小松　和人
日本泌尿器科学会指導医、専門医
福井大学医学部臨床教授
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

第１腎臓・泌尿器部長　伊藤　正典
日本内科学会専門医（総合内科専門医）
日本腎臓学会腎臓専門医、指導医
日本透析医学会専門医
福井大学医学部臨床教授
福井大学医学部臨床教授

第３腎臓・泌尿器部長　片野　健一（令和４年３月31日退職）
日本内科学会認定内科医、総合内科専門医
日本腎臓学会腎臓指導医、専門医
日本透析医学会指導医、専門医
北陸VAIVT（透析シャント血管カテーテル治療）研究会世話人

第２腎臓・泌尿器部長　河野　眞範
日本泌尿器科学会指導医、専門医
日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定
日本内視鏡外科学会技術認定医（泌尿器腹腔鏡）
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

第４腎臓・泌尿器部長　高田　昌幸
日本泌尿器科学会指導医、専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定
日本内視鏡外科学会技術認定医（泌尿器腹腔鏡）
日本移植学会移植認定医

副部長　山内　寛喜

日本泌尿器科学会指導医、専門医
日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定

副部長　松井　佑樹

日本内科学会認定医
日本腎臓学会専門医
日本透析医学会専門医
日本移植学会移植認定医

医師　山岸　瑞希

日本内科学会認定内科医
日本腎臓学会専門医

医師　糸賀　明子

日本泌尿器科学会専門医

医師　石淵　絹人（令和３年４月１日入職）

日本内科学会認定内科医、
日本腎臓学会腎臓専門医、
日本透析医学会専門医

医師　垣鍔　忠　（令和２年４月１日入職～令和４年６月 30 日退職）

医師　西川　翔　（令和２年４月１日入職～令和３年３月 31 日退職）

医師　島本　佑樹

非常勤医師　小林麻美子　　日本内科学会認定内科医

非常勤医師　西川雄大

令和３年度は腎臓・泌尿器科として腎臓内科は伊藤部長以下、合計６名で診療にあたることが可能となり、総合診療部への人材派遣も可能となりました。泌尿器科は塚原医監（緩和ケア病棟）、小松副院長以下、合計７名のスタッフにて診療に従事しました。当科は、合計 13 名の陣容で、地方都市の基幹病院としては恵まれています。腎臓内科と泌尿器が一つの標榜科を名乗るというユニークな組織ですが、診療科の設立以来、一貫して腎・泌尿器疾患のトータルケアを目指しています。これまで腎臓内科、泌尿器科については福井大学からの人材派遣を得ておりましたが、膠原病内科も扱うべく人事交渉を重ね、令和４年４月１日、金沢大学リウマチ・膠原病内科から鈴木、吉田両先生をお迎えすることとなりました。医師の確保は診療科の不沈を握るまさに生命線です。

２．診　療

患者ニーズに即した診療体制の維持を目標として掲げ、内科的腎疾患と泌尿器科的疾患を統合的に診療する戦略を維持継続しました。副腎、腎臓、尿路、前立腺、男性器等疾患を対象にした、高度専門的治療が基本方針です。内科的腎疾患に対する高度専門的治療、泌尿器科的疾患に対する低侵襲的外科治療、悪性腫瘍に対する集学的治療を行って参ります。

診療方針と診療科の労働環境整備を含み、具体的戦略は以下に掲げる通りです。

1. 中小病院ではやりにくい救急・急性疾患、高度で複雑な診療、高度先進的な外科手術を担当する
2. 安定した排尿障害などは逆紹介する
3. 外来患者数の抑制
4. 労働環境の整備
5. 若手医師に研修機会を与える

以下、稼働業績を略記いたします。

新型コロナ感染症第一波の影響を大きく受けたのが令和２年度でした。令和３年度業績はコロナ禍に何度も見舞われながら若干持ち直した感があります。

１）稼働額（円）

	令和２年度	令和３年
腎・泌尿器科：入院	772,847,574	879,537,762
腎・泌尿器科：外来	1,134,964,521	1,240,598,808
腎・泌尿器科：総額	1,907,812,095	2,120,136570

２）腎臓内科領域：

件数の減少はありましたが、腎臓内科の主要検査である腎生検については、原発性腎疾患のみならず、全身性疾患に伴う腎病変の腎生検も多く実施できました。

また、慢性腎臓病（CKD）教育入院は新型コロナ感染症の影響で件数は減少しましたが、1 週間のパスに従い継続しています。ほぼ全例が、他科あるいは連携医の先生方からのご紹介であり、病診連携に貢献できているものと思われます。高血圧、糖尿病といった生活習慣病から発症する CKD は今後も増加の一途かと思われます。糖尿病腎症重症化予防プログラムも開始されています。透析導入を一人でも減少させるべく、今後も病診連携の一つの柱として努力しております。

スタッフの項でも触れましたが、令和３年以前から約３年にわたって交渉を重ね、令和４年４月1日から膠原病内科の診療をスタートすることになりました。当院では主に整形外科が長年に亘り福井県内の慢性関節リウマチの診療を牽引してきた歴史があります。今後当院のリウマチ、膠原病診療の発展に弾みがつくものと期待しております。

３）透析センター：

データの詳細は腎センターの項に譲ります。妹背（せのお）師長が透析センターをまとめていますが、新型コロナ感染症の管理を筆頭に大変なご苦労であるかと思います。

令和３年度は透析監視装置計 32 台にて稼働いたしました。うちオンライン HDF については 10 台で実施されており、重矢課長をはじめとする臨床工学課技師により厳重な透析液水質管理のもと、

きわめて順調に継続されています。

腎代替療法のうち、血液透析において令和元 年度は合計約 30 名の透析導入を行いました。当院における維持透析患者数も平成 28 年度以降 100 名を超えて維持されています。看護スタッフの僧数が実現すれば、さらにニーズに応えることは可能かと思います。

血液透析患者さんは合併症も多く、透析センターのスタッフは身体のみならず精神的ケアも求められています。日々の研鑽をかさね、患者様のニーズに対応して参ります。

シャント血管内治療（VAIVT）当診療科の得意分野です。片野部長は、県内全域にわたる各透析施設からの紹介にスピーディに対応しており、透析におけるブラッドアクセスの重要性を県内外に知らしめています。大変残念ながら片野先生は令和 4 年 3 月 31 日に退職となりましたが、石淵先生、吉田先生に引き継がれます。

腎代替療法以外の浄化療法では、昨年度同様、消化器科より炎症性腸疾患に対するアフェレーシス療法として白血球除去療法、顆粒球除去療法、また難治性腹水に対する腹水濾過濃縮のご依頼を消化器内科・外科さらには婦人科からも多くいただいており感謝しております。

また、夜間・休日の緊急透析は集中治療部（ICU）にて実施できるように福岡麻酔科部長はじめ麻酔科の先生方のご配慮を頂いております。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

新型コロナ感染症について、重症化、死亡リスクの高い透析患者さんですので今後も厳重な感染防御方策を継続してまいります。

4）泌尿器科領域

腎・泌尿器科領域の手術件数は北陸最多です。中央手術室での手術以外に、体外衝撃波結石破砕術、TV 透視室での手技等を加えると外科的手術は 1200 件を超えて推移しております。外科治療の最近の概要を別掲表に示します。

特徴的なのは、ロボット支援手術（河野、高田、山内先生が中心です。）に代表される高度で先進的な外科治療を行う一方、生体腎移植（外科領域は高田先生、内科領域は松井先生が中心です)、シャント血管内治療（VAIVT）などの腎不全外科まで幅広く手術に取り組んでいる点であり、福井大学泌尿器科教室の関連病院として若手泌尿器科医師の良いトレーニングの場となっています。

外科治療以外で特筆すべきは平成 29 年 10 月から活動を開始している排尿ケアチーム（CST）であり、浅田看護師をリーダーとして院内ラウンドを毎週実施しています。排尿障害に悩む患者さんも数多く、各病棟から頼りにされる貴重な存在となっています。今後症例の増加が見込まれます。

5）働き方改革関連の報告

男女を問わず子育て中の医師が過半を占めます。山岸、糸賀先生は女性の医師として小さいお子さんの子育てと診療、勉強に活躍中です。昨年度の有給休暇消化率は平均約 30％で経年的には緩徐ながら上昇傾向でした。月毎の時間外勤務時間は平均約 30 余時間で、横這いです。

専門科の診療に加え、全科当直、救急診療、総合診療を担当していますが、令和３年度は令和２年度から始まる新型コロナ感染症に対する診療を担当（継続）し、検査、入院患者さんの主治医担当を行いました。

6）学術業績

別掲の通りですが新型コロナ感染症のせいもあり、低調であったと思います。

3．実　績

腎臓・泌尿器科診療実績		令和元年度		令和２年度		令和３年度	
対象臓器	術式名	件数	小計	件数	小計	件数	小計
副腎・後腹膜	腹腔鏡下副腎摘出術 <K7542>	5				1	
	そのほかの副腎・後腹膜手術	1					
	副腎悪性腫瘍手術						
	腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術 <K756-2>	1				1	
	後腹膜悪性腫瘍手術						
	大網、腸間膜、後腹膜腫瘍摘出術（腸切除を伴わない）						
	腹腔鏡下後腹膜腫瘍切除術						
副腎･後腹膜手術合計		7	7	0	0	2	2
腎、腎盂	腹腔鏡下生体腎採取術	2		2		1	
	生体腎移植術	2		2		2	
	経皮的尿路結石摘除術	4		4		4	
	経皮的上部尿管拡張術						
	体外衝撃波腎･尿管結石破砕術(一連につき)	34		48		38	
	腹腔鏡下腎部分切除術			3		1	
	ﾛﾎﾞｯﾄ支援腎部分切除術（腎癌）	10		13		11	
	腹腔鏡下腎嚢胞切除縮小術						
	経皮的腎嚢胞穿刺術						
	腎(尿管)悪性腫瘍手術 / 腎摘出術(開放)	2					
	腹腔鏡下腎摘出術	2				2	
	腹腔鏡下根治術腎摘除術（腎癌）	12		5		10	
	腎（尿管）悪性腫瘍手術（開放）					1	
	腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	1					
	腹腔鏡下腎（尿管）全摘除術（腎盂 / 尿管癌）	13		10		12	
	経皮的腎（腎盂）瘻造設術	12		5		6	
	腎瘻交換	36		50		13	
	腹腔鏡下腎盂形成術	1				1	
	そのほかの腎、腎盂手術			1			
腎、腎盂手術合計		131	131	143	143	102	102
尿管	経尿道的尿路結石摘出術	93		79		109	
	経尿道的尿管狭窄拡張術			1		2	
	経尿道的尿管ｽﾃﾝﾄ留置術・交換	280		343		369	
	経尿道的尿管ｽﾃﾝﾄ抜去術	119		108		125	
	尿管膀胱新吻合術						
	尿管膀胱新吻合（小児）						
	尿管膀胱吻合術	3				1	
	尿管鏡検査	9		6		6	
	そのほかの尿管手術	4		2		2	
尿管手術合計		508	508	539	539	614	614

腎臓・泌尿器科診療実績		令和元年度		令和２年度		令和３年度	
対象臓器	術式名	件数	小計	件数	小計	件数	小計
膀胱	膀胱破裂閉鎖術					1	
	膀胱内凝血除去術	17		19		20	
	膀胱結石，異物摘出術（経尿道的手術）<K7981>	12		10		18	
	経尿道的電気凝固術	34		20		28	
	膀胱水圧拡張術	3		1		1	
	膀胱腫瘍摘出術 <K802>						
	腹腔鏡下膀胱部分切除術			3			
	膀胱脱、性器脱、直腸脱、メッシュを利用するもの	2				1	
	膀胱悪性腫瘍手術（開放手術）						
	膀胱悪性腫瘍手術２全摘（腸管等を利用して尿路変更を行わないもの）	1					
	膀胱悪性腫瘍手術４全摘（回腸または結腸導管を利用して尿路変更を行うもの）<K8034>	3		1			
	膀胱悪性腫瘍手術５全摘（代用膀胱を利用して尿路変更を行うもの）						
	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	1					
	ﾛﾎﾞｯﾄ支援膀胱悪性腫瘍手術１全摘(腸管等を利用して尿路変更を行わない)<K80321>	3		4		2	
	ﾛﾎﾞｯﾄ支援膀胱悪性腫瘍手術２全摘（回腸または結腸導管を利用して尿路変更を行うもの）<K80322>	6		7		6	
	ﾛﾎﾞｯﾄ支援膀胱悪性腫瘍手術全摘３（代用膀胱を利用して尿路変更を行うもの）<K80323>	1					
	膀胱悪性腫瘍手術６経尿道的手術	104		93		100	
	膀胱瘻造設術	2		1		2	
	膀胱尿管逆流手術						
	腸管利用膀胱拡大術						
	回腸（結腸）導管造設術			1			
	膀胱生検	8		5		6	
	腹腔鏡下尿膜管切除術	5		1		1	
	そのほかの膀胱手術	2		2			
	膀胱鏡検査	5		1		2	
膀胱手術合計		209	209	169	169	188	188

腎臓・泌尿器科診療実績		令和元年度		令和２年度		令和３年度	
対象臓器	術式名	件数	小計	件数	小計	件数	小計
尿道	尿道結石、異物摘出術（全部／後部尿道）						
	外尿道腫瘍切除術 <K816>	3					
	尿道悪性腫瘍摘出術			1		2	
	尿道形成手術						
	尿道下裂形成手術					2	
	尿道狭窄内視鏡手術	5		9		2	
	尿失禁手術	1				4	
	尿失禁又は膀胱尿管逆流現象コラーゲン注入手術						
	そのほかの尿道手術						
尿道手術合計		9	9	10	10	10	10
陰茎	陰茎尖圭コンジローム切除術						
	陰茎腫瘍切除術 <K826>						
	陰茎悪性腫瘍手術（陰茎切除術）<K8271>						
	陰茎悪性腫瘍手術（陰茎切除術）<K8272>						
	包茎手術	7		9		8	
	陰茎生検						
	そのほかの陰茎手術			1			
陰茎手術合計		7	7	10	10	8	8
陰嚢、精巣、精巣上体、精索	精管切断術	1		1			
	精巣（睾丸）摘出術	4		2		2	
	停留精巣（睾丸）摘出術	1					
	精巣上体摘出術	1					
	精巣悪性腫瘍手術	8		10		3	
	陰嚢水腫手術	2		1		3	
	停留精巣固定術	3				2	
	精索捻転手術			2			
	そのほかの陰嚢、精巣、精巣上体、精索手術	1		2			
陰嚢、精巣、精巣上体、精索手術合計		21	21	18	18	10	10
精嚢、前立腺	前立腺膿瘍切開術						
	前立腺被膜下手術						
	経尿道的手術	28		12		15	
	前立腺悪性腫瘍手術（恥骨後式）	1					
	前立腺悪性腫瘍手術（腹腔鏡下）						
	前立腺悪性腫瘍手術（ﾛﾎﾞｯﾄ補助下）	44		29		46	
	前立腺針生検	4		2		6	
	前立腺小線源療法						
	針生検（手術室）						
	そのほかの精嚢、前立腺手術						
精嚢、前立腺手術合計		77	77	43	43	67	67

腎臓・泌尿器科診療実績		令和元年度		令和２年度		令和３年度	
対象臓器	術式名	件数	小計	件数	小計	件数	小計
腎不全に対する手術	内シャントまたは外シャント設置術	66		68		68	
	内ｼｬﾝﾄ血栓除去術	2				1	
	連携携行式腹膜還流用カテーテル腹腔内留置術／抜去術	3		1			
	CAPD カテーテル抜去	5		1		1	
	CAPD カテーテル体表化術	1		1			
	VAIVT	193		177		142	
	血管結紮術	1		5		1	
	そのほか			253	253		
腎不全に対する手術合計		271	271			213	213
そのほかの泌尿器科手術	上皮小体過形成手術						
	骨盤内臓全摘						
	そのほかの泌尿器科手術／処置	51		39		42	
そのほかの泌尿器科手術合計		51	51	39	39	42	42
総　　計		1,291	1,291	1,224	1,224	1,256	1,256

15. 産　婦　人　科

1．スタッフ

第１部長	田嶋　公久	日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本産婦人科内視鏡学会技術認定医（子宮鏡、腹腔鏡） 福井大学医学部臨床教授
第２部長	辻　隆博	日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本医師会認定産業医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本産婦人科内視鏡学会技術認定医（腹腔鏡） 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
第３部長	福田　真	日本産科婦人科学会産婦人科専門医 母体保護法指定医師 日本医師会認定産業医 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医 日本生殖医学会生殖医療専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
医師	佐藤　久美子	日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本周産期・新生児医学会周産期専門医
医師	山本　真	日本産婦人科学会専門医
医師	江坂　有希恵	日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本周産期・新生児医学会周産期専門医 (令和４年１月１日着任)
医師	杉田　元気	日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 (令和３年９月 30 日異動)

２．診　療

令和３年度も前年度に引き続き、婦人科・産科領域ともに新型コロナ感染症の影響を大きく受けた１年間でした。

しかし、婦人科手術件数は令和元年、２年度に比べて増加し599件となりました。手術内容では、腹腔鏡下手術・子宮鏡下手術が多く、福井県下で最多の件数です。腹腔鏡下手術の技術認定医の存在（田嶋・辻）とともに、当院での腹腔鏡下手術が地域に認められていることを示していると考えます。最近の腹腔鏡手術では、妊孕性の温存に十分な注意をはらっています。日本生殖医学会生殖医療専門医である福田医師が、不妊患者の手術と不妊治療の橋渡しをしています。また、乳がん患者に対するリスク低減卵管卵巣摘出術（RRSO）が４件ありました。子宮鏡手術は昨年よりも14件増加しました。これは、山本医師が積極的に子宮鏡手術を推進してくれていることが大きいと考えます。なお、令和４年度には細径子宮鏡の導入が決定しており、今後はさらに件数が増加する見込みです。

分娩については、新型コロナ感染予防のために、家族の分娩立会いを中止しました。妊婦に対するサービス面が不足しがちになったことは否めません。しかし、近隣の産婦人科医院からの紹介が増加したこともあり、分娩件数は令和元年度、２年度よりも増加し294件となっています。新型コロナ陽性妊婦の帝王切開を３件、濃厚接触妊婦の経腟分娩を１件行っています。また、当院で分娩される方は､高齢妊婦の割合が高くなっています。令和３年度に分娩された初産婦164人中37人（22.6%）が、35歳以上の高齢初産婦でした。また、全分娩中の7.4%がART妊娠でした。日本周産期・新生児医学会専門医である佐藤医師が、小児科医師と協力しながらハイリスク分娩の管理に取り組みました。

また、令和２年度はスタッフ構成に変化があり、杉田医師が令和３年10月から加賀市民病院に異動となりました。代わりに令和４年１月から日本周産期・新生児医学会専門医である江坂医師が赴任しています。今後、周産期部門の充実が期待できます。

３．実　績

術式	症例	R3 年度
悪性腫瘍手術	円錐切除	38
	子宮頚癌	6
	子宮体癌	24
	卵巣癌	21
	外陰・膣癌	1
	その他	4
腹腔鏡良性疾患	子宮全摘	87
	子宮筋腫核出	51
	良性卵巣	110
	異所性妊娠	3
	性器脱	27
子宮鏡下	子宮筋腫切除	22
	ﾎﾟﾘｰﾌﾟ切除	36
	子宮鏡検査	0
開腹良性	子宮全摘	11
	筋腫核出	2
	良性卵巣	0
	その他	0
膣式良性	子宮全摘	0
	性器脱	7
	その他	2
産科手術	帝王切開	101
	子宮頚管縫縮	1
	人工中絶	8
	流産手術	27
	羊水穿刺	4
その他	その他	6
合　計		599

	R3 年度
分娩数	294
双胎、品胎	2
初産婦	164
正期産	266
早産	28
過期産	0
死産（22 週以降）	0
早期新生児死亡数	0
周産期死亡数	0

４．目　標

当科での鏡視下手術は、技術的に成熟し安定した時期に入っています。今後、不妊治療や妊孕性温存を目指した腹腔鏡下手術にさらに注力したいと考えています。最近始めたCO2 レーザーを用いた腹腔鏡下の子宮内膜症病変焼灼術を推進します。CO2 レーザーは組織損傷が少なく、卵巣における卵胞温存や術後癒着防止に有効です。また、細径のレゼクトスコープを入手予定ですので、より簡便に低侵襲な子宮鏡下手術が可能になると思います。

産科に関しては、来年度も引き続き安全で安心できる分娩環境を妊婦さんに提供することを目標とします。いまだ新型コロナ感染症の広がりは収束していないため、感染防御を十分行いながら診療にあたります。地域で必要とされている新型コロナ陽性・濃厚接触者妊婦の受け入れについては、福井県立病院の補助を今後も継続するつもりです。

16. 眼　　科

１．スタッフ

第一部長兼アイセンター長

	小堀　朗	日本眼科学会専門医、加齢性黄斑変性症の光線力学療法認定医 近視矯正手術認定医、ICL 手術認定医＆指導医（フェイキック IOL)、 福井大学臨床教授、日本眼科手術学会評議員／理事 Best Doctors in Japan2016-2017,2018-2019、2020-2021
副部長	額田　和之	日本眼科学会専門医認定医、加齢性黄斑変性症の光線力学療法認定医、 近視矯正手術認定医、視覚障害者用補装具適合判定医師
医師	李　相沅	日本眼科学会専門医認定医
医師（後期研修医）	吉村　昭人	
医師（後期研修医）	竹内　正興	
非常勤医師	清水悠介　蒔田潤　佐々木次壽　辻隆宏　盛岡正和　後沢誠	
眼科医	常勤５名＋非常勤６名	
視能訓練士	西畑　吉田　横田　木原　高畑　杞根　土江　福田	
看護士	３名	
事務	４名	
外来クラーク	３名	

令和２年３月をもって横田開人は関西医科大学の大学院に移りました。代わりに４月より関西医科大学から竹内正興先生が着任しています。性格は明るく初期研修医には慕われています。意欲も十分なので現在どんどん成長しています。

２．診　療

相変わらずコロナの広まりは止まらず、特に入院治療には気を使うところです。少しずつ元の治療に戻りつつあります。

白内障関連についてです。眼内コンタクトレンズ ICL や多焦点眼内レンズは堅調に推移しています。コロナの影響もあってか、自分に投資する方が多いようです。保険診療内で行えるプチ多焦点眼内レンズ（レンテイスコンフォート、アイハンス）も登場しました。もともと眼鏡をする習慣がない患者さんには適応にしています。

緑内障関連についてです。iStent､iStent inject W､マイクロフックロトミー､スーチャーロトミー､アーメドロングチューブ、繊維柱帯切除術、毛様体パルスレーザー、毛様体破壊レーザー、隅角癒着解離術と当院で行う手術の種類が非常に増えました。特に低侵襲緑内障手術を行う数が増えています。早期緑内障のうちに手術を行う流れは世界的に継続すると思われます。

網膜硝子体関連についてです。黄斑上膜関連（偽黄斑円孔、牽引性黄斑上膜、分層黄斑円孔）の分類が新たに変わりました。en-face OCT で病態を性格に把握し、手術することが必須になってきています。さらに緑内障合併例に対する内境界膜剥離 ILM 剥離術は網膜神経繊維層にダメージを与えることが明らかになってきました。緑内障に配慮しつつ網膜疾患の治療を行わなければなりません。ますます高度な診断と治療技術が求められています。硝子体注射の数の増加が止まりません。スタッフの

大きな負担になってきています。患者さんの分散化、より長期効果の高い新薬でえ対処していきます。

医療機器関連についてです。前眼部 OCT を更新し CASIA2 になりました。前眼部のほとんどを網羅できる強力な診断装置です。涙液メニスカス、ICL のサイズ計算、水晶体や眼内レンズの位置情報などが新たに計測できるようになりました。眼軸長測定装置 IOL マスターから ARGOS+Verion に更新しました。眼内レンズの予想屈折計算の精度が格段に上がりました。乱視矯正の精度も向上しています。つまり裸眼視力が明らかに良くなりました。

３．実　績

末尾の集計のとおり

４．目　標

現在､若手眼科医の教育に特に力を入れております｡安全性を維持しつつスタッフ全員のレベルアップを行なっております。チームとして治療にあたりますのでよろしくお願いいたします。

当科は眼の外科治療を専門とし、北陸でも有数の眼科手術件数を行っております。今後も白内障・屈折矯正・緑内障・網膜硝子体手術を中心に治療して行きます。

最後に紹介していただいている開業医の皆様には本当に感謝しております。できるだけ早くお帰りいただけるよう努力しておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

中央手術部＆アイセンター手術統計

令和３年術式分類	当院
白内障手術	
PEA/ECCE/ICCE（+IOL 含む）	1,788
PEA+ 多焦点 IOL（選定医療）	21
眼内レンズ強膜内固定	45
その他、IOL2 次挿入など	1
緑内障手術	
眼内ドレーン（iStent）	73
線維柱帯切開術（眼内）	55
ロングチューブ挿入術（アーメドなど）	15
線維柱帯切除術	9
隅角癒着解離術 / 毛様体レーザー / その他	11
網膜剥離手術 = 経強膜法	
経強膜裂孔閉鎖術	15
ガス注入 / 冷凍凝固	0
硝子体手術	342
硝子体注射	5
斜視手術	15
翼状片	23
その他	
内反症手術	21
眼瞼下垂手術	25
涙道手術（涙嚢鼻腔吻合術含む）	4

令和３年術式分類	当院
腫瘍摘出	13
霰粒腫	7
眼球摘出	1
その他（外傷を含む）	30
ICL	20
合計	2,539

＊ IOL = 眼内レンズ挿入術
両眼や同時手術を別々に算定した（白内障手術 +IOL は１つ、硝子体 + 白内障は２つ、硝子体 + 緑内障は２つ）
統計はその年度の１月～ 12 月までのものである。外来手術場における軽手術は上記に含まず

眼科外来ブースにおける軽手術	令和３年
角膜異物除去術	2
角膜潰瘍掻爬術	4
結膜異物除去	1
結膜結石除去術	2
涙点プラグ挿入術	30
虹彩光凝固術	0
後発切開術（レーザー）	233
網膜光凝固術（通常）	128
網膜光凝固術（特殊）	58
網膜光凝固術（特殊：光線力学的療法 PDT）	4
硝子体注射	1,157
合計	1,619

＊コストを算定した回数で調べました。

17. 耳 鼻 咽 喉 科

1．スタッフ

部長	大澤陽子	日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医 日本アレルギー学会指導医、専門医 日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門研修指導医 補聴器適合判定医師
医師	森川太洋	日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医
医師	堤内俊喜	日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医
医師（後期臨床研修医）	清水杏奈	

2．診　療

(1) 基本方針

目標は、地域医療をさらに充実させるために病診連携を今まで以上に強固にすることであり、そのためにはとにかく手術症例数を増加させ、さらに質の高い医療を目指すことが重要である。

(2) 診療責任体制

①主治医制

原則的には主治医制をとっている。しかし日頃からスタッフが患者同意の上、交代で診察しスタッフ全員の目でチェックする体制となっている。また、部長が担当医になって随時主治医の相談に応じている。

②研修医の指導

後期研修医：外来は、1年目で耳鼻咽喉科手技全般ができるようにする。手術は、一年目で 口蓋扁桃摘出術、鼻茸切除術、頚部リンパ節生検などの簡単な手術が、二年目で副鼻腔手術、良性腫瘍手術が指導医の下でできるようにする。年一回の学会発表をする。

③主治医不在時の対応

代診医を決め対応する。関連病棟にも連絡する。

④休日・夜間体制

当番を決めオンコール体制で対応している。主治医に連絡があれば主治医も対応する。

⑤救急体制

救急待機医を決めオンコールで24時間対応できる。緊急手術などバックアップ体制も常に心がけている。

⑥病棟回診

部長回診：週 2回 火・木曜日　午前　（大澤）

医師回診：月（清水）・水（森川）・金（堤内）・土（当番制）

(3) 院内症例検討会

毎週月曜日　　耳鼻咽喉科外来　耳鼻咽喉科医師　必要に応じて放射線治療担当医師

毎週水曜日　嚥下摂食チーム（耳鼻咽喉科医師・言語聴覚士・認定看護師・栄養士・薬剤師）

毎月第一水曜日　２の５病棟　耳鼻咽喉科医師・病棟看護師・耳鼻咽喉科外来看護師

(4) 院内症例検討会の記録に保管形態・保管場所

患者の電子カルテに検討した内容を記載。

３．実　績

①手術実績

手術名	令和元年度	令和２年度	令和３年度
鼓膜形成術	6	3	0
鼓膜穿孔閉鎖術	0	0	5
鼓室形成術	8	4	4
顔面神経管開放術	0	0	1
乳突削開術	4	2	3
内視鏡下鼻中隔手術	16	28	30
内視鏡下鼻腔手術	22	38	22
翼突管（後鼻）神経切断術	28	40	24
内視鏡下鼻副鼻腔手術	48	58	52
鼻副鼻腔良性腫瘍手術	2	5	3
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術	2	3	2
顎・顔面骨折整復手術	6	1	3
口蓋扁桃摘出術	65	60	62
舌・口腔良性腫瘍手術	11	9	9
舌・口腔悪性腫瘍手術	5	3	5
顕微鏡下喉頭微細手術	17	4	7
喉頭悪性腫瘍手術	0	0	2
喉頭形成術	1	0	1
気管切開術	18	19	12
頚部良性腫瘍手術	3	4	4
頸部郭清術	14	7	12
顎下腺摘出術	4	5	2
顎下腺良性腫瘍手術	0	0	1
耳下腺良性腫瘍手術	8	7	9
耳下腺悪性腫瘍手術	1	1	1
バセドウ病手術	0	4(内視鏡 0)	4(内視鏡 1)
甲状腺良性腫瘍手術	16(内視鏡 9)	16(内視鏡 3)	16(内視鏡 5)
甲状腺悪性腫瘍手術	34(内視鏡 9)	12(内視鏡 1)	15(内視鏡 1)
上皮小体腺腫・過形成手術	1(内視鏡 1)	2(内視鏡 1)	2(内視鏡 0)
鼓膜チューブ留置術	19	9	17
鼻粘膜焼灼術	82	43	37

手術名	令和元年度	令和２年度	令和３年度
喉頭粘膜下遺物挿入術	0	16	10
頚部リンパ節生検	15	13	10
アデノイド切除術	4	4	3
耳瘻孔摘出術	3	2	1
外鼻形成術	4	3	2
唾石摘出術	9	5	6
その他	16	46	21
合　　計	492	476	420

②学術実績　別紙に記載

４．目　標

急性期医療・がん診療を中心に展開していきます。手術支援機器や内視鏡を用いた高度な手術治療を実施し、良質な医療を提供します。また、地域の医療機関と連携して、早期社会復帰が可能な診療体制を充実させていきます。

18. 放　射　線　部

１．スタッフ

第１放射線科部長	左合 直（日本医学放射線学会専門医）
第１放射線科部長代理	高橋 孝博
放射線科部副部長	楢林 正流（放射線治療専門医（日本医学放射線学会認定）） 研修指導者（日本医学放射線学会認定） がん治療認定医（日本がん治療医認定機構認定））
放射線科部副部長	松井 謙　（日本医学放射線学会専門医）
放射線科部副部長	都司 和伸　（ 日本医学放射線学会専門医）
医　師	金井　理美
医　師	新谷 尭　（放射線治療専門医（日本医学放射線学会認定））
医　師	石田　卓也

２．診　療

＜診断部門＞

CT/MR の件数は何れも過去最高になり、CT は読影、MR は実施を逼迫、特に CT は２万件と当初設定していた上限の目安を超え、放射線専門医会の適正な業務環境に関する勧告からも逸脱しており、具体的な対応をすべき段階である。

同会の画像診断自己評価設問でも、件数に応じた適切な人員の配備と検査適応やプロトコールの決定には全て放射線科医が介入しその適正化を行うことが求められており、これに基づいて以下の対応したい。

１．診断医増員による体制の構築

安定した診断業務と有休取得の両立には診断医の増員が必要であり派遣大学との人事交渉を行う。

２．AI の導入

胸部単純写真やＣＴにおける肺結節の検出、MRA における動脈瘤の検出など部分的な読影においては既に実用化されており、関連領域の診療科とも試用による評価を行い実用レベルで有用と判断されれば導入する。

３．検査の適正化による検査件数の増加抑制と読影負担の軽減

一部ではあるが、過剰な検査適応や撮像プロトコール、必要な情報の記載されていない依頼文、など不適切な検査も散見され、検査数／量の増加や読影負担の一因にもなっている。上記１，２の実現に関わらず適切な検査適応、プロトコール、情報提供は医療として本来必要なことであり、当科からも以下の形で専門医会の勧告に基づく介入を行いたい。

・撮像部位やプロトコールの指示だけで臨床所見の記載のない依頼文、以前の依頼文がコピー／ペーストされたままの実情を反映しない依頼文など、不適切な依頼文には、報告書において指摘する。

・CT や MR においては過不足のない撮像範囲や撮像法の設定の為、可能な範囲で XP や US、（ＭＲにおいては)CT 等の事前検査を行う。放射線科医は状況と必要に応じて依頼医に事前検査をお願いしたり自身でオーダーする。

・事前検査も含めた検査結果、撮像中の画像のモニタリング、その日の検査の進捗状況等、に応

じて、放射線科担当医の判断で、依頼医の指示に対して撮像範囲や撮像法の加減を行う。従って依頼医の指示には全て応じられない例もあるが、その場合はその旨を報告書に記載する。
特に３については、全例読影と常勤放射線科医の介入による検査の適正化、という管理加算の主旨や読影医の負荷軽減も踏まえて各診療科には改めてご理解、ご協力をお願いしたい。

＜治療部門＞

放射線照射による悪性腫瘍（良性腫瘍も一部含む）の治療

令和３年の症例数は239件（のべ件数）で、前年（令和２年）の 275件（のべ件数）に比べて減少を認めた。コロナ禍の影響で全国的に放射線治療患者数の減少が顕著であり、特に令和２年では全国の４割を超える施設で患者数の減少を認めた時もあった。その後やや改善はしたものの、令和３年６月の時点でも３割を超える施設で患者数減少が依然続いているとの報告がなされている（第５回 COVID-19 全国実態調査結果報告，日本放射線腫瘍学会調べ，令和３年８月16日）。当院では令和２年での減少は少なかったため、令和３年になってコロナ禍の影響が明瞭化してきたものと思われた。

原発部位別の内訳で見ると、今年は泌尿器科腫瘍が49件（のべ件数、以下同様）で全症例の20.5%と最も多く、次いで肺・縦隔腫瘍が43件（全症例の18.0%)、乳腺腫瘍が35件（全症例の14.6%）と続く形となった。例年これら３分野が上位となる傾向は変わらないが、令和３年は乳腺腫瘍と肺・縦隔腫瘍が減少する代わりに、４番手である頭頸部腫瘍が28件（全症例の11.7%）と以前より倍以上に増加する結果となっている。症例のほとんどは他科からの紹介であるため、これらの内訳は各科の方針や状況等に依存する部分が大きいことは例年通りであるが、放射線治療の適応を拡大するために引き続き各科とより緊密に連携し、がん治療現場での様々な要求に応えていきたいと考えている。

コロナ禍での大きな変化として、寡分割照射の積極的な導入が学会提言等でも推奨されている。当科でも令和２年よりさらに推し進めた結果、乳房温存療法では全体の８割を超える症例が寡分割照射に置き換わっており、骨転移での緩和照射でも同様に８割以上の症例が寡分割で照射している状況となっている。

また令和２年４月の診療報酬改定で、直径5cm以下の転移性脊椎腫瘍や５個以内のオリゴ転移に対して、高精度放射線治療である「体幹部定位放射線治療（SBRT)」の保険適用範囲が拡大され、当科としてもいち早くこれに対応してきたところであるが、転移性脊椎腫瘍に対しては６例と前年から倍増する結果となっている。一方オリゴ転移に対しては令和３年になって新規に４例の治療を行っており、いずれの高精度治療も着実に症例数を積み重ねつつある。特にオリゴ転移へのSBRTは、少数個のみの転移症例に対し、高精度な照射技術を用いて周囲臓器への線量を抑制しながらも、転移巣へは根治線量を投与することで、長期の局所制御と生存率改善が報告され始めている治療方法である。寡分割照射を採用することから治療期間も従来より短く、患者へのメリットも大きいと思われるため、今後も引き続き各科との連携を図りつつ、積極的に症例を増やしていきたいと考えている。

なお前任者の異動に伴い、温熱治療は終了した。

３．実　績

末尾統計参照

４．目　標

＜治療部門＞

スタッフの異動に伴い診療体制の変更が予定されているところであるが、悪性腫瘍に対する治療モ

ダリティの大きな柱である放射線治療について、その機能を従来と大きく変わらず提供できるように努力することで、地域がん診療連携拠点病院としての責務を果たしていきたいと考えている。

超音波検査

部位 / 年（令和）	令和元年	令和 2 年	令和 3 年
腹部 （放科施行）	12,868(0 件) 12,833	11,010(7 件) 10,997	11328(3 件) 11,328
ドック（腹部）	3,570	2,887	3,018
乳腺	3,226	3,061	3,293
ドック（乳腺）	658	585	635
頚部	3,934	3,738	4,018
その他	874	693	729
総数	20,902	18,502	19,368

・腹部下段は放射線科（放射線技師のドック例も含む）施行数
・腹部の件数はドックも含む
・腹部の（ ）は造影件数
・ドックは診療放射線技師が施行
・頚部は放科医、その他は放科と他科医の合計
・乳腺は外科医が施行、件数にはドックを含む

放射線科部消化管造影検査

部位 / 年（令和）	令和元年	令和 2 年	令和 3 年
上部消化管	538(437)	636(564)	346(276)
小腸	19(1)	13(0)	5(0)
大腸	6(0)	8(0)	7(0)

（ ）：放射線科担当件数

(治療部門)

放射線治療　症例数内訳

	令和元年	令和 2 年	令和 3 年
総症例数	285	275	239
00 脳・脊髄	4	1	3
01 頭頸部	17	15	28
02 食道	15	13	3
03 肺・気管・縦隔	53	68	43
04 乳腺	68	56	35
05 肝胆膵	12	7	13
06 胃・小腸・結腸・直腸	20	16	17
07 婦人科	10	3	6
08 泌尿器系	38	56	49
09 造血器・リンパ	14	22	18

10 皮膚・骨・軟部	17	0	1
11 その他（悪性）	2	0	0
12 良性	15	18	23
（うち）			
転移性脳腫瘍	41	57	29
転移性骨腫瘍	36	42	35

放射線治療（特殊治療） 症例数内訳

治療法／年（令和）	令和元年	令和２年	令和３年
定位照射			
頭部	23	26	21
体幹部（肺腫瘍）	0	3	5
（内、動体追尾照射）	(-)	(1)	(0)
体幹部（肝腫瘍）	0	0	1
（内、動体追尾照射）	(-)	(-)	(-)
体幹部（脊椎）	0	3	6
その他	0	0	4
強度変調放射線治療（IMRT・VMAT）			
総　　数	64	61	81
脳	4	1	3
頭頸部	13	11	25
食道	7	7	3
肺	6	10	4
乳	4	0	0
肝・胆・膵	4	5	2
結腸・直腸	5	6	7
婦人科癌	5	2	3
前立腺	9	10	25
泌尿器癌（前立腺以外）	2	2	4
血液疾患	4	7	4
皮膚	1	-	-
その他	-	-	1
全身照射（TBI）	-	-	-

温熱治療　症例数内訳

治療法／年（令和）	令和元年	令和２年	令和３年
肺・縦隔腫瘍	0	0	0
乳癌	2	0	0
肝臓癌	0	0	0
胆道・膵癌	2	0	0
泌尿器系腫瘍	0	0	0
子宮癌	0	0	0
その他	0	2	0
温熱回数	4	2	0

19. 麻　　酔　　科

1．スタッフ

第１部長	福岡　直	日本専門医機構／日本麻酔科学会　専門医
		日本麻酔科学会　認定医
		厚生労働省麻酔科標榜医
		福井大学医学部臨床教授
第２部長	白塚　秀之	日本専門医機構／日本麻酔科学会　専門医
		日本麻酔科学会　認定医　指導医
		厚生労働省麻酔科標榜医
		抗菌化学療法認定医
		日本体育協会認定スポーツドクター
		福井大学医学部臨床教授
		統括日本ＤＭＡＴ隊員
		福井県災害医療コーディネーター
		日赤災害医療コーディネーター
第３部長	田中　弓子	日本麻酔科学会　認定医　専門医　指導医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		厚生労働省麻酔科標榜医
第４部長	斎藤　律子	日本麻酔科学会　認定医　指導医
		日本集中治療医学会専門医
		厚生労働省麻酔科標榜医
副部長	小柳　覚	厚生労働省麻酔科標榜医
医師	山岸　一也	日本麻酔科学会　認定医　専門医
		厚生労働省麻酔科標榜医
医師	藤岡　沙織	日本麻酔科学会　認定医　専門医
		厚生労働省麻酔科標榜医
医師	片岡　澪	日本麻酔科学会　認定医
		厚生労働省麻酔科標榜医
医監	田邊　毅	厚生労働省麻酔科標榜医
		日本麻酔科学会専門医、指導医
		日本蘇生学会指導医
		社会医学系専門医協会認定指導医、専門医
		福井大学臨床教授

今年度は新たに福井大学より斎藤律子部長が着任いたしました。全身麻酔管理に加え日本集中治療医学会専門医も取得されており麻酔科業務におけるなお一層の充実が図られると期待しております。現状スタッフ８人体制（産休中の片岡医師は 12 月に復帰予定)、委託医師として田辺先生には引き続きお手伝いをいただき、さらに手術麻酔症例に対しては昨年同様福井大学から週４回、金沢医科大学より週１回の医師派遣を継続していただいております。

２．診　療

手術、麻酔部門）

令和３年度の麻酔科依頼件数は2452件（全身麻酔2402件）でした。昨年同様ロボット補助下手術は増加傾向にあり、低侵襲手術のトレンドは変わりなく、麻酔管理においても麻酔科医の知識のバージョンアップは、モニター機器の充実が不可欠であり、基幹病院の機能を果たすためにそれらの拡充に努めるとともに安心、安全、そして信頼される麻酔管理を目指し引き続き周術期管理チーム、手術室スタッフとの協力体制の充実を図っていきたいと考えております。

集中治療部門）

COVID-19のパンデミックも３年目を迎えました。集中治療室では令和２年３月末に初の重症患者を受け入れ､令和４年６月末までに､COVID-19患者の受け入れ人数の総数は26名（令和２年11名､令和３年12名）でした。第６波以降、当院において重症の肺炎患者の集中治療室入室例は減少傾向にはありますが、第７波による感染者の著名な増加に伴い基礎疾患を持つ高齢者のCOVID-19感染例が増え、これら基礎疾患の増悪による集中治療室入室例も散見されます、まだまだ終息とは言えない状況が続いています。令和２年７月より導入されたRRS(Rapid response system)は、令和３年度総起動件数50件、内集中治療室16件となっております。月平均では令和２年3.4件から令和４年は4.2件と増加傾向となっております。引き続き院内重症､急変患者の情報共有がよりスムーズに行えるよう、各科においても情報共有におけるご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

ペインクリニック．緩和外来部門）

麻酔科ペインクリニック／緩和外来として毎週水曜日に外来を開設しております。院内、外からの紹介を中心に、帯状疱疹関連痛、三叉神経痛、CRPS、脊椎術後症候群（FBSS)、中枢痛等に対して薬物、ブロック療法を中心に月平均80名の治療を行っています。術後遷延疼痛、化学療法後後神経障害性疼痛などは十分な治療が行われず潜在的な患者数は多い印象を持っております、また線維筋痛症など統計学的に患者数は多いものの周知されることなく診断、治療に至らない患者も多く存在すると思われます。これらお気付きのことがあれば一度ご相談ください。よろしくお願いいたします。

３．目　標

①　基幹病院として麻酔科医の知識と設備の充実をはかる。（マンパワーも）
②　引き続きCOVID-19患者の受け入れ体制の継続。
③　①、②に必要不可欠なスタッフ、部門との連携強化と十分なコミュニュケーションを図る。

20. リハビリテーション科

1．スタッフ

第１リハビリテーション科部長　　淺野　太洋　　第２リハビリテーション科部長　　髙嶋　理
理学療法課長　豊田　泰美　　第１理学療法係長　山岸　耕二　　第２理学療法係長　梅田　美和
作業療法課長　仲辻　良仁　　第１作業療法係長　山田　英二　　第２作業療法係長　浜田　友紀
言語聴覚療法課長　岩佐　茂美
他、理学療法士15名、作業療法士９名、言語聴覚士４名、助手１名、事務0.5名

2．診　療

・疾患別リハビリテーション（以下リハ）である運動器、脳血管、呼吸、心大血管、がん、廃用症候群のすべての施設基準（Ⅰ）を満たし、摂食機能療法に対応している。
・術後や超急性期の患者については継続性を持たせるために休日リハを実施している。SCUにおいては救急入院時よりリハが介入し、365日リハを実施している。
・ICUにおける早期離床･リハチームに、理学療法士１名、作業療法士１名を専任として配置している。

3．実　績

1）稼動実績

表１　リハビリ科実施単位数（PCU含む）およびスタッフ１日一人当たり単位数

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
理学療法	69,341	64,219	69,422
＊スタッフ一人当たりの単位数	17.5	16.0	16.7
作業療法	42,514	41,076	45,733
＊スタッフ一人当たりの単位数	17.0	17.4	17.0
言語聴覚療法	15,776	14,888	14,926
＊スタッフ一人当たりの単位数	14.1	12.7	13.1

表２　リハビリ科実施単位数（PCU含む）および１件当たりの実施単位数

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
総単位数	127,631	120,183	130,081
延べ件数	77,745	72,542	79,450
１件当たり平均単位数	1.64	1.65	1.64

表3　診療科別リハビリ実施単位数（PCU 含む）

診療科	単位数	診療科	単位数	診療科	単位数
整形外科	33,037	血液内科	6,420	皮膚科	916
脳神経外科	18,598	内科	4,836	産婦人科	839
神経内科	18,149	腎泌尿器科	4,332	その他	432
循環器科	9,964	呼吸器外科	2,180		
呼吸器科	9,795	総合診療科	1,464		
外科	8,880	耳鼻咽喉科	1,167		
消化器科	8,009	形成外科	1,129	合計	130,081

2）費用をかけずに収益改善する取り組み

表4　退院時リハビリテーション指導料（300 点）

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
指導料算定額合計（円）	5,472,000	5,811,000	6,900,000
延べ件数（件）	1,824	1,937	2,300
算定取得率（%）	77.8	85.8	91.2

表5　リハビリテーション総合計画評価料（300 点）

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
評価料算定額合計（円）	5,715,000	7,047,000	1,162,140
延べ件数（件）	1,905	2,349	3,874
算定取得率（%）	49.8	60.5	85.5

表6　専門分野資格者数

専門分野別資格	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
心臓リハビリテーション指導士	11 名	11 名	10 名（-1）
呼吸療法認定士	13 名	13 名	13 名
骨粗鬆症マネージャー	6 名	6 名	6 名
糖尿病療養指導士	3 名	3 名	3 名
NST 専門療法士	2 名	2 名	2 名
日本摂食嚥下リハ学会認定士	2 名	2 名	2 名
腎臓リハビリテーション指導士	1 名	1 名	1 名
排泄機能指導士	1 名	1 名	1 名
認知症ケア専門士	1 名	2 名（＋1）	2 名
職種別資格	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
専門理学療法士（基礎）	1 名	1 名	1 名
認定理学療法士（脳卒中）	2 名	2 名	2 名
認定理学療法士（呼吸）	1 名	1 名	1 名
認定理学療法士（運動器）	4 名	4 名	4 名
認定作業療法士	4 名	4 名	4 名
認定言語聴覚士	1 名	1 名	1 名

がんのリハビリテーション研修修了者：
医師 9 名、看護師 9 名、理学療法士 18 名、作業療法士 11 名、言語聴覚士 5 名

3）その他

［医療チーム］

・NST　・RST　・CST　・認知症ケア　・褥瘡対策検討委員会

［健康教室］

・糖尿病教室（月 2 回 / 内科）　令和 3 年 11 月～令和 4 年 3 月開催
・心臓病教室（月 1 回 / 循環器科）　中止
・人工股関節教室（年 1 回 / 整形外科）　中止

［学生研修の受け入れ］

・臨床実習受け入れ
理学療法　：　若狭医療福祉専門学校　7/12-9/9
作業療法　：　金城大学　6/14-7/21

＊ 令和 3 年度も COVID-19 の影響により、研修会、資格試験の中止、または延期、各健康教室の中止など、活動は大きく制限された。

4．目　標

1）リハビリテーション科人材育成キャリアラダー評価会を実施する。
2）専門領域資格、職種別認定資格取得を奨励しスキルを向上させる。がんリハの研修修了者を増やす。
3）各医療チームへ積極的に参加する。COVID-19 の感染拡大状況をみながら、人工股関節教室の再開、健康教室の講師を行う。
4）臨床実習の受け入れを行う。

21. 歯科・歯科口腔外科

１．スタッフ

部長	山田　和人	日本口腔外科学会専門医、指導医 日本歯科麻酔学会認定医 日本口腔科学会認定医、指導医 歯科医師臨床研修指導医
歯科医師	木村　瞳	令和３年10月１日から令和４年９月30日まで育児休暇
後期研修歯科医師	島村　佳明	令和３年10月１日赴任
非常勤歯科医師	入江　道文	

今年度は令和３年10月より産休に入った木村瞳先生に代わり、島村佳明先生が赴任されました。歯科医師３名、歯科衛生士４名（正規職員４名)、歯科技工士１名の診療体制です。

２．診　療

1）外来診療

外来患者数は延べ13063人で、そのうち新患2590人、紹介患者1196人です。

昨年の外来患者数は延べ12027人で、そのうち新患2439人、紹介患者1202人でしたので、これに比較して、外来患者数で1036人増加、新患で151人増加、紹介患者は６人減となりました。また紹介率では昨年48.5%が50.9%と2.4%増加しています。

2）入院

入院患者数は218人で、昨年の193人に比較して、25人増加しています。

３．実　績

別表＜入院手術統計＞のとおり

４．次年度の目標

新年度の目標は、歯科医師の確保と口腔機能低下症への取り組みです。

当院単独型の初期臨床歯科医師研修施設を申請が受理され、本年は、単独型の初期研修歯科医師が赴任されました。来年も、単独型の初期研修歯科医師を確保できるようにしたいと考えます。

また口腔機能低下症に対しても施設基準が取れ次第、組んでいこうと考えています。

＜入院手術統計＞

		令和元年	令和２年	令和３年
形態異常	顎変形症	0	0	0
	小帯異常	1	0	2
	歯肉増殖症	0	0	0
	歯槽骨不正	1	0	3
外傷	裂傷	0	0	0
	上下顎骨骨折	0	0	0
	下顎骨骨折	0	0	1
	上顎骨骨折	0	0	0
	頬骨骨折	0	0	0
	術後プレート除去	1	0	0
炎症	下顎周囲膿瘍	0	0	0
	顎下膿瘍	0	0	0
	眼窩下膿瘍	0	0	0
	頬部膿瘍	0	6	0
	オトガイ下膿瘍	0	0	0
	翼突下顎膿瘍	0	0	0
	ろう孔形成	0	0	0
	歯性上顎洞炎	0	0	0
	唾石症	1	0	0
	骨髄炎	4	3	0
	抜歯後感染	0	0	0
	歯周炎	0	0	10
	唾液腺炎	0	0	0
	顎放線菌症	0	0	0
	その他	2	0	1
嚢胞	歯根嚢胞	7	3	3
	切歯管嚢胞	0	3	1
	含歯性嚢胞	7	9	21
	術後性上顎嚢胞	0	0	0
	ガマ腫	0	0	0
	その他	0	2	0
腫瘍	良性腫瘍	0	2	0
	悪性腫瘍	4	5	1
顎関節	顎関節症	0	0	0
抜歯	埋伏智歯抜歯	144	113	134
	歯科集中治療	1	0	0
その他	口腔内出血	0	0	0
計		173	146	177

22. 総 合 診 療 科

１．スタッフ（令和３ 年 ４ 月１日現在）

消化器内科　第２部長　　日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医、指導医
道上　　学　　日本内科学会総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、指導医
日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医

消化器内科　副部長　　日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医
里見　聡子　　日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医

腎臓泌尿器科　副部長　　日本内科学会総合内科専門医、日本腎臓学会専門医
松井　佑樹　　日本透析医学会専門医、日本移植学会移植認定医

腎臓泌尿器科　医師　　日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会腎臓専門医
石淵　絹人　　日本透析医学会専門医

腎臓泌尿器科　医師　　日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会腎臓専門医
山岸　瑞希　　日本透析医学会専門医

腎臓泌尿器科　医師
島本　侑樹

２．診　療

平成28年 ４ 月から振り分け内科外来を総合診療科に変更して診療を開始し、平成29年 ４ 月から令和３年３月までは毎週水曜日および内科、呼吸器内科担当日の一部を総合診療科医師が担当していた。その後、令和３年４月には所属医師の大幅な変更、追加があり、消化器内科の里見副部長が総合診療科第二部長として着任し、腎臓内科から４人の医師が診療に携わっていただけることになった。

入院加療も平成29年 ５ 月より入院５床での開始しているが入院主治医は外来で診療した内科系医師および総合診療科医師であり、すべてが総合診療科医師ではないのが現状である。また、令和２年から新型コロナウイルス感染の拡大により、発熱スクリーニングを設置・開始し、総合診療科扱いとして入院加療（ただし、主治医は病院から指定された各科医師）を行っている。

３．実　績

外　来	外来患者数（人）	2,454	紹介患者数（人））	188
	１日あたり患者数（人）	10.1	紹介率（%）	39.5
入　院	新入院患者数（ 人 ）	328	逆紹介患者数（人）	276
	患者延べ数（人）	4,482	逆紹介率（%）	58.0
	１日あたり患者数（人）	12.3	平均在院日数（日）	13.9

（新型コロナウイルス感染患者を含まない）

４．次年度の目標

日本専門医機構による新専門医制度でのプログラムでは基幹病院として認可されたが現在までに専攻医の応募はない。現状ではまだ施設認定基準を満たす診療や指導はできておらず、引き続き診療や指導の充実を目指していく。また、選任医師の着任も依然として重要課題である。

23. 救　急　部

１．スタッフ

救急部第１部長	嶋田　喜充
救急部第２部長（循環器科部長）	坪川　明義
救急部副部長（外科部長）	川上　義行
医師	中西　泰造
医師	成山　美々
集中治療室看護師長	高島　恵
集中治療室看護係長（救急担当）	朝田　和枝（救急看護認定看護師）

２．診　療

＜救急部の活動＞

１　救急部作業部会の定期開催（11 回開催）

２　救急医療検討委員会（年１回開催 ）

第１回　令和４年３月 14 日（月）16：00 ～ 17：00

議題　1）令和３年度（令和３年４月～令和４年２月）救急関連統計

2）救急車応需率

3）令和３年度救急外来受け入れ不可症例数

4）ドクターヘリ・防災ヘリの受け入れ件数報告

5）救急カート薬品定数表について

6）その他

３　院内における講習会

1）ACLS 協会による BLS、ACLS コース開催

（対象：院内医師及びコメディカル、募集定員約６名）

BLS　第１回　　令和３年６月 19 日（土）６名参加

BLS　第２回　　令和３年６月 20 日（日）４名参加

ACLS 第１回　　令和３年８月 28 日（土）・29 日（日）４名参加

2）日本救急医学会によるＩＣＬＳコース開催

（対象：院内医師及びコメディカル、募集定員約 12 名）

ICLS 第１回　令和３年 ６月 12 日（土）12 名参加

ICLS 第２回　令和３年 11 月 13 日（土）11 名参加

3）日本内科学会　内科救急・ICLS 講習会

（対象：院内医師　募集定員約６名）

JMECC　第１回　令和３年 12 月 18 日（土）６名参加

４　院外における会議

1）令和３年度福井県ドクターヘリ運航調整委員会

令和４年２月９日（水）19：00 ～

嶋田医師出席

2）原子力災害医療に関する会議
令和 3 年度 第 1 回原子力災害医療アドバイザー会議 _2021/10/05
令和 3 年度 第 2 回原子力災害医療アドバイザー会議 _2021/12/08
和 3 年度 第 3 回原子力災害医療アドバイザー会議 _2022/03/16
嶋田医師出席（Zoom）

5　福井県防災ヘリコプター離着陸訓練
令和 3 年 10 月 7 日（木）14 時～ 15 時

３．実　績

表　1　救急外来来院患者総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年度	1,414	1,579	1,462	1,517	1,624	1,317	1,300	1,375	1,672	1,796	1,291	1,157	17,504
令和2年度	541	975	945	1,138	1,284	1,095	1,093	1,103	1,001	1,050	902	1,036	12,163
令和3年度	1,057	1,278	1,177	1,280	1,227	1,141	1,080	1,090	1,148	1,095	1,013	1,058	13,644

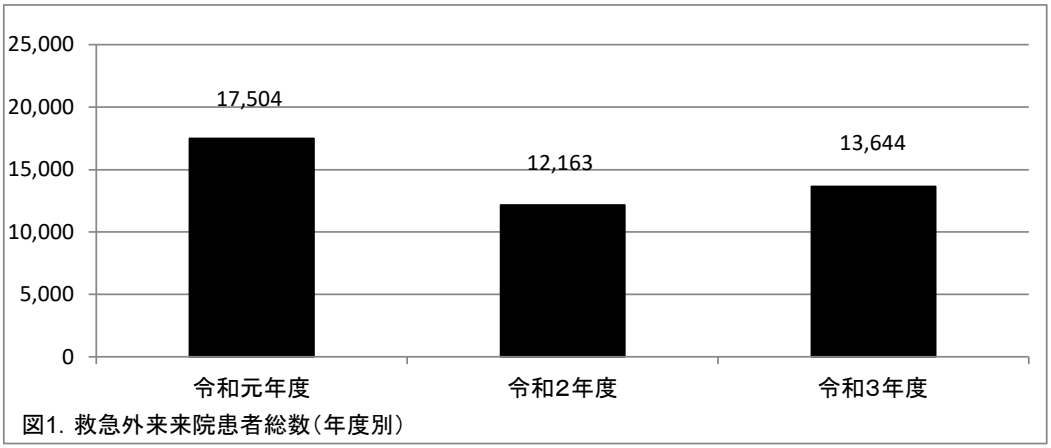


図1. 救急外来来院患者総数（年度別）

表　2　救急車における来院患者総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年度	254	277	263	259	301	238	258	249	320	267	247	254	3,187
令和2年度	122	208	218	249	275	212	249	261	262	349	232	285	2,922
令和3年度	286	288	264	305	304	287	269	284	305	334	304	326	3,556

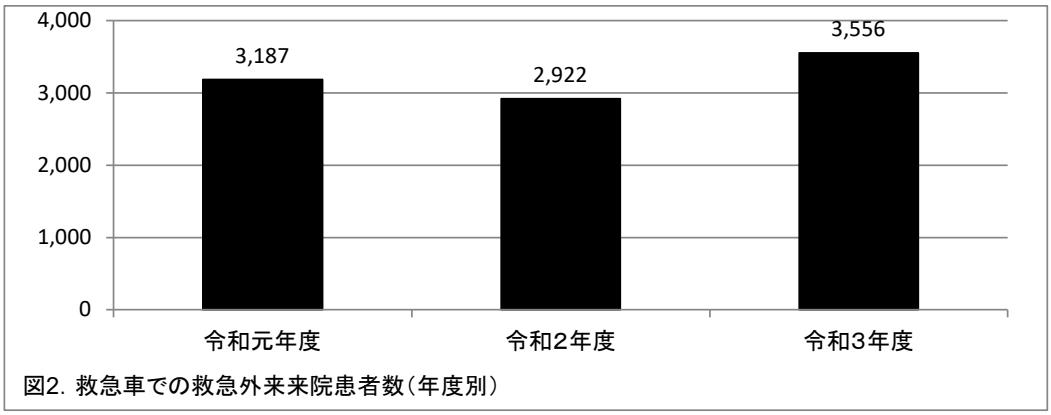


図2. 救急車での救急外来来院患者数（年度別）

表　3　救急外来から入院した患者総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年度	314	327	323	326	323	293	302	303	327	352	280	251	3,721
令和2年度	139	247	235	265	263	231	275	300	259	334	257	292	3,097
令和3年度	305	290	289	298	302	304	262	270	287	313	296	284	3,500

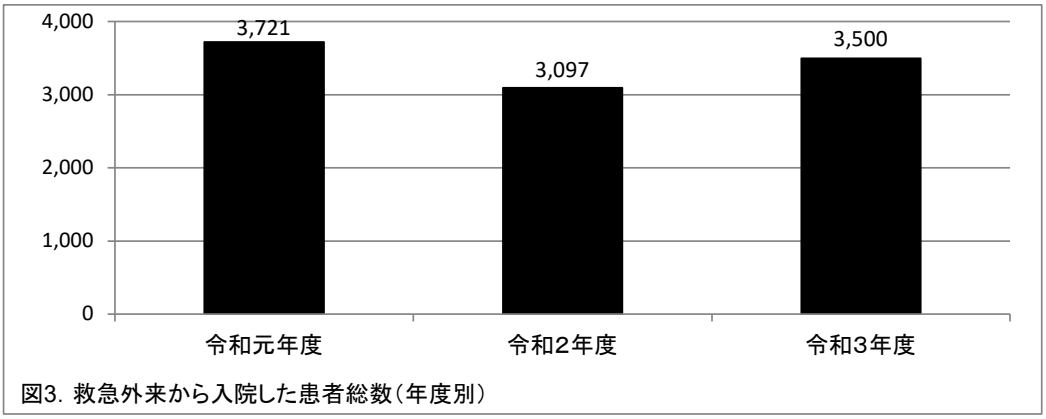


図3. 救急外来から入院した患者総数（年度別）

【 救急外来来院患者特性（年齢別） 】

年齢階級	0歳	1歳～4歳	5歳～14歳	15歳～24歳	25歳～34歳	35歳～44歳	45歳～54歳	55歳～64際	65際～74歳	75歳以上	総計
令和元年度	385	1,226	1,069	1,351	1,726	1,620	1,602	1,508	2,390	4,627	17,504
令和2年度	217	641	590	776	957	945	1,096	1,120	1,905	3,916	12,163
令和3年度	327	940	768	946	1,080	967	1,139	1,094	2,078	4,305	13,644

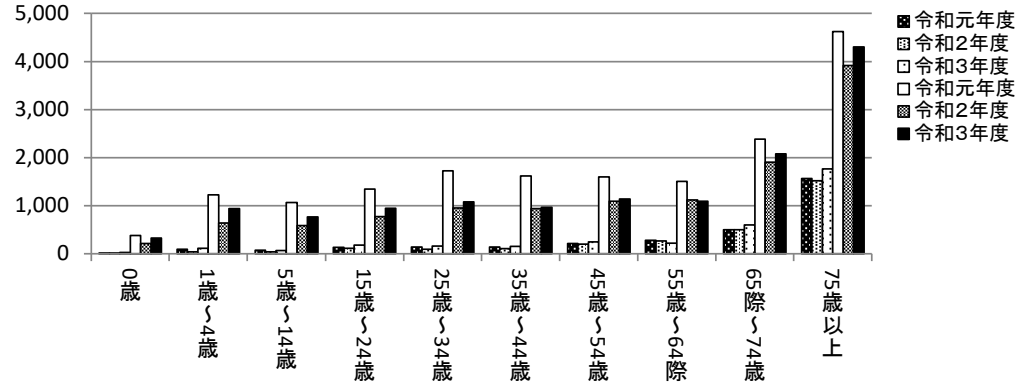


図4. 救急外来来院患者数（年齢別）

年齢階級	0歳	1歳～4歳	5歳～14歳	15歳～24歳	25歳～34歳	35歳～44歳	45歳～54歳	55歳～64際	65際～74歳	75歳以上	総計
令和元年度	20	94	74	137	142	146	215	282	506	1,571	3,187
令和2年度	15	42	45	114	100	112	202	267	500	1,525	2,922
令和3年度	27	114	68	180	164	154	251	225	604	1,769	3,556

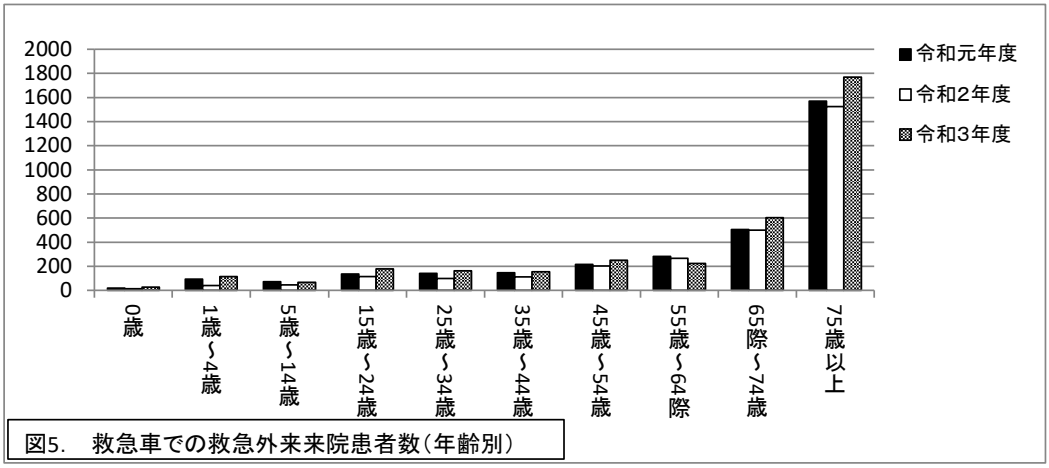


図5. 救急車での救急外来来院患者数（年齢別）

年齢階級	0歳	1歳～4歳	5歳～14歳	15歳～24歳	25歳～34歳	35歳～44歳	45歳～54歳	55歳～64際	65際～74歳	75歳以上	総計
令和元年度	108	216	128	102	204	176	200	275	582	1,730	3,721
令和2年度	89	78	76	79	167	132	184	249	519	1,524	3,097
令和3年度	127	148	123	121	198	160	185	205	573	1,660	3,500

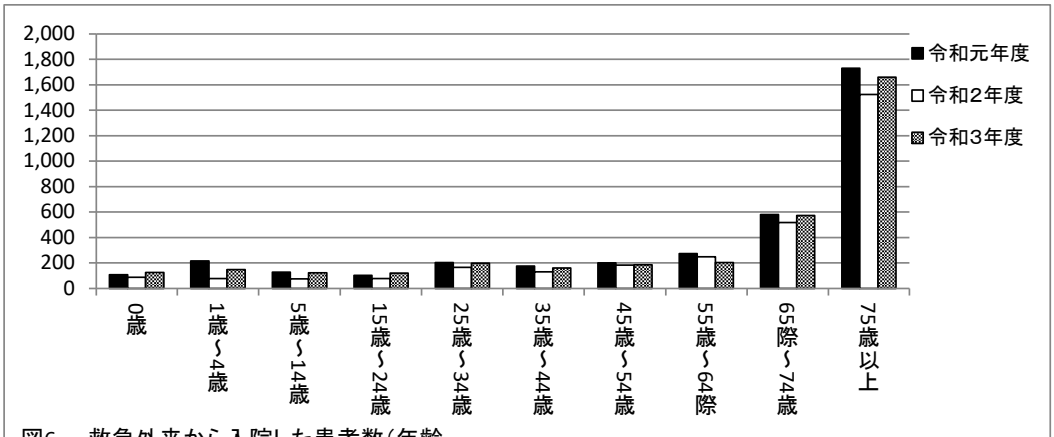


図6. 救急外来から入院した患者数（年齢

【 救急外来来院患者特性（最終診療科別） 】

救急患者数	内科	消化器内科	呼吸器内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	皮膚科	泌尿器科	循環器内科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	呼吸器外科	神経内科	歯科	形成外科	麻酔科	総合診療科	血液内科	総数
令和元年度	1822	1934	742	1679	604	2278	1340	1020	861	740	498	516	1116	1	182	765	223	553	4	626	0	17,504
令和2年度	603	1426	409	753	502	1752	1165	715	735	676	393	382	728	8	106	647	161	406	2	594	0	12,163
令和3年度	296	1548	512	1160	612	1846	1214	706	750	764	425	428	776	12	144	635	227	534	2	944	109	13,644

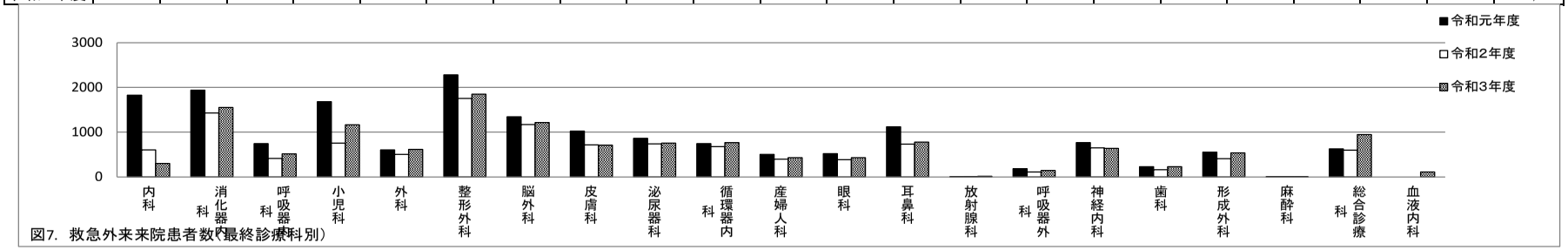


図7. 救急外来来院患者数（最終診療科別）

救急車搬送患者数	内科	消化器内科	呼吸器内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	皮膚科	泌尿器科	循環器内科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	呼吸器外科	神経内科	歯科	形成外科	麻酔科	総合診療科	血液内科	総数
令和元年度	252	346	134	132	137	544	510	54	138	281	37	11	132	0	55	263	6	50	0	105	0	3,187
令和2年度	155	332	114	74	101	515	481	53	150	275	41	8	104	0	40	270	3	50	0	156	0	2,922
令和3年度	93	385	181	130	149	575	510	44	169	323	46	7	136	0	66	277	8	75	0	342	40	3,556

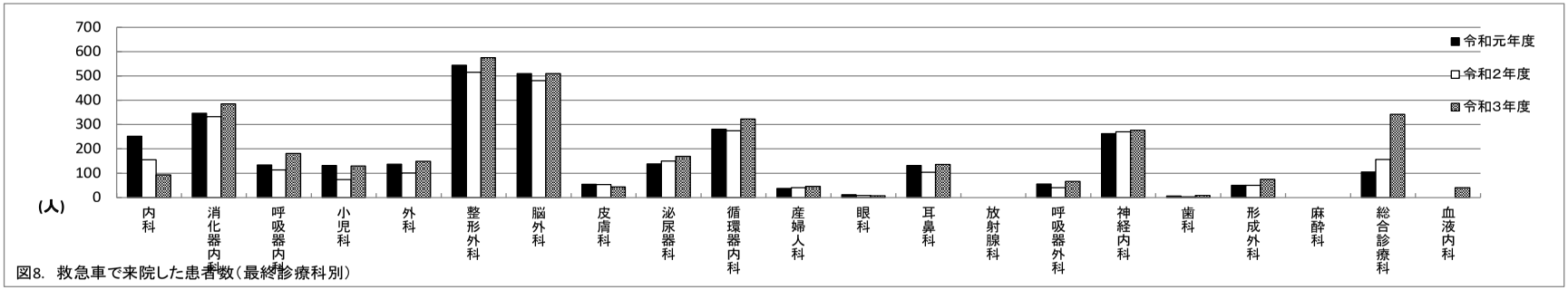


図8. 救急車で来院した患者数（最終診療科別）

入院患者数	内科	消化器内科	呼吸器内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	皮膚科	泌尿器科	循環器内科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	呼吸器外科	神経内科	歯科	形成外科	麻酔科	総合診療科	血液内科	総数
令和元年度	162	498	232	431	292	337	452	85	197	294	248	11	85	0	88	240	3	17	0	49	0	3,721
令和2年度	153	436	151	220	254	309	438	74	197	229	200	13	61	0	43	245	5	3	0	66	0	3,097
令和3年度	64	440	217	363	294	336	420	43	185	282	241	12	67	0	69	236	8	11	0	145	67	3,500

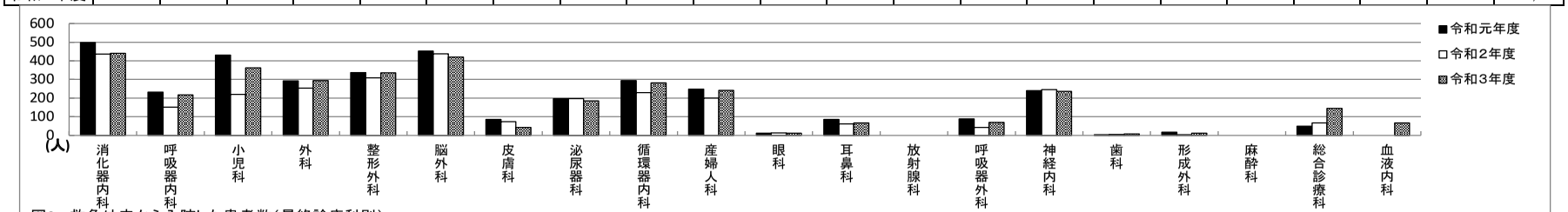


図9. 救急外来から入院した患者数（最終診療科別）

24. 健　診　部

1．スタッフ

部　長	西川　邦寿	日本内科学会認定医、指導医
		日本肝臓学会専門医
		日本消化器内視鏡学会専門医、指導医
		日本消化器病学会専門医、指導医
		日本大腸肛門病学会専門医、指導医
		日本人間ドック学会認定医、専門医 、指導医
		人間ドック健診情報管理指導士
		日本消化器がん検診学会総合認定医
		日本医師会認定健康スポーツ医
		日本医師会認定産業医
		ＰＥＧ・在宅医療研究会　専門胃瘻造設者
		日本ヘリコバクター学会　Ｈ.pylori(ピロリ菌)感染症認定医
		日本消化管学会専門医
		日本臨床内科医会専門医
副部長	吉田　誠	日本外科学会専門医
		日本乳癌学会認定医、乳腺専門医
		検診マンモグラフィ読影医師
嘱託医師	濱中　大三郎	日本超音波医学会専門医
（令和３年６月２５日退職）		日本核医学会専門医
		日本核医学学会ＰＥＴ核医学認定医
		日本医師会認定産業医
		日本医師会認定健康スポーツ医
		日本人間ドック学会認定医、専門医
		人間ドック健診情報管理指導士
		日本人間ドック学会健診指導医
		肺がんＣＴ検診認定医師
		放射線診断専門医
		日本医学放射線学会研修指導者
		日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医

健診業務課長	酒井　雅枝
看護師長	中野　敦子
健診業務係長	中山　美穂
看護師	３名
派遣・嘱託看護師	２名（午前のみ）
主　事	２名
派遣・委託事務員	６名（午前のみ２名）

２．診　療

当院の中期ビジョン「地域に寄り添う良質な医療を提供する病院になる」に基づき、令和３年度の健診部の目標を令和２年度に引き続き「安全と質の向上を図り、優しい健診の提供と健全経営の寄与を実践する」とし、目標達成に向け、具体的で効果的なアクションプランを設定した。

令和２年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い発令された福井県緊急事態宣言に従い当院も４月２０日から５月２２日の期間、健康診断と人間ドックを中止したが、令和３年度は年間を通して稼働した。しかしながら、肺機能検査と特定健康診査については中止を継続したままである。
令和３年度の受診者数は、医師の退職等スタッフの減少もあったが、令和２年度並みを維持することができた。

業務実績としては、別表「人間ドック・健康診断受診者数」、「特定健康診査および特定保健指導実施者数」、「主な検査実施数」、「人間ドックの検査別がん発見数」のとおりである。

３．実　績

末尾のとおり

４．目　標

「安全と質の向上を図り、優しい健診の提供と健全経営の寄与を実践する」を引き続き令和４年度の目標に掲げ、早期発見のためのがん検査推奨・二次検査の受診勧奨、健診当日の保健指導実施など、安全と質の向上や健全経営に向けた取り組みを実践する。

人間ドック・健康診断受診者数

種　　別		性別	令和元年度	令和２年度	令和３年度	前年度増減
人間ドック	一日ドック	男	1,241	1,034	971	△ 63
		女	893	685	704	19
		計	2,134	1,719	1,675	△ 44
	福井市国保ドック	男	112	61	129	68
		女	97	52	115	63
		計	209	113	244	131
	協会けんぽ	男	2,483	2,124	2,019	△ 105
		女	1,581	1,379	1,325	△ 54
		計	4,064	3,503	3,344	△ 159
	生活習慣病	男	312	322	308	△ 14
		女	542	552	546	△ 6
		計	854	874	854	△ 20
	船員ドック	男	31	31	24	△ 7
		女	8	5	3	△ 2
		計	39	36	27	△ 9
	脳ドック（単独）	男	50	25	20	△ 5
		女	44	33	49	16
		計	94	58	69	11
	その他	男	10	7	10	3
		女	259	187	145	△ 42
		計	269	194	155	△ 39
	総　　計		7,663	6,497	6,368	△ 129
健康診断			3,626	3,576	3,700	124

特定健康診査および特定保健指導実施者数

種別		性別	令和元年度	令和２年度	令和３年度	前年度増減
特定健康診査	ドック併用	男	3,735	3,231	3,166	△ 65
		女	2,821	2,422	2,494	72
		計	6,556	5,653	5,660	7
	単　独	男	3	0	0	0
		女	71	0	0	0
		計	74	0	0	0
	総　計		6,630	5,653	5,660	7
特定保健指導者数（初回）	動機付け支援	男	1	6	6	0
		女	7	5	0	△ 5
		計	8	11	6	△ 5
	積極的支援	男	8	5	8	3
		女	0	0	5	5
		計	8	5	13	8
	総　計		16	16	19	3

主な検査実施数

	令和元年度		令和２年度		令和３年度		前年度増減	
胃内視鏡	6,119		4,642		5,200		558	
胃透視	358		496		218		△ 278	
脳ドック	482	（388）	362	（304）	428	（359）	66	（55）
腹部超音波	3,570	（895）	2,887	（750）	3,018	（808）	131	（58）
子宮がん	1,951	（1,044）	1,675	（858）	1,674	（913）	△ 1	（55）
マンモグラフィ	1,815	（1,012）	1,568	（897）	1,592	（915）	24	（18）
乳房超音波	658	（622）	585	（552）	635	（609）	50	（57）
肺機能	2,814	（92）	10	（10）	0	（0）	△ 10	（△ 10）
眼底	3,674	（429）	3,149	（392）	3,267	（412）	118	（20）
ＰＥＴ	44	（29）	23	（12）	22	（9）	△ 1	（△ 3）
卵巣検診（＊）	911		812		859		47	
肺ドック（＊）	170		148		126		△ 22	
喉頭がん（＊）	150		92		106		14	
前立腺がん（＊）	1,189		1,117		1,251		134	
骨塩定量（＊）	156		130		147		17	
ＨＰＶ（＊）	53		44		51		7	
ＦＤＴ視野（＊）	100		83		85		2	
ピロリ菌（＊）	192		127		117		△ 10	
胃がんリスク（＊）	84		62		37		△ 25	
血管ドック（＊）	324		239		250		11	
甲状腺（＊）	165		141		143		2	

＊印の項目および＊印以外の（　）内の数値は、オプション検査として実施した件数

人間ドックの検査別がん発見数

全コース（生活習慣病予防健診を含む）

検査名	病名	平成 30 年	令和元年度	令和２年度
診察	甲状腺がん		2	
	胆嚢がん	1		
血液検査	前立腺がん	8	7	3
	肺がん	1	1	1
	大腸がん	1	1	
	多発性骨髄腫	1		
	骨髄増殖性腫瘍	1		
	白血病			
	膵臓がん		1	
尿検査	膀胱がん	2	2	1
便検査	大腸がん	5	8	9
	悪性リンパ腫	1		
胸部レントゲン	肺がん	3	4	1
	悪性リンパ腫			
	骨腫瘍			
胃内視鏡	胃がん	10	9	4
	悪性リンパ腫	3	1	3
	食道がん	2	2	1
	十二指腸がん			2
	声帯がん	1		
胃透視	胃がん	1		
腹部超音波	膀胱がん	1	1	2
	腎臓がん	1	1	1
	肝臓がん	1	1	
	胆嚢がん	1		
	胆管がん		1	
	膵臓がん			
	悪性リンパ腫		1	
乳がん検診	乳がん	3	7	6
子宮がん検診	子宮頸がん	2	6	1
	子宮体がん	1		
	卵巣がん			1
脳ドック	髄膜腫		1	1
	甲状腺がん		1	
	海綿状血管腫		1	
肺ドック	肺がん		3	1
喉頭がん検診	咽頭がん			
	声門がん		1	
肺がん	肺機能検査			1
計		51	63	39

（※）１月から 12 月の集計結果

25. 病 理 診 断 科

1．スタッフ

部　　長	大越　忠和	日本病理学会病理専門医・病理専門医研修医指導医
		日本臨床細胞学会細胞診専門医・教育研修指導医
		厚生労働大臣認定死体解剖資格
臨床検査技師	藤田　幸宏	細胞検査士
	国兼　結麻	細胞検査士
	清水　優仁	細胞検査士
	平井　英誉	（令和４年１月１日～）
	小林　のぞみ	（令和３年４月１日～令和３年９月７日）

2．診　療

組織診断：常勤医師１名と非常勤医師 12 名（福井大学）により診療業務を行っている。
高品質な標本の作製及び免疫染色や特殊染色の適切な併用により、正確かつ迅速な診断が可能である。

細胞診断：ほぼ全例において細胞検査士と細胞診専門医によるダブルチェックを実施することにより、精度の高い診断が可能である。

病理解剖：死体解剖資格保有者による適法な病理解剖を実施している。

3．実　績

	令和３年度
組織診断	6,185
術中迅速	206
借用標本	80
細胞診断	6,705
術中迅速	80
病理解剖	10

臨床病理検討会

令和３年度は下記の臨床病理検討会（CPC）を実施した。

臨床病理検討会　2021 年 10 月 6 日（水）剖検例 A21―3

4．目　標

・院内実施可能な免疫染色および特殊染色の項目を拡充する。
・若手技師の育成に努める。
・院内外の研修会等へ積極的に参加する。

26. 脳神経センター

１．スタッフ

＜脳神経外科＞

センター長	西村　真樹	
	早瀬　睦	
	取越　貞治	
	北原　孝宏	
	中島　悠介	
	笠島　一洋	（令和３年10月１日着任
	山下　智之	
	佐野　徳隆	（令和３年９月31日異動）

＜神経内科＞

髙野　誠一郎
今村　久司
早瀬　史子
吉沖　舞衣
田中　大暉

２．診　療

脳神経センターは脳神経外科と神経内科で構成されています。医師、看護師、リハビリのスタッフ、MSW との多職種で月曜から金曜まで毎日、脳卒中で入院した患者さんのカンファレンスを行っています。その上で急性期治療の方針、長期的な方針を決めています。

また、脳神経外科の医師、または神経内科の医師が毎日当直し、脳卒中患者さんの治療をより早く開始できるように努めています。日中も、脳卒中センターの医師が、神経系疾患の救急治療を担当しています。その結果、福井県随一の脳卒中診療施設として、歩み続けています。

27. がん診療センター

1．スタッフ

がん診療センター長：今村　信

がん診療センター副センター長：田中　文恵

事務局：地域医療連携課（がん診療センター）、医療情報課（がん登録）

2．業　務

相談支援部門　：がん相談員の看護師、社会福祉士、公認心理師らが協力し、がん患者の不安や悩みに対する傾聴、助言、情報提供などの適切な支援を行う。がん相談窓口での面談および電話相談、病状説明時におけるがん領域の専門・認定看護師の同席、がんケアニーズ評価の面談の他、ハローワークや産業保健支援センターとも連携し、就職支援にも対応している。在宅療養を希望する終末期のがん患者には、入院安心カード「グリーンカード」の発行を行う。またがん患者会「スマイル会」事務局として、世話人との連携や患者会開催準備、広報を担当する。
患者対象の集合イベントは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

化学療法部門　：がん化学療法に携わる専任医師、認定看護師、認定薬剤師を中心として、安全で能率的な化学療法の実施を推進する。外来化学療法室における治療管理、患者支援、ベッド管理等を行う。がん化学療法部会では、レジメンの妥当性、マニュアルの整備、外来化学療法室の運用、入院化学療法に関する様々な事項を審議する。

緩和ケア部門　：緩和ケアに関するスクリーニング（がんケアニーズ評価）に基づき、専門的な緩和ケアニーズを有する患者に対し、緩和ケア実施計画書を作成し緩和ケアチームが介入する。
緩和ケアを提供する場のひとつである緩和ケア病棟を緩和ケアチームが後方支援する。
緩和ケア外来を開設し、外来通院患者が安心して在宅療養ができるよう支援する。
緩和ケアチームは緩和医療検討部会と協働し院内の緩和医療に関する検討やマニュアルの整備などを行う。

放射線治療部門：放射線治療の専従医師、専従看護師、専従技師を中心として、安全で確実な放射線治療を実施する。症例に応じた治療計画、治療管理、経過観察と患者指導を行い、定期的な機器の精度管理も行う。

がん登録部門　：専従のがん登録実務者を配置し、国立がん研究センターが提示する「標準登録様式」に基づき、院内がん登録業務を実施する。また、生存状況の把握に務め、登録データは集計や分析のため、毎年国立がん研究センターや福井県がん登録部会に提供を行う。

遺伝診療検討部門：診療科医師、臨床遺伝専門医を中心に、遺伝診療について検討する。
また、がんゲノム医療連携病院（令和３年４月１日付）として、がんゲノム外来担当医、診療科医師、病理診断医、臨床遺伝専門医等と共にがんゲノム医療を推進する。

３．実　績

◆相談支援部門

がん相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和３年度	160	132	154	123	129	116	153	149	127	117	129	138	1,627

(1) スマイル会・がんサポート教室・・・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催実績なし
スマイル会会員（会員数　16名）に、コロナ禍におけるがん対策のチラシを発送した。

◆化学療法部門

外来化学療法の件数（抗悪性腫瘍剤、生物学的製剤）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和３年度	437	408	423	414	455	435	419	433	421	452	434	463	5,194

◆緩和ケア部門

緩和ケアチーム依頼件数

	内	血内	神内	呼	消	循	外	整	形	脳	呼外	皮	泌	婦	眼	耳	歯	合計
令和３年度	9	6	0	16	23	0	28	0	1	0	2	0	9	11	0	3	0	108

※令和元年度より非がん患者を含む

◆がん登録部門

がん登録数（Stage0～Ⅳ　その他）

	口腔咽頭	食道	胃	結腸	直腸肛門	肝臓	胆嚢・胆管	脾臓	喉頭	肺・気管支
令和２年度	19	17	139	158	49	30	24	47	8	141
	骨・軟部組織	皮膚	乳房	子宮頚部	子宮体部	卵巣	前立腺	腎	腎盂・尿管	膀胱
令和２年度	8	43	103	41	14	22	107	24	9	51
	脳・神経	甲状腺	リンパ腫・骨髄腫	白血病	骨髄増殖性疾患	原発部位不明	その他	全部位（総計）		
令和２年度	30	18	59	14	22	3	32	1,232		

◆遺伝診療検討部門

(1) 遺伝カウンセリング数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和３年度	1	2	2	2	3	2	2	2	3	0	4	4	27

(2) がん遺伝子パネル検査出検数（12月より出検開始）

	12月	1月	2月	3月	合計
令和３ 年度	2	3	3	0	8

◆研修会の開催状況

(1) 地域がん診療研修会：院外医師や当院の医師によるがんに関する研修

① 11/26（金）「緩和」 ② 1/28（金）「化学療法」 ③ 2/16（水）「早期診断」

計 3 回

(2) がん看護セミナー：当院の認定看護師によるがん看護に関する研修

① 8/20（金）「皮膚・排泄ケア」「乳がん」② 10/15（金）「摂食・嚥下障害」「がん化学療法」

③ 11/19（金）「放射線療法」「がん性疼痛」④ 1/21（金）「緩和ケア」「アピアランスケア」

計 4 回

(3) 9/20（月・祝）「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」

(4) 9/12（日）　「福井県緩和ケアチーム検討会」

(5) 1/19（水）　「福井赤十字病院　在宅症例検討会」

※詳細に関しては、地域医療連携課「研修会開催の実績および参加人数」を参照

28. 腎センター（透析センター）

1．スタッフ

腎センター長　小松　和人（再掲）
第１腎臓・泌尿器科部長　伊藤　正典（再掲）
第３腎臓・泌尿器科部長　片野　健一（再掲）
医　師　松井　佑樹（再掲）、山岸　瑞希（再掲）、石淵　絹人（再掲）、島本　侑樹（再掲）
看護師長　妹尾　真理子（臓器移植院内コーディネーター、腎移植コーディネーター）
看護係長　織田　史江
看護師　宮木　早百合（透析療法指導看護師、透析技術認定士）、塚本　ひとみ、前田　裕子、村上　美佐江、猪島　靖子（透析技術認定士）、大庭　和枝、丸岡　真紀（透析認定看護師）北島　幸絵、坂本　かずえ、吉川　香織、山本　ゆり子、坂上　唯、小野　悠子、髙橋　裕子（透析担当）浅田　幸江、市地　香理、松田　恵、佐々木　直子（外来担当）
看護助手　堀内　佳子（透析担当）、塚本　恵子（外来担当）
臨床工学技術課長　重矢　直彦（透析技術認定士）（再掲）、同係長　山中　雅弘（再掲）
臨床工学技士　金田　博史（透析技術認定士）（再掲）、森　彩華（再掲）、宮本　龍一（再掲）平嶋　克次（再掲）、北島　真樹（再掲）、小田　泰嗣（透析技術認定士）（再掲）（透析担当）

2．診　療

１）腎臓内科領域：

令和３年度は、あらたに石渕先生に常勤医として加わっていただき、さらに福井大学腎臓内科から島本先生も後期研修医として御勤務いただきました。お二人の加入のおかげで腎臓内科としてカンファレンスも充実して、症例発表も多くこなすことができました。

その成果として当科の主要検査である腎生検は、39 例実施することができました。原発性腎疾患のみならず、全身性疾患に伴う腎病変の腎生検も多く実施できました。特に血液疾患に合併した腎病変を多く経験させていただき、また治療の機会も拝見できてとても有意義でした。

一方、慢性腎臓病（CKD）教育入院は主に伊藤および片野先生が担当して１週間のパスに従い継続しています。こちらはコロナ感染の影響のためか、７例ととても減少してしまいました。腎代替療法選択指導は今後も、当科診療の大きな柱となります。症例数の増加をはかってまいります。

当科の診療対象の大半は CKD あるいは透析患者となっていますが、とくに心血管合併症は循環器科・脳神経外科、また感染症は呼吸器科・消化器科など、疾患ごとに多くの診療科のお世話になっているところです。今後とも院内連携なにとぞよろしくお願いいたします。

なお、松井、山岸、石渕、島本の４名は総合診療科の一員として、発熱スクリーニングを中心として、コロナ感染症対策の第一線で診療にあたりました。地味な仕事ですが、当院の使命を果たすべく頑張ってくれました。感謝しています。

２）透析領域

令和３年度は、妹尾師長、織田係長の新しい看護体制で主に血液透析に取り組みました。昨年度同

様、腎センターは、新型コロナ感染症の影響を大きく受けることになりました。他透析施設からの新型コロナ感染患者様の受け入れのみならず、当院通院中の患者様の感染あるいは濃厚接触も頻度が増加したため、スタッフにはおおきな肉体的精神的ストレスをかけることになってしまいました。この場を借りてその努力にお礼申し上げます。

さてセンターでは透析監視装置計35台にて稼働いたしました。うちオンラインHDFについては21台で実施されており、長期合併症予防につながる血液浄化療法が重矢技士長を先頭に優秀な臨床工学技士により管理され、満足いく治療成績がえられています。

腎代替療法のうち、血液透析において令和3年度は合計45名の透析導入を行いました。当院における維持透析患者数は、令和にはいり血液透析、腹膜透析の両者をあわせ110名前後を維持しながら診療にあたっております。血液透析患者さんは合併症も多く、スタッフは身体のみならず精神的ケアも求められています。今後ますます増加することの避けられない要介護透析患者様への対策が急務となっております。

腹膜透析は令和3年度、新規導入がなくさらに腹膜炎のため患者数が減少してしまい、年度末で4名となってしまいました。前述しましたとおり、腎代替療法選択指導は当科の大きな柱です。なんとか腹膜透析患者数の増加をはかりたいとおもいます。

シャント血管内治療（VAIVT）症例は合計144例となっています。片野部長の指導により石渕医師の手技の上達がめざましく今後も病診連携の柱の一つになるものと期待しております。

腎代替療法以外の浄化療法では、例年どおり消化器科より炎症性腸疾患に対する顆粒球除去療法、また難治性腹水に対する腹水濾過濃縮のご依頼を消化器内科・外科さらには婦人科からも多くいただきました。さらに神経疾患・皮膚疾患の血漿交換療法もご紹介いただき診療する機会をいただきました。ご紹介いただきました各診療科にたいして心よりお礼申し上げます。

さて最後になりますが、長年、腎臓内科をけん引してくださった片野先生が3月末で異動されることとなり、腎センターとしてもおおきな衝撃に見舞われました。今後も県立病院でお世話になるかと思います。先生の益々のご活躍を祈念して令和3年度年報報告の結びとさせていただきます。

３．実　績

令和３年度（令和３年４月～令和４年３月）稼働件数　　令和３年年９月 ２床増床したため、10 月から 68 床で計算

事　　項	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	合計
血液透析	900	877	900	974	905	878	827	834	887	844	827	919	10,572
血液濾過透析（オフライン HDF）	32	58	32	27	26	18	0	0	0	0	0	0	193
血液濾過透析（オンライン HDF）	576	566	576	589	559	567	672	683	703	659	590	671	7,411
再診（血液透析関係）	11	11	11	12	17	39	15	13	16	22	10	8	185
ＣＡＰＤ（外来指導管理）	5	4	5	3	5	8	10	6	6	6	2	4	64
血漿交換	0	0	0	3	0	6	0	2	0	0	0	0	11
腹水濾過濃縮再静注法	7	9	7	4	3	5	6	7	5	9	7	12	81
吸着式血液浄化法（白血球除去療法）	21	3	21	11	0	0	0	0	0	0	0	0	56
その他血液浄化療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7
合　計	1,552	1,528	1,552	1,623	1,515	1,521	1,530	1,545	1,617	1,540	1,443	1,614	18,580
稼働日数	24	26	24	27	26	26	26	26	26	26	24	27	308
A　稼働日数による透析センター内のベッド数	1,536	1,664	1,536	1,728	1,664	1,664	1,768	1,768	1,836	1,700	1,632	1,836	20,332
B　室外透析・CAPD・再診・を除く件数	1,394	1,482	1,394	1,592	1,493	1,488	1,500	1,521	1,593	1,446	1,417	1,590	17,910
透析センター内の利用率（　B÷A　）　％	90.8	89.1	90.8	92.1	89.7	89.4	84.8	86.0	86.8	85.1	86.8	86.6	88.1
外来	1,320	1,337	1,320	1,414	1,378	1,369	1,388	1,397	1,460	1,413	1,244	1,442	16,482
入院	232	171	232	207	137	152	142	148	151	127	199	172	2,070
室外透析（ＩＣＵ）	7	8	7	16	5	5	4	3	9	3	8	0	75
室外透析（病棟）	1	2	1	0	5	1	0	0	0	0	16	10	36
ＶＡＩＶＴ件数（透視下）	8	8	13	9	11	6	8	10	12	6	8	8	107
ＶＡＩＶＴ件数（超音波下）	3	4	7	3	5	7	2	3	2	0	1	0	37

年度毎稼動状況

事　　項	令和元年度	令和２年度	令和３年度
血液透析	13,464	11,204	10,572
血液濾過透析 (オフライン HDF)	1,193	1,157	193
血液濾過透析 (オンライン HDF)	3,639	5,398	7,411
血液透析＋選択的β 2-MG 吸着器使用	0	0	0
ＣＡＰＤ (バッグ交換・チューブ交換を含む外来指導管理)	53	56	64
血漿交換	33	3	11
腹水濾過濃縮再静注	63	63	81
選択的血漿成分吸着法（免疫吸着）	0	0	7
選択的血漿成分吸着法（ビリルビン吸着）			
選択的血漿成分吸着法（ＬＤＬアフェレーシス）			
吸着式血液浄化法（薬物）			
吸着式血液浄化法（白血球除去療法）	32	55	56
再診（血液透析関係）	242	255	185
ＶＡＩＶＴ（経皮的シャント拡張術・血栓除去術）	188	176	144
合計	18,719	18,367	18,724
室外透析（ＩＣＵ）	161	101	75
室外透析（病棟）	77	29	36
外来	15,628	15,578	16,482
入院	3,081	2,592	2,070
稼働日数	313	313	308
A 稼働日数による透析センター内のベッド数	19,458	20,032	20,332
B 室外透析・CAPD・再診・を除く件数	18,184	17,733	17,910
透析センター内の利用率　(B ÷ A　)　%	93.5	88.5	88.1

＊平成 27 年 3/30 より 30 床へ移転増床
＊平成 27 年 12/4 より 31 床へ増床
＊平成 28 年 12/16 より 32 床へ増床
＊令和２年 2/15 より 33 床へ増床
＊令和３年 10/1 より 35 床へ増床

患者実数

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
患者実数	514	440	467
当院通院中の慢性維持透析患者数	127	105	123
血液透析	351	261	275
血液濾過透析	35	44	49
β 2-MG 吸着器使用	0	0	5
CAPD	6	5	5
その他の血液浄化	74	30	30
ＶＡＩＶＴ（経皮的シャント拡張術・血栓除去術）	188	176	144
他施設からの治療患者	275	219	180
新規導入患者 (慢性)	35	35	48
新規導入患者 (急性含めた合計)	51	47	66
生体腎移植	2	2	2

（人）

転　帰

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
新規導入（ＣＲＦ）	35	35	50
急性（ＡＲＦ）	16	12	18
死亡	25	17	21
離脱	10	11	12
転入	271	204	180
転出（転院含）	287	221	184
帰院	2	5	3
他（県外など）	1	0	0

（人）

転院依頼件数

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
細川泌尿器科	3	4	8
藤田記念病院	1	1	2
あすわクリニック	5	8	10
福井厚生病院	4	4	2
福井県済生会病院	1	1	1
福島泌尿器科		1	1
福井県立病院	1	2	2
越前外科内科病院	1		
林　病院（越前市）			
広瀬病院（鯖江市）	5	5	5
公立丹南病院	1	1	1
坂井市立三国病院			
鈴木クリニック			1
福井勝山総合病院		4	1
福井総合病院			
福井循環器病院	4	3	3
はやしクリニック	1	2	
中村病院	1	1	
福井大学医学部付属病院			
木村病院（あわら市）			1
鯖江腎臓クリニック	7	4	6
大山クリニック			1
県外・その他	1	2	0
合　　計	36	43	45

他施設からの紹介患者数　　＊ VAIVT のみの紹介も含む

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
細川泌尿器科医院	40	26	33
藤田記念病院	4	7	6
あすわクリニック	16	32	30
福井厚生病院	7	1	4
福井県済生会病院			2
福島泌尿器科医院	1	1	
福井県立病院			
越前外科内科病院	6	4	2
林　病院（越前市）	2	1	1
広瀬病院（鯖江市）	11	3	11
公立丹南病院	19	18	3
公立小浜病院			
鈴木クリニック	23	15	6
福井勝山総合病院	28	23	15
福井循環器病院	3	4	1
市立敦賀病院			2
はやしクリニック	40	27	26
中村病院	1		1
福井大学医学部付属病院	1	1	1
福井総合クリニック	3	2	4
木村病院（あわら市）	3	3	3
鯖江腎臓クリニック	44	23	21
大山クリニック			1
坂井市立三国病院	5	11	3
泉ヶ丘病院	2	2	3
県外	16	0	1
合　　計	275	204	180

（人）

29. 呼吸器センター

１．スタッフ

呼吸器センター長（第１呼吸器内科部長）	赤井　雅也
呼吸器外科部長	松倉　規
第２呼吸器内科部長	出村　芳樹
呼吸器外科副部長	山岸　弘哉
呼吸器内科副部長	多田　利彦
呼吸器内科医師	大井　昌寛
呼吸器内科後期研修医	軸屋　紀宏
呼吸器内科後期研修医	武田　俊宏
呼吸器外科後期研修医	南　紀久子
呼吸器内科後期研修医	黒川　浩輔
呼吸器外科後期研修医	森谷　哲士
慢性呼吸器疾患認定看護師	秋山　奈津江
看護師	藤本　えりか
看護師	東　真美
パート看護師	三田村　由聖

【歴史・沿革・今後の展望】

呼吸器科は京都大学胸部疾患研究所の内科第Ｉ部門（現・京都大学呼吸器内科）と外科部門（現・京都大学呼吸器外科）からの人員派遣で、1964 年８月に設置されました。内科・外科混合体制は 1992 年９月まで続き、1992 年 10 月からは呼吸器外科が分離、独立しました。

呼吸器外科分離後も週２回のカンファレンス、病棟当番、人間ドックで胸部異常が指摘された患者の診療などを合同で行うなど、診療は密に協働して行ってきました。

今後更に呼吸器症状の患者さんが、今までよりわかりやすく安心して受診できるように、従来の呼吸器科と呼吸器外科のスタッフが協働して最良の医療を提供するために、2011 年４月に呼吸器センターを正式に開設しました。

2022 年３月 31 日現在のスタッフは上記の通りです。

30. 消化器センター

１．スタッフ

令和３年度の福井赤十字病院消化器センターは消化器内科医師 10 名、腹部外科医師 9 名と消化器センター / 中央内視鏡室看護師・技師・助手ならびにブースマネージャーの総勢 44 名編成で外来診療ならびに消化器内視鏡診療を行いました。

２．診　療

消化器センターは平成 23 年 4 月に消化器内科医および腹部外科医が同一ブース内で外来診療を行うことで、内科・外科の境界を取り払い、互いに協力して迅速かつ合理的な診療を行うことを目的に開設されました。

平成 27 年 11 月 16 日には外来診療ブース再編成による腹部外科の 7 番ブース全面移転参入により、両診療科による同一ブース内診療が完全実現しました。

腹痛や便通異常に代表される消化器症状に悩む患者さんは非常に多く、時には早急な手術治療が必要になるケースも少なくありません。当センターでは消化器症状を有する患者を内科と外科の両方の立場から同時にかつ適切に診療できる体制を整え、多種多様化する消化器疾患に対して最高の医療の提供を目標としています。

毎年 2 回開催している消化器センター運営会議では消化器内科および外科医師全員、消化器センター看護師、内視鏡室看護師、ブースマネージャーの各々の代表の参加を得て、消化器診療に改善に関わるあらゆる課題について継続的に話し合った。

また、消化器領域における最新情報を連携医の先生方に提供する使命のもと、福井赤十字病院病診連携医会の後援を得て、平成 24 年 12 月に発足した福井赤十字病院消化器カンファレンスは令和元年度の開催で第 7 回を数えましたが、未曾有の新型コロナ感染症アウトブレイクのため、令和 3 年度の開催も残念ながら見送らざるを得ませんでした。しかしながら、コロナ禍収束後には必ず第 8 回の開催を約束致します。

当センターはこれからも消化器カンファレンスの継続開催を通じて、連携医の先生方に消化器領域における最先端の情報提供を行うとともに、今後も消化器疾患を専門とする内科医と外科医が互いに協力し、質の高い消化器診療を展開するとともに地域医療に貢献できるよう日々尽力致します。

３．目　標

令和 4 年度も消化器センター運営会議を定期的に開催し、外来診療における業務改善を通して、消化器センターのコンセプトである内科・外科の境界の越えた質の高い消化器外来診療の実現に向けて尽力し、これを実践します。

また、第 8 回消化器カンファレンスの企画・開催により、日常診療で協力頂いている連携医の先生方に最新の消化器診療情報を提供するとともに我々の診療レベルの更なる向上を目指します。

31. 地域周産期母子医療センター

１．スタッフ

＜産婦人科＞

センター長　田嶋　公久
辻　隆博
福田　真
佐藤　久美子
山本　真
江坂　有希恵（令和４年１月１日着任）
杉田　元気（令和３年９月30日異動）

＜小児科＞

渡邉　康宏
平野　聡子
玉村　宗一
野村　詠史
田中　佳代

２．診　療

周産期母子医療センターは、分娩前後（周産期）の母児を対象として、産科と小児科が協力しながら診療を行っています。産科部門（２－４病棟）と新生児部門（ベビーセンター）から構成されます。

・産科部門（2-4病棟）

令和３年度の分娩数は294件と昨年度より61件増加しました。帝王切開率は34.4％で、昨年度（33.0%）より高くなりました。早産率は9.5％で昨年度10.7％よりやや減少しています。令和３年度に分娩を行った初産婦164人中37人（22.6％）が、35歳以上の高齢初産婦でした。ART妊娠の割合は、全出産の7.4％でした。合併症妊娠の管理は、日本周産期・新生児医学会専門医の佐藤医師が中心となって取り組んでいます。また、令和４年１月からは江坂医師も加わりマンパワーが強化されました。また、新型コロナ感染妊婦に対する帝王切開のシミュレーションを今年度も行いました。助産師・病棟、手術部看護師・産科医・小児科医・麻酔科医が連携して今後の症例発生に備えました。令和３年度には、新型コロナ陽性妊婦の帝王切開を３件、濃厚接触妊婦の経腟分娩を１件行うことになり、シミュレーションによる訓練が生かされたと思います。

・新生児部門（1-4病棟　ベビーセンター）

当院のベビーセンターは、院内で出生した新生児の預かり業務を行うとともに、院内外で出生した未熟児や病的新生児の治療を行っています。令和２年度にベビーセンターに入院となった病児は141人と昨年度よりも増加しています。うち、他院から搬送された病児は21人でした。患児の治療には、渡邉康宏部長をはじめ５人の常勤小児科医が当たっています。ベビーセンターは、10床の病床数を持ち、感染症罹患児に対応するための陰圧式空調装置を設置した感染症室を備えています。また、新生児用ＭＥ機器として、レスピレーターと持続陽圧呼吸（ＣＰＡＰ）装置を設置し、

24 時間体制で病児の治療・看護を行っています。

地域周産期母子医療センターの今後として、胎児・母体の異常をいち早く診断し、素早い治療が行えるように、さらなる整備が必要です。また、国内の新型コロナ感染症は未だ収束をみません。今後は、妊婦・新生児の感染防止のみならず、医療従事者の安全も考慮した診療体制を構築したいと考えます。

32. 集 中 治 療 室

1．スタッフ

室長　　白塚　秀之

麻酔科医師　　部長：福岡　直　他医師７名

看護職員　　36名看護師長：高島　恵　看護係長：朝田和枝、原田幸枝、米村里美

認定看護師：朝田和枝、原田幸枝専門看護師：朝田和枝

看護師35名　看護助手１名

2．業　務

General ICUとして「内科系・外科系を問わず、呼吸・循環・代謝その他の全身管理を強力、かつ集中的に行うことにより、治療効果を期待しうる急性期の患者を収容する」と共に、Intensive Observation Unit集中観察室の性格も加味して「Close Observation Heavy Duty Nursing綿密な観察と強力な看護」を要する患者も必要に応じて収容する

3．目　標

1　COVID-19重症患者受け入れ継続

2　RRS対応に対する認知度を上げる　RRT看護師の育成

3　効果的な早期リハビリテーション以下早リハの介入

4．実　績

【表１　稼働実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計もしくは平均
新規入室患者	46	37	49	44	46	46	46	46	49	44	36	32	521
退院患者総数	47	40	45	50	43	46	47	49	50	44	34	50	545
延入院患者数	139	117	137	134	98	132	137	126	136	145	123	127	1,551
平均患者数	4.6	3.8	4.6	4.3	3.2	4.4	4.4	4.2	4.4	4.7	4.4	4.1	4.3
病床利用率	57.9%	47.2%	57.1%	54.0%	39.5%	55.0%	55.2%	52.5%	54.8%	58.5%	54.9%	51.2%	53.2%
病床稼働率	77.5%	63.3%	75.8%	74.2%	56.9%	74.2%	74.2%	72.9%	75.0%	76.2%	70.1%	71.4%	71.8%
COVID-19患者受け入れ時のICU一般病床利用率	68.3%	53.7%	65.2%	62.8%	44.7%	63.2%	63.4%	60.0%	62.7%	66.8%	71.9%	60.8%	62.0%
予定患者数	19	14	24	20	20	24	20	23	24	18	17	32	255
緊急患者数	27	23	25	24	26	22	26	26	25	26	17	16	283
救外入室患者数	19	18	7	9	14	11	12	7	14	17	8	7	143
術後予定外入室	6	3	11	3	9	5	7	12	9	10	3	4	82
平均在室日数	3	3	2.9	2.9	2.2	2.9	2.9	2.7	2.7	3.3	3.5	3.1	2.9
在室日数(8～14日)	4	5	2	2	3	4	2	3	4	6	1	4	40
在室日数(15日以上)	2	1	0	0	0	1	2	2	2	2	1	3	16
入室日数0日死亡	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
入室日数0日	2	1	1	0	0	0	1	1	0	3	0	1	10
押し出し患者数	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4
死亡退院患者数	3	0	1	1	2	1	4	2	3	2	0	2	21
転院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

重症度、医療・看護必要度

対象者数	139	117	137	134	99	132	137	126	136	145	123	125	1,550
該当者数	134	112	129	125	94	125	133	118	129	141	113	114	1,467
必要度%	96.4%	95.7%	94.2%	93.3%	94.9%	94.7%	97.1%	93.7%	94.9%	97.2%	91.9%	91.2%	94.6%

【表２　治療実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
挿管	12	6	7	8	9	5	7	4	11	14	6	9	98
人工呼吸器有	13	7	7	7	9	5	7	4	11	14	6	9	99
人工呼吸器 NPPV	0	8	5	4	0	3	7	3	4	2	1	2	39
ネーザルハイフロー	1	9	2	2	1	5	5	4	1	2	1	7	40
気管切開	4	1	0	2	1	1	1	2	0	1	1	2	16
スワンガンツ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3
ＩＡＢＰ	0	0	0	0	0	1	1	1	2	1	2	0	8
ＰＣＰＳ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
ＰＭＸ	1	0	0	1	0	1	2	2	0	1	1	1	10
ＣＨＤＦ	4	2	1	6	0	2	2	2	5	3	3	1	31
血漿交換	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
低体温療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
透析	3	2	2	6	1	3	1	1	4	1	3	0	27

【表３　ICU 満床報告状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
満床日数 (0 時時点)	8	2	2	8	0	2	5	5	4	6	3	3	48
満床報告数	4	1	1	5	0	1	3	3	2	3	3	2	28
ICU 満床による救急車お断り症例数	0	0	2	7	0	0	2	2	1	1	3	1	19

【表４　退室科別状況】

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	3	1	0	3	0	1	1	0	0	0	1	1	11
神経内科	3	0	0	2	3	0	1	1	0	1	0	0	11
呼吸器内科	0	2	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	6
消化器内科	0	0	1	3	0	1	4	2	3	1	0	1	16
循環器内科	11	13	1	8	4	8	7	9	11	8	5	5	90
血液内科	0	0	0	0	1	1	2	1	1	2	0	2	10
小児科	0	0	2	1	0	0	0	1	1	0	1	1	7
外科	6	4	4	8	9	5	6	9	11	6	6	10	84
整形外科	3	2	4	3	3	4	5	3	2	1	2	3	35
形成外科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
脳神経外科	8	3	9	4	5	3	4	4	6	10	4	6	66
呼吸器外科	4	2	4	1	3	4	8	7	5	3	2	8	51
皮膚科	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3
腎臓泌尿器科	7	7	11	10	11	14	6	10	7	10	9	9	111
産婦人科	0	4	5	4	3	1	2	1	1	0	3	2	26
眼科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
耳鼻咽喉科	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	4
歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	2	2	0	1	1	1	1	0	0	0	3	2	13
総計	47	40	45	50	43	46	47	49	50	44	36	50	547

【表５　その他】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
早期リハビリ算定数	125	113	112	105	93	108	95	90	121	141	103	98	1,304
RRS 起動件数	6	1	5	4	1	3	4	5	4	4	2	9	48
早期栄養件数	35	38	18	35	30	21	24	18	30	34	26	32	341

COVID-19 患者入室状況

稼働実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規入室患者	2	1	0	1	1	1	1	0	0	0	3	2	12
退室患者数	1	2	0	1	1	1	1	0	0	0	3	2	12
延入院患者数	12	6	0	10	10	4	3	0	0	0	11	23	79
平均在室日数	6	3	0	10	10	4	3	0	0	0	4	12	4
死亡退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
挿管	2	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	8
人工呼吸器	2	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	8
NHF	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	2	7

33. 中 央 手 術 室

1．スタッフ

室長	小松　和人
麻酔科医	8名
臨床工学技師	4名：中央手術室・集中治療室兼任で配属
看護師	36名：師長1名、係長3名（1名は中央滅菌室）看護師32名
看護助手	3名
クラーク	2名

2．目　標

1）所定手術枠・全身麻酔枠を利用実績に基づき調整し、手術室の有効利用に努める。
総手術件数5,800件以上を維持し、全身麻酔件数前年以上を目指す。
2）緊急手術を積極的に受け入れる。
3）内視鏡手術、ロボット支援手術の拡大（膵尾部切除、腎・副腎切除）に対応する。
4）稼働率が少ない手術部屋の有効活用し、手術台平均稼働率60%以上を目指す。
5）委託業者の変更に伴い、手術部屋準備業務を拡大し、術間30分以内を目標とし時間内稼働率を上げる。
6）入退院支援センターと協力し、周術期患者への関りの充実を図る。
7）新型コロナウイルス感染症患者への対応を、継続して実施できるよう整備していく。

3．業　務

令和3年度

1）総手術件数は、5,761件。昨年より731件増加した。
2）緊急手術は、548件。昨年より3件増加した。外科が最も多く180件であった。
3）全身麻酔は、2,402件で昨年より188件増加。全体の41.6%にあたる。
4）手術台平均稼動率は、8時台40.9%、17時台37.6%である。午前平均稼動は53.２%、午後平均稼動は60.0%であった。
5）17時以降の時間外延長手術件数は、717件。総手術件数に対して約12.4%が時間外延長していた。
6）内視鏡（腹腔・胸腔・膀胱・関節・子宮・鼻等）手術件数は、1,743件で全体の30.2%にあたる。そのうちロボット手術件数は109件（泌尿器科・外科）であった。
7）新型コロナウイルス感染症の受け入れシミュレーションを2回実施し、体制を整えた上で、陽性患者や疑似症例の受け入れを実施している。
8）各科の手術ベット枠・全身麻酔枠を見直し、7月より変更した。待機手術の減少と手術室稼働率上昇を目指している。

４．実　績

診療科別総手術件数の推移

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
外科	883	826	874
整形外科	824	751	806
脳外科	190	175	171
呼吸器外科	218	128	138
産婦人科	529	505	561
耳鼻科	243	214	226
泌尿器科	573	459	525
眼科	1,925	1,390	1,846
皮膚科	224	182	63
形成外科	225	215	319
歯科	187	146	177
循環器科	32	37	53
その他	1	2	2
総　数	6,054	5,030	5,761

各診療科別緊急手術件数の推移

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
外科	191	189	180
整形外科	82	98	99
脳外科	90	88	102
呼吸器外科	11	5	14
産婦人科	68	63	51
耳鼻科	11	14	8
泌尿器科	41	26	35
眼科	37	43	40
皮膚科	1	8	1
形成外科	5	5	7
歯科	0	0	0
循環器科	4	6	11
その他	1	0	0
合計	542	545	548

令和３年度実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和３年度合計
手術内訳	総手術件数	490	448	443	441	472	502	523	519	497	476	430	520	5,761
	総在室時間	82,043	75,437	83,961	73,589	77,868	84,028	86,814	85,059	81,581	78,091	71,174	95,391	975,036
	予定手術件数	433	403	395	403	429	450	468	478	449	436	394	475	5,213
	緊急手術件数	57	45	48	38	43	52	55	41	48	40	36	45	548
	時間外延長件数	43	56	59	44	62	61	65	67	56	70	49	85	717
	時間外延長％	8.8%	12.5%	13.3%	10.0%	13.1%	12.2%	12.4%	12.9%	11.3%	14.7%	11.4%	16.3%	12.4%
	外来手術室件数	32	31	36	45	35	33	40	41	40	44	22	54	453
麻酔件数	全身麻酔件数	206	173	212	183	205	194	214	212	200	202	179	222	2,402
	脊椎・硬膜外麻酔	8	6	9	4	6	1	4	5	5	3	2	2	55
	腰椎(硬)麻酔件数	52	44	40	41	46	47	50	54	57	58	51	67	607
	伝達麻酔件数	6	7	4	9	5	13	8	4	7	9	8	10	90
	局所麻酔件数	69	218	178	204	210	247	247	244	228	204	190	219	2,458
診療科別手術件数	外科	81	67	76	65	68	71	71	87	64	76	63	85	874
	整形外科	56	63	59	56	76	68	80	62	68	73	68	77	806
	脳外科	18	21	24	10	14	13	11	9	14	15	8	14	171
	呼外科	10	10	8	11	7	9	17	15	14	15	9	13	138
	産婦人科	55	41	46	42	43	49	47	50	43	41	45	59	561
	耳鼻科	27	17	18	18	24	18	16	19	20	15	15	19	226
	泌尿器科	49	38	42	56	31	36	43	43	47	46	42	52	525
	眼科	155	157	121	134	151	178	180	171	170	146	140	143	1,846
	皮膚科	1	2	5	7	4	6	10	8	4	5	4	7	63
	形成外科	23	24	24	25	29	32	29	29	32	22	22	28	319
	歯科	13	3	16	14	18	15	15	16	18	16	14	19	177
	内科・消化器科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	循環器	2	4	4	3	7	7	4	10	3	5	0	4	53
稼動	8時平均(8:50)	42.9	37.2	42.4	38.3	39.7	38.9	41.3	42.2	41.1	45.0	38.3	43.4	40.9
	午前平均	55.0	48.6	51.6	51.3	48.0	54	53.2	56.3	53.3	55.6	52.9	58.1	53.2
	12時平均(12:50)	56.1	50.7	53.5	50.0	52.9	53.9	51.3	55.6	51.7	53.8	50	60.1	53.3
	午後平均	57.6	51.8	57.9	56.0	57.9	61.7	60	63.2	62.8	63.5	59.9	67.5	60.0
	17時平均(16:50)	32.8	26.6	32.8	33.3	38.1	36.1	40.7	43.3	38.3	42.7	36.4	50.5	37.6
	最大稼動	75.1	72.5	77.8	76.7	72.5	83.3	80.4	75.1	81.1	80.7	76.5	83.3	77.9
	最大時間	14	13	14	14	13	14	14	14	13	15	14	14	13.8

34. 中 央 滅 菌 室

１．スタッフ

看護師長１名（中央手術室兼任)、看護係長１名（中央手術室兼任)、委託業者 18 名

２．目　標

中央部門としての役割上関係各部門の協力のもとに、当院で使用される医療材料の消毒・洗浄・組み立て・滅菌・保管までの保障を管理する。またこれらに関わる作業者の作業環境の安全を確保する。

３．業　務

１）洗浄滅菌処理件数は、245,151 件で、昨年より 8,783 件増加した。

２）洗浄機の使用回数は、21,039 件で、昨年より 6,049 件増加した。

３）滅菌機器の使用回数は、7,698 件で、昨年より 81 件増加した。

４．実　績

１）年度別滅菌処理件数及び洗浄・乾燥機使用回数

	令和３年度
セット物	3,588
交換トレー	3,425
単品類	184,646
洗浄・乾燥	53,492
合　　計	245,151

注：セット物＝生検、骨髄、縫合、PTCD、動脈撮影、気管切開など

：交換セット＝哺乳瓶・乳首カスト、クスコセット、歯科・耳鼻科カスト

２）年別洗浄機使用回数

	令和３年度
超音波洗浄機	984
減圧沸騰洗浄機	1,345
ウオッシャーディスインフェクター洗浄機	11,084
カート洗浄機	7,048
チューブ洗浄機	578
合　　計	21,039

３）年別滅菌機使用回数

	令和３年度
高圧蒸気滅菌機	4,072
ステラッド滅菌機	3,626
合　　計	7,698

35. 薬　剤　部

1．スタッフ

薬剤部長	小　川　純　也
医薬品情報課長	青　柳　哲　治
製剤課長	吉　村　はる美
調剤課長	渋　谷　貞　一
技監	斉　藤　孝　次

以下係長 5 名　薬剤師 22 名

2．業　務

院内処方箋に腎機能などの検査値を記載するよう電子カルテの改修をおこない、投与量が検査値に応じた量であるかを調剤時に確認する体制を整えた。対象とする薬剤を段階的に拡充させ、8 月の運用開始から年度末までにおいて、医師への疑義照会による投与量変更が 52 件、うち 4 件は禁忌に該当したため中止となり、医療安全・医薬品の適正使用に寄与した。

また､冷所保存医薬品の入出庫情報･保冷庫内温度データを自動で記録するシステム NOVUMN(ノヴァム) を導入し、医薬品の品質管理を強化させた。同時に、これまで返品不可であった冷所保存の医薬品でも、管理状況の条件を満たした場合には返品可能になったことで、不良在庫を持つリスクや欠品のリスクを減らし、円滑に医薬品を供給する体制を強化させた。

3．実　績

○処方箋枚数（１日平均枚数）

年度	外来	入院	院外
令和 3 年度	594	286	28

○注射箋枚数（1 日平均枚数）

年度	外来	入院
令和 3 年度	261	274

○薬剤管理指導業務件数（延べ件数）

年　度	薬剤管理指導料 1	薬剤管理指導料 2	総件数	月平均
令和 3 年度	5,826	3,830	9,656	805

○ TDM 解析件数（延べ件数）

年　度	件数	月平均
令和 3 年度	497	41

○持参薬鑑別件数（延べ件数）

年　度	件数	月平均
令和 3 年度	5,234	436

○ TPN 調製件数（延べ件数）

年　度	件数	月平均
令和 3 年度	2,391	199

○抗がん剤ミキシング件数（延べ件数）

年　度	外来	入院	総件数	月平均
令和 3 年度	6,156	3,868	10,024	835

○治験・臨床試験実施件数

年　度	臨床試験件数
令和 3 年度	5

○製造販売後調査契約件数

年　度	総件数
令和 3 年度	42

○院内製剤調製数量

1）外用液剤

品　　名	規格 / 単位	令和 3 年度製剤数量	使用診療科
アロプリノール含嗽水	500mL/ 本	139	多数診療科
塩化アルミニウム液	1000mL/ 本	5	皮膚科
滅菌墨汁液	2mL/ 本	140	外科
1%フルオレセイン液	10mL/ 本	84	眼科
t -PA 製剤（眼科用）	4 万単位 / 本	39	眼科
0.025% BBG 染色液	5mL/ 本	180	眼科
1%トリパンブルー	1mL/ 本	93	眼科

2）坐薬

品　　名	規格 / 単位	令和 3 年度製剤数量	使用診療科
チラージン S 坐薬	50 μ g/ 個	60	多数診療科
	100 μ g/ 個	120	多数診療科

3）軟膏

品　　名	規　格	令和 3 年度製剤数量	使用診療科
0.075%カプサイシン軟膏	kg	2.5	麻酔科
メントール・レスタミン軟膏	kg	22	多数診療科

36. 栄　養　課

1．スタッフ

医療技術部長　　吉田　博之（第１循環器内科部長）
栄養課長　　大久保　祐子
管理係長　　青山　涼一　　以下　管理栄養士　　10 名
第１調理係長　　重矢　悟
第２調理係長　　今田　滋之　　以下　調理師　　14 名

2．目　標

安全で美味しい治療食を提供する
他職種と連携をとり適切な栄養管理を推進する
地域医療連携の強化を図るために他施設と栄養管理を共有できるようにする

3．業　務

１）給食管理

行事食、郷土料理、季節料理などを取り入れ、メッセージカードを添えて提供した。検食、嗜好調査、残食調査の結果をもとに献立作成、調理の改善を図った。
産後祝い膳の献立をリニューアル、提供方法を見直した。
非常用備蓄食１日当たりのエネルギーを増量し、内容を充実させた。

２）栄養管理

栄養指導、入院患者の栄養管理、チーム医療参加、栄養管理の症例報告を実施した。
4 月より、特定集中治療室に専任管理栄養士を配置、重症患者の集中治療室への入室後、早期に経口移行・維持及び低栄養の改善等の栄養管理を実施した。

３）衛生管理

毎月、手洗いチェック、検便、勉強会を実施した。

４）厨房機器の入れ替え

2 月に冷蔵庫（特別食コーナー）1 台､冷凍庫（嚥下食用）1 台､3 月に適温配膳車 11 台､ネスティングカート 14 台、包丁まな板殺菌庫 2 台の入れ替え、器具消毒保管庫 1 台を追加設置した。

4．実　績

１）給食数（食）

項　目	一般食	特別食	１日平均食数	特別食加算比
令和３年度	240,187	123,965	998	34.1%

２）個人栄養指導件数

項　目	外　来	入　院	総件数	月平均
令和３年度	1,574	635	2,209	184

3）集団栄養指導件数

項　目	糖尿病教室		糖尿病ﾊﾞｲｷﾝｸﾞ		高血圧教室		心臓病教室		母親教室	
令和３年度	開催	参加	開催	参加	開催	参加	開催	参加	開催	参加
	3	8	0	0	0	0	0	0	0	0

4）個別栄養食事管理加算（緩和ケア診療加算）

項　目	総件数
令和３年度	43

5）入退院支援センター 入院前栄養スクリーニング

項　目	総件数	月平均
令和３年度	4,773	398

6）早期栄養介入管理加算　（令和３年４月より算定開始）

項　目	総件数	月平均
令和３年度	341	28

37. 臨床工学技術課

1．スタッフ

医療技術部長　　吉田　博之（第１循環器科部長）
課長　　重矢　直彦
第一係長　　山中　雅弘
第二係長　　谷口　貴洋
臨床工学技士　　他９名

2．目　標

安全な医療機器を提供するための技術と知識を身につけるとともに、医療機器を取り扱う職員への支援に勤める

3．業　務

①医療機器の中央管理

中央管理可能な医療機器を選定し、ＭＥ室にて保管し必要に応じて各部署に貸し出しをしています。現在、中央管理しているME機器は輸液ポンプ、シリンジポンプ、携帯型シリンジポンプ、人工呼吸器、生体情報監視装置、経腸栄養ポンプ、ネーザルハイフロー、フットポンプの８機種です。貸し出し状況等をＭＥ機器管理システムで管理し返却された医療機器は、点検、必要時修理を行い次回の貸し出しに備えています。中央管理している医療機器の廃棄、更新を検討しています。

②医療機器の保守

院内点検可能な医療機器に対して、点検の実施に努めています。また各部署からの点検・修理依頼に対して出来る限り迅速に対応する様に心がけています。人工呼吸器、病棟の心電図モニタや心電計、除細動器などラウンド点検も行っています。

③ＭＥ機器の教育

メーカーが開催する機器のトレーニングや講習会に積極的に参加し、技術、知識を身に付けるよう努めています。また、各部署への機器取り扱い説明、指導・勉強会等のサポートも行っています。

④血液浄化業務

透析センター及び集中治療室での血液浄化業務を行っています。また、VAIVTに対するサポート業務もおこなっております。その他に、血液透析関連機器の保守、点検、整備をおこなっています。

⑤中央手術室・集中治療室業務

医療機器の術前点検や機器のトラブルに対する対応を行っています。中央手術室、集中治療室における臨床業務も行っています。

⑥心臓カテーテル業務

心血管造影室で行われるカテーテル検査や治療のサポート業務を行うと共にカテーテル検査や治療で使用される機器の操作や保守、点検を行っています。

４．実　績

臨床工学技術課業務総件数	**43,611**	NIM（耳）	24
血液浄化業務（件）	**19,171**	オーソパット	2
血液透析	18,056	内視鏡（外）	431
室外透析	43	内視鏡（泌）	105
白血球吸着	39	内視鏡（婦）	295
血漿交換	17	内視鏡（呼外）	125
血漿吸着	7	内視鏡（耳鼻科）	62
二重濾過	1	内視鏡（整外）	33
DHP	0	内視鏡（脳）	3
腹水濾過濃縮	76	RFA	1
修理・メンテナンス	749	ダ・ヴィンチ (da Vinci)（泌）	62
シャント造影	2	ダ・ヴィンチ (da Vinci)（外）	39
シャントＰＴＡ	137	その他	0
モニター点検	44	**（３）修理・メンテナンス**	**0**
ＯＰＥ室業務（件）	**6,252**	**ＩＣＵ業務（件）**	**2,825**
（１）点検業務	**5,019**	**（１）点検業務**	**2,587**
全身麻酔器	2,268	人工呼吸器	156
内視鏡	1,316	除細動器	5
ナビゲーション	45	輸液ポンプ	1,621
NIM	17	シリンジポンプ	799
モニタ	1,043	モニタ	6
オーソパット	2	その他	0
除細動器	1	**（２）操作業務**	**303**
電気メス	1	血液透析	56
輸液ポンプ	13	血液濾過	0
シリンジポンプ	72	ECUM	3
経腸栄養ポンプ	7	CRRT	199
レーザー	102	PMX	18
マイクロ	107	血漿交換	3
フットポンプ	8	血漿吸着	0
ダ・ヴィンチ (da Vinci)	209	二重濾過	0
その他	0	DHP	0
（２）操作業務	**1,233**	IABP	16
ナビゲーション（脳）	12	PCPS(VA)	8
ナビゲーション（耳）	26	ECMO(VV)	0
ナビゲーション（整形）	10	その他	0
NIM（脳）	3		

（３）修理・メンテナンス	**0**	人工呼吸器	13
ペースメーカー業務（件）	**712**	OFDI	4
PM 埋め込み	49	ロータブレータ	11
PM 電池交換	15	**ＭＥ業務（件）**	**15,456**
PM 動作チェック	537	**（１）点検業務**	**7,836**
PM リード再固定	0	輸液ポンプ	4,144
PM 設定変更	98	シリンジポンプ	1,312
ICD 動作チェック	3	携帯型シリンジポンプ	159
ICD 設定変更	3	経腸栄養ポンプ	332
CRT-D 動作チェック	4	心電図モニタ	147
CRT-D 設定変更	2	人工呼吸器	85
ループレコーダー 埋め込み	1	Airvo	64
ループレコーダー 動作チェック	3	フットポンプ	1,573
その他	18	その他	20
心カテ業務（件）	**1,567**	**（２）貸し出し業務**	**7,452**
（１）治療	**231**	輸液ポンプ	3,928
PCI	171	シリンジポンプ	1,234
PTA	43	携帯型シリンジポンプ	137
下大静脈フィルター	17	経腸栄養ポンプ	308
（２）検査	**141**	心電図モニタ	157
CAG	131	人工呼吸器	79
スワンガンツ	6	Airvo	70
Ach 負荷試験	4	フットポンプ	1,539
EPS	0	その他	0
点検	480	**（３）修理・メンテナンス**	**168**
DC	160	輸液ポンプ	3
ポリグラフ	160	シリンジポンプ	35
IVUS	160	携帯型シリンジポンプ	0
その他	0	経腸栄養ポンプ	2
（３）操作	**715**	心電図モニタ	41
IVUS	210	人工呼吸器	2
FFR	36	パルスオキシメーター	28
血管エコー	61	血圧計	22
IABP	13	携帯型電子血圧計	23
PCPS	1	吸引器	1
ポリグラフ	351	フットポンプ	6
体外式ペースメーカー	26	その他	5

38. 検　　査　　部

１．スタッフ

検査部長　　今村　信
検査医監（検体検査）　豊岡　重剛
技師長　　加藤　幸久
課長　　杉本　正雄　猿木　邦之
以下係長　４名　　臨床検査技師 25 名（内視鏡 3 名含む）
臨床検査技師パート１名（午前のみ）　看護師パート２名（午前のみ）
事務派遣職員　　2.5 名

２．目　標

新型コロナ感染症では検査部としての役割（検体採取から迅速な検査）を続けていきたいと思います。また、ISO15189 については令和４年の取得をめざしていきたいと思います。

３．業　務

採血業務　：超音波検査のある外来患者のほとんどは採血と両方を受付している場合が多く、超音波検査時間に採血で待っていることが多かった。今回、検査部採血番号表示機能を超音波検査待合まで延伸したことにより、大まかな採血時間がわかり患者の誘導にも貢献出来、患者待ち時間短縮となっている。

検体生体検査業務：
新型コロナ禍の令和２年８月中旬から全身麻酔、若しくは挿管を伴う手術患者の検体採取と検査を検査部で実施している。また、院内での接触者を対象とした一斉 PCR 検査においても検体採取と検査を実施している。
令和３年１月から病理診断科部と ISO15189 取得に向けて取り組みを始め、令和４年５月に JAB(日本適合性認定協会) へ申請いたしました。その後、第一段階審査を７月６日に受審し、是正処置を行いながら 10 月上旬の第二段階審査へと進んでいきたいと思います。

内視鏡業務　：内視鏡挿入形状観測装置【UPD-3】について、従来の内視鏡光源装置に接続された状態から可動式台車上を定位置とすることで、必要時すぐにコロナビシステムを必要な患者に提供出来るようにした。
内視鏡検査・治療にて提出された病理検体を保存するホルマリンについて、出庫・入庫についての在庫管理を始めた。

４．実　績

資料１）件数の推移（検査システムからの統計）

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
尿・糞便検査	135,365	122,618	128,575
血液検査	284,724	254,135	274,697
生化学検査	2,477,629	2,232,277	2,563,535
免疫関連検査	144,990	134,502	143,611
微生物検査	49,671	42,315	46,133
生体検査	55,100	45,411	47,640
合計	3,147,479	2,831,258	3,204,191

資料２）外来、入院別検査件数

	外来				入院				外来／入院
	院内	SRL	MCM	合計	院内	SRL	MCM	合計	
令和元年度	2,273,904	20,251	19,127	2,313,282	799,441	7,318	7,753	814,512	2.84
令和２年度	2,056,654	17,252	16,560	2,090,466	735,025	6,465	6,519	748,009	2.79
令和３年度	2,069,159	18,992	17,259	2,105,410	734,675	6,213	7,741	748,629	2.81

資料３）検査判断料件数と検査加算件数（医事課資料）

項　　目	令和元年度	令和２年度	令和３年度
尿・糞便判断料	24,360	21,723	23,024
血液学的検査判断料	73,396	66,398	70,626
生化学検査判断料（Ⅰ）	73,614	66,768	71,022
生化学検査判断料（Ⅱ）	23,249	21,278	20,659
免疫学的検査判断料	53,925	47,799	52,943
微生物学的検査判断料	12,940	10,323	12,340
呼吸循環検査判断料	6,092	5,191	5,717
脳波図判断料	731	688	1,115
神経筋検査判断料	599	548	506
時間外緊急院内検査加算	5,267	3,417	3,763
検体検査管理加算（Ⅰ）	72,737	66,658	65,322
検体検査管理加算（Ⅲ）	－	－	－
検体検査管理加算（Ⅳ）	11,100	8,871	9,786
外来迅速加算	257,032	240,778	250,993
合計	615,042	560,440	587,816

39. 放　射　線　部

１．スタッフ数

放射線科部長	左合　直	以下　医　師 8 名
技　師　長	西村　英明	以下　診療放射線技師　32 名（うち１名 嘱託　午前のみ）
看　護　師	４名（うち１名 嘱託）	
事　　務	２名（午後１名）	

２．方針 / 目標

1.「検査技術の向上と診療支援」を目指し、固定概念にとらわれない、幅広い視野を持った診療放射線技師を育成する
2.「患者さん中心の医療」をスタッフ一人一人が実践できるような組織を目指す
（個人と組織がともに成長できるシステムづくり）

診療放射線技師においては、様々な検査において画像診断機器を操作するだけではなく、診断・治療の流れを理解し次の医療行為を予測できる力や、緊急検査への対応力も強化（時間外）していかねばならない。

診療以外にも、医療安全管理、放射線安全管理、放射線機器管理、放射線被ばく管理、医療情報管理など、更に精度管理の実践 / 充実を図らなければならず、「検査技術の向上と診療支援」を目指し、固定概念にとらわれない幅広い視野を持った診療放射線技師を育成する必要がある。

また、「患者さん中心の医療」をスタッフ一人一人が実践できるよう、先ずは医療安全から見た、部門や個人で失敗しない質の確保とばらつかない質の確保を目指した段階的な教育 / 管理を行い、個人と組織がともに成長できる環境を整備することを目標とする。

３．業　務

中央放射線部では、最新の画像診断機器、放射線治療機器を駆使し、より安全でより精度の高い検査・診断・治療が行えるよう、診療放射線技師、看護師、事務員、放射線診断医、放射線治療医との協働にて、患者さんが求める最善な検査・治療を提供している。

診断においては、撮影されたCT、MR、核医学の画像を中心に検査画像の画像診断報告書の作成と配信が行われており、画像診断専門医が常勤し、画像診断管理加算２の施設基準を取得している。
また、これら院内（他施設提供画像含む）で発生する各種検査画像、診断レポートに対し、セキュリティを保持 / 一元保管管理を行っており、院内どこでも瞬時に画像、レポートの参照が可能となり速やかな診療支援を行っている。

治療においては、治療計画はコンピューター化され、治療専門医による照射領域の決定 / ほぼ全ての悪性疾患に高精度の治療を行っている。

高精度放射線治療として、画像誘導放射線治療（IGRT)、強度変調放射線治療（IMRT/VMAT)、定位放射線治療、呼吸によって動く患部を追尾する動体追尾照射を実施し、充実したがん診療に寄与できるよう心がけている。

検査業務では、一般撮影、X線透視、CT、MRI、血管撮影、ラジオアイソトープ(RI)、骨塩定量検査、

超音波検査が行われ、各分野には先端の機器を整備し、装置能力を十二分に発揮し、治療、診療に有用な情報を提供するために、医師、看護師、技師がチームを構成し業務に従事している。

今年度においても、コロナ禍での業務として、放射線科部としても日々変わる状況や、病院の指針/ICT の判断をしっかりと理解 / 共有し、放射線科部をハブとするような院内感染が発生する場面を可能な限り回避するために、場面ごとの意識した行動を行い、マニュアルの適時更新や環境整備、健康管理や日常生活における潜在的なリスク低減を意識しながら業務に従事している。

尚、令和 3 年度の医療機器整備として、X線骨密度測定装置の更新と、手歯科用パノラマ・セファロX線撮影装置＋デンタルX線診断装置 / スキャナの更新を行った。特にデンタル撮影においては、アナログであったため、クオリティの面でも診療科の診断に及ぼす影響も無視できず、また管理面、労力面（現像 / 定着→フィルム保管）においても負担をしいていたが、デジタル化することで、照射線量低減と、速やかに処理することができ大幅な画質改善が図られた。

また､放射線機器の品質保証（QA）や品質管理（QC）は､患者および従事者双方の安全性確保にとって大きな意義があり、重要性も高まっている。今回、業務への負担も少なく、使用が簡便で多項目にわたるエックス線出力の情報が得られる半導体式エックス線アナライザの新規導入を行い、さらに品質管理の強化を目指していく。

４．実　績

1）放射線科部統計（年度比較）

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
一般撮影・透視部門			
撮影検査件数	90,963	80,433	83,037
単純撮影			
胸部 腹部	57,025	50,555	54,454
骨部	25,309	21,808	20,600
マンモ	4,113	3,753	3,875
パントモ・デンタル	2,008	1,820	1,840
その他(H18以降LG含)	343	273	271
造影剤使用撮影			
消化器系	1,187	1,354	1,109
泌尿器系	376	426	358
小児・婦人科系	16	18	17
関節・脊髄	249	212	268
その他	337	214	245
ＣＴ部門			
ＣＴ検査件数	19,956	19,433	21,058
頭頚部	6,777	5,982	6,583
胸腹部他	13,179	13,451	14,475
ＭＲ部門			
ＭＲ検査件数	9,176	8,576	9,219
頭頚部	5,357	5,193	5,555
躯幹	3,195	2,874	3,120
その他	624	509	544
骨塩定量検査			
検査件数	2,408	2,198	2,049
血管撮影部門			
血管撮影件数	812	645	712
頭部	182	166	174
腹部他	46	30	37
心臓、下肢、シャント	584	449	501
核医学部門			
ＲＩ検査件数	1,839	1,692	1,740
頭部	168	159	182
内分泌	50	30	41
心臓	352	268	301
呼吸器	12	10	14
腹部泌尿器	73	52	40
骨・軟部	321	296	320
血管	0	0	5
ＰＥＴ	863	867	828
治療	0	10	9
放射線治療部門			
治療件数	5,403	4,041	3,970
ＬＩＮＡＣ	5,394	4,037	3,970
IMRT	2,145	2,274	1,963
動態追尾	0	5	0
頭部定位照射	163	126	76
体幹部定位照射	0	67	128
全身照射	0	0	0
温熱治療	9	4	0
小線源治療	0	0	0
総　計	130,557	117,018	121,785

2）放射線検査（詳細）

総件数	総人数
121,785	111,734

MRI	単純		造影		小計
	外来	入院	外来	入院	
(MRI) 頭頚部	3,629	1,029	705	192	5,555
脊椎	1,010	244	46	32	1,332
胸部	10	4	167	10	191
骨盤腹部	667	135	681	114	1,597
上肢	143	5	24	1	173
下肢	292	42	28	9	371
照射録小計	5,751	1,459	1,651	358	9,219

MRI	患者数		
	外来	入院	小計
(MRI) 単純	5,751	1,459	7,210
造影	1,651	358	2,009
小計	7,402	1,817	9,219
他院読影	16	0	16

CT	単純		造影		小計
	外来	入院	外来	入院	
(CT) 頭部	3,624	1,468	54	49	5,195
顔面頚部	571	159	550	108	1,388
胸部	4,312	1,369	1,922	361	7,964
腹部	1,636	338	2,581	465	5,020
脊椎	311	145	9	6	471
四肢	554	100	35	23	712
その他	270	37	1	0	308
照射録小計	11,278	3,616	5,152	1,012	21,058

CT	患者数		
	外来	入院	小計
(CT) 単純	11,278	3,616	14,894
造影	5,152	1,012	6,164
小計	16,430	4,628	21,058
他院読影	32	7	39

血管造影					合計
	外来	入院	小計	科別	
(血管造影)頭頚部	3	171	174	放科	37
循環器	21	328	349	脳外科	174
胸部	0	2	2	循環器	393
腹部・骨盤	1	34	35	腎泌尿器	108
四肢	2	42	44	小計	712
シャント	1	107	108		
照射録小計	28	684	712		

血管造影	患者数		
	外来	入院	小計
(血管造影) ＩＡ造影	22	633	655
ＩＶ造影	6	51	57
小計	28	684	712
他院読影	0	0	0

透視	単純		造影		小計
	外来	入院	外来	入院	
循環・呼吸器	2	138	0	0	140
消化器	5	6	500	541	1,052
肝・胆道	0	0	8	49	57
尿路	8	1	249	99	357
関節・脊髄	31	5	167	65	268
頭頚部咽頭	0	0	9	3	12
小児・婦人科	0	0	17	0	17
血管･シャント	0	0	0	0	0
IVH・単純	48	42	2	1	93
件数小計	94	192	952	758	1,996

透視	患者数		
	外来	入院	合計
(透視)	1,032	945	1,977
他院読影	0	0	0

治療	治療件数		
	外来	入院	合計
(治療) LINAC	2,236	1,734	3,970

頭部定位(76), 体幹部定位(128), IMRT(1,963), 電子線(121)を含む

治療 RIS (Mosaiq) による集計：終了	照射部位数（新患数）		
	外来	入院	合計
	144	119	263

一般撮影	撮影区分		
	外来	入院	小計
(一般撮影)頭頚部	2,016	375	2,391
胸腹部	34,778	19,676	54,454
脊椎骨盤	3,511	832	4,343
胸郭	2,770	172	2,942
上肢	2,794	262	3,056
下肢	7,781	1,883	9,664
全身骨	40	4	44
治療用	129	142	271
乳房	3,875	0	3,875
骨塩定量	1,995	54	2,049
泌尿器系造影	1	0	1
件数小計	59,690	23,400	83,090

患者数		
外来	54,452	
入院	18,606	
合計	73,058	
ドック		
胸部	6,028	
胃	220	
脳	432	
肺	134	
乳房	1,598	
合計	8,412	
歯科系	1,840	

核医学	患者数		
	外来	入院	小計
(核医学) 頭部	113	69	182
内分泌	39	2	41
心臓	158	143	301
呼吸器	4	10	14
腹部泌尿器	37	3	40
骨・軟部	219	101	320
血管	5	0	5
ＰＥＴ	747	81	828
治療	9	0	9
小計	1,331	409	1,740
他院読影	1	0	1

40. 医療安全推進室

１．スタッフ

医師２名　　看護師１名　　薬剤師１名　　診療放射線技師１名　　臨床検査技師１名
臨床工学技士１名　　理学療法士１名　　管理栄養士１名　　事務３名

２．目　標

１）医療安全管理体制の変更
２）患者誤認防止活動
３）各診療科における合併症報告システムの整備
４）HBV 再活性化予防システム構築

３．業　務

１）各部門における医療安全対策の実施状況を評価するため、定例カンファレンスを週１回開催し、その評価結果を記録する。
２）各部門の業務改善計画書を各部門と共同で作成し、それに基づく対策の実施状況を評価し、記録する。
３）定例カンファレンスにおいて評価した結果を医療安全管理委員会に定期的に報告する。
４）医療に係る安全管理に対する意識の向上を主な目的として、医療安全管理者と協力して職員研修を開催し、その評価を行い、実績を記録する。
５）患者や家族からの医療の安全に関する相談に対応するため、医療安全相談窓口を設置し、相談件数及び相談内容、相談後の取り扱いについて記録する。
６）院内に於いて医療事故が発生した場合は、「医療事故･紛争対応マニュアル」に沿って対応する。
７）その他必要時は室長の判断に基づき、臨時にカンファレンスを開催する。

４．実　績

１）MSM ニュース、MSM だよりの発行、発信
（１）MSM ニュース（代表部長会議にて配布）No.211 ～ 221
（２）MSM だより（電子カルテニュースにて配信）No.173 ～ 184

２）医療安全推進室主催の主な研修会

日付	研修名	講師	対象	参加人数
令和3年 8月3日	医療安全研修会 「深部静脈血栓症予防～弾性ストッキング着用を中心に～」	アルケア株式会社	全職員	28 名
令和3年 8月16日 ～9月30日	医療安全研修 「転倒・転落防止」	院内講師 相模朋恵看護師長（医療安全管理者）	全職員	1,107 名
令和3年 7月12日	輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な取扱い	テルモ株式会社	看護師	31 名

令和3年 7月27日	輸液ポンプ・シリンジポンプ 認定試験		看護師	32名
令和3年 12月24日～ 令和4年 1月21日	医療安全研修 「インスリン注射の安全使用」	院内講師 糖尿病サポート部会	看護師	492名
令和4年 2月1日～ 令和4年 2月28日	医療安全研修 「ノンテクニカルスキル「コミュニケーション」～安全で質の高いチーム医療のために～」	院内講師 相模朋恵看護師長（医療安全管理者）	全職員	1,136名
令和4年 2月21日～ 3月18日	医療安全研修 「当院の管理薬品（向精神薬、毒薬、覚醒剤原料、麻薬）の運用について」	院内講師 山本康太薬剤師	全職員	573人

3）医療安全対策地域連携相互チェック

実施日	訪問先	当院参加
令和3年8月31日	福井赤十字病院 → 林病院（越前市）	4名
令和3年11月16日	福井赤十字病院 → 福井県立病院	4名
令和3年12月7日	福井県立病院 → 福井赤十字病院	6名

4）福井医療安全研究会参加状況

開催日	内　　容	当院参加
令和4年3月3日 (Web開催)	・コロナ禍での医療安全	3名

5）再発防止対策

（1）令和3年度事例検討会・事故調査委員会件数

事例検討会　5件

事故調査委員会　3件

（2）令和3年度医療支援課と連携した事案数　4件

（3）令和3年度ドクタークロス発動件数　27件

（4）令和3年度RRS起動件数　50件

（5）令和3年度ワーキング実績

①RRSワーキング

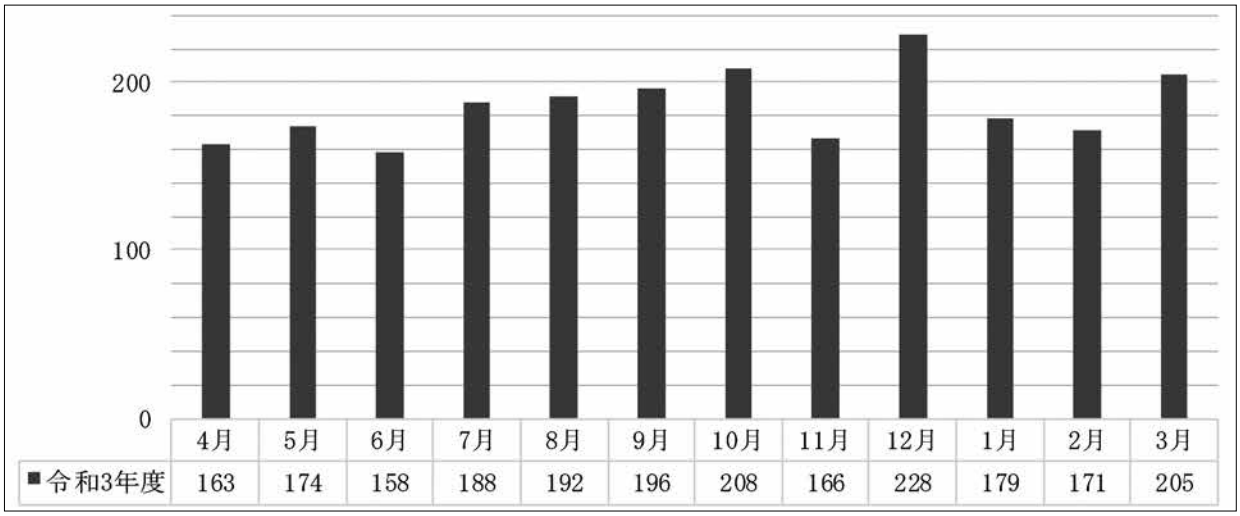
グループ長	小松副院長
活動内容	令和2年7月よりRRS本格稼働。令和3年9月にワーキンググループ会議を開催し、RRS活動状況状況、RRS看護師育成について等報告した。RRT活動時の問題点・課題について検討した。

② 経腸栄養誤接続防止コネクタ導入ワーキング

グループ長	山崎消化器センター長
活動内容	経腸栄養分野に関連する医療用具の誤接続防止を目的とした新規コネクタ導入に向け規格変更品の使用方法（感染対策）、マニュアル作成、看護師への教育、連携医療機関への周知、切り替え対象品の確認、確保について検討し、令和３年６月21日より新規格製品に切り替え実施した。

（６）令和３年度インシデント＆アクシデントレポート総報告件数　2,228件

①月別レポート件数



②分類別件数

分　類	件　数
処方・与薬	890
療養	372
チューブ	235
検査	246
給食・栄養	81
医療機器・医療用具	35
調剤	27
診察・手術・処置	109
情報伝達	16
輸血	4
オカレンス	24
その他	111
合計	2,150

③インシデント・アクシデントレベル別件数

レベル	件　数
レベル 0	649
レベル 1	710
レベル 2	589
レベル 3a	144
レベル 3b	45
レベル 4a	1
レベル 4b	2
レベル 5	1
その他	9
合計	2,150

④インシデント・アクシデント職種別報告件数

職　種	件　数
医師	89
看護師・助産師	1,346
薬剤師	483
診療放射線技師	102
理学・作業療法士	10
臨床検査技師	35
臨床工学技士	4
視能訓練士	1
歯科衛生士	1
管理栄養士・調理師	77
事務	70
看護助手	5
その他	5
合計	2,228

⑤当院入院患者の転倒転落数・転倒転落率

（入院患者の転倒転落率（‰）＝入院患者の転倒転落数／入院述べ数× 1000 人）

	令和 3 年度
転倒転落数	325
転倒転落率	2.1

41. 教育研修推進室

1．スタッフ

教育研修推進室長（兼） 副院長	高野　誠一郎
教育研修推進室（兼） 循環器内科部長	皿澤　克彦
教育研修推進室（兼） 外科部長	吉羽　秀麿
教育研修推進室（兼） 人事課長	川島　勇一
教育研修推進室（兼） 看護師長	井口　秀人
教育研修推進室（兼） 人事課職員係長	山﨑　久美子
教育研修推進室（兼） 主事	佐野　智美

2．目　標

1）初期臨床研修医の確保

2）階層別研修・管理職研修の充実

3．業務と実績

1）医師の臨床研修に関わること

(1) 令和３年度当院在籍の初期臨床研修医数

①１年目９名(当院Ａプログラム６名･当院Ｂプログラム２名･福井大学病院Ｃプログラム１名)

②２年目８名（当院Ａプログラム７名・当院Ｃプログラム１名）

(2) 次年度初期臨床研修医採用試験応募者数と採用研修医数

採用試験応募者数：医科 35 名　歯科１名　当院プログラム採用者数：医科 12 名　歯科１名

(3) 初期臨床研修医募集活動

下記、研修医募集説明会に参加し、募集活動を行った。

月　日	開　催　名	会　　場
5月15日（土） 6月19日（土）	京都大学医学部研修医募集オンライン説明会	オンライン
6月22日（火）	マイナビ RESIDENT 開催 ＷＥＢ合同セミナー	オンライン
7月4日（日）	福井県臨床研修病院合同レジナビフェアオンライン福井	オンライン
7月25日（日）	福井県専門研修合同説明会	福井大学
10月10日（日）	福井県臨床研修病院合同マイナビ福井県エリア限定	オンライン
2月27日（日）	福井県臨床研修病院合同オンライン説明会	福井テレビ

(4) 研修医とプログラム責任者、研修医養成プロジェクトメンバーとの面接

研修が適切に行われるように、また心理的サポートのために、研修医とプログラム責任者、研修医養成プロジェクトメンバーの面接を調整し、年２回（プログラム責任者との個人面接)、年１回（メンターとの面接）を実施した。グループ面接は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み中止とした。

(5) 院内医師による講義および研修医症例発表会の企画・実施

救急部嶋田医師の１回／月の講義を計 10 回、救急部成山医師の講義１回／月を計 10 回、および他の院内医師による講義を 10 回実施した。3 月には症例発表会を実施した。

2）職員教育研修に関わること

(1) 赤十字救急法救急員資格取得の推進

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、人数を制限して実施。

基礎講習受講　95 名　　救急員養成講習受講　34 名

(2) 階層別職員研修の計画・実施

実施月日	時　間	対象者	研　修　名	参加者数
4 月 1 日～5 日	終日	新採用者	新採用者研修	61 名
7 月 9 日	13:00～17:00	新採用者	新人宿泊研修→院内研修へ変更	52 名
9 月 9 日 ～10 月 1 日		全職員	地域医療構想の現状と地域医療連携について（e－ラーニング研修）	122 名
2 月 15 日 ～3 月 15 日		全職員	傾聴力～今の時代に必要な聴く力、話させる力、心を開かせる力、信頼される力」（e－ラーニング研修）	816 名
1 月 20 日	17:15～18:00	1 年目	1 年間の振り返り	50 名
2 月 22 日		2 年目	1 年間の振り返り→レポート提出へ変更	25 名
3 月 8 日		3 年目	就職後 3 年間の振り返り→レポート提出へ変更	44 名

(3) 管理職研修

1)「日本赤十字社 e－ラーニング学習コンテンツ全 133 コース」を利用した研修を実施した。
（受講者 65 名）

2）日本病院会主催の中堅職員育成オンライン研修に、下記の 2 名を派遣した。
青山涼一（栄養課）、山﨑久美子（人事課）

(4) キャリア開発ラダー

下記のとおり各部職員から申請があり、評価会、監査を経て教育研修推進委員会にて承認された。

看護部　実践者ラダーⅠ・Ⅱ・Ⅲ（39 名・28 名・5 名）、管理者ラダーⅠ・Ⅱ（2 名・0 名）

事務部　レベルⅡ：田中健（医事サービス課）、枡谷朋和（医事サービス課）、古舘美穂（地域医療連携課）、
レベルⅠ：佐々木美穂（地域医療連携課）、田中美絵（総務課）

薬剤部　レベルⅣ：渋谷貞一

リハビリテーション科部
レベルⅤ：豊田泰美
レベルⅣ：浜田友紀

(5) 事務職員教育

到達目標にそった研修の計画･実施､1年目～3年目の目標達成状況評価(中間･最終)の実施

(6) 学会参加への支援：人事課の項参照

4．次年度の目標

1）効果的な人材育成を行う。

2）赤十字についての基礎知識を持ち、災害時に対応できる職員を育成する。

3）良い人材を確保する。

42. 感 染 管 理 室

1．スタッフ

室　　長（兼）　赤井　雅也　ICD 制度協議会認定インフェクションコントロールドクター
副　室　長（兼）　渡邉　康宏
薬　剤　師（兼）　寺本　敏清　日本病院薬剤師会認定　感染制御認定薬剤師
臨床検査技師（兼）　平井　舞
看 護 係 長　　田本　聡子　日本看護協会認定　感染管理認定看護師
看　護　師　　坪田　マキ　日本看護協会認定　感染管理認定看護師　＊令和３年６月末退職
課　　長（兼）　齋藤　裕一
係　　長（兼）　新河戸　由紀子
主　　事（兼）　笠原　亜紀

2．業務と実績

1）感染防止対策地域連携

地域連携相互チェック

令和３年５月 25 日（火）　杉田玄白記念公立小浜病院（審査）福井赤十字病院（受審）
令和３年６月 22 日（火）　福井赤十字病院（審査）杉田玄白記念公立小浜病院（受審）

地域連携カンファレンス

日程	参加医療機関	内　　容
5月20日	福井リハビリテーション病院、つくし野病院 木村病院	・木村病院感染ラウンド ・参加施設講評
6月18日	FICNet 県内の感染防止対策加算１、２を算定している医療機関	・感染防止対策加算〔1〕〔2〕届出状況について ・各職種サーベイランス報告について ・COVID-19 診療体制の進捗状況について
11月2日	福井リハビリテーション病院、つくし野病院 木村病院	・合同院内巡視実施後の改善報告について ・感染制御チームによる院内巡視状況について ・質疑応答・情報交換
11月19日	FICNet 県内の感染防止対策加算１、２を算定している医療機関	・令和４年感染防止対策加算〔1〕相互チェック組み合わせについて ・各職種サーベイランス結果報告について ・新型コロナウイルス感染症について ・FICNet 相談事業について
令和4年 3月1日	福井リハビリテーション病院、つくし野病院 木村病院	・抗菌薬の TDM について ・手指消毒剤使用量の評価について ・診療報酬改定について ・質疑応答・情報交換

2）抗菌薬適正使用（AST）

・抗菌薬ラウンド・血培ラウンド

（新規）379 症例　　（新規＋継続）4,494 症例

・抗菌薬コンサルテーション　　239 件数

3）サーベイランス

・厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業参加：全入院部門、耐性菌部門、SSI 部門、集中治療室部門

・FICNet サーベイランス参加（検査部門、薬剤部門、看護部門）

4）ICT ラウンド

・環境ラウンド　　年 12 回（46 部署）

・院内ラウンド　　月 4 回

5）全職員対象感染管理研修開催（年 6 回）

①6 月 24 日（木）～7 月 1 日（木）

院内感染防止対策研修会

「新型コロナウイルスについて」

「COVID-19 治療のアップデート」＊医局会のみ

講師：ICT 委員・赤井雅也 感染管理室室長　　参加者：1,141 名

②12 月 10 日（木）～令和 4 年 2 月 25 日（金）

院内感染防止対策研修会　*E-Learning

「インフルエンザ・防護具の着脱について」

講師：渡邉康宏感染管理室副室長　　参加者：1,150 名

※令和 3 年度中に 2 回以上院内研修を感染対策のための職員研修を受けた職員数 999 名(実人数)

③ICT 感染管理研修コースⅠ

(1) 令和 3 年 5 月 26 日（水）

標準予防策と感染経路別対策について

講師：土居幸司　　参加者：38 名

(2) 令和 3 年 6 月 24 日（木）

手指衛生と防護用具の着脱について

講師：寺島由美・広田法子　　参加者：47 名

(3) 令和 3 年 7 月 29 日（木）

標準予防策と感染経路別対策について（実践編）

講師：皿澤和美・大澤昌子　　参加者：50 名

(4) 令和 3 年 8 月 26 日（木）

院内で問題となる微生物について・正しい検体の採取方法

講師：平井舞　　参加者：52 名

(5) 令和 3 年 9 月 30 日（木）

洗浄・消毒・滅菌

講師：真鍋照美　　参加者：47 名

(6) 令和 3 年 10 月 28 日（木）

抗菌薬について

講師：寺本敏清　　参加者：42 名

(7) 令和 3 年 11 月 25 日（木）

職業感染対策・針刺し切創事故防止

講師：田本聡子　　参加者：43 名

(8) 令和 3 年 12 月 23 日（木）

感染症の診断と治療について

講師：白塚秀之　　参加者：39 名

④ ICT 感染管理研修コースⅡ

(1) 令和 3 年 6 月 10 日（木）

尿道留置カテーテル関連尿路感染防止について

講師：坪田マキ　　参加者：38 名

(2) 令和 3 年 8 月 12 日（木）

血管内留置カテーテル関連血流感染防止について

講師：真鍋照美　　参加者：31 名

(3) 令和 3 年 10 月 14 日（木）

人工呼吸器関連肺炎防止について

講師：真鍋照美　　参加者：36 名

(4) 令和 3 年 12 月 9 日（木）

SSI（手術部位感染）防止について

講師：田本聡子　　参加者：31 名

(4) 令和 4 年 2 月 10 日（木）

サーベイランスについて

講師：田本聡子　　参加者：27 名

※令和 3 年度にコースⅠ・Ⅱともに修了した者 17 名に修了証書渡し済み

④ AST 研修コース

(1) 令和 3 年 8 月 5 日（木）

抗菌薬適正使用とは

講師：白塚秀之　　参加者：34 名

(2) 令和 3 年 9 月 2 日（木）

特にリスクのない患者の市中肺炎－肺炎球菌性肺炎－

講師：白塚秀之　　参加者：32 名

(3) 令和 3 年 9 月 2 日（木）

リスクのある患者の肺炎

講師：白塚秀之　　参加者：27 名

(4) 令和 3 年 11 月 11 日（木）

手術時の抗菌薬

講師：白塚秀之　　参加者：23 名

(5) 令和 3 年 12 月 2 日（木）

忖度なき経口抗菌薬口座①

講師：玉村宗一　　参加者：21 名

(5) 令和４年１月６日（木）
付度なき経口抗菌薬口座②
講師：玉村宗一　　参加者：17 名

6）その他の業務
・感染症診療コンサルティング業務
・感染症対策コンサルティング業務（院内・院外）
・職業感染の対応
・感染管理システムの導入
・針刺し切創・粘膜曝露事故の対応
・新型コロナウイルス感染症対策
・手指衛生の促進活動
・工事のリスクアセスメント評価
・一般病棟結核曝露対応
・抗菌薬適正使用に係るデータの収集と解析
・注射用広域抗菌薬のサーベイランス
・内服抗菌薬サーベイランス（フルオロチノロン、マクロライド、第３世代セファロスポリン）
・SSI 予防抗菌薬の投与日数短縮
・院内採用抗菌薬の整理（カルバペネム系等）
・アウトブレイク対応

7）看護部 ICT リンクナース委員会活動
・ワードオーディット、手指消毒薬使用量調査、部署サーベイランスの実施、部署勉強会の推進手指衛生直接観察、ワンポイントレクチャーによる教育、手洗いチェッカーによる手指衛生の評価

8）感染管理室だよりの発行
感染管理室便り　No.109 ～ No.120　発行・電子カルテ掲載

43. 災害救護支援室

１．スタッフ

災害救護支援室長兼麻酔科部長	白塚　秀之
災害救護支援副室長兼救急部長	嶋田　喜充
災害救護支援室員兼看護副部長	井上　和子
災害救護支援室員兼中央手術室・滅菌室看護師長	川端　和代
災害救護支援室員兼Ｘ線技術課長	西郡　克寛
災害救護支援室員兼集中治療室看護係長	朝田　和枝
災害救護支援室員兼医療社会事業係長	伊藤　心平
災害救護支援室員兼医療社会事業課主事	鈴木　敏弘

２．業　務

災害時における医療援護の計画及び実施に関すること
原子力災害時における医療救護の実施に関すること
災害時診療事業継続計画（ＢＣＰ）の運用、改定に関すること

１）救護班、ＤＭＡＴ隊員について

（１）日本赤十字社救護規則に基づく災害時等に医療救護活動を行う常備救護班については、日本赤十字社福井県支部管下において当院に８個班が編成されている。令和３年度の班編成は次のとおり。

班	医　師	看護師長	看護師／助産師	主　事	放射線技師	薬剤師
1	山岸　一也	濱野　みゆき	羽生　将人 ○斉藤　みか	山崎　悠平 柳澤　彰吾	西郡　克寛	安藤　和也
2	垣鍔　忠	寺島　由美	西尾　瑞穂 ○嶋　加奈子	田中　健 竹内　凌	秋田　直昭	山本　康太
3	小畑　真介	松田　ゆう子	真柄　昌代 上田　悠平	西本　哲也 三嶋　隆介	山﨑　亮一	谷山　幸信
4	今村　久司	石田　克子	山田　智美 ○大久保　瞳	中谷　真悟 宮下　崇	中尾　秀昭	金森　紀幸
5	北原　孝宏	広田　法子	嶋田　佳恵 梅田沙耶加	五十嵐　直樹 松宮　翔太	村上　冬樹	細谷　拓史
6	篠田　隆司	福田　清美	臼谷　志草 ○長谷川奈津子	枡谷　朋和 中山　泰博	村中　舞	草冨　翔太
7	堤内　俊喜	西郡　知代	伊吹　栞 北野　貴之	小川　貴司 髙島　尚生	野﨑　貫太	前田　太一
8	軸屋　紀宏	常見　いずみ	五十嵐有紀 ○森国真奈美	吉岡　見悟 土田　勇樹	河邉　大和	佐々木　千嘉

※名前の前の「○」表記は助産師有資格者

（2）日本ＤＭＡＴ隊員養成研修を修了した職員については下記のとおり（令和４年４月１日時点）

医師	看護師	業務調整員
嶋田　喜充	木水　麻里	木戸　俊介
○田邉　毅	川端　和代	鈴木　敏弘
○白塚　秀之	秋山　奈津江	坪田　泰典
平﨑　憲範	相模　朋恵	大森　丈
榊原　圭一	原田　幸枝	
成山　美々	朝田　和枝	
	清水　洋輔	
	城野　佑歌	
	高山　あゆ	

※名前の後の「○」表記は統括ＤＭＡＴ研修修了者

３．実　績

（1）新型コロナウイルス感染症福井県入院コーディネートセンターへの派遣

活動内容：令和２年度に引き続き、福井県が設置した福井県入院コーディネートセンターにＤＭＡＴ隊員（医師、事務職員）を派遣し、感染患者の医療機関の入院・転院調整、入院患者の状態等の聞き取り業務を行った。

活動期間：第３期　令和２年１１月１３日（金）～令和３年１０月２０日（水）
第４期　令和４年　１月　７日（金）～令和４年度以降も派遣を継続中

（2）訓練の開催（その他の訓練参加については､令和３年度「救護訓練･研修等参加者一覧」を参照）

①令和３年度福井赤十字病院総合災害対応訓練

開催日：令和３年１１月６日（土）

院内参加者数：１７１名

（ 院外組織参加者 ）

日本赤十字社福井県支部：２名

※令和３年度も令和２年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、日本赤十字社福井県支部以外の院外組織からの参加はなしとした。

訓練内容

災害対策本部設営運営訓練、災害対策本部会議運営訓練、診療統括運営訓練

トリアージエリアでのコロナ疑い患者へのスクリーニング対応

コロナ診療エリアと通常診療エリア、抗原検査エリアの立ち上げ訓練（コロナ診療エリアについては、昨年度の訓練を受けて一部変更した。緑エリアとしてレストランクルールを使用、黄色疑似症エリアはドラッシュテントを使用した）

コロナ診療エリア、通常診療エリアでの被災傷病者受入訓練

②令和３年度原子力災害被ばく患者受入訓練

開催日：令和４年３月１９日（土）９時～１２時

院内参加者数：２０名

訓練内容：原子力発電所内での事故により汚染された被ばく傷病者の受け入れ手順、エリア設営、傷病者の除染処置について訓練を行った。

（３）研修会の実施（その他の研修については、令和３年度「救護訓練･研修等参加者一覧」を参照）

①災害時能力育成研修（全５回）および日本赤十字社福井県支部が主催した救護班研修の内容を企画し、講師として参加した。

日　時	研修内容	講　　師	参加者数
第１回 5月27日(木) 17:15～18:30	1) 災害時のトリアージⅠ（演習） ・一次トリアージの方法（START 法） ・トリアージタグの記載方法 ・二次トリアージ（PAT 法・講義）	・救急部医師　中西　泰造 ・外科医師　平﨑　憲範 ・集中治療室看護師　城野　佑歌	２１名
6月26日(土) 日本赤十字社福井県支部救護班研修	・赤十字の災害救護活動について ・コロナ禍における感染防護について ・コロナ禍での避難所アセスメント等に　ついて	・災害救護支援室長　白塚　秀之 ・看護副部長　真鍋　照美 ・感染管理室看護係長　坪田　マキ ・日本赤十字社福井県支部事務局付部長　山本　裕行	６１名
第２回 7月28日(水) 17:15～18:30	1) 各部署、各エリアのアクションカードについて 2) 災害時における記録と情報の取り扱いについて ・クロノロジー、組織図作成、TO　Do リスト、コンタクトリスト	・1-6 病棟看護師長　寺島　由美 ・医療安全推進室看護師長 相模　朋恵 ・医療社会事業課　鈴木　敏弘	３４名
第３回 8月25日(水) 17:15～18:30	1) 災害時の情報共有の方法（演習） ・クロノロジーの書き方 ・トランシーバーの使い方	・呼吸器科外来看護師 秋山　奈津江 ・病院経営課係長　木戸　俊介	３３名
第４回 9月24日(金) 医局会後 (医師対象)	1) 災害時のトリアージⅡ（演習） ・二次トリアージの方法（PAT 法）	・救急部医師　中西　泰造 ・外科医師　平﨑　憲範 ・集中治療室看護師　城野　佑歌	９名
第５回 10 月 13 日(水) 17:15 ～ 18:30	1) 災害診療記録 2018 の書き方について 2) 当院の災害時に使用する伝票類の書き方と使用方法について ・レントゲン箋、検査箋、輸血箋	・集中治療室看護係長　朝田　和枝 ・医事サービス課係長　坪田　泰典 ・医療社会事業課主事　鈴木　敏弘 ・病院経営課主事　山崎　悠平	３２名

②全職員向け災害研修（オンライン形式で開催）

研修内容：災害時のアクションカードとは？

講　　師：災害救護支援室員兼看護副部長　井上　和子

参加者数：１，０３５名

開催期間：令和４年２月２８日（月）～３月２５日（金）

（４）各種会議、外部研修会および外部研修会講師

・日本赤十字社原子力災害アドバイザー会議

①令和３年度第１回原子力災害医療アドバイザー会議（Web 開催）

日時：令和３年１０月６日（水）

参加者：災害救護支援室副室長　嶋田　喜充

災害救護支援室員　西郡　克寛

議題：（１）総合課程の研修プログラムについて

（２）令和３年度原子力災害対応基礎研修会について

（３）（情報共有）原子力規制庁による原子力災害医療に係る研修について
（４）福島県の現状（東日本大震災から１０年を経て）

②令和３年度第２回原子力災害医療アドバイザー会議（Web 開催）
日時：令和３年１２月８日（水）
参加者：災害救護支援室副室長　嶋田　喜充
災害救護支援室員　西郡　克寛
議題：（１）原子力災害対応基礎研修会について
（２）総合課程の研修プログラムについて

③令和３年度第３回原子力災害医療アドバイザー会議（Web 開催）
日時：令和４年３月１６日（水）
参加者：災害救護支援室副室長　嶋田　喜充
災害救護支援室員　西郡　克寛
議題：（１）令和３年度第３回救護員育成検討委員会における「原子力災害救護研修プログラム検討部会」に関する報告
（２）赤十字看護管理者研修Ⅲにおける原子力災害対応グループワーク実施に関する報告
（３）令和４年度原子力基礎研修会の実施要項の検討
（４）その他

令和３年度 救護訓練・研修等参加者一覧

訓　　練　DMATとして参加

行事名	日　程	場　所	参加者名				備考
			医　師	看護師･助産師	主事・業務調整員		
こころのケア（3年目看護師対象）	6/5(土)	支部		3年目看護師			
福井県支部常備救護班研修	6/26(土)	栄養管理棟3階講堂	12名	31名	放射線技師1名 薬剤師7名	事務職員10名	
災害時能力育成研修	全5回	栄養管理棟3階講堂	延べ14名	延べ45名	事務、コメディカル延べ18名		
令和3年度福井赤十字病院災害対応訓練	11/6(土)	福井赤十字病院	医師24名 研修医16名	看護師48名	事務職員63名 コメディカル20名		研修医は患者役として参加
令和3年度第3ブロック支部合同訓練	10/17(日)	日本赤十字社福井県支部（オンライン開催）	北原　孝宏 榊原　圭一	西郡　知代 臼谷　志草 北野　貴之	枡谷　朋和 田中　健		富山県支部が当番支部
福井県総合防災訓練	11/13(土)	日野川河川敷(福井県鯖江市)	山岸　一也	常見いずみ 真柄　昌代 伊吹　栞	高島　尚生 竹内　凌		
令和3年度日赤災害医療コーディネートチームフォローアップ研修	3/13(日)	日本赤十字社福井県支部（オンライン開催）	白塚　秀之 田邉　毅	川端　和代 松田ゆう子 朝田　和枝	木戸　俊介		
福井県災害医療本部研修	1/24(月)	オンライン開催	成山　美々				
携帯便を用いた安否確認訓練	2/22(火)		回答者39名	回答者234名助手含む)	コメディカル回答者数75名 事務職員回答者数95名	業務員回答者数14名	
都道府県災害医療コーディネーター研修	2～3月	オンライン開催	榊原　圭一				
全職員向け災害研修	3月	オンライン開催	職員・派遣・委託職員1,037名参加				講師：井上看護副部長 議題：災害時のアクションカードについて
福井赤十字病院原子力災害訓練	3/19(土)	栄養管理棟3階講堂	医師2名	看護師7名	事務職員3名 放射線技師6名	臨床工学技士2名	

44. 危機管理センター

１．スタッフ

危機管理センター長　小松　和人

２．業　務

医療安全推進室、感染管理室、災害救護支援室の３室の業務を統括

医療安全、感染管理、災害時等における危機管理

３．概　要

危機管理センターの実働部隊として、医療安全推進室、感染管理室、災害救護支援室の３室の室員が充てられている。

令和３年度においては､令和２年度に引き続き､新型コロナウイルス感染症対応を中心に業務を行った。

４．実　績

１）新型コロナウイルス感染症における対応

（１）木曜日に新型コロナウイルス感染症に関するブリーフィングを開催

令和３年度はブリーフィングを３２回開催した

（２）新型コロナウイルス感染症に関する災害対策本部の開催運営

本部設置期間：令和３年４月２２日（金）～令和３年６月１７日（木）

令和４年１月１７日（月）～設置継続中

令和３年度は災害対策本部会議を１３回開催した

（３）ポストコロナ体制の検討

①新型コロナウイルス感染症のＢＣＰ（事業継続計画）の検討

②院内フェーズレベルの内容の検討

（４）発熱スクリーニング体制の検討

①毎月の発熱スクリーニング当番表の作成

②令和３年３月３１日時点の発熱スクリーニングの各曜日、時間帯の当番表は下記のとおり

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前※	外科 研修医	研修医	腎臓・泌尿器科	整形外科 呼吸器外科	耳鼻咽喉科 皮膚科 形成外科
午　後	総合診療科				
時間外	当直医				

※午前中に複数診療科の明記が有る場合は、１～５週目ごとに担当診療科が決まっている

③新型コロナウイルス感染症、インフルエンザの同時流行した際の検査体制について検討した。

④抗原定量検査の導入と運用方法について検討した。

（５）新型コロナウイルス入院体制の検討

①毎月の時間外における新型コロナウイルス入院担当表の作成

令和２年度に引き続き、令和３年度においても時間外に新型コロナウイルス入院事例が有った場合は、各診療科の当番の医師が主治医として、入院を受け持つことになった。

担当医としてＩＣＤ、副院長が主治医をサポートする体制となっている。

②令和３年３月３１日時点の時間外における担当診療科は下記のとおり

内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓・泌尿器科、外科、整形外科呼吸器外科、耳鼻咽喉科

（６）職員、入院患者での感染事例有った場合の対応方法について

①職員、入院患者で新型コロナウイルス感染が起きた場合に、職員、入院患者への接触者検査をどのように実施するか検討した。

②職員が新型コロナウイルスに感染、濃厚接触者となった場合の連絡体制について検討した。

（７）病院で行う新型コロナウイルスワクチン接種の準備について

①職員への新型コロナウイルスワクチン接種を行う際の運用方法について検討した。

②福井県内の介護施設等の職員へのワクチン接種を行う際の運用方法について検討した。

（８）新型コロナウイルス感染症拡大時の院内業務縮小体制の検討

①新型コロナウイルス感染拡大時に感染症病棟に看護師を配置する際に、どの病棟を閉鎖、縮小するか検討した。

②令和３年７月から８月にかけて２－５病棟を一時的に閉鎖し、看護師を再配置した。

（９）福井県からの要請に基づく感染管理チーム、医療チーム派遣をする際の体制について

①福井県内の介護施設等でクラスターが発生した場合に､福井県からの要請に基づき､医療チームを派遣する契約を締結しており、当院からどのように医療チームを派遣するか検討した。

②医療チームの派遣には、ＤＭＡＴ隊員だけではなく、福井赤十字病院救護班の派遣可否についても検討し、県への照会や院内での検討の結果、ゾーニングやＰＰＥ着脱等のトレーニングを受けた救護班であれば、クラスター発生施設に派遣することを可能とした。

（１０）福井県からのメディカルチェック体制の検討

①福井県から無症状や軽症の新型コロナウイルス感染症患者のメディカルチェック（採血、ＣＴ等）の実施体制について検討した。当院でのメディカルチェックは令和３年９月より開始。

（１１）面会制限の検討について

①令和３年１０月以降、感染状況が落ち着てきたため、面会制限を緩和するかどうか検討し、令和３年１１月２２日（月）より実施したが、オミクロン株による新型コロナウイルス流行の第６波により、令和４年１月６日（木）より再度面会制限を強化した。

医療社会事業部

1．医療社会事業課

1．保健・衛生・医療事業

血液センター、地方自治体等が実施する保健・衛生・医療関係事業への協力状況は次のとおり。

依頼元	血液センター	福井市医師会			合　計
業務	献血業務	基本健診	幼児健診		
派遣者	医師	医師	医師	看護師	
令和元年度	２４	5	7	7	４３
令和２年度	２４	5	8	8	４５
令和３年度	２４	4	5	5	３８

2．病院ボランティア活動

福井赤十字病院ボランティアの会が発足した平成１２年５月以降、院内の様々な場面で病院ボランティアが活動しており、その活動状況については下表のとおり。

令和３年度は新型コロナウイルス感染症対策を行いながら活動を継続し、ボランティア活動の中止期間は無かった。

ボランティア活動内訳	延活動回数	登録者数
令和元年度	３,０６５	６３
令和２年度	１,６７０	５２
令和３年度	２,４０３	５２

3．スポーツ大会等救護活動

令和３年度は新型コロナウイルス感染症の影響でスポーツ大会が中止、縮小されたため、救護活動に職員を派遣することは無かった。

スポーツ救護内訳	医師	看護師
令和元年度	0	0
令和２年度	4	１４
令和３年度	0	0

4．市民公開講座の開催

令和３年度はがん診療センターと共同でＨＢＯＣ（Hereditary Breast and Ovarian Cancer：遺伝性乳がん、卵巣がん症候群）に関する市民公開講座を当院ホームページに掲載する形式として、初めてオンラインにて開催した。また、(株）福井新聞社と共催し動画撮影、福井新聞紙面において、「がん」に関する採録紙面を掲載した。

テーマ	講師
ＨＢＯＣと乳がん	外科部長兼がん診療センター副センター長　田中　文恵
ＨＢＯＣと卵巣がん	産婦人科部長　福田　真
ＨＢＯＣと前立腺がん	腎臓・泌尿器科医師　垣鍔　忠
ＨＢＯＣと遺伝カウンセリング	国際医療福祉大学院教授 認定遺伝カウンセラー　西垣　昌和

2．居宅介護支援事業所

1．スタッフ

山崎　奈満（管理者、訪問看護兼）　岩佐　孝枝（主任介護支援専門員）
山﨑　雪代（訪問看護兼）

2．目　標

1）安定的な経営基盤の確保
①相談件数の安定的な確保と維持　②地域からの相談対応の強化
2）地域医療・介護との連携を強化
①母体の入退院支援体制の連携、協力　②地域関係機関との連携

3．業　務

1）介護保険、その他介護福祉制度についての相談対応、要介護認定者のケアマネジメント業務
2）院内ディスチャージプランニングと連携した地域支援（在宅医・地域関係機関との連携）

4．実　績

1）稼働状況（最大 79 件 / 月）

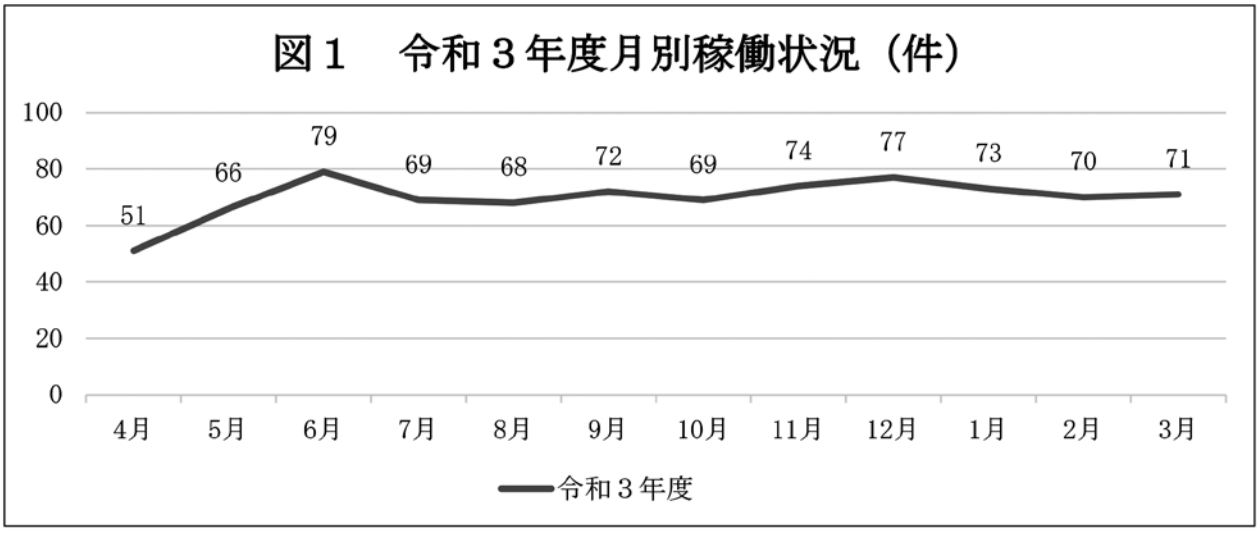
管理者（訪問看護兼）と主任介護支援専門員 1 名、介護支援専門員（訪問看護兼）で対応。令和３年４月より主任介護支援専門員増員により特定事業所 A として加算を算定し、マネジメント担当数を拡大した。稼働件数においては、令和２年度の月平均稼働数 45 件に対して、令和３年度月平均稼働数は、70 件（図１）であった。また、地域包括支援センター等からの新規利用者をお断りしている状況（6 件 / 年）であった。？？新規相談別では当院からの退院患者や終末期の利用者は積極的に受け入れ、併設の訪問看護と連携しながら対応している。また、利用者の認定別内訳では、要介護１～２の利用者が多く、経過とともに認定度も高くなっている。（図２）

併設の訪問看護ステーションと連携した実件数は 18 件で、うち 9 件が癌末期、その他呼吸不全、心不全、腎疾患、医療的管理が必要な利用者、認知症、難病であった。

終了者 30 件のうち 7 名が永眠されており、入院・入所者は 20 名、要支援認定結果でのマネジメント終了者数は３名であった。

2）新規相談件数　66件　内　訳：癌疾患22件
非癌 44 件（認知症 12 件、呼吸器系 4 件、内科系 28 件等）
依頼元：当院 MSW20 件、他の医療機関 10 件、包括支援センター 33 件
その他（家族）3 件

3）終了者数　30 件　内　訳：在宅看取り 7 件、病院看取り 13 件　入所 7 件　要支援認定３件



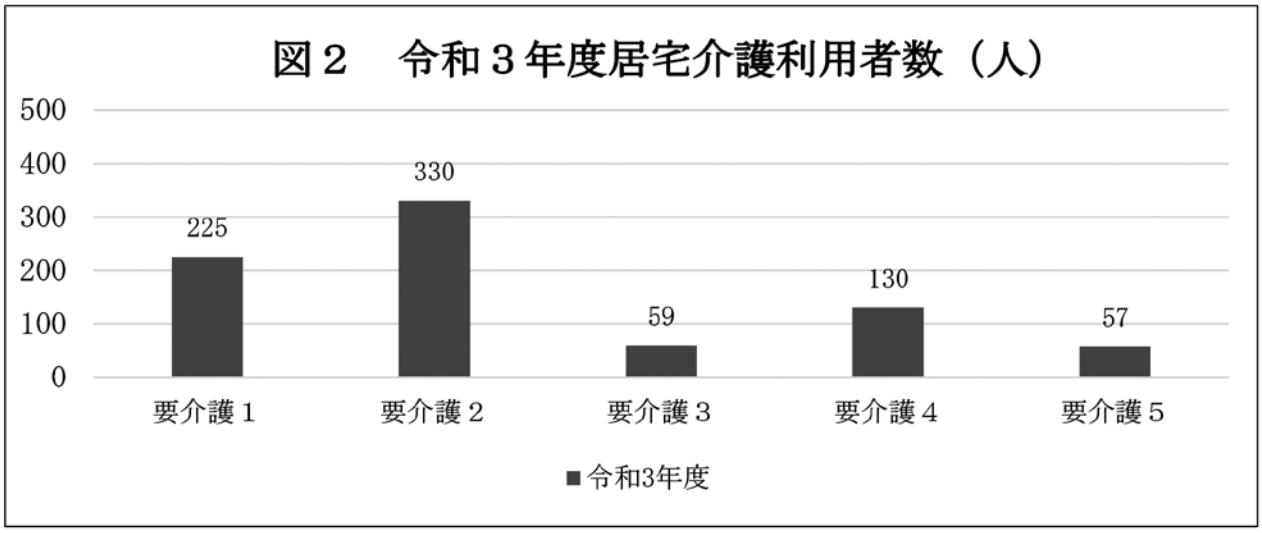


表１　居宅介護支援事業にかかる加算の年度別述べ件数

加算項目	令和３年度
初回加算	44
退院退所加算Ⅰ～Ⅲ	22
入院時情報連携加算Ⅰ～Ⅱ	29
通院時情報連携加算	9
緊急時カンファレンス加算	3
ターミナルケアマネジメント加算	2

3．訪問看護ステーション

1．スタッフ

看護師長：山﨑　雪代（兼務）　看護師：8名　看護補助者：2名（パート及び兼務）　事務：1名

2．目　標

1）在宅療養に必要な社会資源を理解し、利用者・家族の望む療養支援ができる。
2）経営の維持を目指す。

3．業　務

1）主治医の指示に基づく、在宅における療養上の世話と医療処置等診療の補助業務。
2）家族への療養上の指導、相談等、家族支援に関すること。
3）利用者の入退院支援に関すること。

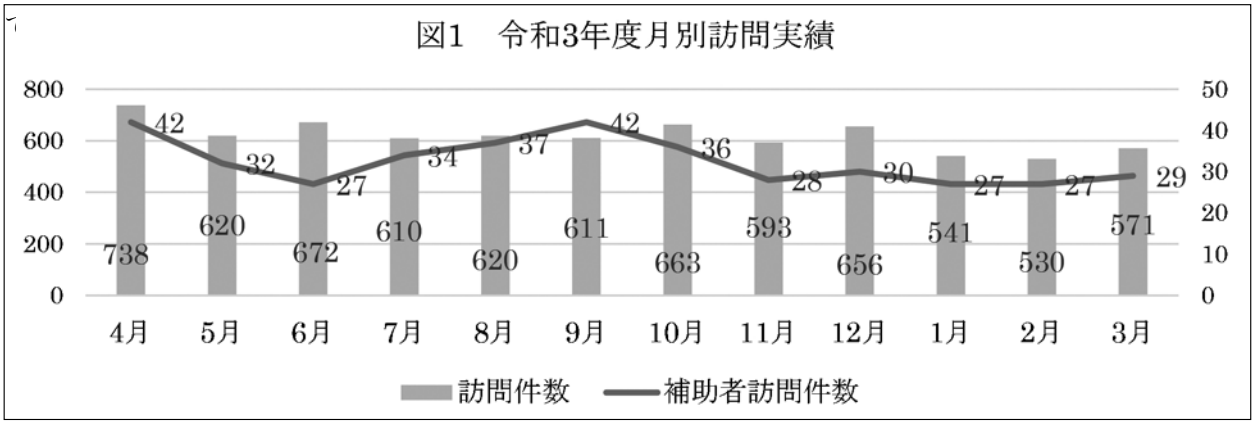
4．実　績

1）訪問実績

令和元年末～令和2年後期の訪問看護経験者の採用以降マンパワーが維持でき、研修や2名の産前産後休暇の取得、新採用者の研修期間があり訪問件数は減少したが（図1）黒字を維持できた。

看護補助者は、難病や癌末期、介護保険利用者で体格などの身体的理由のある利用者への同行訪問行っている。癌末期の同行訪問対象者を中心にスケジュール調整しながら同行訪問件数を増やし

図1　令和3年度月別訪問実績



年間訪問件数は7,425件（前年比－544件）、実人員一人当たりの1日の訪問件数は3.7件（前年比-0.1件）。利用者の実人数は151人/年（前年度176人）で、一人暮らしや老々介護、認々介護により内服管理や生活そのものが困難な介護保険対象の慢性疾患利用者が増えている（図2）。ケアマネジャーや包括支援センターと密に連携し対応している。

図2　看護師実働人員数と訪問件数

2）新規利用者数、修了者数、看取り件数

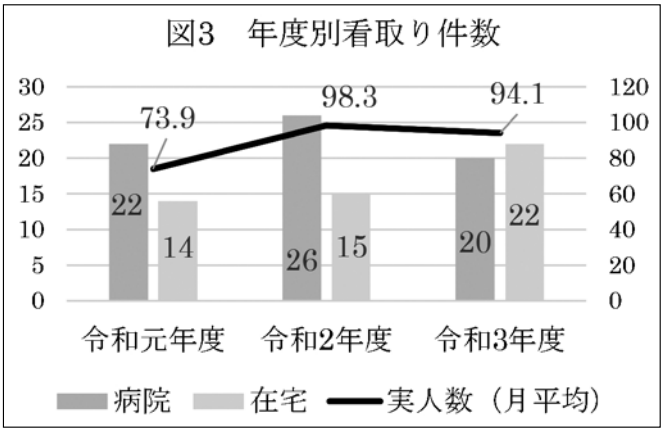
新規利用者数＝ 52 件（前年度 88 件）

終了者数＝ 64 件（前年度 66 件）

終了理由：死亡 42 件（癌 20 件　非癌 22 件）

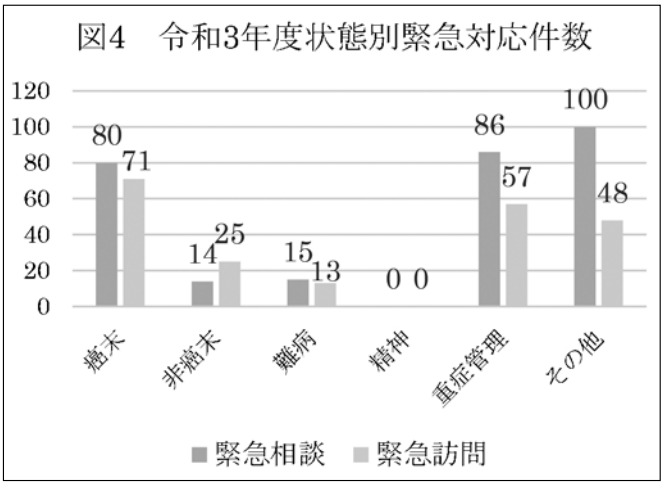
軽快 4 件　入院 10 件　入所 8 件

看取り件数：病院 20 件　在宅 22 件（図 3）



3）電話相談・緊急訪問実績

令和 3 年度月平均 94 名に訪問看護を提供した。令和元年 12 月以降、終末期や重症管理が必要な利用者を確保したため、電話相談・緊急訪問件数も増えている。緊急訪問のうち、癌・非癌の末期や難病の利用者で 50.9% を占め、その他の疾患では 26.6％が重症管理を必要とする利用者であった。終末期や重症管理の対応の他に、老老介護や認認介護、独居などの療養環境のため訪問する件数も昨年の 1.6 倍増えている（図 4）。



4）カンファレンス実績：127 件（前年度 176 件）

退院前カンファレンス 64 件　サービス担当者会議 50 件　入院時等カンファレンス 2 件

コロナ禍で制限がある中、医療・介護連携に必要なカンファレンスに参加した。年間利用者の減少から全体の件数は減少している。コロナ禍による制限で入院時カンファレンス開催の件数が減っているが、基本的に新規利用者の退院時はカンファレンス開催を依頼し参加している。

5）訪問看護指示医の内訳

赤十字医師：77 名（50.9%）　赤十字以外の医師：74 名（49.0%）

6）院内の連携

院内の委員会：入退院支援リンクナース委員会、緩和ケアリンクナース委員会　各 1 回 / 月

地域医療支援センター運営委員会　1 回 / 年

関係部署との連携：院内退院支援係との話し合い 1 回 / 月実施。

外来（神経内科・呼吸器科等）との話し合い 1 回 / 月

4．地域医療連携課

●地域医療連携係

1．スタッフ

地域医療連携担当副院長	髙野　誠一郎
課　長	青柳　芳重
係　長	森岡　恵代
主　事	6名
派遣職員	1名

2．目　標

課内目標：きめ細やかな対応と院内調整により他機関の満足度をあげる

地域医療連携係目標：紹介患者を増加させる

3．業　務

1）地域における病診・病病連携に関すること。
2）地域医療支援病院の運営に関すること。
3）紹介および退院支援の情報支援に関すること。
4）高度医療機器の共同利用に関すること。
5）開放型病床の運営に関すること。
6）地域保険医療機関への広報および渉外活動並びに情報交換等に関すること。
7）その他地域医療連携の推進に関すること。

4．実　績

1）登録医数の推移（基準日：年度末）（人）

	令和3年度
医　科	352
歯　科	60
合　計	412

2）開放型病床 平均利用率　（%）

	令和3年度
平均利用率	29.3

3）紹介率　（%）

令和3年度
71.9

4）逆紹介率　　（%）

令和３年度
98.7

5）診療予約件数の推移　　（件）

	令和３年度
合　計	9,922
月平均	826.8
稼動日１日平均	40.8

6）研修会開催の実績および参加人数

	研修会名	開催日時	内容	院外	院内	計
	病診連携医会		新型コロナウイルス感染症発生のため開催中止			
	病診連携医会冬季懇談会		新型コロナウイルス感染症発生のため開催中止			
	地域医療連携交流会（福井・坂井地区）		新型コロナウイルス感染症発生のため開催中止			
	地域医療連携交流会（丹南地区）		新型コロナウイルス感染症発生のため開催中止			
	連携担当者情報交換会		新型コロナウイルス感染症発生のため開催中止			
	在宅担当者と退院支援実務担当者の情報交換会		新型コロナウイルス感染症発生のため開催中止			
1	イブニングセミナー（皮膚科）	令和３年９月21日(火) 19:00 ～ 19:30 管理棟２階多目的室	「皮膚微細構造と日常皮膚科診療～アトピー性皮膚炎の痒みも含めて～」 皮膚科副部長　加畑　雄大	14	0	14
2	イブニングセミナー（歯科）	令和３年11月17日(水) 19：00 ～ 20：00 管理棟２階多目的室	「薬剤関連性顎骨壊死と口腔ケア」 歯科・歯科口腔外科部長 山田 和人 「顎骨壊死と口腔ケア～歯科衛生士の関わり～」 歯科衛生士 高崎 裕美	15	0	15
3	イブニングセミナー（消化器内科）	令和３年12月８日(水) 19：00 ～ 20：00 栄養管理棟３階講堂 ※ハイブリッド開催	「炎症性腸疾患の基礎知識」 消化器内科部長　道上　学 座長：いなだクリニック　稲田　章夫　先生	20	27	47
4	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会	令和3年9月20日(月･祝) 9：00 ～ 17：05	「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠した内容の研修 ファシリテーター：外科部長　吉羽　秀麿　高野誠一郎　他院外３名	4	17	21
5	地域がん診療研修会（緩和）	令和3年11月26日(金) 18：30 ～ 19：30 Web 研修＋集合研修	「ひととおりのことをやっても苦痛が緩和しないときの緩和ケア」 聖隷三方原病院　緩和支持治療科部長　森田達也先生 座長：外科部長　吉羽　秀麿	10	28	38

6	第４回　福井県緩和ケアチーム検討会	令和３年９月 12 日(日) 9：30 ～ 16：00 Web 研修	がん診療連携拠点病院の緩和ケアチーム、その他の病院の緩和ケアチーム、個人参加者で、緩和ケアチーム活動を広め、チームの質向上を目指す検討会 ファシリテーター：外科部長　吉羽　秀麿	55	11	66
7	イブニングセミナー (外科)	令和４年２月 28 日(月) 18：30 ～ 19：40 ※ Zoom 配信	「当科における膵疾患の治療について」 外科部長　土居　幸司 「胃癌に対するロボット支援手術 ～導入からアドバンス手術への適応まで～ 」 金沢大学医薬保健研究域医学系 消化管外科学 / 乳腺外科学　教授 稲木　紀之　先生 総合座長　吉羽秀麿	6	9	15
8	イブニングセミナー (脳神経外科)	令和４年３月 16 日(水) 19：00 ～ 19：50 ※ Zoom 配信	「毎日飲んでる頭痛薬が効かなくなった!? ～薬剤の使用過多による頭痛～」 脳神経外科部長　早瀬　睦 座長：おかもと内科クリニック 岡本　清也　先生	24	13	37
9	地域がん診療研修会 (化学療法)	令和４年１月 28 日(金) 18：30 ～ 19：30 Web 研修	「抗がん剤のやめ時について」 日本医科大学武蔵小杉病院　腫瘍内科　教授　勝俣範之先生 座長　外科部長　吉羽秀麿	3	16	19
10	地域がん診療研修会 (早期診断)	令和４年２月 16 日(水) 18：30 ～ 19：30 Web 研修＋集合研修	「乳がん治療の最新情報と早期診断のための試み」 がん診療センター副センター長・外科部長　田中文恵	4	10	14
11	がん看護セミナー シリーズ①②	令和３年８月 20 日(金) 17：30 ～ 18：45 Web 研修＋集合研修	第１部「がんの皮膚潰瘍とどう付き合うか」 皮膚・排泄ケア認定看護師 上口　美恵 第２部「乳がん手術の意思決定支援」 乳がん看護認定看護師 吉川　朋子	1	11	12
12	〃　シリーズ③④	令和３年10月15日(金) 17：30 ～ 18：45 Web 研修	第１部「がん患者さんの食事支援について」 摂食嚥下障害看護認定看護師 板岡　利恵 第２部「がん化学療法看護（CV ポート管理）について」 がん化学療法看護認定看護師 広田　法子	8	12	20
13	〃　シリーズ⑤⑥	令和３年11月19日(金) 17：30 ～ 18：45 Web 研修	第１部「放射線治療を受けるがん患者のセルフケア支援について」 がん放射線療法看護認定看護師 太田　妙子 第２部「これだけは知っておきたいオピオイド疼痛薬の基礎知識」 がん性疼痛看護認定看護師 寺井　智子	8	11	19

14	〃　シリーズ⑦⑧	令和4年1月21日(金) 17：30 ～ 18：45 Web 研修	第1部「終末期がん患者に見られる症状　　倦怠感・腹部症状のケア」 緩和ケア認定看護師　田坂　和代 第2部「医療者が行う！化学療法に伴うアピアランスケア」 アピアランス研修修了看護師　（乳がん看護認定看護師）吉川　朋子	3	16	19
15	福井赤十字病院 在宅症例検討会	令和4年1月19日(水) 18：30 ～ 19：30 Web 研修	がんと共に生きる患者さんと、その患者さんを支えるご家族にできることを参加者で一緒に考えた 症例提供医師：外科部長　吉羽　秀麿	6	20	26
	計			181	201	382

4－(1)．地域医療連携課

●入院前支援係・退院支援係

1．スタッフ数

入院前支援係

専従看護師１名　他看護師４名　事務職２名

退院支援係

専従看護師長　勝木　美奈子

病棟専任 MSW ８名（うち３名　退院支援係専任者）

がん相談員（専任）認知症サポートチーム（専任） MSW １名

2．目　標

1）入退院支援センターを中心に、多職種協働の切れ目のない入退院支援を実施する。

2）地域との連携を強化し、在宅療養と地域包括ケアシステムに貢献する。

3．業　務

1）患者・家族に対する社会福祉士などのソーシャルワーク業務に関すること。

2）公的扶助等社会福祉関係法の利用の援助に関すること。

3）入院手続きおよび入院前支援に関すること。

4）入院患者の退院に係る調整および支援に関すること。

4．実　績

1）入院時支援件数

令和３年度
5,528 人

2）退院支援実施件数・実施率

令和３年度

退院患者数	退院支援実施件数	退院支援実施率
13,218 人	4,626 件	35.0%

3）退院前カンファレンス開催件数

令和３年度

退院時共同指導	保険医共同指導	（多機関）共同指導３者以上
87 件	4 件	26 件

4）外来相談

令和３年度

外来相談件数	812 件
外来相談総時間	21,339 時間

4－(2). 地域医療連携課:相談支援係(医療ソーシャルワーカー)

1．スタッフ

社会福祉士 10 名

2．業　務

入退院支援を含む、医療福祉相談業務。

3．実　績

令和 3 年度　医療ソーシャルワーカーが取り扱った相談実件数は、5,209 件であった。新規の相談実件数のうち、入院 4,533 件、外来 551 件。新規ケースの紹介経路は院内の看護師が全体の 94.1%だった。(表 1)

表 1　新規ケースの紹介経路

紹介経路／年	令和 3 年度
本人	25
家族・親戚縁者	32
医師	18
看護師	4,783
リハビリ職	5
他院内職員	35
院外関係機関	185
近隣者・知人	0
医療チーム	0
ソーシャルワーカー	1
合　　計	5,084

相談援助調整内容は、退院支援に関することが 13,094 件で最も多く、次に在宅療養・介護に関することが 3,273 件と多かった。(表 2)

表 2　相談援助調整内容 (のべ件数)

援助内容	令和年 3 年度
受診・受療	2,331
経済的問題	64
制度活用	322
入院療養生活	1,332
退院支援	13,094
在宅療養・介護	3,273
医療者との関係	35

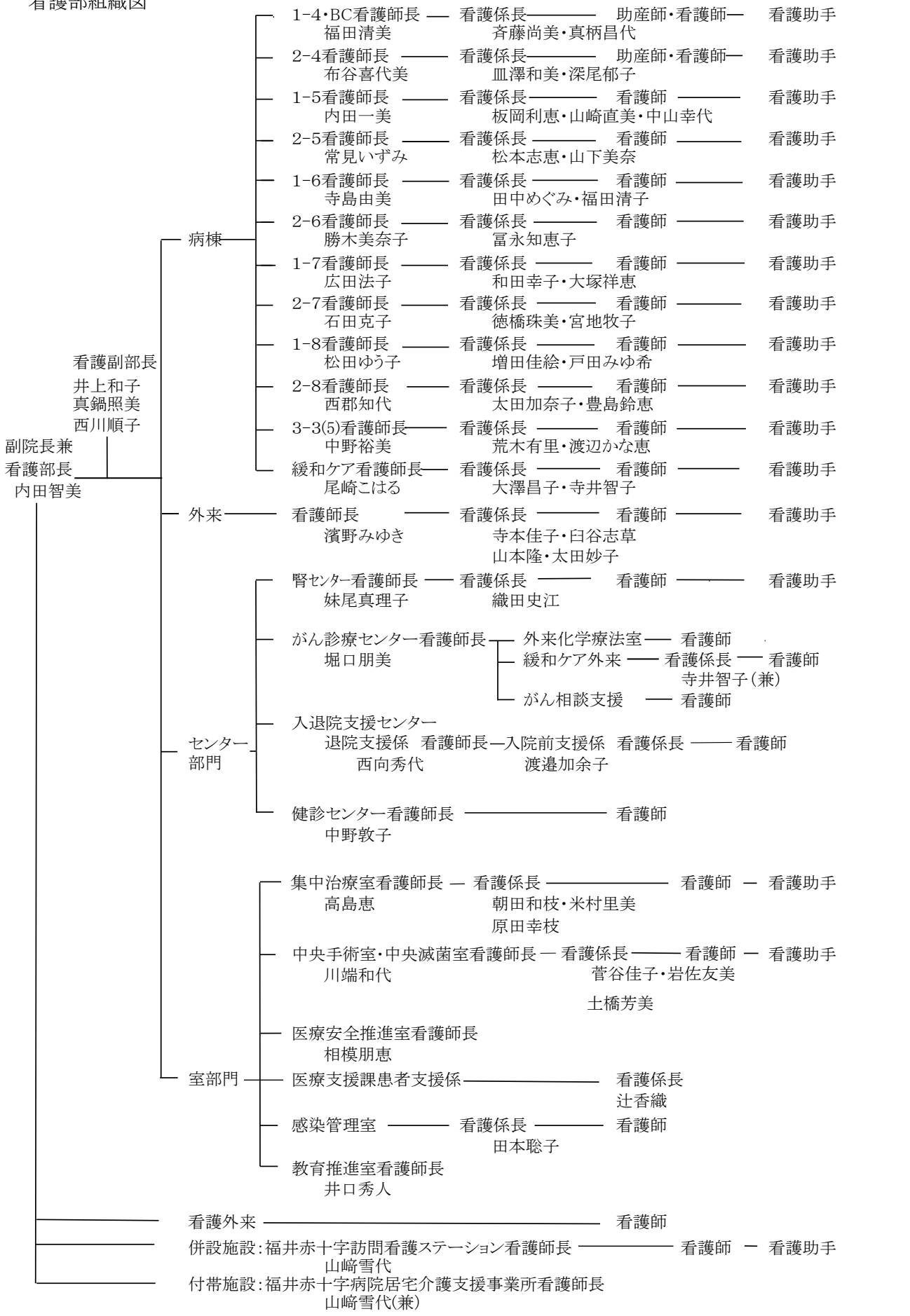
援助内容	令和年 3 年度
家族関係	16
日常生活	47
就労・就学	2
身元保証・権利擁護	12
死後対応	19
その他	18
合　　計	20,565

看　　護　　部

1．スタッフ

看護部組織図

福井赤十字病院看護部
令和3年4月1日現在



令和３年度実習指導者

（看護部内任命）　　令和３年４月１日

部　署	実習指導者	実習指導者
１の４	渡辺淳子	真柄昌代
１の５	平本有紀江	出村小百合
１の６	木本佳芳里	田中めぐみ
１の７	和田幸子	大塚祥恵
１の８	山田智美	戸田みゆ希
２の４	井上めぐみ	森国真奈美
２の５	渡辺えり子	山下美奈
２の６	小林三佳	冨永知恵子
２の７	宮本久美子	二谷恵
２の８	伊東美由紀	太田加奈子
３の３（5）	渡辺かな恵	荒木有里
緩和ケア	野坂仁美	大澤昌子
手術室	土橋芳美	菅谷佳子
集中治療室	羽生夏樹	長谷川淳子
腎センター	塚本ひとみ	市地香理
訪問看護ステーション	伊東志子	白崎江利子

令和３年度看護部リスクマネジャー

担当部署	リスクマネジャー
１の４・ＢＣ、２の４	深尾郁子係長
１の５，２の５	常見いずみ師長
１の６、２の６	寺島由美師長
１の７、２の７	和田幸子係長
１の８、２の８	西郡知代師長
３の３、ＰＣＵ、腎センター	織田史江係長
手術室、集中治療室	岩佐友美係長
外来	濱野みゆき師長
看護部	西川順子看護副部長

２．方針及び目標

令和３年４月１日

≪看護部の理念≫

赤十字の基本理念である人道に基づき、一人ひとりを大切にし、
その人らしい生活ができるよう支援します。

多様化する社会の変化に応じ、人々の生活やニーズも変化していきます。
疾病や障害からくる苦痛を軽減し、一人ひとりの健康レベルに合わせたライフスタイルを創造できるよう支援します。
そして、その人とのかかわりは個人の尊厳と権利を尊重し、一人ひとりを大切にします。
また、実践に当たっては、赤十字の７原則（人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性）を行動の指針とします。

≪基本方針≫

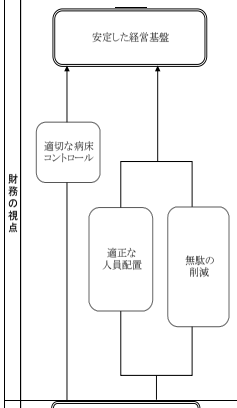
１．私たちは、一人ひとりの人権を守り、意思を尊重します。
２．私たちは、安全で安楽な、やさしい看護を提供します。
３．私たちは、専門職業人としての自覚を持ち、自己研鑽に努めます。
４．私たちは、地域の保健・医療・福祉と連携し、継続した看護を行います。
（※平成 24 年１月１日より病院理念が見直されたことを受け、看護部理念・基本方針を変更した）

≪令和３年度年度看護部目標≫

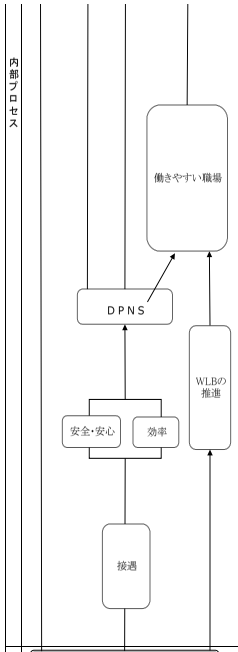
１．体と心にやさしい看護を提供する
　DPNS を基盤に
　①安全な看護の実践
　②考える看護の実践
　③接遇の推進
２．職員満足度を上げる
　① WLB 推進
　②看護職員の負担感軽減
　③やりがいが実感できる職場風土
３．健全経営に貢献する
　①適切な病床コントロール
　②適正な人員配置と活用
４．チーム医療の推進（専門職業人としての役割を果たす）
５．With コロナ時代に適切に対応する

令和３年度　看護部目標

目標　1　体と心にやさしい看護を提供する
　　2　職務満足度を上げる
　　3　健全経営に貢献する
　　4　チーム医療の推進（専門職業人としての役割を果たす）
　　5　Withコロナ時代に適切に対応する



戦略マップ	戦略目標	重要成功要因	評価指標	昨年度値	担当者	部署目標	部署評価指標・目標値	現状値	アクションプラン	成	評価
財務の視点	適切な病床コントロール	地域医療構想対応チームに参加	病床稼働率	72.8%	看護部	病床稼働率	83.0%	79.6%(R4.3)	・コロナ対応を視野に入れた適切な病床コントロール ・院長・副院長と各科代表部長等との意見交換会に参加	4	各診療科との意見交換会及び経営連絡会議に参加し、新規入院患者獲得や病床稼働率等を検討し、対策を実施した結果、昨年より上昇した。
			ICU利用率	全体53.1%(8床) 一般病床69.2%		ICU全体の利用率	70%以上（8床） 一般病床75%以上（7床）	53.2%(8床) 62.0%(7床)		3	ICUは、COVID対応のための病床を疑似1床、陽性者用1～2床確保していた影響もあり、利用率は低迷した。
			SCU稼働率	利用率：99.5% 稼働率：108.7%		利用率 稼働率	95%以上維持 100%以上維持	96.6% 108.0%		5	SCU稼働率は100%以上あり、順調である。
			PCU稼働率	病床稼働率：64%		稼働率	80.0%	67.90%		3	PCU稼働は低迷しており、目標値には至っていない。化学療法中の療養病棟としての使用や面談待ちの期間短縮を検討していく。
			DPCⅡ期間以内	66.4%		DPCⅡ期間以内	70%以上	67.4%	・DPCⅡ期間以内の割合増加（パス期間の見直し継続）	4	パスのⅡ期間は順次見直しを実施している。徐々に目標の70%に近づいた。
			在院（棟）日数	12.1日		在院（棟）日数	12.0日	11.74日		4	在院日数は、目標の範囲内である。
			新規入院患者数	11,751人		新規入院患者数	13,500人／年	13154人／年	・病院の月毎新規入院患者目標値を掲示し、意識付けを行う	4	毎月医事課からのデータをチェックしている。目標値には届かなかったが、13,000人を超えており一定の入院患者数は確保できた。
	適正な人員配置	看護配置7：1の維持	重症度、医療・看護必要度Ⅱ	【一般病棟】 Ⅱ：34.3％ 【ICU】】95.8%	看護部	重症度、医療・看護必要度Ⅱ 一般病棟 ICU	29%以上を維持 70%以上を維持	33.3%（直近3カ月） 93.2%（直近3カ月）	・医事課と連携し、毎月のデータを確認 ・ICUは、経営課からのデータを確認	5	必要度データは、一般病棟・ICUともに基準以上をキープできた。
		看護職員夜間配置加算12：1維持			看護部	夜勤が可能な看護師の確保	15名確保	2名	・夜勤帯の勤務が可能な看護補助者の採用を検討	2	臨時採用は、2名の採用にとどまった。今後も臨時の看護師採用を継続していく。
		急性期看護補助体制加算25：1取得 夜間急性期看護補助体制加算100：1取得	急性期看護補助体制加算25：1取得維持 夜間急性期看護補助体制加算100：1取得維持		看護部　看護師長PT	準夜帯看護補助者数	17名確保する。 同上	17名 53.2%(8床) 62.0%(7床)	・準夜帯看護補助者の定着を図るための研修を実施 ・準夜帯看護補助者の業務内容の確立	5	2021年3月より、準夜帯用の看護補助者を導入、17名を確保することが出来た。17名確保したことで、5月～急性期補助体制加算25：1（50%以上）及び夜間急性期看護補助体制加算100：1を取得することができた。しかし、離職者や人員の入れ替わりが多いことが課題であり、次年度対策を検討する。
		コロナフェーズに対応した人員配置			看護部	看護師の適切な人員配置	コロナ患者対応病棟の看護人員の適切な確保（3の3 ICU）	毎月3～6名の異動実施	・コロナ患者の入院数に応じ、各部署から看護師の人事異動を実施	5	コロナ患者数に合わせて、各部署からの看護師を3～6名前後で毎月人事異動を実施した。
	無駄の削減	5S活動の徹底		ラウンド実施率96.5% 100%達成不可回数 145回	各部署	環境整備ラウンドの実施 達成不可回数	95%以上 145回以下	100% 161件	・毎月各部署で環境ラウンドを実施 ・結果を定期的に、各部署にフィードバックし必要時改善	4	環境ラウンドは毎月実施しているが、達成不可回数は目標値より多い結果となった。毎月の結果をもとに、今後も継続して各部署にフィードバックしていく。
顧客の視点	連携病院（施設）の満足度向上	心の通う連携の推進				連携保険医療機関への訪問件数	20件以上	26件	・連携保険医療機関等への訪問	5	連携保険医療機関への訪問は予定通り実施できた。
		各種連携の会参加	紹介率、逆紹介率	70.6% 104%	地連	紹介率 逆紹介率	70%以上 100%以上	71.9% 98.75%	・連携情報提供書の充実	4	紹介率・逆紹介ともに目標値に近い実績を残した。
		退院翌日の問い合わせ継続	連携先からのクレーム数	5件	病棟師長	連携先からのクレーム数	5件(前年以下)	4件		5	4件の内容は、①インシュリン忘れ②経管栄養の接続コネクター忘れ③食事内容の記載間違い④透析記録の不備であった。事案を情報共有し、再発予防に努めている。
		退院前・後の訪問の継続	訪問件数	退院前1件 退院後1件	地連	退院前訪問 退院後訪問	1件以上 1件以上	1件 5件	・認定看護師、係長を中心に地域からの要望があった場合実施（慢性呼吸器疾患患者、整形術後患者等）	5	退院前訪問、退院後訪問ともに目標をクリア出来ている。主な利用診療科は、退院前：神経内科　退院後：腎泌尿器科、呼吸器内科、神経内科である。特に退院後訪問は順調に実施できた。
		地域へ繋ぐ外来看護の継続	地域の他職種との連携率（ケアマネとの連携）	91.6%	外来	地域の他職種との連携率	90.%以上を維持	95%	・外来各科毎に連携調査票を用いて毎月調査	5	毎月調査の結果、地域との連携率は目標値をクリア出来ている。今後も継続していく。
	患者満足度の向上	入退院支援センターの業務拡大	入退院支援加算1 入院時支援加算1 総合機能評価加算	5140件（428.3件/月） 算定率65.7% 1359件 3292件	地連	入退院支援加算1 入退院支援加算1算定率 入院時支援加算1 総合機能評価加算	5140件以上 65%以上 1359件以上 3292件以上	4626件 53.9% 1235件 3259件	・新総合評価入退院支援シートを変更し、病棟業務から入退院支援センター業務に移行	4	MSWのマンパワー不足等及び退院調整に時間を要する社会的課題のある高齢患者の増加等の要因等より、入退院支援加算、入院時支援加算ともに昨年よりやや低迷した。新総合評価入退院支援シートの変更と病棟から入退院センターへの業務移行は問題なく出来た。
		入退院支援センターと外来・病棟・地域との連携強化			師長係長審議5G	病棟・外来から入退院センターへの業務移行	7月からの運用	7月より運用中	・入退院支援センターの業務拡大に伴う、外来業務の標準化 ・入院時の業務量調査を実施	4	7月より予定入院支援業務の標準化を行った。業務量調査を行い、予定入院に関する業務にかかる時間や看護師とMSとの役割それぞれの業務を明らかにした。調査結果より、入院開連業務の標準化を行い、来年度は、入退院センターへの業務委譲を行っていく予定。
内部プロセスの視点	専門性を活かしたチーム医療の推進	院内デイケア活動定着	利用患者数	264名／年	認知症リンクナース委員会	デイケアの実施	（開催時）1回4名参加	54件	・コロナの感染状況を踏まえてデイケアを開催	3	コロナの流行により、感染状況を踏まえてディケアを開催したが、参加者数は大幅に減少した。
			せん妄ハイリスク加算件数	426件／月	認知症ケア部会	せん妄ハイリスク加算	500件／月	783件／月平均	・DST評価実施状況を毎月調査	5	ハイリスク加算は月別目標値をクリアできた。
		包括的脳卒中センターの準備 （コロナ逼迫時ICU体制整備）	一次脳卒中センター（PSC）認定への準備		1の5、看護部	脳卒中相談窓口の設置する	脳卒中相談窓口の設置	3月に設置済	・今年度脳卒中相談窓口を設置した。次年度は、実際の相談 を受け、実績を蓄積していく予定。	5	脳卒中相談窓口を設置できた。
		特定行為看護師の活動基盤の構築			看護部	特定行為業務管理部会の開催数	2回／年以上	3回／年開催	・特定行為業務管理部会を設置し、特定看護師の活動内容を検討	4	特定行為業務管理部会を立ち上げ、基準やマニュアルを作成した。特定行為業務管理部会は3回開催済。11月より抗精神薬の臨時の投与について整形外科病棟入院患者1名に特定行為を実施した。
						特定看護師の特定行為の実施数	特定看護師が2名以上実施	1名に実施	・特定看護師の特定行為の実施を支援		令和4年度は、特定認定看護師が呼吸器（人工呼吸器療法に係るもの）と（循環動態に係る薬剤投与関連）の研修修了者が2名予定。当院の特定行為区分を拡大出来るよう計画していく。
		看護外来の充実	算定件数	1680件／年	専門・認定看護師委員会	看護外来の算定方法を標準化す	算定方法の標準化	算定数　1645件	・看護外来の現状分析と問題点を抽出する。 ・看護外来の内規を改正し、周知 ・看護外来の算定方法を標準化	5	看護外来の現状分析と問題点を検討し、看護外来の内規を修正した。看護外来の算定については、算定方法を修正し標準化した。
	安全でやさしい看護の提供	DPNSの評価（安全・効率・教育）									
		新基準の浸透と評価体制の構築			師長係長審議4G	各部署における監査の実施	100%	実施100%	・各部署で監査を実施し（自他部署の相互評価）フィードバック ・DPNSの成果について監査を実施し、結果をフィードバック	5	係長会審議Gが部署毎に形式監査を実施し、問題点をフィードバックを行い、改善策を提出してもらった。 師長審議Gは、各部署の「DPNSの成果」に関するアンケート調査を実施し、結果を各部署にフィードバックした。今後も定期的な監査は必要であり係長審議・師長審議として活動を継続していく。
		看護記録の再教育 看護診断研修			教育委員	教育委員の研修参加率	各部署2名	各部署2名実施	・教育委員を対象に、看護診断指導者の育成	5	毎月の委員会と各部署で、看護診断の研修を委員に実施した。次年度は、正しく看護診断が使用されいるかを業務委員と連携して評価する予定。
		個別性のある看護実践がわかる記録			業務委員	看護記録の質監査	各部署年3回実施	各部署年3回実施	・看護記録の現状調査を実施 ・記録を分析し、個別性のある記録が出来ない要因を抽出 ・良い記録の案を提示	4	調査の結果、37例中27例（72%）個別性のある記録であった。調査した記録をもとに「個別性のある記録」の例を委員会で提示し、看護記録の充実を図れるよう各部署にフィードバックした。また記録の質監査ができる看護師を育成するため、各部署2名の監査委員を選出し、質監査を実施できた。
		身体抑制削減の推進	身体抑制率	身体抑制率：4.7% カンファレンス実施率：88.8% 代替案記載率：86.0%看護指示への反映率33.8%	師長審議7G 係長審議7G 認知症リンクナース会	身体抑制率 身体抑制カンファレンスにおける代替案の記載率 代替案の看護計画への反映率 代替案の看護指示への反映率 身体抑制にカンファレンスの質的監査を行う	4.7%以下 100% 80 % 60%	4.38% 100% 61.2 % 49.1%	・DiNQLデータの分析を行う ・身体抑制の代替案の記載率 ・代替案が看護計画に反映されているかを調査 ・代替案が看護指示に反映されているか調査 ・身体抑制に関するアンケート調査を実施	4	身体抑制率は、4%台で全国中央値より低く推移している。代替え案の記載率は100%となり、目標は達成された。しかし、看護計画の反映率、代替案の看護指示への反映率は目標値に届かなかった。今年度は、師長審議・係長審議Gとともに、倫理的な視点に着目してスタッフ指導及び記録の監査を進めてきたが、未だ倫理的なカンファレンスの定着までには至っていないと考える。次年度も活動を継続し、倫理的側面を考慮した身体抑制の解除への取り組みを進めていく予定。
		安全な看護の実践	看護関連の医療事故								
		ブリーフィング・デブリーフィング定着	チームSTEPPSにおけるブリーフィング・デブリーフ	ブリーフィング63% デブリフィーング42%	各部署	ブリーフィング全部署の実施 デブリーフィング全部署の実施	100% 100%	19部署中19部署が実施	・ブリーフィング、デブリーフィングの方法を検討 ・各部署ブリーフィング、デブリーフィングを定例化	5	19部署でブリーフィング、デブリーフィングの方法を検討し実施出来たことで、定着化を図れた。



	転倒・転落予防	3b以上事案件数	3b事案17件	看護部 MSMリンクナース会	転倒・転落ラウンドの実施率 3b以上事案件数	100% 3b事案17件以下	100% 10件	・転倒・転落ラウンドを毎月実施 ・転倒・転落アセスメントスクリーニングの現状調査 ・排泄行動中の転倒予防を検討	4	毎月転倒・転落ラウンドは実施出来ており、3b事案は昨年度より減少し今年度の目標は達成した。次年度は離床センサー付ベッドを導入予定である。転倒・転落防止対策の一つとして、使用手順等を作成し、看護職員に使用方法をレクチャーした後に導入できるよう準備をすすめていく。
	医療安全強化月間の継続（11月）			各部署	医療月間の部署活動実施率	100%	11月実施予定	・11月の医療安全月間に各部署が医療安全活動を実施	5	11月に各部署で医療安全活動を実施し、全部署が活動を実施することが出来た。
	誤認予防	患者誤認防止・患者確認の徹底		MSMリンクナース会	分析シートの活用	2件/月	4件/6か月	・各部署が分析シートを活用し予薬における誤認事故を分析	4	昨年度作成した、誤認分析シート（注射編、投薬編）を修正し、10月から使用を開始したため、今年度は、（投薬編）を 4回使用するに留まった。来年度は、分析シートを活用できるよう活動を継続していく。
	RRT活動定着		呼吸数記載率 全患者43.4% 重症者82.5%	ICU、1の5、医療安全	呼吸数記載率	全患者60%以上 重症者85%以上	全患者88.2% 重症者96.4%	・ナビゲータ（熱表）から呼吸数の記載の有無を定期的に調査 ・各部署の記録内容を調査。その結果をもとに改善活動を実施	5	昨年度周知した呼吸の観察に関する勉強会を全部署で実施した。又、部署別で呼吸観察の実施調査をもとに、 呼吸数の記載を進めていくことが出来た。
	接遇の推進	患者満足度結果（看護師関連）	外来：79.14点 入院：83.97点		患者満足度点数	外来：79.14点以上 入院：83.97点以上	外来：79.33% 入院：83.53%	・毎年調査を実施し、定期的に結果を提示。問題があれば対策立案し実施	4	10月に実施済み。前年より外来が微増、入院が微減した。患者満足度向上部会で対策を検討しているが、患者の 意見が反映されるよう看護部として協力していく。
	挨拶、身だしなみ	患者・家族からのご意見（クレーム数、お褒め）	クレーム13件 お褒め41件	接遇推進委員	クレーム数 お褒め件数	10件以下	クレーム数：21件 お褒め：28件	・毎月師長のラウンドを実施する。患者からのクレームに対し、すぐに対応	3	クレーム数は多い。看護師長ラウンドは日々実践しているが、患者からのクレームを早い段階で察知に対応できるよう必要時は、看護部会議でクレーム内容の情報共有を図り、対策を検討していく。
	看護師行動規範の徹底	行動規範の実施率	98.5%	看護部	行動規範の実施率	98.0%以上	98.2%	・毎月調査し、定期的に結果を提示し、遵守するよう指導	5	看護師長会で結果を提示し、目標値をクリアできた。
職員満足度の	部署の強み（売り）をPRする	ブログ紹介	21件/年	全部署　看護部	ブログ紹介	25件/年	26件	・月毎の担当部署を決めて実施 ・トピックスがあれば、その都度UPする	5	各部署の担当を決め、トピックス等をUPしたことで、目標値をクリアできた。
	やりがいのある職場風土の醸成 組織活性化ワークショップを活かした　目標管理	職員満足度調査結果（活性型組織）	活性型組織 意欲66.7　満足64.5	全部署　看護部	職員満足度調査	活性型組織 意欲66.7以上 満足64.5以上	活性型組織 意欲67.9 満足65.8	・前年の結果を踏まえ、各部署の計画を目標管理に入れて実施	5	今年度前半に、各部署の具体的な結果を提示し、それをもとに目標管理の中に計画を入れて実施した。その結果、わずかではあるが、前年比より上昇した。
	リフレクション定着		各部署実施率 90.8%	係長審議6G	係長が入ったリフレクション 毎月の実施率	1回/月以上：100%	100%	・係長が入ったリフレクションを毎月実施	5	係長会審議Gの活動として、ファシリテーターへの支援と育成を行い、毎月のリフレクションを実施出来た。
	GRACE継続		毎朝実施率100%	PCU		実施率100%	100%	・毎日継続して実施	5	GRACEはPCUで継続して実施している。
	師長支援体制 トークミーティング導入			師長審議2G	トークミーティングの開催	3回/年	3回/年	・毎回担当者がテーマを挙げて、学習会を開催する。 ・看護師長を対象にーディングを実施する。	5	3回のトークミーティングを実施することができた。 看護師長からも、トークミーティングは「各部署の共通課題を話し合う機会となり、対策のヒントを得ることが出来る」など、開催が効果的であるという評価を得られた。後半も開催予定。
	WLBの推進、適切な労務管理 計画的な勤務表作成	有給休暇取得率	全職員5日取得 （夏休含む）	看護部 各師長	有給休暇取得率	全職員（計5日）100%	100%	・スタッフが計画的に有休休暇を取得するよう配慮	5	急な病欠者などが出た一部の部署を除いて、計画的に有給休暇は取得できた。結果的に看護職（正規看護師・嘱託看護師）全員が計5日取得すること出来た。
	2時間越え時間外の削減	2時間越え時間外の件数	総時間外28,088時間 2時間越え2,300件	看護部、各部署	総時間外 2時間越え	28,088時間以内 2,300件以内	33,271時間 3,273件	・毎月、部署毎の時間外を調査し、各部署に提示する。必要時、改善策を検討	4	毎月2時間超えに関して調査しており、2時間越えが増加している部署には、適宜指導しているが、昨年比より時間外が多い結果となった。
	一ヶ月72時間ルール実施の検討	夜勤免除看護師の減少、夜勤看護師の増員	短時間利用者87名 夜勤免除者12名 免除率13.8%	看護部	短時間利用者 夜勤免除者（宿日直免除含） 免除率	13%以下	10名 11.7%	・スタッフのWLBの推奨する。復帰前面談と復帰後の定期面談を実施 ・夜間保育利用を勧める。 ・臨時で看護師を募集	5	復帰前面談、復帰後の定期面談を実施している。夜勤免除者10名であり、面談の効果があると考える。 夜間保育も、利用者が1名出ている。
	夜間看護師の業務負担軽減 準夜帯看護補助者（イブニングエイド）数 の確保			看護部（WG）	準夜帯看護補助者数	17名	17名確保	・準夜帯看護補助者の定着を図るための研修を実施 ・準夜帯看護補助者の業務内容の確立	4	17名の準夜帯看護補助者を確保することは出来た。しかし、3月末で12名が退職し、その都度新しい人材を確保いてる。短期間での退職が多いため、実際の補助業務を理解してもらうために、最初の見学を看護補助者の体験実習に変更した。
人材育成	新人育成（ローテーション研修）		良かった：90%	教育推進室、教育委員	「良かった」の回答率	90%以上	94%	・ローテーション研修を実施・評価し、次年度の研修を検討	5	ローテーション研修の期間が「良かった」と答えた看護師が多く、研修は効果的であったと考える。
	赤十字看護師（教護員）の育成 ラダー取得の推進	実践者ラダーⅠ取得率 実践者ラダー取得率 管理者ラダー取得率	実践者Ⅰ：90.6% 実践者Ⅱ：75.8% 実践者Ⅲ：23.6% 管理者：61.5%	教育委員 教育委員	実践者Ⅰ取得率 実践者Ⅱ取得率 実践者Ⅲ取得率 管理者ラダー	90%以上 80%以上 30%以上 70%以上	88.7% 72.8% 22.6% 63.0%	・各部署毎に年間取得予定を立て、取得を推進	3	各部署毎に年間取得計画を立てて推進している。2021年度は、実践者Ⅰ：40名、実践者Ⅱ：28名、実践者Ⅲ：5名、管理Ⅰ：2名の計75名が取得した。実践者ラダーⅢ、管理者ラダーの取得が遅まない状況がある。次年度、ラダー委員会を中心として、継続してラダー取得を推進していく。
	赤十字講習の受講の推進	救急法、生活支援受講者数	基礎49名 養成　0名 その他の講習　0名 取得率76.9%		基礎・養成講習の参加数 基礎・養成にBLS、ACLSの資格を加えた取得率	基礎34名 その他の講習会 取得率75%以上	基礎96名 養成34名	・院内職員対象に研修会を実施し、取得を推進	4	コロナ禍の状況を見ながら、救急法、養成講習を開催することが出来た。次年度も計画的に資格取得を勧めていく。
	院内実践リーダー看護師育成	院内実践リーダー看護師数	トリアージ6名 認知症3名	教育委員	3つのコースの参加者数	トリアージ　3名以上 感染管理　3名以上 認知症ケア　3名以上	トリアージ8名 感染対策8名 認知症ケア2名 入退院支援：4名	・各コースの募集を募り、参加を推進	5	認知症ケアは研修未受講があり、1名次年度持ち越しになったが、それ以外のコースはすべて院内実践リーダー看護師コースを修了した。
	次世代管理者の育成	実習指導者、ファースト、セカンド、サード受講者数	実習指導者2名 ファースト3名	看護部	各研修参加を推進する	ファースト2名 セカンド3名 サード2名	2名受講 3名受講 2名受講	・受講希望者を募り、参加を推進 ・各看護師長にコンピテンシーについての説明を実施	5	計画通り研修修了した。
	コンピテンシーの導入			師長審議1G	係長候補者の育成	部署1名	16部署23名が実施	・コンピテンシー評価表を活用し、対象者1名に対し、評価を実施 ・評価後、対象者にフィードバック	5	今年度、次世代育成（係長候補）のため、コンピテンシー理論を活用し、当院独自の評価票を作成した。又、コンピテンシー評価票の運用マニュアルを作成し、各部署において、ラダーⅢ取得者に対して看護師長が評価を試行した。
	専門・認定看護師育成	専門看護師数、認定看護師数	専門看護師1名 感染管理1名・認知症1名 クリティカル1名 今年度研修予定1名	看護部	認定看護師の3名受験予定	感染管理1名 救急看護1名 認知症看護1名 上記3名が資格取得 クリティカル1名研修受講 老年専門看護師1名大学院	認定看護師3名合格	・今年度、3名が認定試験合格 ・クリティカルケア研修：1名受講修了　次年度認定試験予定 ・老年専門看護師資格取得のため、大学院に在学中	5	認定試験3名合格。次年度、感染管理認定看護師1名　呼吸器疾患看護認定看護師1名、受講予定。当院に必要な分野（糖尿病看護、皮膚・排泄ケア、脳卒中リハビリテーション等）次世代育成のため準備をすすめる必要がある。
	特定行為看護師の育成	特定行為研修修了者数	4名修了	看護部、訪問看護	特定看護師の育成数	2名以上	2名	・特定行為研修受講を支援	5	現在1名研修中であり、予定通り2名修了予定。
	SCU看護師育成			1の5	脳卒中教室を運営看護師 ｱﾝｷﾞｵ治療介助看護師	3名以上 3名以上	3名育成 6名育成	・脳卒中教室が運営できるよう、認定看護師から指導を受ける ・ｱﾝｷﾞｵ治療介助が出来るよう、実際のｱﾝｷﾞｵ介助を行いトレーニングを行う	5	計画以上に育成することが出来た。
	RRT看護師育成		RRT看護師6名	ICU	RRT看護師の育成数	4名	2名	・教育スケジュールに沿って育成する。	4	前半2名育成出来た。次年度もRRT看護師の育成を進めていく。
人材確保	看護師確保		新入職予定者40名	看護部	病院見学会の実施 インターンシップの開催	新入職予定者35名	内定者　44名 （うち既卒1名）	・病院見学会の実施 ・インターンシップの実施 ・コロナ禍の状況に応じて、Web開催等を検討	5	左記44名の新卒者が内定している。 8月、9月にインターンシップ開催済。11月頃より病院見学開始。コロナ禍で病院見学が休止となる事態がある。次年度は、感染状況を踏まえて、Web開催等を進めていく予定。
	看護助手確保		新入職者数6名 退職予定者2名	看護部		イブニングエイド17名 日中の看護助手25名	17名確保 26名	・左記人数を常に人員確保するよう、人事課と連携	5	17名の準夜帯看護補助者を確保することは出来た。入れ替りはあるが、人事課と連携し確保出来ている。 日勤帯の看護補助者については入れ替えはあるが、26名確保出来ている。

3．実　績

令和３年度　看護師長会審議事項

テーマ	メンバー	目的・方法等	結果及び考察
次世代管理者育成への取り組み第１報 ～コンピテンシーモデルを用いた次世代看護係長評価表の作成～	寺島・尾崎 松田・広田 相模	目的： 次世代看護管理者（看護係長）を計画的に育成する 方法： ①当院モデルを作成する ②当院モデルを用いて看護係長として望ましいされる特性ついて評価する ③各部署１名（実践者ラダーⅢ以上のスタッフ）を評価する	今回、コンピテンシーモデルを用いた次世代看護係長評価表（当院モデル）を作成した。作成した当院モデルをもとに、実践者ラダーⅢ以上のスタッフの評価を実施した。当院モデルの評価として、具体的行動レベルまで明確になっており、客観的に評価できるものになった。それに加え、被評価者への動機づけのツールとしても活用できると考える。今回の当院モデルを、次年度の看護部の昇任に活用していく予定である。次年度も、次世代看護管理者育成に活用できるよう活動継続予定
看護師長を支援するトークミーティングの定着	堀口・山崎 中野裕・井口	目的：看護師長支援として、学習会を含めたトークミーティングを開催し、来年度以降の定着を図る 方法： ①学習会を含めたトークミーティングを年３回開催する ②トークミーティングの参加者からの感想・意見を質的に分析し、継続的に行えるように来年度以降の運営方法を決定する	予定通り、第１回目テーマ「リーダー看護師の育成について」第２回目テーマ「対応困難なスタッフについて」第３回目テーマ「面接に関する困り事」についてトークミーティングを開催した。トークミーティングは、師長支援として、様々な悩みを共有し、話しやすい環境で語りができ、自分たちの管理へのヒントが得られていることが分かった。次年度は、看護部が開催主体となり、看護師長支援としてのトークミーティングを継続予定。
身体抑制削減の推進 倫理的思考を具現化する身体抑制カンファレンスを目指して	中野敦・石田 高島・妹尾	目的： 身体抑制カンファレンスにおいて倫理的側面から検討を行うことができる 方法： ①身体抑制カンファレンスシートをテンプレート化する ②身体抑制カンファレンス記録の質的監査（前） ③身体抑制解除に向けた全スタッフ対象の勉強会の開催 ④身体抑制カンファレンス記録の質的監査（後）	今回、身体抑制カンファレンス内容をテンプレート化した。又、身体抑制カンファレンスの内容について質的監査を実施した。その結果、項目の中で1, 患者・家族の不安を受け止めた内容2, 多職種の意見を取り入れた早期解除への取り組み内容3, 身体抑制の回避・軽減・解除にむけた取り組み内容の３つについて点数が低かった。カンファレンスのテンプレート化により、取り組み内容は記載されるようになったが、内容は「事故防止」が主であり、患者の倫理的な側面からの検討内容が記載されていない症例が多かった。身体抑制解除にむけた取り組みは、患者への５つの基本的ケアに対して必要な看護を行うよう、スタッフに働きかけていく必要がある。次年度も患者の倫理的な側面を検討したカンファレンスの充実を中心に、身体抑制削減の活動を継続予定。

ＤＰＮＳの評価体制の基盤の確立と「ＤＰＮＳの成果」の監査	勝木・内田 西郡・福田 常見	目的：「ＤＰＮＳの成果」の監査を行い各部署にフィードバックすることで部署単位でＤＰＮＳの改善に取り組むことのできる体制を構築する 方法： ①全部署の「ＤＰＮＳの成果」の監査を行い集計する ②全部署の「ＤＰＮＳの成果」の監査の結果を分析し、各部署にフィードバックする ③「ＤＰＮＳの成果」の監査体制を確立する	ＤＰＮＳを実施している12部署に対して成果の監査を実施し、その結果を各部署にフィードバックした。成果の7項目のうち、「医療チームとしての情報共有」「活気ある職場風土の醸成」「看護の伝承・伝授」「安心・安楽な看護の実践」の4項目は90%以上「教育・人材育成」「タイムマネジメント」の2項目は80%以上と高い結果であったが、「ワークライフバランス」は68%と低い結果となった。ワークライフバランスの内容をみてみると、保たれると答えたのは50歳代が最も高く、ついで20台、30代、40代の順であった。30代40代は育児世代であり、仕事と家庭の両立が困難と感じていることが考えられた。今回の活動（「ＤＰＮＳの成果」）は、定期的な評価が必要であり、今後も定期的に行う必要があると考える。
入退院センターと外来・病棟・地域との連携に向けてとの連携にむけて　第２報 **<u>※看護師長・看護係長合同審議</u>**	【看護師長】 濱野・西向 川端・布谷 【看護係長】 増田･渡辺加 寺本・臼谷 真柄	目的： 【外来】予定入院（手術目的以外）の入院支援業務を、入退院支援センターに委譲できる 【入退院支援センター】 外来における入退院支援関連業務を標準化し、外来とセンター間の業務を集約化・効率化できる。 方法： 【外来】 ①予定入院に関する外来業務の標準化を行う ②予定入院に関する外来業務の業務量調査を行う ③①②を踏まえて、センターへの業務委譲を検討する 【入退院センター】 ①外来の入退院支援関連業務の業務量調査が終了し、集約化にむけた業務内容を洗い出す ②病棟の入院時定例業務の負担軽減と効率化の取り組みの評価を行う	【外来】予定入院患者の入院までの流れの中で、入退院センターに移行できると考えられる業務について業務量調査を実施した。その結果、入院オリエンテーションに関連する業務が約7割を占めていた。入退院支援センターに入院支援業務を委譲することで、大幅に実働時間の短縮が図れることが考えられた。薬剤業務に関連する内容は3時間／日を費やしており、将来的に薬剤部へ業務を委譲したいと考えている。 看護師とMSの業務分担がされていないことが明らかになった。外来業務内容を効率化させるためには、外来業務の整理、特に看護師とＭＳの業務分担の見直しが必要であることが分かった。 【入退院支援センター】入退院支援センターと病棟間の入院24時間以内業務にかかる調査を実施した結果、前年比月予定入院患者では、401.8人×17.58分=7063.6分／月の削減となった。 また、入退院支援センターで看護データベースから総合評価入退院支援ＳＴを実施することで、病棟看護師の負担感が軽減された。センターが得た情報を病棟看護師が確認し、そのデータから看護計画立案や退院支援をスムーズに進められるようになった。外来業務の入退院センターへの業務委譲に関しては、次年度も活動継続予定。

令和３年度　看護係長会審議事項

審議事項	メンバー	目的・方法	評価
ＤＰＮＳの形式監査と監査評価によるフィードバック	荒木・福田 松本・大澤	目標：「ＤＰＮＳの形式監査」を行い、各部署の問題点を抽出しフィードバックすることで各部署のＤＰＮＳの改善につなげる 方法： ①係長が各部署でＤＰＮＳの形式監査表を用いて評価する ②監査結果から、各部署での課題抽出を行いフィードバックする ③次年度からの体制の検討を行う	「ＤＰＮＳの形式監査」を部署毎に行い、結果をフィードバックした。今回自部署の係長と他部署の係長がペアとなり監査を行うことで、他部署と自部署の業務内容を比較でき、実際にスタッフの動きや患者との関わりを見ることができ、自部署の改善策を検討することができたとする意見があった。形式監査を係長が行ったことは、管理者と実践者としての両面から評価することができるため、今後も監査者は係長が妥当だと考える。今回の形式監査から、ＤＰＮＳの業務マニュアルの修正を行い、次年度以降も各部署の形式監査を継続していく予定である。
ファシリテーター育成を行うことで各部署リフレクションを定着させるための取り組み	中山･深尾 織田･米村 土橋	目的：効果が実感できるリフレクションを定着させる 方法： ①係長がファシリテーターを務めたリフレクションを各部署１回／月以上行う ②各部署で統一したリフレクションが開催できるよう院内ルールを作成する ③ファシリテーションスキル向上のため、上司による支援システムを構築する ④ファシリテーションスキル向上のため、同僚による支援システムを構築する	毎月の係長が入ったリフレクションの実施は100%であった。しかし、リフレクションに看護師長が参加し支援の場となったのは31%に留まる結果であった。同僚による支援は、８～12月に意見交換会を実施したことが同僚支援の場になったと考える。２年間の活動で、院内ルールの作成、同僚支援、上司支援のシステム構築ができた。同僚支援・上司支援を受けた係長がファシリテーターを行ったことで、各部署の効果的なリフレクションに繋がっている。今後の課題として、院内ルール、特にリフレクション後の効果の確認について確実に行っていくよう周知を行っていきたい。今後は、リフレクションの質の向上のために今後も継続したファシリテーターの育成が必要であり、係長会を中心に活動を継続していく予定である。
倫理的な視点で身体抑制カンファレンスを行い看護実践につなげるための取り組み	宮地・山﨑 太田加・和田	目標：身体抑制を解除するための取り組みが看護計画に反映され看護実践につなげることができる 方法： ①身体抑制カンファレンスの内容を監査する（前） ＊解除案を２つ以上 ＊看護計画に抑制解除の内容を挙げる ＊看護指示に抑制解除の内容を挙げる ②身体抑制を行っている患者の代替案が看護計画を立案するよう各部署係長からスタッフ指導する。 ③身体抑制カンファレンスの内容を監査する（後）	抑制を解除するための２つ以上の記載の結果は、前：59.2%⇒後：100%、看護計画に記載されている割合は、前：14.4%⇒後：61.2%、看護指示に挙げた割合は、前：8.2%⇒後：49・1%という結果であった。 取り組み内容の適切な記載は83.2%、不適切な記載は16.8%であった。身体抑制カンファレンスが、看護計画や看護指示に反映させるという形式的なものになっており、身体抑制をはずすための倫理的な視点で話し合うことが出来ていないことが明らかになった。次年度も活動を継続し、倫理的視点で身体抑制カンファレンスを行う必要性と抑制解除にむけた取り組みの大切さを周知し実践に繋げていきたい。

令和３年度　専門・認定看護師活動実績

【専門看護師】

災害看護専門：朝田　和枝

実践 相談 調整 倫理調整	防災リンクナース委員会による火災を想定した机上訓練の実施と推進 災害時対応能力育成研修会（6 回 / 年）開催（災害ワーキンググループ教育班） 災害救護支援室コーディネーター班での活動、災害対応訓練（11 月 6 日土曜日）実施 福井県看護協会　災害看護委員会活動（５期目） 2021 年 9 月（10 日間）防災の日「災害時の避難所生活（TKB48）を考えよう！！」福井赤十字病院エントランスホールにてパネル展示　看護部　専門認定看護師会主催
教育	医師会看護専門学校　講義　1 件、福井県内研修会　3 件、県外研修会　3 件、
研究	日本災害看護学会第 23 回年次大会（示説）発表「福祉避難所の現状と課題 -A 町要配慮者からのヒアリング結果より -」、他共同演者 1 件

がん看護：冨永　知恵子

実践･調整等	がん患者指導管理料にかかる面談　指導管理料 1：74 件　指導管理料 2：4 件 ニーズ陽性患者やフォロー面談：38 件、調整・相談 / コンサルテーション：11/0 件
実践･調整等	院内レベル教育講師（新人） 福井県立大学看護学科 非常勤講師 学部生講義担当 福井大学大学院医学系研究科 非常勤講師

【認定看護師】

救急看護：朝田和枝　竹島　静

実践	院内ﾄﾘｱｰｼﾞ件数　6,607 件（加算取得率　54.7%）、ドクターヘリ受け入れ 28 件（5/28 ～開始）、防災ヘリ受入れ 3 件、
指導	基礎教育Ⅰ・Ⅱ（救急看護Ⅰ 33 人・Ⅱ 24 人），院内認定看護師（院内ﾄﾘｱｰｼﾞﾅｰｽ）養成コース（8 人）開催，AHA　BLS コース（10 人）･AHA　ACLS コース（4 人）開催，ICLS コース、JMECC コースインストラクターとして参加（各々年 1 回開催）、
相談	相談件数 2 件，救急搬送受け入れ困難事例（94 件）検討、救急外来で起こった問題事例の検討、院内調整困難事例の検討、帰宅患者の救急外来滞在時間の検討、ドクタークロス事例検証（27 件）、ドクターヘリ受け入れ事例検証（28 件）（5/28 ～開始）、防災ヘリ受入れ事例検証（3 件）、

認知症看護：山本　隆　戸田　由恵

実践	もの忘れサポート看護外来件数：41 件、認知症ケアチーム介入入患者延数：556 件、 院内デイケア参加者延数： 54 件、病棟勉強会：1 件、認知症ケアに関する研修会
指導	院内認定「認知症看護コース」育成
相談	電話相談 34 件
院外活動	福井県委託認知症対応力向上研修会講師：2 件 認定看護師派遣事業（福井県立すこやかシルバー病院：1 件） 福井県看護連盟（急性期病院におけるせん妄ケア講義：1 件）
研究発表	なし

糖尿病看護：清水　雅代

実践	糖尿病療養支援外来（療養指導 419 件） 糖尿病リンクナース委員会開催（毎月第 2 月曜日） 糖尿病サポート部会チーム会活動 1 回 /2 か月（偶数月第 2 火曜日） 福井糖尿病療養指導士・日本糖尿病療養指導士資格更新の支援活動
指導	院内レベル教育 2 回（レベルⅠ、Ⅱ）講義担当者交代のためのサポート
相談	治療や生活調整等に関する相談 184 件
院外活動	福井糖尿病看護研究会世話人、福井糖尿病療養指導研究会世話人、福井県糖尿病懇話会世話人、福井県糖尿病協会理事

がん性疼痛看護：寺井　智子

実践	緩和ケアチーム専任看護師業務（緩和ケア外来・ラウンド・カンファレンス)、緩和ケア研修会・県緩和ケアチーム検討会補助
指導	院内研修講師 4 件
相談	42 件
院外活動	福井県がん診療連携協議会研修部会幹事 福井県緩和医療研究会幹事
研究発表	福井県緩和医療研究会（共同研究） 北陸緩和医療研究会（共同研究）

訪問看護：山﨑　雪代

実践	がん 38 件（うちがん末期 31 件)、難病 13 件、呼吸器疾患 23 件、心疾患 21 件、認知症 13 件等、計 153 件 / 年自部署で担当し、訪問やカンファレンス参加。
指導	新規 ST・看護大学等の実習指導。緩和ケア・入退院支援リンクナース・認知症院内認定看護師指導。入退院カンファレンス等での退院支援の指導 48 件
相談	事業運営（加算等制度について)、訪問看護ケア方法、多職種連携、退院支援指導に関する相談 18 件（院外からの相談含)、その他 CM からのケアマネジメントに関する相談、MSW からの退院調整に関する相談
院外活動	福井県地域医療構想調整会議、福井市医療的ケア児（者）推進協議会、福井市在宅医療介護検討協議会、福井県医師会・福井県歯科医師会・福井市医師会主催の会議、院外講師等（福井大学看護学科在宅看護論、認知症・呼吸器疾患看護認定看護師教育課程、看護協会認定看護師派遣事業、看護協会退院支援研修、福井県訪問看護ステーション連絡協議会管理者研修等）

慢性呼吸器疾患看護：秋山　奈津江

実践	看護外来（水曜日）:86 名　禁煙外来（月・水曜日）3 名 退院前訪問:1 件　退院後訪問:4 件 呼吸ケアサポートチームラウンド（毎水曜日）
指導	院内外講師　8 件 (酸素療法、人工呼吸器・NPPV 管理、吸引、ハイフローセラピー、フィジカルアセスメントなど) 慢性呼吸器疾患看護認定看護師研修生実習指導
相談	158 件（酸素療法・在宅酸素療法・ネーザルハイフロー・NPPV・人工呼吸器管理・吸引・気管切開管理、体位ドレナージ・カフ圧管理・ウイニングなど
院外活動	認定看護師教育課程教員会委員 福井県呼吸ケア研究会役員 福井県呼吸ケアネットワーク（呼吸器分野に関する研修の企画・運営） 福井県在宅酸素療法患者会（運営協力）
研究発表	なし

皮膚・排泄ケア：上口　美恵、水島　典子

実践	褥瘡ハイリスク患者ケア加算 1,739 件、褥瘡ラウンド（毎週)、褥瘡予防ラウンド（毎週)、排尿チームラウンド件 408 件、 予防フットケア外来 475 件、創傷・ストーマ外来 230 件、 病棟：褥瘡 900 件、ストーマ 150 件、創傷 520 件
指導	院内講師 12 件
相談	褥瘡 100 件、ストーマ 210 件、創傷 150 件、がんカウンセリング 380 件
院外活動	講師 2 件
研究発表	なし

乳がん看護：吉川　朋子

実践	がん相談 379 件、がんサポート外来 707 件、リンパ浮腫外来 214 件 マンマカンファレンス（火曜日)、がん診療センターカンファレンス（月 1 回)、HBOC カンファレンス 6 件、がんゲノム外来同席 11 件
指導	院内講師 3 件
相談	44 件（副作用対策、リンパ浮腫ケア、患者対応等)
院外活動	福井県がん相談員ワーキング委員
研究発表	なし

緩和ケア：田坂　和代

実践	がんサポート外来（毎週月・金曜日）108 件
指導	院内研修講師 2 件
相談	ELNEC-J 看護師教育プログラム指導者
研究発表	なし

がん化学療法看護：広田　法子　大塚　祥恵　冨永　知恵子

実践	がん患者指導管理料イ・ロ算定に係る IC 同席、面談　25 件 がん診療センター応援（外来化学療法室、ペイン外来、緩和ケアチーム）
指導	がん診療センター勉強会、病棟勉強会、院内認定看護師フォローアップ研修実施
相談	院内相談 80 件
院外活動	福井県がん化学療法認定看護師会活動、看護協会出前講座
研究発表	なし

手術看護：常見　いずみ　岩佐　友美

実践	看護外来　87 件
指導	術中体位、褥瘡予防に関する相談
院外活動	第 35 回　日本手術看護学会年次大会　WEB 参加 日本手術看護学会　福井地区ブロック地区役員会 WEB 参加 日本手術看護学会　福井地区ブロック認定看護師会 WEB 参加 日本手術看護学会　福井地区ブロック研修会参加

がん放射線療法看護：太田　妙子

実践	放射線治療室専従看護師の補助、放射線治療カンファレンス（水）
指導	院内研修講師 1 件
相談	なし
院外活動	日本放射線看護学会学術集会 web 参加
研究発表	日本放射線看護学会学術集会

感染管理：真鍋　照美、坪田　マキ、田本　聡子

実践	新型コロナウイルス対応、その他感染管理業務
指導	全職員対象感染対策研修会、看護部レベル教育、業者対象研修 院内実践リーダー看護師 感染対策実践看護師 8 名養成 石川県立看護大学感染管理認定看護師教育過程実習生 2 名受入れ　等
相談	新型コロナウイルス関連多数
院外活動	認定看護師等派遣事業 新型コロナウイルス関連会議、意見交換会等出席 石川県立看護大学感染管理認定看護師教育過程入試委員

集中ケア：原田　幸枝・小川　佳代

実践	早期リハビリ算定数：1,304 件、RRS 起動件数：48 件、RST チームラウンド件数：30 件、RST 看護師ラウンド件数：115 件
指導	院内レベル教育フィジカルアセスメント講師、AHA BLS・ACLS インストラクター、院内各病棟での急変時シミュレーション研修アドバイザー
相談	人工呼吸器装着中及び気管切開中の呼吸管理、酸素吸入管理、呼吸管理全般、全身状態が不安定な患者の対応に対する相談
院外活動	福井県看護協会出前講座：3 件、福井県看護協会救急看護委員会
研究発表	なし

摂食・嚥下障害看護：板岡　利恵

実践	嚥下カンファレンス毎週水曜日実施 摂食・嚥下看護外来 36 件 がんサポート外来 64 件
指導	がん診療センター勉強会　レベル研修Ⅰ・Ⅱ -2・Ⅱ -3 認知症院内認定講師　病棟勉強会
相談	口腔ケア相談
院外活動	専門・認定看護師出前講座　2 件
研究発表	なし

慢性心不全看護：田中　めぐみ

実践	心不全看護外来 129 件 / 年
指導	院内研修講師 2 件
相談	他病棟での ASV 装着患者の看護についての相談　1 件
院外活動	福井県看護協会　出前講座 9/25(土)　トゥモローズ訪問看護・リハセンター 12/2(木)　中村病院 10/8(金)　心不全治療研究会 症例発表「多職種と協働した心不全患者の包括的療養支援」 福井県心臓リハビリテーション研究会世話人 福井県心不全治療研究会世話人 福井冠疾患治療を考える会　連携パス改訂 WG メンバー
研究発表	なし

脳卒中リハビリテーション看護：井口　秀人

実践	看護外来 40 件　排尿ケアチームラウンド 408 件
指導	院内研修講師 8 件
相談	院内相談 2 件
院外活動	福井県脳卒中連携協議会実務担当者
研究発表	なし

令和３年度　　看護管理課題解決実践研修Ａ

目的：自部署の業務上の問題を明確にし、解決できる。

部署	氏名	テーマ
1‐4病棟	斉藤尚美	リフレクションの定着
1‐5病棟	板岡利恵	脳卒中ケアユニットと一般病床用の円滑な業務体制の構築に向けた取り組み
1‐6病棟	田中めぐみ	心不全患者のアドバンス・ケア・プランニング推進
1‐７病棟	大塚祥恵	1－7病棟の褥瘡発生率を低下させるための取り組み
1‐8病棟	戸田みゆ希	アサーティブコミュニケーションを活用した業務体制の見直し
2‐4病棟	皿澤和美	周産期のメンタルヘルスの支援体制
2‐5病棟	山下美奈	クリニカルパスを適正に入力できるための取り組み
2‐6病棟	冨永知恵子	ブリーフィング・デブリーフィングの定着に向けた取り組み
2‐7病棟	徳橋珠美	回診車の改善～感染対策の徹底と業務の効率化～
2‐8病棟	豊島鈴恵	2－8病棟における DPNS の再構築
3-3(5)病棟	渡邉かな恵	コロナ関連病棟における応援勤務者への指導や関わりの評価と見直しについて
ＰＣＵ	寺井智子	緩和ケア病棟の有効利用を促すための入退棟体制改善の試み
ＩＣＵ	原田幸枝	早期離床・リハビリテーションチーム介入の効果と今後の取り組みの検討
ＩＣＵ	朝田和枝	福井県ドクターヘリの導入開始に伴った党員の救急患者受けいれ体制の検証ー 2021 年度のドクターヘリ搬送を含む救急患者搬送の実態調査よりー
ＯＰ室	岩佐友美	手術室における標準看護計画の作成と手術看護記録内容の統一に向けた取り組み
ＯＰ室	菅谷佳子	ＴＡＴ時間短縮への取り組み
外来	太田妙子	外来看護師の有効な人員配置、時間の有効活用を目指して～中央放射線部と超音波室の統括リーダー制を導入する～
外来	山本隆	外来（10 ブース）におけるブリーフィングとデブリーフィングの定着への取り組み
感染対策室	田本聡子	「ＩＣＴリンクナースの育成に向けての取り組み」 ～部署全体で感染管理に取り組めるための活動～
医療支援課	辻香織	相談カードを活用し入院中の苦情やクレームを吸い上げ入院中に解決する

令和３年度　看護管理課題解決実践研修Ｂ

目的：組織における自部署の課題を明確にし、看護管理実践を展開する

部署	氏名	テーマ
1‐4病棟	福田清美	小児科外来と病棟一元化における外来スタッフの育成 ～外来教育体制を整える～
1‐5病棟	内田一美	看護師に必要な社会人基礎力の育成
1‐6病棟	寺島由美	看護係長支援を通して部署の成長を目指す ～管理者の問題解決メソット　ＰＤＰ理論を使用して～

1－7病棟	広田法子	「看護師の満足度向上に繋がる業務改善」 －看護師10年以下の「有能感」向上を図る－
1－8病棟	松田ゆう子	高齢者ケアの質の向上を目指した人材育成と活用 ～特定行為実施体制の構築～
2－4病棟	布谷喜代美	助産師の専門性を活かす活動とそれによる助産師能力向上に関する意識の変化
2－5病棟	常見いずみ	新人ディリーダーの育成
2－6病棟	勝木美奈子	在宅指導と退院後訪問指導を通して在宅退院を見据えた看護の強化を図る
2－7病棟	石田克子	２－７病棟の在棟日数を削減する
2－8病棟	西郡知代	看護師と看護補助者の協働体制の構築 －患者の意思決定を支援するための取り組み－
3-3(5)病棟	中野裕美	COVID－19対応マニュアル徹底のためのシステム構築
ＰＣＵ	尾崎こはる	化学療法患者を支援する病床管理の取り組み －緩和ケア病棟見学による周知に視点をあてて－
ＩＣＵ	高島恵	ＩＣＵ・救急外来に求められる役割に対応した看護師の育成と人員配置
ＯＰ室	川端和代	手術室勤務異動者の時短看護師教育プログラムの検討
外来	濱野みゆき	新しい外来応援体制（ブロック制）の導入
腎センター	妹尾真理子	腎センター看護師の仕事に対する意欲を向上させるための取り組み ～職務満足度分析結果から～
訪問	山崎雪代	訪問看護OJTガイドブックを利用した訪問看護の質の向上
退院支援	西向秀代	アフターコロナの時代に病院が求められる対応の再考 ～地域を一つの病院と見立て規範的統合をなす為に～
医療安全	相模朋恵	看護部門の患者誤認防止策の実践を促し、患者誤認発生件数を減少させる
教育推進室	井口秀人	新人看護師の離職防止に対する早期介入を考える
健診センター	中野敦子	健診センターにおける二次検査受診推進への取り組み
がん診療センター	堀口朋美	がん相談支援体制の整備　－活動の見えるチームをつくる－

令和３年度　長期研修受講者

研修名	受講者
福井県看護協会ファーストレベル研修	太田　加奈子　　大澤　昌子
赤十字看護管理者研修Ⅲ（サードレベル科目含む）	内田　一美　　松田　ゆう子

令和３年度　専門看護師数

	分野	人数		分野	人数	
①	災害看護	1	②	がん看護	1	２分野　計２名

令和３年度　認定看護師数

	分　野	人数		分　野	人数		分　野	人数
①	感染管理	3	⑧	救急看護	2	⑮	嚥下・摂食障害	1
②	皮膚・排泄ケア	2	⑨	糖尿病看護	1	⑯	認知症看護	2
③	がん化学療法	3	⑩	透析療法看護	1	⑰	訪問看護	1
④	がん性疼痛	1	⑪	慢性心不全看護	1	⑱	がん放射線療法看護	1
⑤	乳がん看護	1	⑫	慢性呼吸器疾患看護	1	18 分野　計 27 名		
⑥	緩和ケア	1	⑬	手術看護	2	認定看護管理者 5 名		
⑦	重症集中ケア	2	⑭	脳卒中リハビリ	1			

令和３年度　看護部教育委員会主催　継続教育　予定一覧

対象Ⅰ＝新卒看護職員全員必修

対象Ⅱ－２必修＝卒後２年目全員必修　　対象Ⅱ－３必修＝卒後３年目全員必修

Ａ・Ｂとあるものは、２つのグループに分けて実施する（グループ分けはその都度指示する）

月	日	曜日	対象	研修名	開始	終了	場所	講師	参加人数
4	6	火	Ⅰ	看護倫理Ⅰ（倫理綱領）	12:30	13:30	栄養棟３階講堂	井上和子看護副部長	34
	8	木	Ⅰ	看護過程Ⅰ	8:30	17:00	栄養棟３階講堂	太田加奈子係長	34
	9	金	Ⅰ	入院時の看護・配膳車の操作法	8:30	12:00	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	34
				医療安全Ⅰ①医療安全の基本	13:00	14:30	栄養棟３階講堂	相模朋恵師長	41
				血糖測定とインスリン注射	14:40	17:00	栄養棟３階講堂	戸田みゆ希糖尿病療養指導士	35
	16	金	ＩＡ	導尿・膀胱留置カテーテル法	8:30	12:00	病床実習室･研修室A	井口秀人師長	34
			ＩＢ	導尿・膀胱留置カテーテル法	13:30	17:00	病床実習室･研修室A	井口秀人師長	
	22	木	ＩＡ	採血・皮下・筋肉・点滴注射	8:30	17:00	病床実習室･研修室A	井口秀人師長	34
	23	金	ＩＢ	採血・皮下・筋肉・点滴注射	8:30	17:00	病床実習室･研修室A	井口秀人師長	
	26	月	Ⅰ	重症度、医療・看護必要度	8:30	12:00	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	34
				褥瘡予防	13:00	14:10	栄養棟３階講堂	水島典子認定看護師	38
			ＩＡ	移乗・移動の介助	14:25	15:35	病床実習室･研修室A	井口秀人認定看護師	34
			ＩＢ	移乗・移動の介助	15:50	17:00	病床実習室･研修室A	井口秀人認定看護師	
			ＩＢ	嚥下障害のある人への食事介助	14:25	15:35	職員棟３階研修室	板岡利恵認定看護師	39
			ＩＡ	嚥下障害のある人への食事介助	15:50	17:00	職員棟３階研修室	板岡利恵認定看護師	
	30	金	ＩＡ	技術試験:採血･皮下･筋肉･点滴	8:30	12:00	病床実習室･研修室A	井口秀人師長	34
			ＩＢ	技術試験:採血･皮下･筋肉･点滴	13:30	17:00	病床実習室･研修室A	井口秀人師長	
			Ⅰ	研修部署師長との面接（Ａ期間終了 4/30 まで）	師長と相談		各部署	各部署師長	34
5	14	金	Ⅰ	輸血と看護	8:30	9:30	栄養棟３階講堂	野村有里臨床輸血看護師	37
				与薬と看護	9:40	10:40	栄養棟３階講堂	中野裕美師長	38
				気管吸引	10:50	12:10	栄養棟３階講堂	秋山奈津江認定看護師	38
				エンゼルケア	13:00	14:30	栄養棟３階講堂	田坂和代認定看護師	34

月	日	曜日	対象	研修名	開始	終了	場所	講師	参加人数
5	14	金	Ⅰ	グローバルヘルスⅠ	14:40	15:50	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	36
				１ヶ月の振り返り	16:00	17:00	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	34
	21	金	Ⅱ－２必須Ａ	看護倫理Ⅱ	8:30	10:30	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	29
				事例研究	10:40	12:00	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	23
			Ⅱ－２必須Ｂ	看護倫理Ⅱ	13:30	15:30	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	
				事例研究	15:40	17:00	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	
	25	火	Ⅰ	輸液ポンプ・シリンジポンプ	13:00	17:00	栄養棟３階講堂	テルモ・井口秀人師長	36
	28	金	選択	救護員フォローアップ研修①	17:15	18:45	職員棟３階研修室	井上和子看護副部長	11
6	5	土	Ⅱ－３必修	災害看護論Ⅱ	8:30	17:00	栄養棟３階講堂	福井県支部／松田ゆう子師長他	40
	10	木	ＩＡ	救急看護Ⅰ（一次救命処置）	8:30	12:00	栄養棟３階講堂	朝田和枝認定看護師	33
			ＩＢ	救急看護Ⅰ（一次救命処置）	13:30	17:00	栄養棟３階講堂	朝田和枝認定看護師	
	15	火	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ	プリセプター研修①	16:00	17:00	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	33
	17	木	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ	プリセプター研修①	16:00	17:00	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	
	18	金	Ⅰ	パスシステム	14:30	16:20	栄養棟３階講堂	戸田みゆ希看護係長	35
				配属部署への挨拶等	16:30	17:00			34
	22	火	Ⅰ	標準予防策	13:00	14:55	栄養棟３階講堂	真鍋照美看護副部長（認定看護師）	34
				抗がん剤の安全な取扱い	15:05	17:00	栄養棟３階講堂	冨永知恵子認定看護師	34
	30	水	Ⅰ	薬剤使用上の注意点	13:30	14:30	職員棟３階研修室	渋谷貞一薬剤師	34
				筆記試験（研修終了認定）	14:40	15:30	職員棟３階研修室	井口秀人師長	34
				心電図モニターアラーム対応	15:30	15:50	職員棟３階研修室	田中めぐみ認定看護師	34
				アンケート､研修修了後について	15:50	16:30	職員棟３階研修室	井口秀人師長	34
				研修生・師長と研修修了面接	16:30	17:00	各部署	各部署師長	34
7	6	火	Ⅱ－３必修	感染管理Ⅱ：職業感染予防	8:30	10:20	栄養棟３階講堂	田本聡子係長	34
				プリセプター入門	10:30	12:20	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	34
				フィジカルアセスメント	13:10	17:00	栄養棟３階講堂	原田幸枝認定看護師	34
	9	金	Ⅰ	修了書授与式	11:00 ～		栄養棟３階講堂	看護部・教育研修推進室	34
	16	金	Ⅱ-2必須Ａ	看護過程Ⅱ-2	8:30	12:00	栄養棟３階講堂	真柄昌代係長	23
			Ⅱ-2必須Ｂ	看護過程Ⅱ-2	13:30	17:00	栄養棟３階講堂	真柄昌代係長	
			選択	救護員フォローアップ研修②	17:15	18:45	職員棟３階研修室	川端和代師長	15
	27	火	ＩＡ	留置針の挿入留置／アナフィラキシー対応	8:30	12:00	病床実習室・研修室Ａ	井口秀人師長	34
			ＩＢ	留置針の挿入留置／アナフィラキシー対応	13:30	17:00	病床実習室・研修室Ａ	井口秀人師長	
	29	木	選択	看護のための薬の知識①血糖降下薬	17:15	18:15	栄養棟３階講堂	笠川益夫薬剤師	10
8	3	火	ＩＡ	試験：留置針／メンタルヘルス	8:30	12:00	病床実習室・研修室Ａ	井口秀人師長	33
			ＩＢ	試験：留置針／メンタルヘルス	13:30	17:00	病床実習室・研修室Ａ	井口秀人師長	
	6	金	管理者	救護活動時の看護管理	17:00	19:00	栄養棟３階講堂	川端和代師長他	52

月	日	曜日	対象	研修名	開始	終了	場所	講師	参加人数
8	12	木	Ⅱ-2必須A	救急看護Ⅱ	8:30	12:00	栄養棟３階講堂	朝田和枝認定看護師	23
				救急看護研修オリエンテーション	12:00	12:30		井口秀人師長	23
			Ⅱ-2必須B	救急看護Ⅱ	13:00	16:30	栄養棟３階講堂	朝田和枝認定看護師	／
				救急看護研修オリエンテーション	16:30	17:00		井口秀人師長	／
	20	金	Ⅰ	赤十字概論	8:30	17:00	栄養棟３階講堂	福井県支部／内田一美師長	36
	24	火	選択	グローバルヘルスⅢ	17:15	18:15	栄養棟３階講堂	井上和子副部長	21
9	10	金	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ	プリセプター研修②	16:00	17:00	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	31
	13	月	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ	プリセプター研修②	16:00	17:00	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	
	14	火	Ⅱ-3必修	看護過程Ⅱ-3	8:30	12:20	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	35
				リーダーの役割	13:10	17:00	栄養棟３階講堂	尾崎こはる師長	35
	22	水	選択	フィジカルアセスメント①(呼吸)	17:15	18:15	栄養棟３階講堂	秋山奈津江認定看護師	19
	24	金	選択	救護員フォローアップ研修③	17:15	18:45	職員棟３階研修室	勝木美奈子師長	12
10	5	火	Ⅰ	看護師としての私～辛さを乗り越える～	15:30	17:00	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	33
	8	金	Ⅱ-2必修	感染管理Ⅰ：病原体と感染経路別対策	8:30	10:10	栄養棟３階講堂	真鍋照美看護副部長(認定看護師)	21
				褥瘡ケア	10:20	12:40	栄養棟３階講堂	水島典子認定看護師	21
				医療安全Ⅱヒューマンエラー	13:40	17:00	栄養棟３階講堂	相模朋恵師長	21
	15	金	選択	看護過程Ⅲ①	8:30	12:00	栄養棟３階講堂	内田一美師長・井口秀人師長	10
	22	金	選択	フィジカルアセスメント②(循環)	17:15	18:15	栄養棟３階講堂	田中めぐみ認定看護師	20
11	9	火	Ⅱ-2必修	災害看護論Ⅰ	8:30	17:00	栄養棟３階講堂	川端和代師長他・支部職員	19
	12	金	ＩＡ	医療安全Ⅰ②多重課題への対応	8:30	12:00	栄養棟３階講堂	井口秀人師長・相模朋恵師長	34
			ＩＢ	医療安全Ⅰ②多重課題への対応	13:30	17:00	栄養棟３階講堂	井口秀人師長・相模朋恵師長	
	16	火	選択	看護のための薬の知識②抗血栓薬	17:15	18:30	栄養棟３階講堂	大森丈薬剤師	31
	19	金	選択	看護過程Ⅲ②	8:30	12:00	栄養棟３階講堂	内田一美師長・井口秀人師長	10
	26	金	選択	救護員フォローアップ研修④	17:15	18:45	職員棟３階研修室	井上和子副部長	12
12	10	金	Ⅰ	認知症の人とのコミュニケーション	13:30	14:20	栄養棟３階講堂	山本隆認定看護師	38
				チームメンバーの役割	14:30	17:00	栄養棟３階講堂	真柄昌代係長	38
	11	土	選択	看護研究	13:30	16:30	栄養棟３階講堂	小川貴司係長	10
	16	木	選択	フィジカルアセスメント③（中枢神経系）	17:15	18:15	栄養棟３階講堂	井口秀人認定看護師	25
	17	金	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ	プリセプター研修③	16:00	17:00	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	31
	20	月	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ	プリセプター研修③	16:00	17:00	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	
1	6	木	選択	院内看護学会発表の進め方	17:15	18:30	栄養棟３階講堂	西向秀代師長・渡辺加余子係長	15
	15	土	全員	院内看護研究学会	8:30	12:00	栄養棟３階講堂	教育委員会	DVD
	20	木	Ⅰ	キャリアを考える①（ラダーⅠ）	15:30	17:00	栄養棟３階講堂	井上和子副部長他	34

月	日	曜日	対象	研修名	開始	終了	場所	講師	参加人数
1	28	金	選択	救護員フォローアップ研修⑤	17:15	18:45	職員棟３階研修室	寺島由美師長	11
2	22	火	Ⅱ-２必修	キャリアを考える②	13:00	13:50	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	18
				糖尿病看護	14:00	15:50	栄養棟３階講堂	山崎直美糖尿病療養指導士	18
				嚥下スクリーニング	16:00	17:00	栄養棟３階講堂	板岡利恵認定看護師	18
	25	金	選択	救護員フォローアップ研修⑥	17:15	18:45	職員棟３階研修室	川端和代師長	11
3	8	火	Ⅱ-３必修	グローバルヘルスⅡ	13:30	14:40	栄養棟３階講堂	井上和子副部長	37
				キャリアを考える③（ラダーⅡ）	14:50	15:50	栄養棟３階講堂	井口秀人師長	32
				食事場面での関わり	16:00	17:00	栄養棟３階講堂	板岡利恵認定看護師	32

令和３年度　赤十字講習講師実績

【救急法講習】

月　日	依　頼　先	講　　師	
9月17日	啓新高校	朝田　和枝	
10月13日	にこやか友の会	山田　智美	
10月22日	啓新高校	嶋田　佳恵	藤田　由美
11月26日	啓新高校	齋藤　尚美	嶋田　佳恵
11月26日	グレート片山	朝田　和枝	
12月 3日	啓新高校	山田　智美	
12月 5日	支部	嶋田　佳恵	
1月14日	啓新高校	山田　智美	福田　清子

事　　務　　部

1．総　　務　　課

1．スタッフ（令和３年４月１日現在）

課長	杉田　博之
係長	近藤　ひろみ
主事	２名
嘱託業務員	１名
パート事務作業補助	１名
パート警備員	１名

2．目　標

院内各部門と調整し、まとめる力を高める。

3．業　務

（1）公印に関すること
（2）文書の管理に関すること
（3）規則、規程等の制定および改廃に関すること
（4）宿直および日直に関すること
（5）霊安室の管理および屍体の取り扱いに関すること
（6）病院管理会議に関すること
（7）部長会議に関すること
（8）車両の運行に関すること
（9）儀式及び弔慰に関すること
（１０）病院の危機管理に関すること
（１１）情報の総括的管理に関すること
（１２）その他、他課に属しないこと

4．実　績

【会　議】	代表部長会議	１１回
	定例医局会	１１回
【委員会】	救急医療検討委員会	１回
	救急作業部会	１１回
	集中治療室運営委員会	１回
	集中治療室作業部会	１１回
	中央手術室・滅菌室運営委員会	２回
	中央手術室・滅菌室作業部会	１０回
	倫理委員会	１回
	倫理コンサルテーションチーム	１９回
	臓器移植委員会	１回

【行　事】２０２１年８月　剖検者追悼式
　　２０２２年１月　仕事始め式

【施設基準】（令和４年３月３１日現在）（医科・歯科含む）
　　基本診療科　　４０件
　　特掲診療科　　１４５件
【施設見学】受入件数　　１件
【選挙不在者投票】　　４件

2．人　　事　　課

1．スタッフ

1．スタッフ

課長　　川島　勇一

係長　　人事・給与係長　　上野　陽子

　　職員係長　　山﨑　久美子

主事　　4名

2．目　標

職員力を高める人事・労務管理を行う

3．業　務

1）臨床研修に関すること

2）職員の教育、研修に関すること

3）職員の労務管理および福利厚生に関すること

4）職員の人事および給与に関すること

4．実　績

1）学会出張取扱い件数

職種別＼年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
医師	285	26	24
薬剤師	11	0	0
臨床検査技師	19	1	0
診療放射線技師	19	2	7
理学療法士	13	1	0
作業療法士	5	0	0
言語聴覚士	2	0	2
心理判定員	0	0	0
管理栄養士	4	1	1
視能訓練士	4	0	0
臨床工学技士	3	0	0
歯科衛生士	0	0	0
看護師・助産師	120	13	24
事務	12	0	4
社会福祉士	1	0	0
業務員	0	0	0
	498	44	62

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により中止・延期となる学会が多く取扱い件数が減少した。

2）研修出張取扱い件数

職種別＼年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
医師	47	4	14
薬剤師	7	2	2
臨床検査技師	10	0	0
診療放射線技師	15	1	14
理学療法士	13	5	7
作業療法士	6	4	4
言語聴覚士	0	1	2
心理判定員	0	0	0
管理栄養士	3	1	1
視能訓練士	0	0	1
臨床工学技士	6	1	2
歯科衛生士	0	0	0
看護師・助産師	36	15	49
事務	58	5	16
社会福祉士	1	8	2
業務員	3	1	0
	205	48	114

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により中止・延期となる研修会が多く取扱い件数が減少した。

3）臨床研修およびその他教育研修について　　教育研修推進室を参照

4）職員会議の開催

令和 3 年 10 月 11 日開催の代議員会議において、各部門より提出された 13 議題（部門別提案数:医師 2・医療技術職 3・看護職 7・事務業務 1）に対して担当部署からの回答が提示された。

全ての議題において了承されたため、職員会議開催には至らなかった。

5）第 13 回中部ブロック赤十字病院スポーツ大会

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止

6）第 21 回全国赤十字病（産）院スポーツ大会

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止

3．病 院 経 営 課

1．スタッフ

課　　長	川瀬　公一郎
経理係長	木戸　俊介
出納係長（兼）	川瀬　公一郎
企画・広報係長（兼）	島野　佳永
主　　事	４名
嘱託主事	１名

2．目　標

地域医療構想に向けた健全経営、的確な意思決定の支援を行う

3．業　務

(1) 財務管理に関すること
(2) 収入及び支出に関すること
(3) 債権管理に関すること
(4) 現金及び有価証券の出納及び保管に関すること
(5) 出納用公印の管理に関すること
(6) 租税に関すること
(7) 病院運営の総合企画及び調整に関すること
(8) 病院の広報に関すること
(9) 経営分析・改善計画の立案及びその実施に関すること
(10) 病院の各種統計の収集、作成及び照会事項の回答報告に関すること

4．実　績

1) メディア露出状況

テレビ出演（11 件）

日　　付	内　　容	メディア名
4月 1日	入社式コロナ禍における新人医療従事者（医師･看護師）の思いをインタビュー	福井テレビ
4月13日	いちほまれなどを医療従事者に贈る	ＦＢＣテレビ
4月27日	コロナ禍における当院の現状について	ＦＢＣテレビ
7月18日	タイムリーふくい「ワクチン不安・・・Ｑ＆Ａ」	福井テレビ
9月16日	人工透析患者でも食べられる「低カリウム野菜」の紹介	ＦＢＣテレビ
1月 4日	呼吸法の意味や、簡単にできる呼吸法のアドバイスと実施	ＦＢＣテレビ
2月22日	健康いちばん「今年の花粉症について」	ＦＢＣテレビ
3月 5日	特別企画「コロナ禍の面会～がん患者の最期を追って～」	福井テレビ
3月 1日	健康いちばん「ジェネリック医薬品供給不足」	ＦＢＣテレビ
3月11日	特別企画「震災１１年。コロナ禍の医療従事者達は」	ＦＢＣテレビ
3月15日	健康いちばん「耳鼻咽喉科・嗅覚外来開設」	ＦＢＣテレビ

新聞・広報誌掲載（23 件）

日　　付	内　　容	メディア名
4月 1日	せわしい新年度リラックスして　ハンドケア　腹式呼吸・肩の上下運動	福井新聞
4月12日	いちほまれなどを医療従事者に贈る　ＪＡ県中央会	福井新聞
5月20日	ふくいのドクター相談「足裏から膝にしびれ」	福井新聞
5月28日	コロナ禍のルーキー④　薬剤師	福井新聞
6月10日	遺伝カウンセリングについて	福井新聞
8月 5日	ふくいのドクター相談「非結核性抗酸菌症」で咳治まらず	福井新聞
8月25日	子供の事故予防について	はっぴーママふくい
10月 8日	防災ヘリ合同訓練搬送向け手順確認	福井新聞
11月 1日	託す県民の思い	福井新聞
11月 1日	避難所生活ってどうなってるの？食事やトイレの実情をパネル展示	赤十字 NEWS
11月 8日	コロナ禍の震災病院対応を想定し訓練	福井新聞
11月 8日	福井赤十字病院オンライン市民公開講座　がんと遺伝～赤十字が取り組むニューノーマル（告知 1）	福井新聞
11月18日	福井赤十字病院オンライン市民公開講座　がんと遺伝～赤十字が取り組むニューノーマル（告知 2）	福井新聞
11月20日	福井赤十字病院オンライン市民公開講座　がんと遺伝～赤十字が取り組むニューノーマル（採録）	福井新聞
11月25日	遺伝性乳がん卵巣がん症候群　正しく知り治療法選択を	福井新聞
12月25日	入院患者回復願うともしび　恒例キャンドル巡回	福井新聞
1月13日	血流自動解析脳梗塞を判定 福井赤十字病院診断補助ソフト導入	福井新聞
1月18日	臨床研修医採用　県内伸び率全国トップ	福井新聞
2月19日	「医療通訳」高まる需要　派遣担う民間団体発足	福井新聞
2月20日	医療通訳養成講座広がる	読売新聞
3月3日	ふくいのドクター相談「足裏から膝にしびれ」	福井新聞
3月10日	横浜幸銀信用組合福井支店寄付	福井新聞
3月17日	嗅覚障害　原因見極め	福井新聞

ラジオ出演（3 件）

日　　付	内　　容	メディア名
4月13日	いちほまれなどを医療従事者に贈る　ＪＡ福井県中央会	あぐラジ
10月12日	もっと知ろうよ！血友病のこと	FBC ラジオ
12月 5日	ラジオ放送講座いきいきセミナー「脳卒中医療最前線」	FBC ラジオ

2）広報誌発行実績

・病院広報誌「ほやほや」　年 3 回　各 4,400 部発行
・病院連携通信「Partner」　年 2 回　各 700 部発行
・院内「よもっさ」　年 3 回　各 200 部発行

4．管　　財　　課

1．スタッフ

課長　　大塚　治
用度係長　　五十嵐　直樹
施設・管理係長　　松原　毅
保安係長　　上野　正巳
ボイラー係長　　齋藤　太嗣
主事　４名、警備員　２名、ボイラー技士　３名、電話交換手　２名、電気工事士　１名、
パート業務員　２名

2．目　標

事務部の目標を理解し、個々が自分の目標を達成する

3．業　務

1）財産の取得、管理及び処分に関すること
2）物品の取得管理及び処分に関すること
3）物品の使用及び供給管理に関すること
4）基準寝具に関すること
5）構内の取締り及び防火、防災に関すること
6）構内の清掃、衛生に関すること
7）工事及び営繕に関すること
8）不動産及び施設設備に係る売買、賃貸、請負その他の契約に関すること
9）院内の空調、電話等を含む施設管理に関すること
10）その他、施設、物品、保安管理に関すること

4．実　績

1）建物付属設備

給水設備更新工事　　燃料タンク更新工事

2）構築物

第５駐車場機器更新工事

3）医療用機械備品

全身用コンピュータ断層撮影装置　１台　内視鏡システム　２台
超音波画像診断装置　５台　人工呼吸器　４台
Ｘ線骨密度測定装置　１台　ワイヤレスＦＰＤ搭載回診用Ｘ線撮影装置　１台
超音波手術器　１台　多用途筋機能評価運動装置　１台

他 155 台

4）その他機械備品

温冷配膳車　11台　　可搬式浄化装置　1台

救急医療用トレーニングマネキン　1台　包丁まな板殺菌庫　2台

他4台

5．医事サービス課

1．スタッフ

課長　　渡辺　速美

係長　　第１医事係長 山本瑞恵、第２医事係長 坪田泰典、入院係長 大澤和代、
外来係長 堀江玖美

医事係	主事　　２名	嘱託主事　１名	
入院係	主事　１０名	嘱託主事　１名	派遣　１名
外来係	主事　　３名		

2．目　標

①請求内容を分析し患者数増、収入増の検討と対策を行う。
②診療報酬請求業務（査定・返戻・未収金等）を適切に行う。

3．業　務

・患者の受付　案内及び接遇に関すること
・患者の入院および退院の手続きに関すること
・患者の料金算定及び支払請求、収入調定並びに医業未収金管理に関すること
・診療報酬請求事務に関すること
・医事統計に関すること
・医事業務電算システムの運用に関すること
・その他、医事サービスに関すること

4．実　績

令和３年度地域医療支援病院紹介率　　71.9%　　逆紹介率　　98.7%

年度目標に対する取り組み

・接遇向上対策…患者満足度向上部会、接遇推進ＷＧ等の院内の活動との協働、および課内勉強会の接遇向上班で、身だしなみチェックを行い接遇改善に努めた。
・業務適正…　その都度発生した事案に対し業務適正を行うための対策を講じた。
・査定減対策…　毎月の査定率0.3%以下を目標に、毎月査定結果を確認・分析し積極的な請求と再審査請求を行うための対策を講じた。
・返戻減対策…　事務的返戻減を主な目的とし、毎月対策班で返戻レセプトと返戻理由から分析・検討を行い対策を講じた。

6．医 療 情 報 課

1．スタッフ

課長	櫻井　慎二	
係長	情報処理係長	小川　貴司
	画像処理係長（兼）	安藤　剛一
	病歴係長	中野　里加
	図書係長（兼）	櫻井　慎二
主事	6名	
嘱託職員等	5名	
派遣・委託職員	5名	

2．目　標

令和３年度の事務部の目標「病院運営に事務の”力”を示す」に基づき、当課の目標を「①蓄積された診療情報の精度向上を図り、医療の質向上と経営改善に貢献する②病院情報システム更新に向けたプロジェクトを中期ビジョンに沿って円滑に進める」とした。情報処理係では、病院情報システム（全自動脳画像解析ソフトウェア、３Ｄ医用画像解析ワークステーション、マンモグラフィ画像ビューワ）の新規導入並びに更新に対し適切な実施に従事した。また､仮想化基盤の増強､血液内科の新設等､病院情報システムで必要な改修を適切に実施し、院内インターネット環境においては、日本赤十字社が管理する全社統合情報システムに参加・移行した。さらに、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、診察室等に設置されている高精細モニタを更新し診療業務環境の変化等に対応した。その他、情報資産の保全、情報漏えい、不正アクセス等への対策の一環として研修を開催し、職員、院内従事者への注意喚起を実施した。病歴係では、経営改善に必要な医療統計資料や経営資料の作成、各種臨床指標データの正確かつ遅延なく提供、医療の質の向上を図るクリニカルパスの推進やバリアンス分析、カルテ監査に関する取り組みを行った。

3．業　務

（1）病院コンピューターシステムの構築・導入及び管理運営に関すること
（2）病歴の分類と管理業務に関すること
（3）診療録その他診療に関する諸記録の管理に関すること
（4）診療情報の検索、統計、提供の業務に関すること
（5）図書室の管理に関すること
（6）健康・医療情報室（スマイル）の管理運営に関すること
（7）個人情報の管理に関すること（紛失・漏洩、不正アクセスの禁止等）

4．実　績

（1）主な情報システムの整備

全自動脳画像解析ソフトウェア	新規導入
３Ｄ医用画像解析ワークステーション	ハードウェア更新、ソフトウェア更新
マンモグラフィ画像ビューワ	ハードウェア更新、ソフトウェア更新

（２）病院情報システム全体図

「02 別図１病院情報システム構成 2020」

（３）クリニカルパスの適用状況

「03 別表１パス適用件数 2020」

（４）電子カルテ情報の２次利用（ＤＷＨ）の活用状況

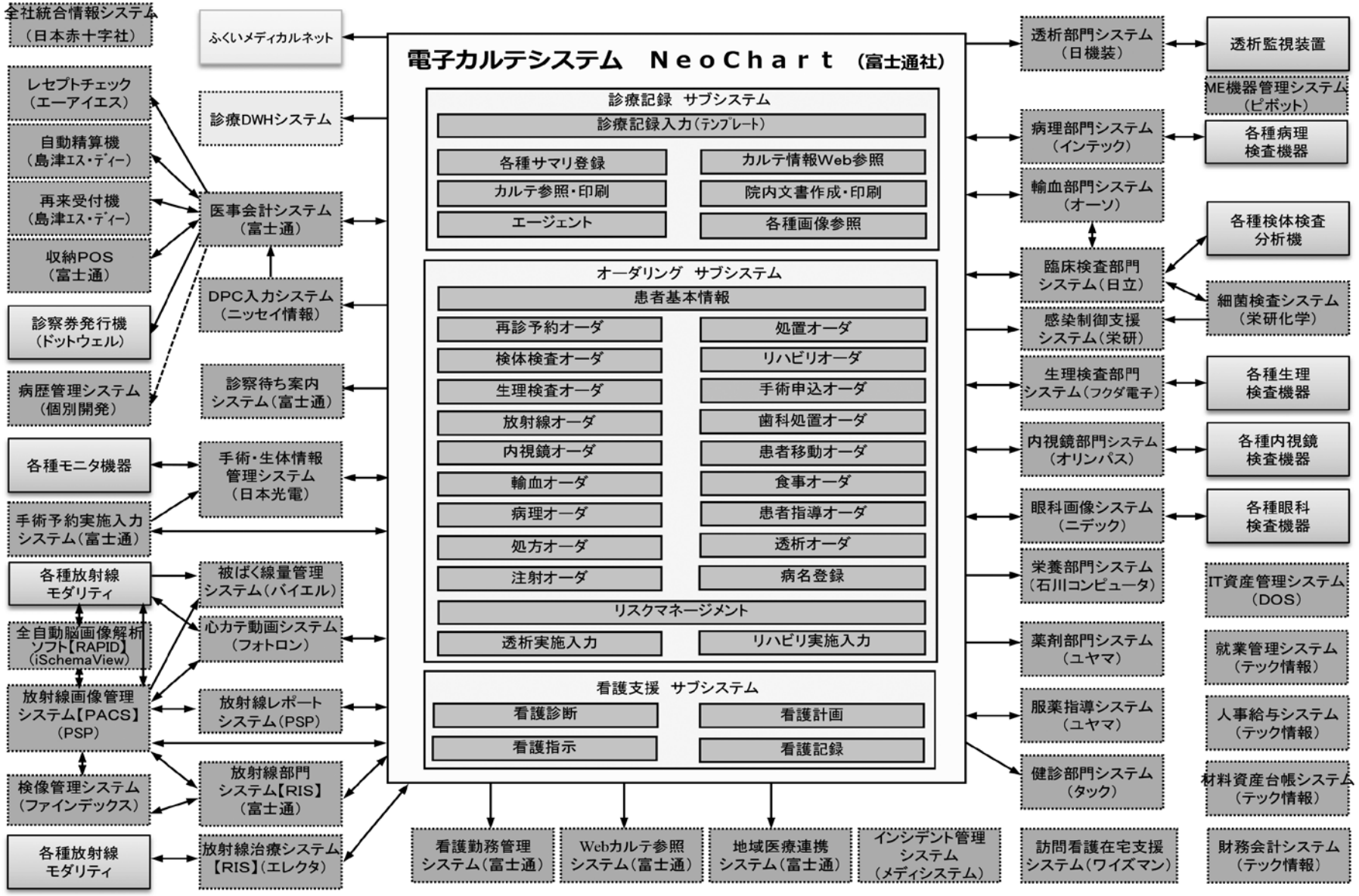
「04 別表２ＤＷＨ依頼抽出件数 2020」

（５）健康・医療情報室「スマイル」の利用状況

「05 別表３スマイル利用件数 2020」

福井赤十字病院　病院情報システム構成図

2022.4.1現在　別図1



(3) クリニカルパスの適用状況

区　　分	パス作成数	令和3年度
脳・神経系	26	944
内分泌系	4	37
眼	14	1,194
耳	7	128
上気道・口腔	28	502
呼吸器系	41	1,382
循環器系	33	757
血液・リンパ	15	458
消化器系	64	2,675
泌尿器系	39	1,137
女性生殖器	24	558
産褥・新生児	15	552
筋骨格系	35	699
乳房・皮膚	16	291
小児科領域	32	501
形成外科領域	8	155
経過観察入院	4	291
がん性疼痛	1	37
その他（身体抑制･NST 等）	16	3,145
総計	422	15,443

(4) 電子カルテ情報の２次利用（ＤＷＨ）の活用状況

	令和３年度
抽出依頼件数	447

(5) 健康・医療情報室「スマイル」の利用状況

患者情報室「スマイル」利用者数

	令和３年度
利用者数	9,787
図書貸出数	5,305
図書返却数	5,289
コピー利用枚数	278
インターネット利用者数	211
ＤＶＤ視聴者数	15

1日平均利用者数

	令和3年度
利用者数	41
図書貸出数	22
図書返却数	22
コピー利用枚数	1
インターネット利用者数	2
ＤＶＤ視聴者数	0

図書貸出数

種類	令和3年度
医学図書	231
医学雑誌	42
一般図書	5,032
図書貸出数合計	5,305

7．医 療 支 援 課

１．スタッフ

課長　　荒井　満
係長　　医療秘書係長　　田中　延枝
主事　　2名
嘱託職員　26名
派遣職員　10名

２．目　標

医師事務作業補助者として必要な能力を身につけ、医師の業務負担軽減に貢献する

３．業　務

（１）医師の診療業務支援に関すること
（２）患者・医療の総合相談と調整に関すること
（３）その他医療支援に関すること

４．実　績

（１）外来診療における医療事務作業補助業務

外来診療科に医師事務作業補助者（メディカル・セクレタリー（ＭＳ））を配置し、外来診療における診療支援業務や診断書等書類の作成支援業務を行っている。外来はＭＳを３７名配置し医師事務作業補所体制加算１の１５対１補助体制加算の施設基準の届出を行っている。

（２）患者相談業務

患者またはその家族からの診療や療養生活上の不安等の相談に対応するために、患者相談窓口を設置し、患者支援のための専任看護師等を配置し、相談業務を実施している。
患者相談業務件数　別表１のとおり

別表１

患者相談業務件数

		令和３年度件数
医療相談	受診科相談	3,308
	検査（内容・結果）	205
	治療について	182
	お薬について	124
	症状・副作用の対応	160
	医療者との関係対応	23
	療養生活について	77
	セカンドオピニオン	8
	がん相談	11
	なやみ相談	65
	医療機関の紹介	88
	その他	342
苦情・要望	診察に関して	30
	治療に関して	24
	職員の対応に関して	95
	待ち時間に関して	24
	施設設備に関して	30
	その他	91
他の相談	書類等相談	865
	医療費・支払い相談	395
関連部署との連絡調整		6,509
受診手続き	手続き案内	8,767
	診察申込書代筆	38
	問診票代筆	3
案内	入院	1,310
	外来	1,594
	人間ドック	145
	その他	3,866

8．医療安全推進課

1．スタッフ

課長　齋藤　裕一
係長　新河戸　由紀子
主事　1名

2．目　標

1）インシデントレポートシステムにより収集した情報を分析・フィードバックし医療安全の質向上につなげる。
2）医療安全推進室新体制構築に向けて、事務局としての役割を果たす。
3）新型コロナウイルス感染対策について、感染管理の事務局としての役割を果たす。

3．業　務

1）医療事故等の調査・指導に関すること
2）医療事故発生時の対応に関すること
3）医療紛争に関すること
4）医療安全推進室の事務取扱に関すること
5）感染管理室の事務取扱に関すること
6）その他医療安全対策の推進に関すること

4．実　績

1）医療紛争解決件数
示談、調停、裁判・・・解決件数0（裁判1件継続中）

2）コードホワイト要請件数　　8件

3）研修参加率（年間）
医療安全　99.1%
感染管理　100%

業　　績

神経内科

【学会発表（全国)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
口腔内感染症による両側内頸静脈血栓症-Lemierre 症候群の 1 例	早瀬　史子	第 49 回日本頭痛学会総会	11.20 Web 開催

【学会発表（地方)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
抗 GABAa 受容体抗体脳炎の 1 例	田中　大暉	第 13 回日本てんかん学会東海北陸地方会	7.3 Web 開催
濾胞性リンパ腫治療後に生じた進行性多巣性白質脳症の 1 例	早瀬　史子	第 162 回日本神経学会東海北陸地方会	3.5 Web 開催

呼吸器内科

【学会発表（全国)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
報告（一般演題）：新型コロナウイルス肺炎とインフルエンザウイルス肺炎の予後因子についての検討.	伊藤　功朗 遠藤　和夫 江村　正仁 赤井　雅也 平井　豊博 他	第 61 回日本呼吸器学会学術集会	4.24 東京
報告（一般演題）：新型コロナウイルス肺炎とインフルエンザウイルス肺炎の臨床像の比較.	大井　一成 伊藤　功朗 遠藤　和夫 赤井　雅也 平井　豊博 他	第 61 回日本呼吸器学会学術集会	4.24 東京
報告（一般演題）：呼吸不全を伴う新型コロナウイルス肺炎とレジオネラ肺炎の臨床像の比較.	白田　全弘 伊藤　功朗 石田　直 赤井　雅也 平井　豊博 他	第 61 回日本呼吸器学会学術集会	4.24 東京
報告（一般演題）：肺癌リンパ節転移診断における EBUS-TBNA の診断率に関わる因子の検討.	山口　牧子 出村　芳樹 石塚　全 多田　利彦 赤井　雅也 他	第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	6.24-25 名古屋 (Web 開催)

報告(一般演題):EUS-B-FNA でドライバー遺伝子変異を検出し長期生存を得た Oncologic Emergency NSCLC3 例の検討.	出村　芳樹 中嶋　康貴 軸屋　紀宏 大井　昌寛 田畑　未央 多田　利彦 塩崎　晃平 赤井　雅也	第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	6.24-25 名古屋 (Web 開催)
報告(一般演題):seudo-progression による漿膜炎増悪のマネジメント後に免疫チェックポイント阻害剤の再投与に成功した非小細胞肺癌の 2 例.	中嶋　康貴 出村　芳樹 石塚　全 他	第 62 回日本肺癌学会学術集会	11.26-28 横浜 (Web 開催)

【学会発表(地方)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
報告(一般演題):経気管支肺生検で診断し得た Intravascular lymphoma の 1 例.	軸屋　紀宏 黒川　紘輔 武田　俊宏 大井　昌寛 田畑　未央 多田　利彦 出村　芳樹 赤井　雅也	第 87 回日本呼吸器学会北陸地方会	5.30 オンライン開催
報告(一般演題):アテゾリズマブによる辺縁系脳炎を合併した抗 Hu 抗体陽性小細胞肺癌の 1 例.	武田　俊宏 出村　芳樹 黒川　紘輔 軸屋　紀宏 大井　昌寛 田畑　未央 多田　利彦 赤井　雅也	第 75 回日本肺癌学会北陸支部学術集会	7.24 オンライン開催
報告(一般演題):Entrectinib が奏効した NTRK 融合遺伝子陽性肺癌の 1 例.	中澤　陽 多田　利彦 黒川　紘輔 軸屋　紀宏 武田　俊宏 大井　昌寛 出村　芳樹 赤井　雅也	第 88 回日本呼吸器学会北陸地方会	10.31 オンライン開催

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Utility of Endoscopic Ultrasound with Bronchoscope-guided Fine-needle Aspiration for Detecting Driver Oncogenes in Non-small-cell Lung Cancer during Emergency Situations: Case Series.	Nakashima K Demura Y Oi M Tabata M Tada T Shiozaki K Akai M Ishizuka T	Intern Med. 2021;60(7):1061-1065	2021
The Association between Malignant Pleural Mesothelioma and Thoracic Radiation Therapy for Hodgkin's Lymphoma: The First Case Report in Japan.	Nakashima K Demura Y Oi M Tabata M Tada T Shiozaki K Akai M Ishizuka T	Intern Med. 2021;60(5):771-775.	2021
Successful Re-administration of Atezolizumab for a Non-small-cell Lung Cancer Patient after Cardiac Tamponade Development as a Manifestation of Pseudo-progression Induced by Combination Treatment with Atezolizumab and Cytotoxic Chemotherapy.	Nakashima K Demura Y Sato M Fujii Y Igarashi K Ishizuka T	Intern Med. 2021;60(18):3009-3013.	2021
Long-Term Survival With Pembrolizumab Re-administration After Pseudo-Progression With Immune-Related Interstitial Lung Disease in a Patient With Non-small Cell Lung Cancer.	Nakashima K Demura Y Akai M Ishizuka T	Cureus. 2021;13(7):e16177.	2021
Successful treatment with lorlatinib in a patient with meningeal carcinomatosis of ALK-positive non-small cell lung cancer resistant to alectinib and brigatinib: A case report.	Nakashima K Demura Y Kurokawa K Takeda T Jikuya N Oi M Tada T Akai M Ishizuka T	Medicine (Baltimore). 2021;100(39):e27385.	2021
Xanthomatous Pleuritis Associated With Pancreaticopleural Fistula	Nakashima K Demura Y Tada T Akai M Ishizuka T	[published online ahead of print, 2021 Dec 15]. J Bronchology Interv Pulmonol. 2021;10.	2021 Dec

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
講演 CS/LABA/LAMA 配合剤による新しい喘息治療 .	赤井　雅也	テリルジー喘息 WEB 講演会 .	5. 21 福井（Web 配信 ）
講演 COVID-19 治療のアップデート .	赤井　雅也	第 12 回福井感染制御ネットワーク会議	6. 18 福井（Web 配信 ）
講演 新型コロナウイルス感染症の最新治療 .	赤井　雅也	第 20 回福井市医師会市民公開講座	11. 7 福井
TV 出演 新型コロナ県内最新情報とワクチン副作用 .	赤井　雅也	タイムリーふくい	7. 18 福井テレビ

消化器内科

【学会発表（全国)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
成人に腹痛で発症した IgA 血管炎で、特徴ある経過と画像所見を追跡しえた 1 例	山崎　剛明（第 3 回若手優秀演題ｶﾝﾌｧﾚﾝｽｰ症例に学ぶ　北陸支部代表）	第 107 回日本消化器病学会総会	4. 15 東京
早期胃癌に対し ESD 施行し、内視鏡的根治度 C であった症例の検討	西山悟	第 107 回日本消化器病学会総会	4. 15 東京（Web 参加 ）
症候性肝嚢胞に対してオレイン酸モノエタノールアミンを用いた硬化療法 8 例の検討	里見　聡子	第 107 回日本消化器病学会総会	4. 15 東京（Web 参加 ）
福井県における全県下統一した対策型胃内視鏡検診システム導入効果と今後の課題	山崎　幸直	第 101 回日本消化器内視鏡学会総会	5. 15 広島（Web 参加 ）
超高齢早期胃癌患者の背景・治療選択と ESD 症例の詳細	河合　信佳	第 101 回日本消化器内視鏡学会総会	5. 15 広島（Web 参加 ）
パーキンソン病に対する LCIG（レボドパ・カルビドパ配合経腸用液）療法導入例の検討と内視鏡医の役割	山崎　剛明	第 101 回日本消化器内視鏡学会総会	5. 15 広島（Web 参加 ）
当院における膵癌に対する EUS-FNA 成績の推移	三原　美香	第 101 回日本消化器内視鏡学会総会	5. 15 広島（Web 参加 ）
当院にて内視鏡的減黄術を施行した切除不能膵癌に対する化学療法の有効性の検討	道上　学	第 101 回日本消化器内視鏡学会総会	5. 15 広島（Web 参加 ）

【学会発表（地方)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
健診で肝機能異常を契機に発見され外科的治療を行った多隔壁胆嚢の１例	保坂　亮介	第 131 回日本消化器病学会北陸支部例会	6. 6 富山
シンポジウム“ESD 手技の工夫・こだわり”「ESD における当院でのちょっとした工夫」	松永　心祐	第 116 回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会	6. 27 富山（Web 参加）
潰瘍性大腸炎として治療中に診断された Cronkhite-Canada 症候群の１例	永井　将也	第 116 回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会	11. 29 富山（Web 参加）
キートルーダによる irAE 硬化性胆管炎の１例	保坂　亮介	第 132 回日本消化器病学会北陸支部例会	10. 24 金沢
術後 19 年が経過し腫瘍マーカー上昇を契機に超音波内視鏡下穿刺吸引術（EUS-FNA）で確定診断が得られた腎癌膵転移の１例	永井　将也	第 117 回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会	11. 28 金沢
膵炎の反復を契機に ERCP で診断しえた、胆・膵管内に進展する非露出型十二指腸乳頭部癌の１例	山崎　剛明	第 117 回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会	11. 28 金沢

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
原著「福井県における全県下統一した対策型胃内視鏡検診システム」	山崎　幸直	日本消化器がん検診学会雑誌 59 巻 5 号 p 440 - 451	2021

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
講演 本県における胃がん内視鏡検診（個別検診）実施状況	山崎　幸直	令和３年度　胃がん内視鏡検診研修会　福井①	9. 22 福井
講演 本県における胃がん内視鏡検診（個別検診）実施状況	山崎　幸直	令和３年度　胃がん内視鏡検診研修会　敦賀	10. 14 敦賀
講演 本県における胃がん内視鏡検診（個別検診）実施状況	山崎　幸直	令和３年度　胃がん内視鏡検診研修会　福井②	10. 15 福井

循環器内科

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
化学療法が著効した、血液腫瘍の心筋浸潤によるうっ血性心不全の一例	大嶋　美華	第142回日本循環器学会北陸地方会	6.26　Web 福井
血管内治療が奏功した、原発性鎖骨下静脈血栓症（Paget-Schroetter症候群のⅠ例	皿澤　克彦	日本心血管インターベンション治療学会第45回東海北陸地方会	10.17 Web 岐阜

【院外活動】

演題	発表者	会名	月日・開催地
演者	皿澤　克彦	福井心血管画像診断フォーラム	4.2 Web
演者	榊原　圭一	Complex症例検討会	4.2 Web
座長	吉田　博之	循環器ネットワーク懇話会	4.8 Web
演者	坪川　明義	Fukui Shiga Intervention	5.11 Web
ディスカッサント	吉田　博之	Meet The Expert Seminer2021 in Fukui	5.21 Web
座長	坪川　明義		6.9 Web
演者 心不全治療薬UP DATE	皿澤　克彦	福井心不全治療講演会	6.17 Web
ディスカッサント	皿澤　克彦	エンレスト承認Ⅰ周年記念全国講演会	7.30 Web
座長	吉田　博之	心不全治療Web講演会in Fukui	8.5 Web
座長	皿澤　克彦	第142回日本循環器学会北陸地方会	6.26 Web
ディスカッサント	皿澤　克彦	明日から活かせる心不全治療セミナー	9.10 Web
ディスカッサント	皿澤　克彦	次世代循環器内科医に集い	9.15 Web
座長	吉田　博之	第4回福井循環器フォーラム	10.12 Web
演者	大嶋　美華	Fukui Shiga Intervention conference	10.12 Web
ディスカッサント	榊原　圭一	EVT症例検討会FUKUI	10.15 Web
司会	坪川　明義	循環器の視点で診る糖尿病治療	10.21 Web
座長	坪川　明義	FUKUI ACS SUMMIT	10.22 Web
座長	吉田　博之	ベリキューボ錠発売記念講演会	11.4 Web
座長	坪川　明義	高齢者の抗凝固療法UP TO DATE	11.16 Web

座長	坪川　明義	Fukui Workshop2021	11.20 福井県医師会館
演者	皿澤　克彦	Fukui Workshop2021	2021.11.20
コメンテーター	榊原　圭一	Fukui Workshop2021	2021.11.20
コメンテーター	坪川　明義	Kanazawa Coronary Conference	2021.12.4 Web
コメンテーター	清水　智弘	第 40 回 PICCASSO Online Seminar	2021.12.11 Web
コメンテーター	榊原　圭一	AMI 治療に関するコンサルティング	2021.12.14 Web
演者 超高齢者心房細動患者のマネージメント～一次予防の立場から	皿澤　克彦	福井脳卒中連携 Web セミナー	2022.2.4 Web
コメンテーター	榊原　圭一	E-PTC2022	2022.2.19 武生商工会議所
演者	榊原　圭一	福井大学 Teromo PCIWeb Seminar	2022.3.2 Web
コメンテーター	**皿澤　克彦**	福井大学 Teromo PCIWeb Seminar	**2022.3.2 Web**

小　児　科

【学会発表（全国)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
新生児期に皮疹を契機に診断された乳児白血病の 1 例	田中　佳代	第 45 回日本小児皮膚科学会学術大会	7.23 東京 web

【学会発表（地方)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
併存する膀胱尿管逆流症の根治術後、間欠的水腎症発作が消失した一男児例	玉村　宗一	第 332 回日本小児科学会北陸地方会	6.13 福井 Web
当科で経験した Microgeodic disease の 2 例	渡辺　康宏	第 56 回中部日本小児科学会	8.29 愛知 web
ABCC8 遺伝子変異を認めた新生児糖尿病の 1 例	玉村　宗一	第 24 回日本小児科学会福井地方会	11.6 福井 web
若年女性に発症した左腹直筋血腫の一例	玉村　宗一	第 334 回日本小児科学会北陸地方会	3.13 富山 web

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
子育て相談会	渡辺　康宏	令和 3 年度子どもの育ちの相談会	7.3 福井市

こどもの急病時対処法講習会	玉村　宗一	令和3年度こどもの急病時の対応についての講習会	10.29 福井市
こどもの急病時対処法講習会	渡辺　康宏	令和3年度こどもの急病時の対応についての講習会話会	12.24 福井市

外　　科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
成人 Nuck 管水腫に対する腹腔鏡下摘出術の1例	川上　義行	第76回日本消化器外科学会総会	7.9 京都市（Hybrid）
三歳児小児急性虫垂炎に対する腹腔鏡下虫垂切除術の1例	川上　義行	第34回日本内視鏡外科学会総会	12.2 神戸市
Reduced port surgery for Sigmoid colon cancer by marionette method using Free Jaw Clip	平崎　憲範	第76回日本消化器外科学会総会	7.9 京都市
閉塞性大腸癌に対する BTS 症例の検討	平崎　憲範	第76回日本大腸肛門病学会学術集会	11.13 広島市
腹腔鏡下に切除した development cyst の2例	平崎　憲範	第34回日本内視鏡外科学会総会	12.2 神戸市
Neoadjuvant chemotherapy with gemcitabine and S-1 for technically resectable pancreatic cancer in our department	加藤　成	第33回日本肝胆膵外科学会学術集会	6.2-6.3 大阪市（Hybrid）
尾側膵切除時の膵断端処理における PGA シートおよびフィブリン糊使用による術後膵液瘻の予防	加藤　成	第76回日本消化器外科学会総会	7.7-7.9 京都市（Hybrid）
膵癌術後難治性乳糜漏に対する経腸間膜リンパ節アプローチによるリンパ管閉塞術が奏功した一例	加藤　成	第19回日本消化器外科学会大会	11.4-11.7 神戸市（Hybrid）
当科における直腸癌に対するロボット支援下腹腔鏡手術症例の検討	青竹　利治	第34回日本内視鏡外科学会総会	12.4 神戸市
高齢者社会における高齢者検診の目的は？- 対策型乳がん検診の現状と検診発見高齢者乳癌の特徴とその治療から考える -	田中　文恵	第31回日本乳癌検診学会	11.26-11.27 京都市
ロボット支援下胃切除術における術中合併症の経験	吉羽　秀麿	第94回日本胃癌学会総会	3.2-3.4 横浜市

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
当院における局所進行乳癌の治療について	樋上　明音	第18回日本乳癌学会中部地方会	9.4-9.5 静岡市

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Use of the FJ clip for application of the marionette technique in reduced-port surgery performed for sigmoid or rectosigmoid cancer: a case series	Yoshinori Hirasaki	AME surgical journal	25 March 2022
直腸癌に対する術前化学放射線併用腹腔鏡下根治術後に発症したデスモイド腫瘍の2例	青竹　利治	日本外科系連合会誌 第46巻1号 79-84	2021.2.28

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
大腸癌肝切後の補助化学療法について	加藤　成	FUKUI CRC RISING STAR Meeting 2021	2021.10.9 福井市
当院における直腸癌に対するロボット支援下手術	平崎　憲範	第3回 Surgical Forum in Fukui	2021.6.11 福井市

整形外科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
二期的ＯＬＩＦにおける前方手術での hidden blood loss について	嶋　皓一朗 薗　隆 北折　俊之 高塚　和孝	第50回脊椎脊髄病学会	4.22-24 京都
Aaron James. 対象後変形膝関節症に対する脂肪由来 perivascular cell 治療効果についての検討	薗　隆	第36回日本整形外科基礎学術集会	10.14-15 三重

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
二期的ＯＬＩＦにおける前方手術での hidden blood loss について	嶋　皓一朗 薗　隆 北折　俊之 高塚　和孝	第136回中部整形外科災害外科学会	4.9-10 Web

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Systemic DKKI neutralization enhances human adipose-derived stem cell mediated bone repair.	Negri S Wang Y Sono T Qin Q Hsu GC Cherief M Xu J Lee S Tower RJ Yu V Piplani A Meyers CA Broderick K Lee M James AW	Stem Cells Transl Med 2021 Apr;10(4):610-622	2021. 4
Divergent effects of distinct perivascular cell subsets for intra-articular cell therapy in posttraumatic osteoarthritis.	Hsu GC Cherief M Sono T Wang Y Negri S Xu J Peault B James AW	J Orthop Res.2021 Nov;39(11):2388-2397.	2021. 11
Development of a Biomaterial Scaffold Integrated with Osteoinductive Oxysterol Liposomes to Enhance Hedgehog Signaling and Bone Repair	Lee CS Hsu GC Sono T Lee M James AW	Mol Pharm.2021 Apr 5;18(4):1677-1689.	2021. 4
Dual plating for bipolar clavicle fractures : A case report.	Sono T Sagami A Takatsuka K	Trauma Cse Rep.2021 JUN 16;34:100494	2021. 6

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
講演 創処置の基本	薗　隆	Live Symposium for Resident	5. 14 ウェビナー
講演 整形外科医の基本研究留学体験記	薗　隆	Spinal Deformity 研究会	9. 10 ウェビナー

形 成 外 科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
G群溶連菌による壊死性筋膜炎の２例 迅速診断キットの Pitfall	藤土 光	第 13 回日本創傷外科学会総会・学術集会	7. 15-16 福岡県北九州市

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
遺伝性乳がん卵巣がん症候群に対するリスク低減乳房切除術と乳房債権の一例	藤土 光	第 97 回北陸形成外科学会地方会	3. 19 石川県金沢市

脳 神 経 外 科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
低用量アスピリン中止が有効であったもやもや病に合併した薬物の使用過多による頭痛の１例	早瀬　睦	第 49 回日本頭痛学会総会	11. 19 静岡
ピナクルブルー 20 と 8Fr オプティモによるプロキシマルプロテクション下の経橈骨動脈アプローチによる頚動脈ステント留置術	早瀬　睦	第 37 回日本脳神経血管内治療学会学術総会	11. 25 福岡
脳卒中ケアユニット患者の NST スクリーニングと転帰	早瀬　睦	日本脳神経外科学会第 80 回学術総会	10. 29 神奈川
一次脳卒中センター入院患者の栄養状態に関する検討	早瀬　睦	第 47 回日本脳卒中学会総会	3. 17 大阪
Burr-hole 型 Probe を用いたリアルタイムエコーガイド下脳室穿刺の有用性	佐野 徳隆	第 80 回　日本脳神経外科学会学術総会	10. 29、横浜
視床出血で発症した海綿静脈洞硬膜動静脈瘻の１例	取越　貞治	第 37 回日本脳神経血管内治療学会	11. 25 福岡
当院における Trousseau 症候群の臨床的特徴の検討	取越　貞治	第 80 回脳神経外科学会総会	10. 27 横浜
多発性骨髄腫に合併し外科的切除と放射線化学療法により良好な経過が得られた頭蓋内形質細胞腫瘍の一例	北原　孝宏	日本脳神経外科学会第 80 回学術総会	10. 27 横浜
特発性頭蓋外内頚動脈解離による遠位塞栓と解離部閉塞に対して血栓回収と計動脈ステント留置を二期的に行った一例	北原　孝宏	第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会	11. 25 福岡
当院における塞栓源不明脳梗塞症例についての検討	中島　悠介	第 47 回日本脳卒中学会学術集会	3. 17 － 3. 19 大阪

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
破裂脳動脈瘤クリッピング術後３ヶ月の経過で出現した頭蓋内造影病変の１例	取越貞治	第 245 回福井脳神経疾患談話会	2. 18 福井市

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
A peripartum major cerebral infarction in a patient with moyamoya disease following previous bilateral STA-MCA anastomosis: A case report	Noritaka Sano, Ryota Motoie, Tomoyuki Yamashita, Yusuke Nakajima, Takahiro Kitahara, Sadaharu Torikoshi, Makoto Hayase, Masaki Nishimura	Interdisciplinary Neurosurgery: Advanced Techniques and Case Management	25(9) 2021
Case of a Stuck Coil in the Final Stage of Stent-Assisted Coil Embolization	Sadaharu Torikoshi, Hiroyuki Ikeda, Ryotaro Otsuka, Yoshitaka Tsujimoto, Noritaka Sano, Makoto Hayase, Masaki Nishimura, Hiroki Toda	Journal of Neuroendovascular Therapy	2021. 10

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
講演 当院における抗血栓療法中の脳卒中の実態	西村　真樹	福井血栓塞栓症連携セミナー	9. 28　WEB 開催
講演 内頚動脈 - 後交通動脈分岐部未破裂脳動脈瘤の１例	早瀬　睦	Advanced Meeting -Dome から直接分枝のある動脈瘤 -	6. 18 WEB 開催
講演 Transradialapproach で行う血管内治療	早瀬　睦	第一回西日本エリア脳血管内治療研究会	7. 26 WEB 開催
講演 毎日飲んでる頭痛薬が効かなくなった！？～薬剤の使用過多による頭痛～	早瀬　睦	丹南地区薬剤師会	1. 20 鯖江市

講演毎日飲んでる頭痛薬が効かなくなった！？～薬剤の使用過多による頭痛～	早瀬　睦	片頭痛 Web イブニングセミナー	3. 16 福井市
未破裂内頚動脈瘤の一例	北原　孝宏	第 11 回京都大学脳神経外科 NeuroIVR 研修セミナー	12. 11 京都

呼吸器外科

【学会発表（全国)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
画像上脂肪肉腫が疑われたが稀有な atypical spindle cell lipomatous tumor であった一例	森谷 哲士 南 紀久子 山岸 弘哉 松倉 規	京都大学呼吸器外科夏季研究会	7. 17 和歌山 WEB 開催
重喫煙者に初発した両側同時性気胸の一例	森谷 哲士 南 紀久子 山岸 弘哉 松倉 規	京都大学呼吸器外科冬季研究会	2. 19 京都大学 WEB 開催
Neisseria elongate による肺化膿症の一例	森谷　哲士 伊達　洋至	第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会	9. 29 長崎 WEB 開催
難治性続発性気胸に対する局所麻酔下胸腔鏡手術：ネーザルハイフローと単孔式腹腔鏡手術用ポートの有用性	山岸　弘哉 若月　悠佑 松倉　規	第 64 回関西胸部外科学会学術集会	6. 17 倉敷市 web 開催

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Epidermal growth factor receptor(EGFR)-tyrosine kinase inhibitors as a first-line treatment for postoperative recurrent and EGFR-mutated non-small-cell lung cancer.	Moriya T Date H	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery. 2022 March Volume34,Issue3	2022. 3
Morphologic and functional reserves of the right middle lobe: Radiological analysis of changes after right lower lobectomy in healthy individuals	Yamagishi H Date H	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2021 November Volume 162, Number 5	2021. 11
An air-locking port and high-flow nasal cannula in non-intubated uniportal video-assisted thoracic surgery for pneumothorax with pulmonary dysfunction: s case report	Yamagishi H Wakatsuki Y Tada T and Matsukura T	Surg Case Rep. 2021 Oct 7;231.	2021. 10
Multicentre, prospective, observational study investigating the most appropriate surgical option that can prevent the recurrence of primary spontaneous pneumothorax after surgery: the PATCH study, protocol	Kadomatsu Y Yamagishi H Chen-Yoshikawa T	BMJ Open 2021;11	2021. 11

皮　膚　科

【学会発表（全国)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
日常の皮膚病診療で、電顕観察が実臨床にも貢献している具体例	加畑　雄大	第 120 回皮膚科学会総会	6. 12　横浜
マムシ咬傷後に横紋筋融解症と急性腎不全を来し、集中治療を行った１例	吉田　康幸	第 120 回皮膚科学会総会	6. 10-13　横浜

【学会発表（地方)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
Circumscribed Palmar Hypokeratosis における光顕・電顕相補的観察	加畑　雄大	第 135 回福井県皮膚科医会例会	7. 29 福井市
デュピルマブが著効した結節性痒疹の１例	吉田　康幸	第 136 回福井県皮膚科医会例会	10. 14 福井市

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
EBV 陽性びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫・非特定型に対する R-CHOP 療法後に末梢性 T 細胞リンパ腫・非特定型を生じた１例	勝尾　公祐	皮膚臨床 64(3); 365-368	2022. 3

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
皮膚微細構造と日常皮膚科診療～アトピー性皮膚炎の痒みも含めて～	加畑　雄大	皮膚疾患イブニングセミナー	9. 21 福井市
パネリスト	加畑　雄大	Atopic Dermatitis Summit in Fukui	9. 16 福井市

腎臓・泌尿器科

【学会発表（地方)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
当院での BRCA 検査の現状	糸賀　明子	福井県泌尿器科医会	2. 17 福井市

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
当院 CST にて経験した排尿困難症例の検討	垣鍔　忠	第３回ふくい排泄ケア研究会	2. 20 福井市

産 婦 人 科

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
白血病合併妊娠の一例	田嶋　公久	第 34 回 福井県母性衛生学会学術講演会	6.6 永平寺町
子宮鏡下子宮内膜焼灼術後に子宮体癌が発見された症例	田嶋　公久	第 93 回福井県冬期臨床研修会	2.6　福井市

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
A nationwide web-based survey of oncologic surgeons to clarify the current status of preoperative assessment for elderly cancer surgery patients in Japan	Daisuke Inoue, Makoto Yamamoto, Hisatomi Arima, Kazuo Tamura, Yoshio Yoshida	Scientific Reports	2021 Nov

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
専門医共通講習　医療安全・救急処置に関するもの	田嶋　公久	令和元年度母体保護指定医師研修会	2021/10/31・福井市
なぜヒトだけが月経に悩まされるのか ～進化からみた月経異常と、その最新治療～	田嶋公久	福井赤十字　産婦人科イブニングセミナー	11.1 福井市

眼　　科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
CTR-IOL 複合体の摘出を行なった症例の検討	横田　開人 吉村　昭人 李　相沅 額田　和之 小堀　朗	第 44 回日本眼科手術学会	4.8 京都
全周性を含む外傷性虹彩離断に対して虹彩根部縫合術を試みた 3 例	吉村　昭人 横田　開人 李　相沅 額田　和之 小堀　朗	第 125 回日本眼科学会	4.8 大阪

CTR-IOL 複合体脱臼症例の手術動画からの検討	額田　和之 小堀　朗 横田　開人 吉村　昭人 李　相沅	第 125 回日本眼科学会	4.8 大阪
ランチョンセミナー 13　CTR の有用性	小堀　朗	第 75 回日本臨床眼科学会	10.29 福岡
インストラクションコース　黄斑手術自由自在 －網膜動脈瘤破裂－	小堀　朗	第 75 回日本臨床眼科学会	10.29 福岡

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
落下した CTR-IOL 複合体	額田　和之 小堀　朗	第 73 回福井県眼科集談会	9.4 福井

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
増殖性糖尿病網膜症の硝子体手術	小堀　朗	第 14 回加越硝子体手術研究会	8.28 WEB
最近の眼科救急と眼科手術	額田　和之	丹生郡学術講演会	9.28 福井
網膜細動脈瘤の手術治療	小堀　朗	第 16 回福井大学眼科同窓会学術研究会	9.4 福井
IOL 強膜内固定の Twist 法	吉村　昭人	第 16 回福井大学眼科同窓会学術研究会	9.4 福井
症例検討「CTR」	小堀　朗	水晶体嚢拡張リング（CTR）講習会	2021 WEB

耳鼻咽喉科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
センチネルリンパ節生検を利用した外鼻悪性黒色腫の手術治療経験	大澤　陽子	第 31 回日本頭頸部外科学会総会	3.4 大阪市

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
診断に苦慮した頭蓋底骨髄炎の症例	清水　杏奈	北陸耳鼻咽喉科緩和ケア・感染症研究会	4.24 金沢市
耳鼻咽喉科医に一番身近な食物アレルギー花粉・食物アレルギーのお話	大澤　陽子	令和４年石川県耳鼻咽喉科医会学術講演会	3.12 金沢市

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
複数の動脈破裂から急激な頸部腫脹と気道狭窄をきたし救命しえた神経線維腫症の1症例	堤内　俊喜	日本気管食道科学会 73(1); 21-28	2022

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
招待講演 明日からの診療にすぐ役立つ、花粉・食物アレルギー症候群のお話～病態・診断・治療まで～	大澤　陽子	田辺三菱製薬株式会社 講演 WEB セミナー	3/24 全国 WEB 配信
招待講演 一から学んですぐに生かせる！ 花粉・食物アレルギー症候群のキホン	大澤　陽子	杏林製薬プライマリケアにおける花粉症診療	2/22 全国 WEB 配信

放射線科

【学会発表（全国)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
Symptomatic Radiation Pneumonitis in Non-small Cell Lung Cancer Patients Treated with Concurrent Chemoradiotherapy and Consolidation Durvalumab: A multicenter Retrospective Study	新谷　尭	第 80 回　日本医学放射線学会総会 (Cypos 賞 Silver medal 受賞)	4.15 ～ 4.18 横浜
腎細胞癌の Sister Mary Joseph’s nodule に対して緩和的小線源治療を施行した1例	楢林　正流	日本放射線腫瘍学会第 34 回学術大会	11.12 ～ 11.14 オンライン開催

【学会発表（地方)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
当院における婦人科癌に対するハイブリッド小線源治療の取り組み	楢林　正流	第 51 回　京都放射線腫瘍研究会	10.30 オンライン開催
III 期非小細胞肺癌に対する CCRT+consolidation durvalumab 後の再発形式と無増悪生存期間の検討	楢林　正流	第 52 回　京都放射線腫瘍研究会	3.19 オンライン開催
Cronkhite-Canada 症候群の1例	金井　理美	第 169 回中部地方会	7.4　WEB 開催
Tailgut cyst の2例	都司　和伸	第 169 回中部地方会	7.4　WEB 開催
子宮と肺病変を伴った intravascular lymphomatosis の1例	石田　卓也	第 169 回中部地方会	7.4　WEB 開催

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
保存的に経過観察しえた肝副葉茎捻転と思われる１例	金井　理美	臨床放射線 66(9);943-947	2021

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
座長 【Ⅰ部-Ⅰ】一般演題１	楢林　正流	第51回　京都放射線腫瘍研究会	10.30 オンライン開催
呼吸器セッション座長	都司　和伸	第169回中部地方会	7.4　WEB開催
症例回答者	都司　和伸	第65回北陸画像診断勉強会	11.6 WEB開催

麻　酔　科

【学会発表（地方)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
重篤な横紋筋融解症を合併し、治療に難渋したStaphylococcus saccharolyticusによる敗血症の一例	藤岡　沙織	第10回集中治療ミーティング	10.22 福井市

リハビリテーション科

【学会発表（地方)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
安心して過ごせる自宅生活を目指して～食事の呼吸苦軽減と、役割の再獲得～	齋門聡子	第29回福井呼吸ケア研究会	10.16 Web開催
当院ICU管理を要した重症心筋梗塞例についての検討	樋田貴紀	第８回　福井県心臓リハビリテーション研究会	3.25 Web開催

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
研修会講師 「生涯教育制度について」	山本　和雅	福井県作業療法士会研修会	8.8 Web開催
研修会講師　共通研修「作業療法における協業」	山本　和雅	日本作業療法士協会基礎研修会	11.14 Web開催
研修会講師　現職者選択研修「身体障害領域の基礎知識」	山本　和雅	日本作業療法士協会基礎研修会	12.12 Web開催
研修会講師　共通研修「事例報告と事例研究」	樋田　貴紀	日本作業療法士協会基礎研修会	11.14 Web開催
研修会講師　現職者選択研修会「身体障害領域：急性期の作業療法」	樋田　貴紀	日本作業療法士協会基礎研修会	12.12 Web開催

研修会講師　共通研修会「生涯教育制度の概要」	山田　英二	日本作業療法士協会基礎研修会	8.8 Web 開催

救　急　部

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
COVID-19 の流行と救急搬送時の現場滞在時間との関連	成山　美々	日本救急医学会中部地方会誌 2021;17(1):11-12	2021

薬　剤　部

【学会発表（地方)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
ニトリルグローブを用いた末梢神経障害予防法の実践	西川　翔太	令和３年度第 31 回北陸ブロック学術大会	2021.11WEB 開催

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
シスプラチン含有レジメンにおけるハイドレーション法変更前後の安全性の評価	谷澤　範彦	日本病院薬剤師会雑誌 第 57 巻　第４号　４月号　2021	2021.4.1

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
TAZ/PIPC による高Ｎａ血症の重篤化回避症例	宮本　康平	令和３年度プレアボイド研修会	12.9 WEB 開催
知って備える災害対応	大森　丈	令和３年度第７回福井県病院薬剤師会　学術研修会	12.17 WEB 開催
当院栄養サポートチーム（NST）における薬剤師の関わり	細谷　拓史	令和３年度第７回福井県病院薬剤師会　業務委員会研修会	3.10 WEB 開催

栄　養　課

【学会発表（全国)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
亜鉛投与中に銅の吸収障害が疑われ、亜鉛投与中止と銅補充により貧血改善が得られた１例	青山　涼一	第 36 回 日本臨床栄養代謝学会	7.21 神戸

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
健康教室 講演 「忙しい人でも簡単に取り組める食事管理」	小川　初実	福井市健康管理センター血糖値改善教室	2.4 福井市

放 射 線 部

【学会発表（地方)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
電子線治療で用いる含水ボーラスの物理特性の評価	河邉　大知	第 11 回日本赤十字社診療放射線技師会中部ブロック業務研修会	2021．9 月 スライド口述発表 /DVD 配布
放射線治療計画用 CT における線量低減に向けての初期検討	河邉　大知	第 14 回北陸 3 県診療放射線技師学術研修会	3.6 福井市 Web 開催
COVID19 重症患者の ICU におけるポータブルレントゲンの対応	永田　寿美子	第 11 回日本赤十字社診療放射線技師会中部ブロック業務研修会	2021．9 月 スライド口述発表 /DVD 配布
「全自動脳画像解析プログラム「ＲＡＰＩＤ」導入によるＭＲＩ撮影の使用経験」	水野　恵里香	第 14 回北陸 3 県診療放射線技師学術研修会	3.6 福井市 Web 開催
当院の乳腺の診断超音波検査の精度に関する調査	田賀　陽子	第 14 回　北陸 3 県診療放射線技師学術研修会	3.6 福井市 Web 開催

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
発表 乳がん検診 / 精密検査について	村中　舞	福井県診療放射線技師会第 11 回読影セミナー	11.19 福井市 Web 開催
実行委員長	上坂　大輔	第 14 回北陸 3 県合同診療放射線技師会学術研修会	3.6 福井市 Web 開催

感染管理室

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
（新型コロナウイルス感染症）ワクチン不安 Q&A	赤井　雅也 寺本　敏清	福井テレビ　タイムリーふくい	7.18 福井テレビ

看　護　部

【学会発表（全国)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
COVID-19 特設セッション 新型コロナウイルス患者対応病棟におけるスタッフの心理的支援 ―GRACE を実践して―	中野　裕美	第 14 回年次大会 日本看護倫理学会	5.29 ～ 30 ライブ配信
報告（一般演題）「福祉避難所の現状と課題 -A 町要配慮者からのヒアリング結果より -」	朝田　和枝	日本災害看護学会第 23 回年次大会	9.4 新潟県長岡市 オンライン参加
外来通院医事透析患者におけるフレイルの現状調査	猪島　靖子	第 24 回日本腎不全看護学会学術集会総会	11.13 ～ 14
一般病棟での終末期肺がん患者とのコミュニケーション場面における困難	田中　麗菜	第 52 回日本看護学会学術集会	11.18 ～ 19 新潟 ライブ配信
コロナ患者受け入れ病棟で働くスタッフの精神的支援～ GRACE の継続～	中野　裕美	第 4 回日本 GRACE 研究会年次大会	12.11 ～ 12 ライブ配信
当院における GRACE の現状－スタッフの意識調査から－	尾﨑こはる	第 4 回日本 GRACE 研究会年次大会	12．11 ～ 12 ライブ配信
脳卒中院内発症症例に迅速に対応するための出張伝達会の実践と課題	浜野友紀子	Stroke2022	3.17 ～ 19 Web

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
入退院時における医療との連携に関する事例	山﨑　雪代	福井県介護支援専門員研修課程 I	6/30、7/5、12/14 福井県社会福祉協議会
クリティカルケア認定看護師教育課程 クリティカルにおけるチーム医療講義対象：クリティカルケア認定看護師教育課程研修生 33 名	朝田　和枝	公益社団法人大阪府看護協会	7.6. 大阪府看護協会 （講義形式 :ZOOM によるオンライン研修）
ケアマネジャーが行うケアマネジメントと家族支援	山﨑　雪代	福井大学認定看護師教育課程　呼吸器疾患看護・認知症看護	8/10 福井大学医学部看護学科

「災害看護」講義４単位　対象：看護学生３学年（３１名）	朝田　和枝	福井市医師会看護専門学校	8.17-18. 福井市医師会看護専門学校
テーマ：平時と発災時の看護のリーダーシップ　対象：災害支援ナース、JNA ラダーⅣ　約 80 人	朝田　和枝	公益社団法人埼玉県看護協会　災害看護研修会	10.5. 埼玉県看護協会（講義形式：ZOOM によるオンライン研修）
リフレクション ～訪問看護の実践を振り返る～	山﨑　雪代	福井県看護協会 訪問看護チャレンジ雇用フォローアップ研修	10/6　福井県看護協会
災害支援ナース研修会（実践編）テーマ:「災害支援ナースとしての避難所における多職種連携」対象者:災害看護研修（基礎編）を受講修了している方、災害支援ナースの登録をしている方 31 名	朝田　和枝	公益社団法人福井県看護協会　災害看護委員会	10.23. 福井県看護協会会館
在宅療養者への看護 ～在宅での看取り～	山﨑　雪代	福井大学医学部看護学科 在宅看護論	11/15 福井大学医学部看護学科
テーマ：「災害発生時に何ができるか？」対象：福井県立すこやかシルバー病院職員　約 42 人	朝田　和枝	公益社団法人　福井県看護協会令和３年度 専門・認定看護師出前講座派遣事業「災害看護」	11.16. 福井県立すこやかシルバー病院
コロナ禍における訪問看護の現状	白崎江利子	福井県緩和医療研究会	11/21　福井県済生会病院
病棟閉鎖を目前に死亡した遺族へのグリーフケア	梅田沙耶加	第 35 回福井県緩和医療研究会	11.21　福井市 福井県済生会病院
第 24 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会（座長）「救急看護認定看護師企画交流集会「コロナ禍に救急看護認定看護師がやってきたこと」	朝田　和枝	第 24 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会	12.4. （オンライン参加）
改定 DESIGN-R	水島　典子	福井県看護協会 専門・認定看護師出前講座	12.13　医療法人寿人堂　みどりヶ丘病院
入退院支援、退院調整を行う上で必要なこと	山﨑　雪代 （ファシリテーター）	福井県看護協会 入退院支援研修	12/3　福井県看護協会
テーマ：「災害が発生したらどう対応しますか？」対象：看護職　約 44 名	朝田　和枝	公益社団法人兵庫県看護協会　災害看護研修会	12.13 兵庫県看護協会会館（講義形式：集合研修）

テーマ：「災害が発生したら、どうしますか？－災害時の訪問看護ステーションの役割とマニュアル作成時のポイント－」対象：新田塚訪問看護ステーション看護師６人	朝田　和枝	公益社団法人　福井県看護協会令和３年度専門・認定看護師出前講座派遣事業	12.15. 新田塚訪問看護ステーション
病棟閉鎖を目前に死亡した遺族へのグリーフケア	梅田沙耶加	第７回北陸緩和医療研究会総会	3.5　石川県 ライブ配信
在宅看取りにおける多職種連携と意思決定支援	山﨑　雪代	福井市在宅医療サポート研修会	3/17　オンライン研修

医事サービス課

【学会発表（全国)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
診療報酬の算定におけるバラつきの低減	田中　健 酒井　愛実 山﨑悠平(病経) 佐藤しずか(総務) 大下真人(本社)	第22回フォーラム 「医療の改善活動」 全国大会 in 大阪	11.24、11.26 大阪（web 配信）

事　務　部

【学会発表（全国)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
Hey! Siri　データ見つけて	佐野　智美 吉岡　見悟 佐々木美穂 田中　美絵 柳澤　彰吾	第22回フォーラム 「医療の改善活動」 全国大会 in 大阪	11.24、11.26 大阪（web 配信）

編集：広報委員会（年報班）

年報編集責任者：髙野誠一郎
広報委員長：坪川　明義
オブザーバー：吉田　啓介
委員：平﨑　憲範
松井　佑樹
松田ゆう子
大森　丈
川瀬公一郎
木戸　俊介
事務局：病院経営課
発行：令和５年３月